

Dell Wyse Management Suite

バージョン 1.3.1 管理者ガイド



メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Wyse Management Suite の紹介	8
本リリースの新機能.....	8
章 2: Wyse Management Suite を開始する	9
パブリッククラウドでの Wyse Management Suite へのログイン.....	9
プライベートクラウドに Wyse Management Suite を導入するための前提条件.....	10
管理コンソールの機能領域.....	10
Thin Client の設定および管理.....	11
章 3: Wyse Management Suite ダッシュボード	13
アラートの表示.....	13
イベントリストの表示.....	14
デバイスステータスの表示.....	14
ユーザープリファレンスの変更.....	14
オンラインヘルプへのアクセス.....	15
パスワードの変更.....	15
ログアウト.....	15
章 4: グループの管理および設定	16
グループの追加.....	17
グループの編集.....	18
グループの削除.....	18
管理対象外グループの編集.....	18
グローバルレベルポリシーの設定.....	19
グループレベルポリシーの設定.....	19
デバイスレベルのポリシーの設定.....	19
ThinOS ポリシー設定の編集.....	19
ThinOS - ウィザードモード.....	20
ThinOS - 詳細モード.....	24
Windows Embedded Standard ポリシーの編集.....	61
システムの個人設定.....	61
デスクトップエクスペリエンスの設定.....	65
ネットワークの設定.....	66
セキュリティおよびロックダウンの設定.....	66
その他の設定.....	67
リモート接続の設定 - Citrix.....	69
リモート接続の設定 - VMware.....	71
リモート接続の設定 - RDP.....	72
リモート接続の設定 - ブラウザ.....	75
Latitude モバイル Thin Client BIOS 設定.....	76
Wyse 7040 Thin Client の BIOS 設定.....	77
デバイス情報の設定.....	79
Wyse Easy Setup の設定.....	79
VNC 設定.....	81

ドメインの設定.....	81
Windows 10 IoT Enterprise を搭載した Wyse 5070 Thin Client の BIOS 設定.....	81
Linux ポリシー設定の編集.....	83
システムの個人設定.....	84
デスクトップエクスペリエンスの設定.....	85
ログインエクスペリエンスの設定.....	86
ネットワークの設定.....	87
セキュリティの設定.....	87
一元設定.....	87
その他の設定.....	88
VDI グローバル設定.....	89
リモート接続の設定 - Citrix.....	90
リモート接続の設定 - VMware.....	92
リモート接続の設定 - RDP.....	93
リモート接続の設定 - ブラウザ.....	95
詳細設定.....	95
ThinLinux ポリシー設定の編集.....	95
システムの個人設定.....	96
デスクトップエクスペリエンスの設定.....	98
ログインエクスペリエンスの設定.....	99
ネットワークの設定.....	99
セキュリティの設定.....	100
一元設定.....	100
その他の設定.....	101
VDI グローバル設定.....	102
リモート接続の設定 - Citrix.....	103
リモート接続の設定 - VMware.....	105
リモート接続の設定 - RDP.....	106
リモート接続の設定 - ブラウザ.....	108
詳細設定.....	108
デバイス情報の設定.....	108
Wyse 3040 Thin Client の BIOS 設定.....	109
ThinLinux を搭載した Wyse 5070 Thin Client の BIOS 設定.....	110
Teradici ポリシー設定の編集.....	113
タイムゾーン設定.....	113
言語の設定.....	114
会社のロゴの設定.....	114
ビデオの設定.....	114
電源設定の実行.....	115
セキュリティの設定.....	115
ファームウェア設定のアップグレード.....	116
リモート接続の設定.....	117
Wyse Software Thin Client ポリシー設定の編集.....	119
システムの個人設定.....	119
デスクトップエクスペリエンスの設定.....	122
ネットワークの設定.....	123
セキュリティおよびロックダウンの設定.....	123
その他の設定.....	123
リモート接続の設定 - Citrix.....	125
リモート接続の設定 - VMware.....	127

リモート接続の設定 - RDP.....	128
リモート接続の設定 - ブラウザ.....	131
デバイス情報の設定.....	132
Wyse Easy Setup のバージョン設定.....	133
VNC 設定.....	134
ドメインの設定.....	135
章 5: デバイスの管理.....	136
デバイスを Wyse Management Suite に登録する方法.....	137
Wyse Device Agent を使用した ThinOS デバイスの登録.....	137
Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Software Thin Client の Wyse Management Suite への登録.....	138
Wyse デバイスエージェントの使用による Linux Thin Client の登録.....	138
Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Embedded Standard Thin Client の Wyse Management Suite への登録.....	139
FTP INI メソッドを使用した ThinLinux バージョン 2.0 デバイスの登録.....	139
FTP INI メソッドを使用した ThinLinux バージョン 1.0 デバイスの登録.....	139
FTP INI メソッドを使用した ThinOS デバイスの登録.....	140
Wyse デバイスエージェントを使用した ThinLinux Thin Client の登録.....	140
DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録.....	141
DNS SRV レコードの使用によるデバイスの登録.....	142
フィルタの使用によるデバイスの検索.....	143
現在のフィルタの保存.....	144
デバイスステータスの問い合わせ.....	144
デバイスのロック.....	144
デバイスの再起動.....	144
デバイスの登録解除.....	145
工場出荷時のデフォルト設定へのリセット.....	145
グループ割り当ての変更.....	145
デバイスへのメッセージの送信.....	146
デバイスのアクティブ化.....	146
デバイスの詳細情報の表示.....	146
デバイスの概要の管理.....	147
システム情報の表示.....	147
デバイスイベントの表示.....	147
インストール済みアプリケーションの表示.....	148
シンクライアントの名前の変更.....	148
リモートシャドール接続の設定.....	149
デバイスのタグ付け.....	150
デバイスコンプライアンスステータス.....	150
Windows Embedded Standard または ThinLinux イメージの引き出し.....	151
ログファイルの要求.....	153
デバイスのトラブルシューティング.....	154
章 6: アプリとデータ.....	155
アプリケーションポリシー.....	156
Thin Client アプリケーションインベントリの設定.....	156
Wyse Software Thin Client のアプリケーションインベントリの設定.....	157
Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入.....	157
高度なアプリケーションポリシーの作成と Thin Client への導入.....	158

Wyse Software Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入.....	159
Wyse Software Thin Client に対する高度なアプリケーションポリシーの作成および導入.....	160
イメージポリシー.....	161
Windows Embedded Standard オペレーティングシステムおよび ThinLinux イメージのリポジトリへの追加.....	161
リポジトリへの ThinOS ファームウェアの追加.....	162
リポジトリへの Teradici ファームウェアの追加.....	162
Windows Embedded Standard および ThinLinux イメージポリシーの作成.....	162
ファイルリポジトリの管理.....	163
章 7: ルールの管理.....	165
登録ルールの編集.....	165
管理対象外のデバイスの自動割り当て.....	166
管理対象外のデバイスの自動割り当てルールの編集.....	166
ルールを削除および無効にする.....	166
ルールの順序を保存.....	166
アラート通知のルールの追加.....	167
アラート通知ルールの編集.....	167
章 8: ジョブの管理.....	168
BIOS 管理者パスワードを同期する.....	169
フィルタを使用してスケジュールされたジョブを検索する.....	169
イメージポリシーのスケジュール.....	170
アプリケーションポリシーのスケジュール.....	170
デバイスコマンドジョブのスケジュール.....	171
章 9: イベントの管理.....	172
フィルタを使用したイベントまたはアラートの検索.....	172
フィルタを使用したイベントまたはアラートの検索.....	173
イベント概要の表示.....	173
監査ログの表示.....	174
章 10: ユーザーの管理.....	175
管理者プロファイルの新規追加.....	176
管理者プロファイルの編集.....	177
管理者プロファイルの非アクティブ化.....	177
管理者プロファイルの削除.....	178
ユーザープロファイルの編集.....	178
CSV ファイルのインポート.....	178
章 11: ポータル管理.....	180
Active Directory サーバ情報の追加.....	180
パブリッククラウドでの Active Directory フェデレーションサービス機能の設定.....	182
Active Directory によるパブリッククラウドへのユーザーのインポート.....	182
アラート分類.....	183
アプリケーションプログラミングインタフェース (API) アカウントの作成.....	183
ファイルリポジトリへのアクセス.....	183
その他の設定.....	184
Thin Client.....	184

Teradici 設定の管理.....	184
二要素認証の有効化.....	185
レポートの生成.....	185
マルチテナントアカウントの有効化.....	186
カスタムブランド化の有効化.....	186
ライセンスサブスクリプションの管理.....	187
Wyse Management Suite パブリッククラウドからのライセンスのインポート.....	187
Wyse Management Suite プライベートクラウドへのライセンスのエクスポート.....	188
Thin Client のライセンス割り当て.....	188
ライセンスの注文.....	188
システムセットアップの管理.....	189
章 12: Wyse Management Suite を使用した Wyse Easy Setup の設定.....	190
Wyse Easy Setup のインストール.....	190
Wyse Easy Setup 設定の導入.....	190
章 13: Wyse Management Suite を使用した Wyse Converter for PCs の設定.....	192
Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録.....	192
Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Software Thin Client の Wyse Management Suite への登録.....	192
DHCP オプションタグを使用した Wyse Management Suite へのデバイスの登録.....	193
DNS SRV レコードを使用した Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録.....	193
Wyse Management Suite を使用した Wyse Software Thin Client の設定.....	194
章 14: Teradici デバイス管理.....	195
Teradici デバイスの検出.....	195
CIFS のユースケースのシナリオ.....	197
章 15: Wyse Management Suite のトラブルシューティング.....	199
付録 A: Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード.....	204
Wyse Management Suite アプリケーションポリシーの使用による Wyse デバイスエージェントのアップグレード.....	204
Wyse デバイスエージェントの手動インストール.....	205
ThinLinux および Linux クライアントでの Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード.....	205
付録 B: Wyse Management Suite の機能マトリックス.....	207
付録 C: ワイヤレスプロファイルパスワードエディタ.....	209
Windows ワイヤレスプロファイルの設定.....	209
ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの設定.....	209
ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの制限事項.....	210
付録 D: DHCP オプションタグの作成および設定.....	211
付録 E: DNS SRV レコードの作成および設定.....	217
付録 F: ホスト名を IP アドレスに変更する手順.....	224

Wyse Management Suite の紹介

Wyse Management Suite は、Dell Wyse Thin Client を集中的に設定、監視、および最適化できる次世代の管理ソリューションです。クラウドやオンプレミス展開、モバイルアプリケーションを使用する場所を問わない管理オプション、BIOS 設定やポートロックダウンなどの強化されたセキュリティなどの高度な機能のオプションも提供します。その他の機能には、デバイス検出/登録、資産/インベントリ管理、設定管理、オペレーティングシステム/アプリケーションの導入、リアルタイムのコマンド、監視、アラート、レポート、およびエンドポイントのトラブルシューティングが含まれます。

- メモ:** Dell Cloud Client Manager (CCM) は、Wyse Management Suite として再設計され、CCM R14 に主要な製品レベルの機能強化を加えた機能として、新機能を提供します。詳細については、Wyse Management Suite のリリースノート (www.dell.com/support/manuals) を参照してください。既存のカスタマーは以前と同様に Thin Client の管理を続行しながら、このリリースで導入された新機能を利用することができます。

エディション

Wyse Management Suite は、以下のエディションで利用できます。

- **Standard (無料)** - Wyse Management Suite の Standard Edition はオンプレミス展開でのみ使用できます。Standard Edition を使用するにはライセンスキーは必要ありません。Standard Edition は小規模および中規模のビジネスに適しています。
- **Pro (有料)** - Wyse Management Suite の Pro Edition は、オンプレミスとクラウド展開の両方で利用できます。Pro Edition を使用するにはライセンスキーが必要です。サブスクリプションベースのライセンスを提供します。Pro ソリューションにより、組織はオンプレミスとクラウドとの間でハイブリッドモデルおよびフローティングライセンスを採用することができます。Pro のオンプレミスのエディションは、小規模、中規模、および大規模企業に適しています。クラウド展開では、Pro Edition を非企業ネットワーク (ホームオフィス、サードパーティ、パートナー、モバイル Thin Client など) で管理することができます。Wyse Management Suite の Pro Edition では、以下も提供します。
 - 重要なアラート、通知を表示し、リアルタイムでコマンドを送信するモバイルアプリケーション。
 - ロールベースの管理に対応する 2 要素識別と Active Directory 認証により強化されたセキュリティ。
 - 詳細なアプリポリシーとレポート作成

- メモ:**
- クラウドサービスは、米国およびドイツでホストされます。データレジデンシーに制限のある国のお客様は、クラウドのベースのサービスを利用できない場合があります。
 - ライセンスは、クラウドとオンプレミスのインストールの間で簡単にフローティングできます。

Standard Edition および Pro Edition でサポートされる機能の詳細については、[機能マトリックス](#)を参照してください。

Wyse Management Suite のウェブコンソールは国際化をサポートします。ページの右下隅のドロップダウンメニューから、次の言語のいずれか1つを選択します。

- 英語
- フランス語
- イタリア語
- ドイツ語
- スペイン語
- 中国語
- 日本語

トピック:

- [本リリースの新機能](#)

本リリースの新機能

パブリッククラウドのライセンス注文管理をサポートします。

Wyse Management Suite を開始する

このセクションでは、一般的な機能に関する情報を提供し、管理者として取り組む上で役立つ情報と、Wyse Management Suite ソフトウェアから Thin Client を管理する方法について説明します。

トピック：

- パブリッククラウドでの Wyse Management Suite へのログイン
- プライベートクラウドに Wyse Management Suite を導入するための前提条件
- 管理コンソールの機能領域
- Thin Client の設定および管理

パブリッククラウドでの Wyse Management Suite へのログイン

Wyse Management Suite コンソールにログインするには、サポートされている Web ブラウザーがお使いのシステムにインストールされている必要があります。サポートされている Web ブラウザーのリストについては、「[サポートされている Web ブラウザー](#)」を参照してください。Wyse Management Suite コンソールにログインするには、次の操作を行います。

1. Wyse Management Suite のパブリッククラウド (SaaS) エディションには、次のいずれかのリンクを使用してアクセスします。
 - **US データセンター** -us1.wysemanagementsuite.com/ccm-web
 - **EU データセンター** -eu1.wysemanagementsuite.com/ccm-web

メモ: 初めて Wyse Management Suite コンソールにログインしたとき、新しいユーザーが追加された場合またはユーザーライセンスがアップデートされた場合は、[契約条件] ページが表示されます。契約条件を読み、それぞれのチェックボックスを選択し、**同意する** をクリックします。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. **サインイン** をクリックします。

メモ:

- www.wysemanagementsuite.com で Wyse Management Suite の試用版に登録するか、サブスクリプションを購入すると、ログイン資格情報を受け取ります。Wyse Management Suite サブスクリプションは、Dell の営業チームまたは最寄りの Dell パートナーから購入できます。詳細については、www.wysemanagementsuite.com を参照してください。
- 初回ログイン後は、パスワードを変更することをお勧めします。
- 追加の管理者のデフォルトユーザー名およびパスワードは、Wyse Management Suite のアカウント所有者が作成します。
- パブリッククラウド上で Wyse Management Suite の Pro エディションを使用する際は、外部へのアクセスが可能なリポジトリを DMZ 搭載のサーバ上にインストールする必要があります。また、サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) をパブリック DNS に登録する必要があります。

パスワードの変更

ログインパスワードを変更するには、管理コンソールの右上にあるアカウントのリンクをクリックしてから、**パスワードの変更** をクリックします。

ログアウト

管理コンソールからログアウトするには、管理コンソールの右上にあるアカウントのリンクをクリックしてから、**サインアウト** をクリックしてください。

プライベートクラウドに Wyse Management Suite を導入するための前提条件

表 1. 前提条件

プロパティ	Wyse Management Suite サーバ		Wyse Management Suite ソフトウェアリポジトリ
	10,000 以下のデバイスの場合	50,000 以下のデバイスの場合	
オペレーティングシステム	Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2016 サポートされる言語パック - 英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語		Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2016
最小ディスク容量	40 GB	120 GB	120 GB
最小メモリ (RAM)	8 GB	16 GB	16 GB
最小 CPU 要件	4 コア	4 コア	4 コア
ネットワーク通信ポート	<p>Wyse Management Suite インストーラは、伝送制御プロトコル (TCP) ポート 443、8080、および 1883 をファイアウォールの例外リストに追加します。ポートは、Wyse Management Suite コンソールにアクセスし、プッシュ通知を Thin Client に送信するために追加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCP 443 - HTTPS 通信 • TCP 8080 - HTTP 通信 (オプション) • TCP 1883 - MQTT 通信 • TCP 3306 - MariaDB (リモートの場合はオプション) • TCP 27017 - MongoDB (リモートの場合はオプション) • TCP 11211 - Memcache • TCP 5172、49159 - EMSDK (Teradici デバイス用オプション) 		<p>Wyse Management Suite リポジトリインストーラは、TCP ポート 443 および 8080 をファイアウォールの例外リストに追加します。ポートは、Wyse Management Suite によって管理されているオペレーティングシステムのイメージとアプリケーションイメージにアクセスするために追加されます。</p>
対応ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer バージョン 11 • Google Chrome 58.0 以降のバージョン • Mozilla Firefox 52.0 以降のバージョン • Windows での Microsoft Edge ブラウザ - 英語のみ 		

メモ:

- WMS.exe と WMS_Repo.exe 2 台の異なるサーバにインストールする必要があります。パブリッククラウドの場合、Wyse Management Suite のリモートリポジトリをインストールする必要があります。プライベートクラウドの場合、Wyse Management Suite のリモートリポジトリとローカルリポジトリをインストールする必要があります。詳細については、「[ファイルリポジトリへのアクセス](#)」を参照してください。
- ソフトウェアは、物理または仮想マシンにインストールすることができます。
- ソフトウェアのリポジトリと Wyse Management Suite サーバが同じオペレーティングシステムを使用している必要はありません。

管理コンソールの機能領域

Wyse Management Suite コンソールは、以下の機能領域に分かれています。

このタスクについて

- [ダッシュボード] ページは、システムの各機能領域における現在の状態に関する情報を提供します。
- [グループ & 構成] ページでは、デバイス設定の階層グループポリシー管理を採用します。オプションで、グローバルグループポリシーのサブグループを作成して、企業の基準に従ってデバイスを分類することができます。たとえば、ジョブ機能、デバイスタイプなどに基づいて、グループ化できます。

- [ユーザー] ページでは、Wyse Management Suite にログインするために、ローカルユーザーおよび Active Directory からインポートされたユーザーに、グローバル管理者、グループ管理者およびビューアの役割を割り当てることができます。ユーザーは、割り当てられた役割に基づいて、操作を実行するための許可が付与されます。
- [デバイス] ページでは、デバイス、デバイスの種類、デバイス固有の設定の表示および管理ができます。
- [アプリとデータ] ページは、デバイスアプリケーション、オペレーティングシステムイメージ、ポリシー、証明書ファイル、ロゴ、および壁紙イメージを管理できます。
- [ルール] ページでは、自動グループ化およびアラート通知などのルールを追加、編集、有効または無効にすることができます。
- [ジョブ] ページでは、再起動、WOL、および登録したデバイスで展開する必要のあるアプリケーションまたはイメージポリシーなどの、タスクのジョブを作成できます。
- [イベント] ページでは、システムのイベントおよびアラートの表示および監査を行うことができます。
- [ポータル管理] ページでは、ローカルリポジトリ設定、ライセンスサブスクリプション、Active Directory の設定、2 要素認証など、さまざまなシステム設定を行えます。

Thin Client の設定および管理

設定の管理 - Wyse Management Suite はグループとサブグループの階層をサポートします。グループは、システム管理者が定義するルールに基づいて手動または自動で作成できます。マーケティング、セールス、エンジニアリングなど、機能の階層に基づいたグループか、または国、都道府県、市町村など、場所の階層に基づいたグループを構成できます。

📌 メモ:

Pro エディションでは、ルールを追加してグループを作成できます。サブネット、タイムゾーン、場所などのデバイスの属性により、デバイスを既存のグループに割り当てることができます。

次の設定をすることもできます。

- デフォルトポリシーグループで設定されたテナントアカウント内のすべてのデバイスに適用する設定。この設定は、すべてのグループとサブグループが継承するパラメータのグローバル設定です。下位のグループで設定された設定は、親または上位のレベルのグループで設定したものより優先されます。
 - たとえば、次のとおりです。
 - デフォルトポリシーグループ (親グループ) のポリシーを設定します。ポリシー設定後に、カスタムグループ (子グループ) のポリシーを確認します。同じセットのポリシーが、子グループにも適用されています。デフォルトポリシーグループの設定はグローバルなパラメータであり、すべてのグループおよびサブグループが親グループから継承します。
 - カスタムグループに対して、異なる設定を構成します。カスタムグループは両方のペイロードを受信しますが、デフォルトのポリシーグループ内のデバイスについては、カスタムポリシーグループに設定されたペイロードを受信しません。
 - カスタムグループに対して、異なる設定を構成します。下位のグループで設定された設定は、親または上位のレベルのグループで設定したものより優先されます。
- [デバイスの詳細] ページから設定可能な特定のデバイスに対する固有の設定下位レベルのグループなどの設定は、上位レベルのグループでの設定をよりも優先されます。

ポリシーを作成して公開したら、設定パラメータは、サブグループを含むグループ内のすべてのデバイスに導入されます。

ポリシーを公開してデバイスに伝達されると、変更を行うまで、設定がデバイスに再度送られることはありません。登録された新しいデバイスは、登録された先のグループに有効な設定ポリシーを受信します。これには、グローバルグループ、および中レベルのグループから継承されたパラメータが含まれます。

設定ポリシーはすぐに公開され、後で実行するようスケジュールすることはできません。ディスプレイ設定など、一部のポリシーの変更については再起動が強制される場合があります。

アプリケーションおよびオペレーティングシステムのイメージ導入 - アプリケーションとオペレーティングシステムイメージのアップデートは、[アプリケーションとデータ] タブから導入できます。アプリケーションは、ポリシーグループに基づいて導入されます。

📌 **メモ:** 詳細設定のアプリケーションポリシーを使用すると、要件に応じて現在およびすべてのサブグループにアプリケーションを導入することができます。オペレーティングシステムのイメージは現在のグループのみに導入できます。

Wyse Management Suite は、標準および詳細設定のアプリケーションポリシーをサポートします。標準のアプリケーションポリシーを使用すると、単一アプリケーションパッケージをインストールできます。アプリケーションのインストール中にデバイスが再起動します。各アプリケーションのインストール前およびインストール後、デバイスを再起動する必要があります。詳細設定のアプリケーションポリシーを使用すると、複数のアプリケーションパッケージを 2 回再起動するだけでインストールできます。この機能は

Pro エディションでのみ使用可能です。詳細設定のアプリケーションポリシーは、特定のアプリケーションをインストールするのに必要な、インストール前後のスクリプトもサポートします。

デバイスを Wyse Management Suite で登録する場合、またはデバイスを新しいグループに移動する場合に、標準および詳細設定のアプリケーションポリシーを設定できます。

アプリケーションポリシーおよびオペレーティングシステムイメージの Thin Client への導入は、すぐに実行するか、またはデバイスのタイムゾーンやその他の指定されたタイムゾーンに基づいてスケジュールを設定できます。

デバイスのインベントリ - このオプションは [デバイス] タブをクリックすると特定できます。デフォルトでは、このオプションは、システムのすべてのデバイスのページ単位リストを表示します。グループまたはサブグループ、デバイスタイプ、オペレーティングシステムタイプ、ステータス、サブネット、およびプラットフォーム、タイムゾーンなど、さまざまなフィルタ条件を使用して、デバイスのサブセットを表示することを選択できます。

[デバイスの詳細] ページを開くには、このページにリストされているデバイスのエントリーをクリックします。デバイスのすべての詳細が表示されます。

[デバイスの詳細] ページには、デバイスに適用可能なすべての設定パラメータの他、各パラメータが適用されるグループのレベルも表示されます。

このページでは、[デバイスの例外] ボタンを有効にすることで、該当デバイスに特有の設定パラメータを設定することもできます。このセクションで設定されたパラメータは、グループおよび/またはグローバルレベルで設定されたいずれのパラメータよりも優先されます。

レポート - 定義済みフィルタに基づいて、既製レポートを生成および表示することができます。既製レポートを生成するには、[ポータル管理] ページの [レポート] タブをクリックします。

モバイルアプリケーション - モバイルアプリケーションを使用するとアラート通知の受信およびデバイスの管理が可能です。[Dell モバイルエージェント] は Android デバイスで利用できます。モバイルアプリケーションおよび『**Dell Mobile Agent Getting Started Guide**』(Dell モバイルエージェントの開始ガイド) をダウンロードするには、[ポータル管理] ページの [アラートと分類] タブをクリックします。

Wyse Management Suite ダッシュボード

[ダッシュボード] ページでは、システムのステータスおよびシステム内で実行された最近のタスクを見ることができます。特定のアラートを表示するには、[アラート] セクションのリンクをクリックします。[ダッシュボード] ページでは、デバイスの概要も表示できます。

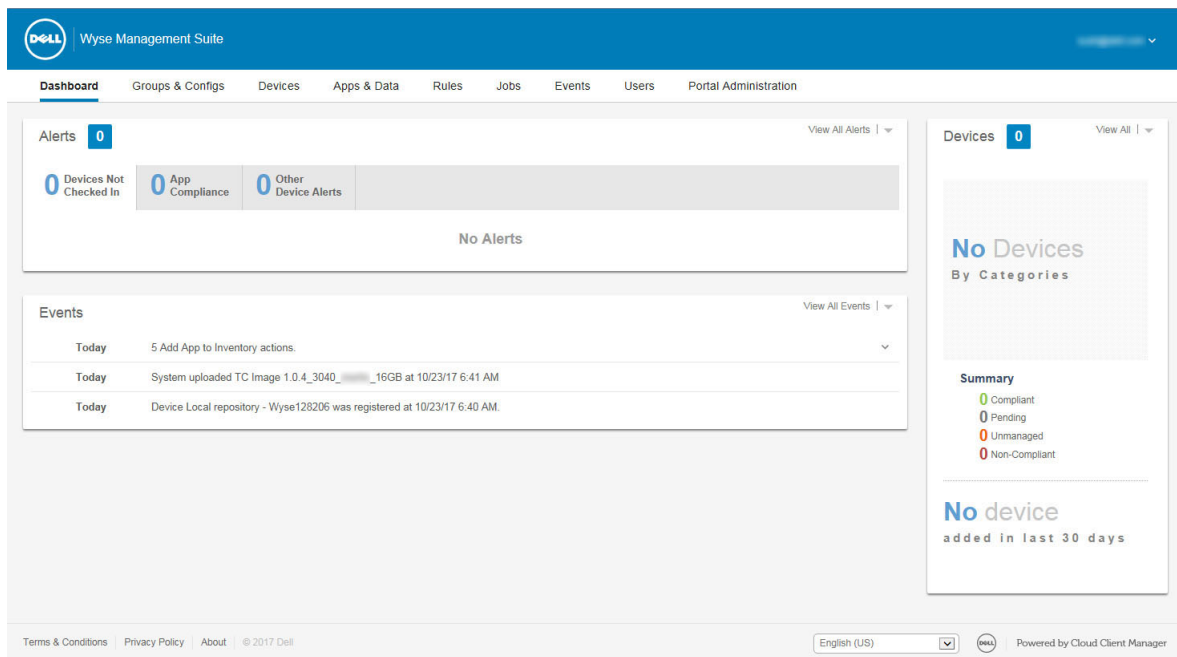


図 1. ダッシュボード

トピック：

- アラートの表示
- イベントリストの表示
- デバイスステータスの表示
- ユーザープリファレンスの変更
- オンラインヘルプへのアクセス
- パスワードの変更
- ログアウト

アラートの表示

このタスクについて

[アラート] セクションには、すべてのアラートの概要が表示されます。このセクションには次の属性があります。

- [デバイスはチェックインしていません]
- [アプリのコンプライアンス]
- [その他のデバイスアラート]

すべてのアラートの詳細なリストを表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] をクリックします。
アラートの概要が表示されます。

2. [すべてのアラートを表示] をクリックします。
[イベント] ページに、すべてのアラートのリストが表示されます。

イベントリストの表示

このタスクについて

[イベント] セクションには、最近数日以内に発生したイベントの概要が表示されます。
すべてのイベントの詳細リストを表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] をクリックします。
インポートの概要が表示されます。
2. [すべてのイベントを表示] をクリックします。
[イベント] ページが開いて、すべてのイベントのリストが表示されます。

デバイスステータスの表示

このタスクについて

[表示] セクションには、デバイスステータスの概要が表示されます。[概要] セクションには、次のデバイスステータスカテゴリに基づいたデバイスの数が表示されます。

- [準拠]
- [保留中]
- [管理対象外]
- [非準拠]

すべてのデバイスの詳細なリストを表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] をクリックします。
デバイスの概要が表示されます。
2. [すべてを表示する] をクリックします。
[デバイス] ページに、登録済みのすべてのデバイスのリストが表示されます。

ユーザープリファレンスの変更

このタスクについて

アラート通知、ポリシー設定、ページサイズなどのユーザープリファレンスを変更するには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] ページの右上隅にある ログイン ドロップダウンメニューをクリックします。
2. [ユーザープリファランス] をクリックします。
[ユーザープリファレンス] ウィンドウが表示されます。
3. [アラート] をクリックし、電子メールおよびモバイルアプリケーションからの通知にアラートタイプ (重要、警告、情報) を割り当てるために適切なチェックボックスを選択します。
4. [ポリシー] をクリックして、[ThinOS ウィザードモードを使用するかどうかを確認する] チェックボックスを選択すると、ThinOS ポリシーを設定するたびに、[ThinOS 設定モードの選択] ウィンドウが表示されます。
5. [ページサイズ] をクリックし、[ページあたりの項目数] テキストボックスに 10 ~ 100 の数字を入力します。このオプションを使用すると、各ページに表示される項目数を設定できます。

オンラインヘルプへのアクセス

このタスクについて

Wyse Management Suite のマニュアルにアクセスするには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] ページの右上隅にある ログイン ドロップダウンメニューをクリックします。
2. [WMS ヘルプ] をクリックします。
[Wyse Management Suite のサポート] ページが表示されます。

パスワードの変更

このタスクについて

パスワードを変更するには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] ページの右上隅にある ログイン ドロップダウンメニューをクリックします。
2. [パスワードの変更] をクリックします。
[パスワードの変更] ウィンドウが表示されます。
3. 現在のパスワードを入力します。
4. 新しいパスワードを入力します。
5. 確認のために新しいパスワードを再入力します。
6. [パスワードの変更] をクリックします。

ログアウト

このタスクについて

管理コンソールからログアウトするには、次の操作を行います。

手順

1. [ダッシュボード] ページの右上隅にある ログイン ドロップダウンメニューをクリックします。
2. [サインアウト] をクリックします。

グループの管理および設定

前提条件

[グループ & 設定] ページでは、デバイスの設定に必要なポリシーを定義できます。グローバルグループポリシーのサブグループを作成し、要件に応じてデバイスを分類できます。たとえば、ジョブ機能やデバイスタイプなどに基づいてデバイスをグループ化できます。

このタスクについて

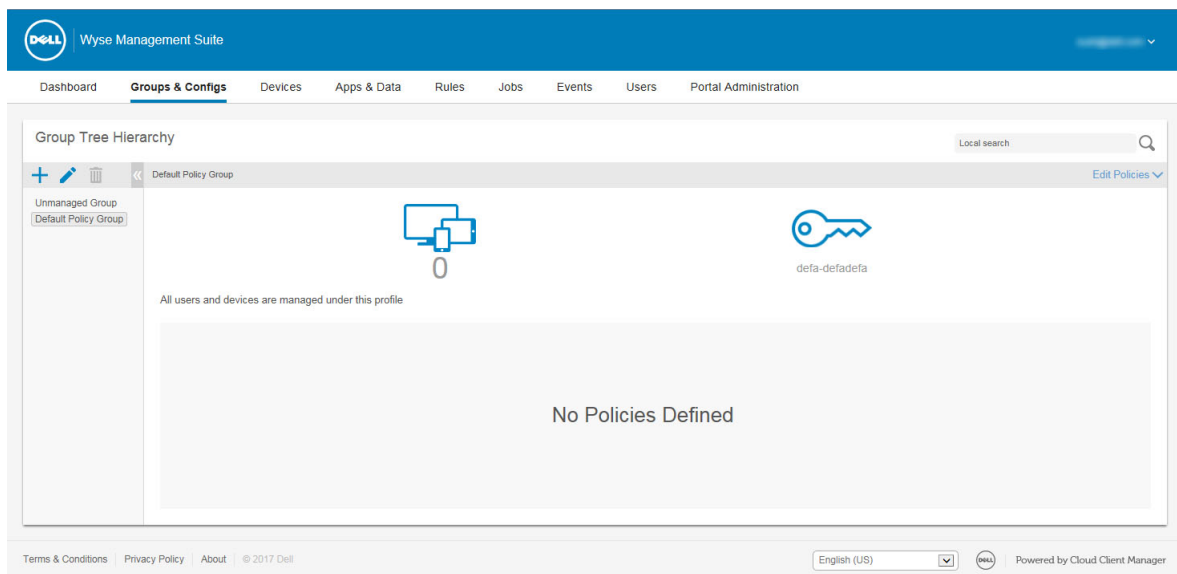


図 2. グループと設定

各グループについて、次のオペレーティングシステム用のポリシーを定義できます。

- [ThinOS]
- [WES]
- [Linux]
- [ThinLinux]
- [Teradici]
- [Wyse Software Thin Client]

デバイスは、作成された順序でポリシーを継承します。デフォルトポリシーグループの設定では、[デフォルトポリシーグループ] に記載されたすべてのポリシーのデフォルト設定が適用されます。グループには、そのグループに表示されているすべてのユーザーおよびデバイスに、デフォルト設定として [デフォルトポリシーグループ] があります。

[デバイスの詳細] ページで、グループ内のデバイスのグループの例外を作成し、グループのデフォルトとは異なるポリシーのサブセットを用意することができます。

設定されている場所の詳細および特定のアセットの設定 (グローバル、グループ、およびデバイスレベル) はページに表示されます。例外を作成するオプションはこのページで利用できます。[例外] 設定は、選択したデバイスにのみ適用されます。詳細については、「[デバイスレベルのポリシーの設定](#)」を参照してください。

メモ:

- 下位レベルのポリシーを変更すると、簡条書きの記号がポリシーの横に表示されます。この記号は、ポリシーが、上位レベルのポリシーをオーバーライドすることを示します。たとえば、システムの個人設定、ネットワーキング、セキュリティなどです。

- ポリシーを変更する場合は、アスタリスク (*) がポリシーの横に表示されます。この記号は、未保存または未発行の変更があることを示します。発行する前にこの変更を確認するには、[保留中の変更の表示] リンクをクリックします。

ポリシーの設定が異なるレベルの間で優先される必要がある場合、最下位レベルのポリシーが優先されます。

ポリシーの設定後、Thin Client に変更が通知されます。変更は、Thin Client の設定後すぐに反映されます。

i **メモ:** Windows Embedded Standard の BIOS 設定などの特定の設定では、変更を有効にするには再起動が必要です。ただし、ほとんどの ThinOS の設定では、変更を反映させるのにデバイスを再起動する必要があります。

ポリシーは、次の優先順位で実行されます。

- グローバル
- グループ
- デバイス

トピック:

- [グループの追加](#)
- [グループの編集](#)
- [グループの削除](#)
- [管理対象外グループの編集](#)
- [グローバルレベルポリシーの設定](#)
- [グループレベルポリシーの設定](#)
- [デバイスレベルのポリシーの設定](#)
- [ThinOS ポリシー設定の編集](#)
- [Windows Embedded Standard ポリシーの編集](#)
- [Linux ポリシー設定の編集](#)
- [ThinLinux ポリシー設定の編集](#)
- [Teradici ポリシー設定の編集](#)
- [Wyse Software Thin Client ポリシー設定の編集](#)

グループの追加

このタスクについて

グループを追加するには、次の操作を行います。

手順



1. [グループ & 設定] ページで、**+** アイコンをクリックします。
2. [新規グループの追加] ダイアログボックスで、[グループ名] と [説明] を入力します。
i **メモ:** 名前とグループの説明を変更するには、Active Directory を使用します。
3. [登録] タブで、グループトークン の下の [有効] チェックボックスをオンにします。
4. グループトークンを入力します。
i **メモ:** デバイス登録画面で利用可能なグループトークンを入力すると、グループにデバイスを登録できます。
5. [管理] タブで、このグループを管理するグループ管理者の名前を選択します。[使用可能なグループ管理者] ボックスでグループを選択し、右矢印をクリックして [割り当てられたグループ管理者] ボックスに移動します。[割り当てられたグループ管理者] から [使用可能なグループ管理者] に1つのグループを移動する場合は、その逆を実行します。
6. [保存] をクリックします。
[グループ & 設定] ページに利用できるグループのリストが追加されます。

グループの編集

このタスクについて

グループを編集するには、次の操作を行います。

手順



1. [グループ & 設定] ページで、 アイコンをクリックします。
2. [デフォルトポリシーグループの編集] ダイアログボックスで、[グループ名] や [説明]などを編集します。
3. [登録] タブで、グループトークンを編集します。
 **メモ:** デバイス登録画面で利用可能なグループトークンを入力すると、グループにデバイスを登録できます。
4. [保存] をクリックします。

グループの削除

このタスクについて

管理者は、グループ階層からグループを削除できます。グループを削除するには、次の手順を実行します。

手順


1. [グループ & 設定] ページの [グループツリー階層] で、 アイコンをクリックします。
このアクションにより、グループツリー階層から1つまたは複数のグループが削除されることを示す警告メッセージが表示されます。
2. [グループの追加] をクリックします。
 **メモ:** グループ階層からグループを削除すると、削除したグループに属するすべてのユーザーおよびデバイスは、選択したグループに移動します。

管理対象外グループの編集

このタスクについて

管理対象外グループに属するデバイスは、ライセンスを使用せず、また設定またはアプリケーションベースのポリシーを受け取りません。管理対象外グループにデバイスを追加するには、自動登録または手動デバイス登録の一部として管理対象外グループのデバイス登録キーを使用します。管理対象外グループを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [グループの編集] をクリックします。
[管理対象外グループの編集] ページが表示されます。[グループ名] にグループの名前が表示されます。
2. 次の詳細を入力します。
 - [説明] - グループの簡単な説明です。
 - [グループトークン] - グループトークンを有効にするには、このオプションを選択します。
3. [保存] をクリックします。
 **メモ:** パブリッククラウドの場合、デバイスを登録するには、管理対象外グループのグループトークンを有効にする必要があります。プライベートクラウドの場合、管理対象外グループのグループトークンは自動的に有効にされます。

グローバルレベルポリシーの設定

このタスクについて

グローバルレベルポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [グループ & 設定] ページの [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューから、デバイスタイプを選択します。
各デバイスタイプのポリシー設定が表示されます。
2. 設定したいポリシー設定項目を選択し、[この項目を設定する] をクリックします。
3. [保存して公開] をクリックします。

グループレベルポリシーの設定

このタスクについて

グループレベルポリシーまたはマルチレベルグループポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [グループ & 設定] ページで、ポリシーを設定したいグループに移動し、[ポリシーの編集] をクリックします。
2. ドロップダウンメニューから、設定するデバイスタイプを選択します。
デバイスタイプのポリシー設定が表示されます。
3. ポリシー設定を選択し、[この項目を設定する] をクリックします。
4. [保存して公開] をクリックします。

デバイスレベルのポリシーの設定

このタスクについて

デバイスレベルのポリシーを設定するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] ページから、設定するデバイスをクリックします。
[デバイスの詳細] ページが表示されます。
2. [デバイス設定] セクションで、[例外の作成/編集] をクリックします。

ThinOS ポリシー設定の編集

このタスクについて

ThinOS ポリシーを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。
2. [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
3. [ThinOS] をクリックします。
[ThinOS 設定モードの選択] ウィンドウが表示されます。
4. ポリシーを設定するには、希望するモードを選択します。選択できるモードは次のとおりです。
 - ウィザードモード
 - 詳細設定モード

メモ: ThinOS 詳細設定 をデフォルトモードとして設定するには、チェックボックスを選択します。

5. ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

ThinOS - ウィザードモード

このページは、ThinOS デバイスで最も使用頻度の高いパラメータを設定するのに使用します。ポリシーを設定するには、次の操作を行います。

1. 設定モードとして [ウィザード] を選択します。
2. 以下は、[ThinOS - ウィザードモード] ページで利用できるポリシー設定です。

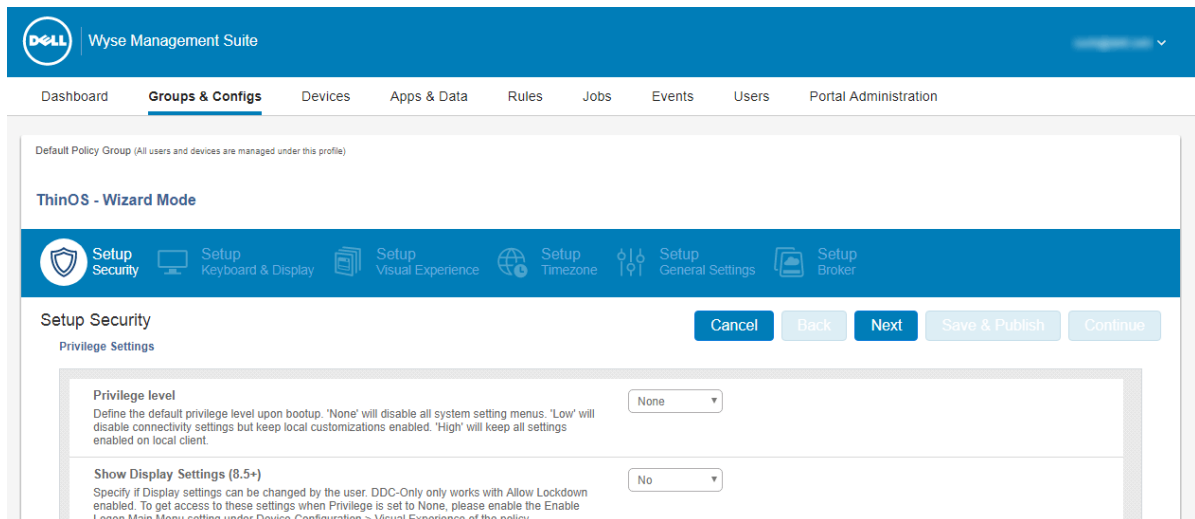


図 3. ThinOS - ウィザードモード

- セキュリティのセットアップ
 - キーボードおよびディスプレイのセットアップ
 - ビジュアルエクスペリエンスのセットアップ
 - タイムゾーンの設定
 - 一般設定の設定
 - ブローカの設定
- ポリシー設定を開くには [次へ] をクリックします。
 - 以前のポリシー設定を表示するには [戻る] をクリックします。
 - [グループ & 設定] ページに戻るには [キャンセル] をクリックします。
 - 変更を保存するには、[保存して公開] をクリックします。
 - ThinOS 詳細設定モードを開くには [続行] をクリックします。

セキュリティのセットアップ設定

このページは、ユーザーの特権および証明書のインストールなど、Thin Client のセキュリティを設定するのに使用します。

メモ:

- 証明書の割り当ては、グローバルレベル、グループレベル、またはデバイスレベルで管理できます。[証明書の自動インストール] オプションを選択すると、[ファイルリポジトリのインベントリ] ページに、アップロードされた証明書のリストがロードされます。
- 証明書の導入を自動化するには、Thin Client に自動的にインストールする証明書を選択します。

表 2. 権限設定

表 2. 権限設定

オプション	説明
権限レベル	システム起動時のデフォルトの権限レベルを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、必要に応じて次のいずれかのレベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし - すべてのシステム設定オプションを無効にします。 高 - ローカルのカスタマイズ以外の接続設定を無効にします。 低 - すべての設定をローカルクライアントで有効にします。
表示設定の表示 (8.5 以降)	ディスプレイを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、設定アクセスを設定するグループを選択します。
[ロックダウンを許可]	このオプションを選択すると、特権レベルをデバイスに保存しておくことで、ネットワーク接続が不可能な場合やサーバからの設定取得ができない場合にも、特権レベルが使用できるようになります。これは、特権レベルが高い場合に適用されます。
キーボードとマウスの設定の有効化 (8.5 以降)	キーボードおよびマウスを設定するには、このオプションを選択します。
管理者モードを有効にする	[管理者ユーザー名] と [管理者パスワード] を入力して管理モードにアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションは、特権レベルを低またはなしに設定した場合にのみ有効にできます。
暗号化された資格情報 (8.5 以降)	ログイン資格情報を暗号化するには、このオプションを選択します。
[管理モードボタンの表示 (8.5 以降)]	サインオンウィンドウにローカル管理モードのボタンを表示させるには、このオプションを選択します。
証明書の自動インストール	証明書を自動的にインストールするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ファイルリポジトリ中の証明書のリストが表示されます。適切な証明書を選択します。
VNC を有効にする	Virtual Network Computing (VNC) シャドール機能の有効にするには、このオプションを選択します。VNC シャドール機能は、ユーザーと同じセッションをリモートで共有できるプロセスです。ユーザーに表示される内容を確認し、アプリケーションまたはセッション固有の問題に対処できます。
VNC パスワード	VNC パスワードを有効にします。パスワードには、最大 16 文字まで入力できます。
パスワードの暗号化 (8.5 以降)	パスワードを暗号化するにはこのオプションを選択します。

キーボードとディスプレイの設定

解像度やデュアルモニターなどの Thin Client モニター表示設定を構成するには、このページを使用します。

表 3. キーボードの設定 - ThinOS 8.5+

オプション	説明
キーボードレイアウト	ドロップダウンリストから、キーボードのレイアウトと言語を選択します。

表 4. モニター表示の設定

オプション	説明
デュアルモニターを有効にする	デュアルモニターを有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 4. モニター表示の設定

オプション	説明
デュアルモニターモード	モニターモードを選択するには、このオプションを選択します。 [ディスプレイモニターモード] ドロップダウンメニューから、 [ミラーモード] または [スパンモード] を選択します。
モニターの自動検出 (8.5 以降)	システムに接続されているモニターの合計数を検出するには、このチェックボックスを選択します。 メモ: [モニターの自動検出 (8.5 以降)] と [デュアルモニターを有効にする] オプションの両方を選択する場合、シングルおよびデュアルのモニターセットアップの構成設定は両方とも同じままになります。

ビジュアルエクスペリエンスの設定

デスクトップ表示 (クラシックまたは ZERO ラUNCHパッド) およびセッション機能など、Thin Client のビジュアルエクスペリエンスを設定するには、このページを使用します。

表 5. デスクトップの外観の設定

オプション	説明
デスクトップの壁紙	ファイルリポジトリにアップロードされたイメージのみが表示されます。このチェックボックスを選択した場合、壁紙ファイルと壁紙のレイアウトドロップダウンメニューが表示されません。
会社のロゴ	デバイスログイン画面にロゴが表示されます。このチェックボックスを選択すると、[ロゴファイル] ドロップダウンメニューが表示されます。ロゴファイルはファイルリポジトリのインベントリからアップロードすることができます。

表 6. ビジュアルエクスペリエンスの設定

オプション	説明
クラシックデスクトップ vs ZERO ラUNCHパッド	デスクトップエクスペリエンスを定義するには、このオプションを選択します。 メモ: ThinOS Lite/Xenith デバイス、および全画面セッションには、Zero ラUNCHパッドが推奨されます。シームレスアプリケーションにはクラシックデスクトップが推奨されます。
ログオンメインメニューを有効にする (8.5 以降)	このオプションを選択して、ログインメインメニューを有効にします。
すべてのセッションの終了後のアクション	最後のアクティブセッションを閉じた後のアクションを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし 自動的にサインオフ システムを自動的にシャットダウン システムを自動的に再起動
[シャットダウン / 再起動カウンター]	システムの再起動までに待機させる秒数を入力します。有効な値は 0 ~ 60 です。

タイムゾーンの設定

タイムサーバなどの Thin Client 設定、およびタイムゾーンを設定するには、このページを使用します。

表 7. タイムゾーン

オプション	説明
手動でタイムゾーンを設定	タイムゾーン設定に関してデバイスのシステムプリファレンスメニューを上書きするには、このオプションを選択します。
[日付形式 (8.5 以降)]	必要な日付形式を選択します。
[時間形式 (8.5 以降)]	必要な時間形式を選択します。
タイムサーバ	セミコロンで区切って、現地時間を同期するタイムサーバのリストを入力します。

一般設定

このページは、ライブアップグレード、ファームウェアアップデートロジック、プラットフォームファームウェアのマッピングなど、Thin Client ファームウェアアップグレードを設定するのに使用します。

メモ:

- クラウドからのリモートファームウェアイメージは、ThinOS ファームウェアバージョン 8.0_037 以降でサポートされます。

表 8. サインオン設定

オプション	説明
ドメインリスト (8.5 以降)	ブローカサーバにサインインするためのドメインのリストを入力します。名前はセミコロンで区切ります。

表 9. ファームウェアアップグレード

オプション	説明
ライブアップグレードの無効化	ライブアップグレードを使用すると、ダウンロード後すぐに Thin Client が有効になり、定義されたポリシーに基づいて新しいファームウェアが適用されます。起動ごとに Thin Client で新しいファームウェアのみをチェックするようにするには、ライブアップグレード機能を無効にします。
希望のプラットフォームまたはファームウェアマッピングの定義	このオプションは、特定のファームウェアバージョンを異なるプラットフォームタイプにマッピングします。 プラットフォームタイプを特定のファームウェアバージョンにマッピングするには、次の操作を行います。 1. [プラットフォームタイプ] ドロップダウンメニューから、プラットフォームを選択します。 2. [自動導入のためのファームウェア] ドロップダウンメニューから、ファームウェアのバージョンを選択します。 [ファイルリポジトリのインベントリ] ページに現在アップロードされているプラットフォームタイプのリストと、ファームウェアバージョンの数が表示されます。

表 10. ローカルリソースの設定

オプション	説明
スマートカードのマップ	リモートセッションにスマートカードをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
USB リダイレクトを有効にする	デバイスで USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[ディスクデバイスを除外する]	ディスクデバイスを除外するには、このオプションを選択します。

表 10. ローカルリソースの設定

オプション	説明
[オーディオデバイスを除外する]	オーディオデバイスを除外するには、このオプションを選択します。
[プリンタデバイスを除外する]	プリンタデバイスを除外するには、このオプションを選択します。
[ビデオデバイスを除外する]	ビデオデバイスを除外するには、このオプションを選択します。

ブローカの設定

このページを使用して、Thin Client リモート接続と、Citrix、Microsoft、VMware、vWorkspace などのブローカのアドレスや資格情報などのブローカ設定を行います。

表 11. ブローカサーバの設定

オプション	説明
使用しているブローカを選択します	公開済みデスクトップのブローカ接続を確立するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix ● Microsoft ● vWorkspace ● VMware
ブローカサーバ	ブローカサーバホスト名または IP アドレスを入力します。
Citrix カスタムストア名	Citrix StoreFront 接続の Citrix ストア名を入力します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するには、このオプションを選択します。 ① メモ: デスクトップまたはアプリケーションの名前では、大文字と小文字が区別されます。セミコロンを使用して、自動的に初期化する必要がある複数のセッションを区切ります。
ログオン時に再接続する	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。アクティブおよび切断されたセッションに再接続できません。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
セキュリティモード	セキュリティモードを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは VMware にのみ適用可能です。
プロトコル	プロトコルを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは VMware にのみ適用可能です。
vWorkspace ゲートウェイを有効にする	vWorkspace ゲートウェイ機能を有効にするには、このオプションを選択します。このオプションは vWorkspace にのみ適用可能です。

ThinOS - 詳細モード

ThinOS デバイスの詳細ポリシーを設定するには、このページを使用します。詳細設定ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

1. 設定のモードとして、[詳細設定] を選択します。
2. 以下は、[ThinOS] ページで使用可能なポリシー設定です。

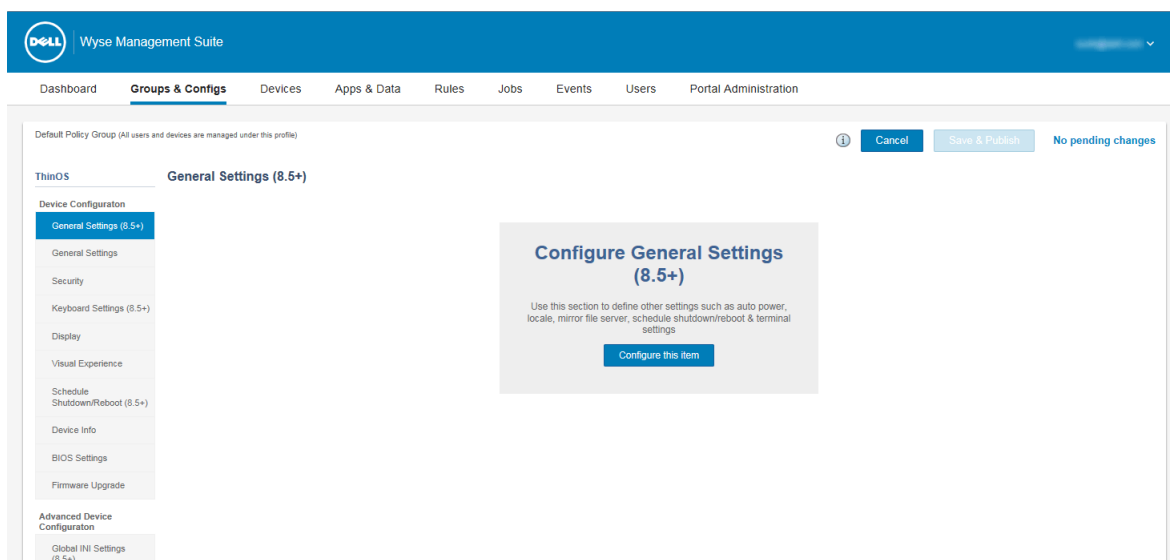


図 4. ThinOS - 詳細モード

- [デバイス構成]
 - [詳細デバイス設定]
 - [リモート接続 (レガシー)]
 - [リモート接続 (8.5以降)]
 - [プリンタ (8.5以降)]
 - [ネットワーク設定 (8.5以降)]
3. [保存して公開] をクリックして、変更内容を保存します。
 4. [ポリシーの削除] をクリックし、[ThinOS] ページに戻ります。
 5. [キャンセル] をクリックし、[グループ & 設定] ページに戻ります。

一般設定

一般設定 ページでは、自動電源設定、ローカル設定、ミラーファイルサーバ設定、ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスのターミナル設定など、シンクライアントの一般設定項目を設定します。

表 12. 一般設定

オプション	説明
自動電源	自動電源 チェックボックスは、電源が最初にユニットに投入されたときにシステムが起動する方法について指定します。

表 13. キーボードオプションの設定

オプション	説明
言語ファイルのロード	ThinOS デバイス言語ファイルをインストールするには、このオプションを選択します。
システム言語	システムの言語を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
ローカルファイル名	デバイスにインストールする証明書を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、ファイルリポジトリに追加された証明書を選択します。
フォントファイル名	デバイスにインストールするフォントファイルを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、ファイルリポジトリに追加されたフォントファイルを選択します。

表 14. ミラーファイルサーバの設定

オプション	説明
ミラーファイルサーバ	FileServer がオフラインの場合、この設定により、設定のローカルコピーをキャッシュに保存できます。

表 15. ターミナルの設定


オプション	説明
端末名	ターミナル名を入力します。システム変数を使用して、複数のデバイスの名前の変更を自動化することもできます。
ターミナルの再起動	この設定が有効の場合、ターミナル名の変更後、システムは強制的に再起動されますシステムを再起動して、変更を表示します。
非アクティブ	ThinOS デバイスの ビジュアルエクスペリエンス ポリシー設定のすべてのセッションの終了後のアクション ドロップダウンリストで選択したオプションに応じて、システムを再起動またはシャットダウンする場合に選択します。分単位で時間の値を入力します。アクティブな時間の範囲は 0~480 秒です。
セッションタイマーなし	ThinOS デバイスの ビジュアルエクスペリエンス ポリシー設定のすべてのセッションの終了後のアクション ドロップダウンリストで選択したオプションに応じて、システムを再起動またはシャットダウンする場合に選択します。分単位で時間の値を入力します。アクティブな時間の範囲は 0~480 秒です。  メモ: この設定は、非アクティブ 値が 0 に設定されている場合にのみ適用されます。

表 16. オーディオの設定 - ThinOS 8.6 以降のバージョン

オプション	説明
[オーディオの設定]	オーディオの設定を行うには、このオプションを選択します。
[アナログオーディオジャックポップアップ]	このオプションを選択すると、アナログヘッドセットの接続時にオーディオ選択メッセージが表示されます。
[ミュート]	このオプションを選択することで、ミュート (消音) を有効または無効にします。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ミュートなし ● オーディオミュート ● オーディオとシステムビープ音をミュート ● システムビープ音をミュート
[マイク音量]	このオプションを選択することで、マイクの音量レベルを設定します。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 高 ● 中 ● 低
[マイクミュート]	マイクをミュートするには、このオプションを選択します。
[ディスプレイポートでのオーディオを無効化]	このオプションを選択するとディスプレイポートでのオーディオを無効化できます。
[マイクブースト]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● Yes - オンボードのマイクブーストを有効にします。 ● No - オンボードのマイクブーストを無効にします。 ● 1、2、3、4 - マイクのデシベル値を増加させます。

表 16. オーディオの設定 - ThinOS 8.6 以降のバージョン

オプション	説明
[再生バッファリングキャッシュ]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。このオプションを使用することで、ThinOS オーディオ再生の最小バッファリング量を 10 ミリ秒単位で設定できます。このオプションは、音声のスムーズな再生に十分なネットワーク帯域幅がない場合に使用できます。利用できるオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 1 - ThinOS はオーディオデータ再生時に、最低 10 ミリ秒分のオーディオデータをバッファします。 ● 50 - ThinOS はオーディオデータ再生時に、最低 500 ミリ秒 (0.5 秒) 分のオーディオデータをバッファします。
[スピーカーを有効化]	内部スピーカーを有効にするには、このオプションを選択します。
[再生デバイス]	再生デバイスの名前を入力します。
[録音デバイス]	録音デバイスの名前を入力します。
[マイクゲインデバイス]	マイクゲインに使用するデバイス名を入力します。
[マイクゲインレベル]	指定値の倍数でマイクゲインを増幅させます。
[ボリューム]	ドロップダウンリストから、ボリュームのレベルを選択します。

表 17. マウスの設定 - ThinOS 8.6 以降のバージョン

オプション	説明
[マウスの設定]	マウスの設定を行うには、このオプションを選択します。
[マウスの速度]	ドロップダウンリストから、マウスの速度を選択します。
[マウススワップ]	マウスボタンのスワップを有効にするには、このオプションを選択します。
[タッチスクリーンドラッグ]	このオプションを選択すると、タッチスクリーンでのドラッグオプションが有効になります。
[スクロールホイール反転]	このオプションを選択すると、マウスのスクロールホイールが反転します。
[大きなカーソル]	このオプションを選択すると、ローカルマウスが通常の 2 倍のサイズに拡大されます。
[無効にする]	このオプションを選択すると、画面上のマウスポインタ表示が無効になります。

一般設定

タイムゾーンおよび、サインイン設定などの ThinOS シンクライアントを設定するには、[一般設定] ページを使用します。

表 18. サインインの設定


オプション	説明
[デフォルトのユーザー名]	ローカルサインイン画面のデフォルトのユーザー名を入力します。
[デフォルトパスワード]	ローカルサインイン画面のデフォルトのパスワードを入力します。
[ドメイン名]	ローカルサインイン画面のデフォルトのドメイン名を入力します。  メモ: 最大 31 文字で、カンマで区切られた複数のドメイン名を入力することができます。

表 18. サインオンの設定


オプション	説明
[ログオフ時の最後のユーザー名を記憶する]	システムをログオフするときに、ユーザー名を保存するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。  メモ: システムが再起動された場合、またはシステムの電源がオフにされた場合、ユーザー名は保存されません。
[ドメインフィールドを無効にする (8.5以降)]	サインオンウィンドウでドメインフィールドオプションを無効にするには、このチェックボックスを選択します。
[ドメインリスト (8.5以降)]	サインオンウィンドウに表示されるドメインのリストを入力します。セミコロンを使用してドメイン名ごとに区切ります。
[再起動/シャットダウン時の最後のユーザー名および/またはドメインを記憶する]	システムが再起動または電源オフされたときにユーザー名またはドメインを保存するには、このオプションを選択します。

表 19. タイムゾーンの設定

オプション	説明
タイムゾーンの手動設定	システム環境設定をオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。[タイムゾーン] と [夏時間を有効にする] ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[日付形式 (8.5以降)]	[日付形式 (8.5以降)] ドロップダウンメニューから、適切な形式を選択します。
[時間形式 (8.5以降)]	[時間形式 (8.5以降)] ドロップダウンメニューから、適切な形式を選択します。
タイムサーバ	セミコロンで区切って、現地時間を同期するタイムサーバのリストを入力します。

セキュリティの設定

サインオン設定、権限設定、G キーリセットなどの ThinOS シンクライアント用のセキュリティ設定を行うには、[セキュリティ設定] ページを使用します。

表 20. サインオンの設定

オプション	説明
[ドメインログインが必要です]	[ドメインログインが必要です] ドロップダウンメニューから、優先オプションを選択します。
[ゲストユーザーを無効にする]	ローカルのゲストユーザーアカウントを無効にするには、このチェックボックスを選択します。
[パスワードの再入力が必要です]	サインイン時にパスワードを再入力するには、このチェックボックスを選択します。
[スマートカードが必要です]	[スマートカードが必要です] ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。

表 21. 権限の設定

オプション	説明
権限レベル	システム起動中のデフォルトの権限レベルを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、必要に応じて次のいずれかのレベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし - すべてのシステム設定メニューが無効化されます。

表 21. 権限の設定 (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 - 接続の設定を無効にしますが、ローカルのカスタマイズは有効です。 ● 低 - ローカルクライアントのすべての設定を有効にします。
表示設定の表示 (8.5 以降)	ディスプレイを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、設定アクセスを設定するグループを選択します。
キーボードとマウスの設定の有効化 (8.5 以降)	キーボードとマウスを設定するには、このオプションを選択します。
日付と時刻の設定の無効化 (8.5 以降)	日付と時刻を設定するには、このオプションを選択します。
アップロードするネットワークの場所 (8.5 以降)	ネットワークトレース、ネットワークキャプチャ、およびログファイルをアップロードするネットワークの場所を入力します。

表 22. 管理者モードの設定

オプション	説明
管理者モードを有効にする	チェックボックスを選択して管理者モードを有効にします。権限レベルが [低] または [なし] の場合、ユーザー名とパスワードを入力して、管理モードにアクセスできます。
暗号化された資格情報 (8.5 以降)	資格情報を暗号化するには、このチェックボックスを選択します。
管理モードボタンの表示 (8.5 以降)	サインオンウィンドウに管理モードオプションを表示するには、このチェックボックスを選択します。

表 23. 一般設定


オプション	説明
[Gkey リセットを有効にする]	デバイスの出荷時設定にリセットするには、このオプションを選択します。システムの再起動中に、出荷時設定にリセットするには、G キーを押します。
[トレースを有効にする]	ファイルをトレースするにはこのオプションを選択します。このパラメータは、ICA または RDP トレースモードを有効にし、ディレクトリにトレースファイルが作成されます。
[証明書の削除 (8.5 以降)]	証明書を削除するには、このオプションを選択します。
[証明書の削除 (8.5 以降)]	証明書を削除するにはこのオプションを選択します。削除する証明書の名前を入力します。
[証明書の自動インストール]	証明書を自動的にインストールするには、このオプションを選択します。
[ThinPrint サービスを無効にする]	ThinPrint サービスを無効にするには、このオプションを選択します。
[ローカルフラッシュの暗号化]	ローカル設定を行い、ユーザーの資格情報を設定するには、このオプションを選択します。ローカルフラッシュを暗号化する場合は、このチェックボックスを選択します。
[VNC シャドーイングを無効にする]	VNC シャドーイングを無効にするには、このオプションを選択します。
[高速切断キー]	高速切断キーを使用するには、このオプションを選択します。  メモ: Citrix セッションから切断するには、F12 キーを押します。

表 24. セキュリティポリシーの設定

表 24. セキュリティポリシーの設定

オプション	説明
[セキュリティポリシー (8.5 以降)]	[セキュリティポリシー (8.5 以降)] ドロップダウンメニューから、SSL 接続のグローバルセキュリティモードを選択します。
[セキュア化されたネットワークプロトコル (8.5 以降)]	ネットワークプロトコルをセキュア化するには、このオプションを選択します。セキュアでないネットワークプロトコルは無効になります。
[TLS 最小バージョン (8.5 以降)]	ThinOS デバイス用 SSL 接続の最小バージョンを選択するには、このオプションを選択します。
[TLS 最大バージョン (8.5 以降)]	ThinOS デバイス用 SSL 接続の最大バージョンを選択するには、このオプションを選択します。
[DNS ファイルサーバ検出 (8.5 以降)]	DNS ファイルサーバを検出するには、このオプションを選択します。

表 25. VNC 設定

オプション	説明
VNC を有効にする	VNC 設定を有効にするには、このオプションを選択します。
VNC パスワード	最大 16 文字で VNC パスワードを入力します。
パスワードの暗号化 (8.5 以降)	パスワードを暗号化するにはこのオプションを選択します。
[最大同時 VNC (8.5 以降)]	ドロップダウンメニューから、同時 VNC 接続の最大数を選択します。
[Zlib 圧縮 (8.5 以降)]	Zlib 圧縮を有効化するには、このチェックボックスを選択します。
[起動時にプロンプトを表示する]	ターミナルでシャドープロセスを実行するには、このオプションを選択します。
[クエリユーザーのタイムアウト]	シャドーセッションを受け入れるか拒否する合計時間を秒単位で入力します。範囲は 10 ~ 600 秒です。
[終了時にプロンプトを表示する]	リモートシャドーセッションの終了を通知するには、このチェックボックスを選択します。
[表示専用]	シャドーセッション中に、システム上のキーボードまたはマウスイベントを無効にするには、このチェックボックスを選択します。
[強制的に 8 ビット]	ディスプレイを設定するには、このオプションを選択します。ピクセルあたり 8 ビットを使用するには、チェックボックスを選択します。

表 26. WDM サービスの設定

オプション	説明
[WDM サービスを無効にする]	WDM サービスを無効にするには、このオプションを選択します。
[クイックモード (8.5 以降)]	ThinOS デバイスの起動時間を短縮するには、このオプションを選択します。

キーボード設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスでのキーボードのレイアウトおよびキーボードショートカットの動作の設定には、**キーボードの設定** ページを使用します。

表 27. キーボード設定

表 27. キーボード設定

オプション	説明
[文字セット]	適切な文字セットを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、使用する文字セットを選択します。
[キーボードレイアウト]	適切なキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、使用するキーボードレイアウトを選択します。
[キーボードのリピート入力までの遅延]	押した文字が繰り返し入力されるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、使用するオプションを選択します。
[キーボードのリピート入力速度]	キーボードのリピート入力速度を設定するには、このオプションを選択します。リピート入力速度とは、キーを押してそのままにした場合にキー入力を繰り返す速度です。ドロップダウンリストから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 低速 ● 通常 ● 高速
[キーシーケンス]	キーシーケンスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
[Ctrl-Alt-Del]	[Ctrl-Alt-Del] キーを押して、システムをロックします。
[Ctrl-Alt-Up]	[Ctrl-Alt-Up] キーを押して全画面モードとウィンドウモード間のセッションを切り替えます。
[Ctrl-Alt-下矢印]	[Ctrl-Alt-下矢印] キーを押して、タスクの選択を切り替えます。
[Ctrl-Alt-左矢印]	[Ctrl-Alt-左矢印] キーを押して、システムをロックします。
[Ctrl-Alt-右矢印]	[Ctrl-Alt-右矢印] キーを押して、システムをロックします。
[Win + L]	[Win + L] キーを押して、システムをロックします。
[Alt-Tab]	[Alt-Tab] キーを押して、システムをロックします。

表示設定

[表示設定] ページは、解像度、回転、色深度、デュアルモニターなど、ThinOS シンクライアントモニターの表示設定を行うのに使用します。

表 28. モニター表示設定

オプション	説明
デュアルモニターを有効にする	チェックボックスを選択して、デュアルモニターを有効にします。
デュアルモニターモード	モニターモードを選択するには、このオプションを選択します。[ディスプレイモニターモード] ドロップダウンメニューで、[ミラーモード] または [スパンモード] を選択します。
メイン画面	メイン画面にアクセスするには、このオプションを選択します。[メイン画面] のドロップダウンメニューから、[画面 1] または [画面 2] を選択します。
位置合わせ	モニター画面の位置合わせをするには、このオプションを選択します。[位置合わせ] ドロップダウンリストから、希望するプラットフォームを選択します。
レイアウト - ThinOS 8.5 以降	このオプションを選択して、[横] または [縦] のいずれかのレイアウトを選択します。

表 28. モニター表示設定

オプション	説明
タスクバー - ThinOS 8.5 以降	画面上のタスクバーの配置を選択するには、このオプションを選択します。[タスクバー(8.5以降)] ドロップダウンメニューから、[メイン画面] または [画面全体] を選択します。
自動検出モニター - ThinOS 8.5 以降	チェックボックスを選択して、システムに接続されているモニターの合計数を検出します。 メモ: [モニターの自動検出(8.5以降)] および [デュアルモニターを有効にする] オプションの両方を選択すると、シングルおよびデュアルモニターの両方で、同じ設定がそのまま適用されます。
デスクトップの色深度	デスクトップの色深度を設定するには、このオプションを選択します。[デスクトップの色深度] ドロップダウンメニューから、[16ビット] または [32ビット] を選択します。

表 29. プライマリモニター設定

オプション	説明
モニターの解像度	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、モニターの適切な解像度を選択します。
モニターの回転	回転を定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、適切な回転方向を選択します。
モニターのリフレッシュレート - ThinOS 8.5 以降	モニターのフレッシュレートを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、お使いのモニターに適切なリフレッシュレートを選択します。

表 30. セカンダリモニター設定

オプション	説明
モニターの解像度 (8.5 以降)	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、モニターの適切な解像度を選択します。
モニターの回転 (8.5 以降)	回転の方向(左、右、なし)を定義し、回転できるようにするには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、適切な回転方向を選択します。
モニターのリフレッシュレート (8.5 以降)	モニターのフレッシュレートを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、お使いのモニターに適切なリフレッシュレートを選択します。

表 31. スクリーンセーバーの設定

オプション	説明
スクリーンセーバー (8.5 以降)	スクリーンセーバーの時間を分単位で入力します。
ターミナルのロック (8.5 以降)	スクリーンセーバーのタイムがアクティブの際に、ターミナルをロック状態にするには、このオプションを選択します。 ターミナルのロック (8.5 以降) ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 0-無効 ● 1-パスワードのみでアンロックし、壁紙を表示する ● 2-パスワードのみでアンロックし、黒い画面を表示する ● 3-ユーザー名とパスワードのみでアンロックし、黒い画面を表示する

表 31. スクリーンセーバーの設定

オプション	説明
スクリーンセーバータイプ (8.5 以降)	使用するスクリーンセーバーを指定するには、このオプションを選択します。スクリーンセーバータイプ (8.5 以降) ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
スリープ (8.5 以降)	このオプションを選択して、ソフトスクリーンセーバーを停止してモニターをオフにするまでの時間間隔を分単位で指定します。スリープ (8.5 以降) ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。

ビジュアルエクスペリエンスの設定

[ビジュアルエクスペリエンス] ページは、デスクトップのテーマ、セッションの終了後の動作など、ThinOS シンクライアントの視覚的なエクスペリエンスを設定するのに使用します。

表 32. デスクトップの外観の設定

オプション	説明
[デスクトップカラー (8.6 以降)]	ローカルデスクトップの背景色を入力します。
デスクトップの壁紙	<p>ファイルリポジトリにアップロードされたイメージのみが表示されます。このチェックボックスを選択すると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 壁紙を無効化 ● 壁紙を有効化 ● Dell のデフォルト壁紙 (8.6 以降) ● Wyse のデフォルト壁紙 (8.6 以降) <p>メモ: 壁紙を有効化するオプションを選択すると、[壁紙ファイル] と [壁紙のレイアウト] が表示されます。</p>
会社のロゴ	デバイスログイン画面でロゴが表示されます。このチェックボックスを選択すると、[ロゴファイル] ドロップダウンメニューが表示されます。ファイルリポジトリのインベントリから、ロゴファイルをアップロードできます。
ログイン時に EULA	ログイン時に、エンドユーザーライセンス契約を表示します。このチェックボックスを選択すると、[EULA ファイル] ドロップダウンメニューが表示されます。このオプションを使用して、プレーンテキストファイルをアップロードできます。

表 33. ビジュアルエクスペリエンスの設定

オプション	説明
クラシックデスクトップまたは ZERO ラウンチパッド	<p>デスクトップエクスペリエンスを定義するには、このオプションを選択します。</p> <p>メモ: ZERO ラウンチパッドは、ThinOS Lite または Xenith デバイス、および全画面セッションで推奨されます。シームレスアプリケーションではクラシックデスクトップが推奨されます。</p>
マウスのフォーカスが移動した場合を除き、ツールバーが閉じないようにする	マウスのフォーカスを移動した場合を除き、ツールバーが閉じないようにするには、このチェックボックスを選択します。
ホームアイコンを無効にする	ホームアイコンを無効にするには、このオプションを選択します。
ログオンメインメニューを有効にする (8.5 以降)	システムにログインする際に、デスクトップ上でメインメニュー画面を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 33. ビジュアルエクスペリエンスの設定

オプション	説明
左マージンでのゼロツールバーのアクティブ化を有効にする	ゼロツールバーをアクティブ化する場合は、このオプションを選択し、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • いいえ • マウスを指定した秒数上に置いた後 • クリック後のみ
ツールバーによるマウスの無効化	チェックボックスを選択すると、ゼロツールバーオプションが有効の場合にマウスの機能を無効にします。
ツールバークリック (8.5以降)	チェックボックスを選択すると、ゼロツールバーオプションが有効の場合にツールバーをクリックできるようになります。
ツールバーがアクティブ化されるまでの秒数	ツールバーがアクティブ化されるまでの時間(秒単位)を設定するには、このオプションを選択します。お好みに合わせて、以下から設定するいずれかの時間を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0.5 秒 • 1 秒 • 1.5 秒 • 2 秒
すべてのセッションの終了後のアクション	最後のアクティブセッションを閉じた後のアクションを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし • 自動的にサインオフ • 自動的にシステムをシャットダウン • 自動的にシステムを再起動

シャットダウン / 再起動のスケジュール

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスでのスケジュールされた再起動またはシャットダウンの設定には、[シャットダウン / 再起動のスケジュール (8.5以降)] ページを使用します。

表 34. シャットダウンまたは再起動のスケジュール

オプション	説明
[スケジュールされた再起動]	システムの再起動をスケジュールする時刻または日を指定するには、このチェックボックスを選択します。
[スケジュールされたシャットダウン]	システムのシャットダウンをスケジュールする時刻または日を指定する場合に選択します。
[アイドル時間]	アイドル時間を入力します。アイドル時間の値を 10 分に設定すると、システムはアクティブセッションで再起動します。
[再起動 / シャットダウン時間]	システムが再起動またはシャットダウンする必要がある時刻を入力します。24 時間形式で時刻を設定します。
[再起動 / シャットダウン終了]	システムの再起動またはシャットダウン処理を停止する必要がある時刻を入力します。24 時間形式で時刻を設定します。
[日]	システムを再起動またはシャットダウンする日を指定するには、このチェックボックスを選択します。

デバイス情報の設定

[デバイス情報] ページを使用して、ThinOS デバイスの種類を設定します。

表 35. デバイス情報の設定

表 35. デバイス情報の設定

オプション	説明
場所	デバイスの位置を入力します。
連絡先	デバイスの連絡先を入力します。
カスタム 1 ~ 3	カスタム値を入力します。

BIOS の設定

[BIOS 設定] ページでは、ThinOS シンククライアントの BIOS 設定項目を設定します。

表 36. システム設定

オプション	説明
オーディオを有効にする	オーディオデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 37. セキュリティの設定

オプション	説明
管理セットアップのロック	管理者パスワードが設定されている場合、このオプションを選択することで他のユーザーによるセットアップの起動を防止することができます。

表 38. 管理者のパスワードの設定

オプション	説明
管理者パスワードを有効にする	BIOS 管理者のパスワードを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
管理者パスワード	新しい BIOS Administrator パスワードを入力します。このオプションは、[管理者パスワードを有効にする] チェックボックスを選択した場合のみ利用できます。

表 39. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン時刻	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 40. USB の設定



オプション	説明
背面 - 左デュアル USB 2.0 ポートを有効にする	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択した場合、オペレーティングシステムでデバイスが使用できます。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたデバイスを検知できません。  メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。
前面 USB ポートを有効化する	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択した場合、オペレーティングシステムでデバイスが使用できます。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたデバイスを検知できません。  メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。

表 40. USB の設定

オプション	説明
USB 起動サポートを有効にする	USB 起動セットアップを有効にするには、このチェックボックスを選択します。任意のタイプの USB 大容量ストレージデバイスを起動できます。

表 41. 電源管理の設定

オプション	説明
AC リカバリ	ドロップダウンリストから、AC 電源が回復したときのシステムの動作を指定するオプションを選択します。
Wake On LAN	ドロップダウンリストからオプションを選択して、Thin Client でオフ状態から電源をオンにできるようにするオプションを選択します。LAN 信号を使用して、Thin Client がオフ状態からの電源投入をトリガーできます。
USB でウェイク	オフ状態またはハイバネート状態から、USB デバイスがシステムをウェイクアップできるようにするには、このオプションを選択します。

表 42. 再起動スケジュール

オプション	説明
再起動オプション	システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - [再起動時間 (時間)] と [再起動時間 (分)] を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

ファームウェアのアップグレードの設定

ライブアップグレード、ファームウェアアップデートロジック、ローカルファームウェアのチェックプリファレンス、プラットフォームファームウェアマッピングなど、ThinOS シンククライアントファームウェアのアップグレードを設定するには、[ファームウェアアップグレード] ページを使用します。

表 43. ファームウェアのアップグレードの設定

オプション	説明
ライブアップグレードの無効化	このパラメータは、Thin Client を再起動した後即座に、定義されたポリシーに基づいて、Thin Client に新しいファームウェアを自動的にインストールします。毎回の再起動で新しいファームウェアを確認するには、このオプションを無効にします。
ファームウェアアップデートロジック	このパラメータは、管理コンソールから新しいファームウェアが公開されたときの Thin Client の動作を決定します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • アップデートしない — Thin Client は、管理ポリシーに割り当てられたファームウェアのバージョンを無視します。 • 新しいファームウェアのみ — Thin Client は、管理ポリシーに新しいバージョンが割り当てられた場合のみファームウェアをアップデートします。 • 任意の異なるファームウェア — バージョンがデバイス上の現在のイメージより下であっても、Thin Client は管理ポリシーによって割り当てられたバージョンにファームウェアをアップデートします。

表 43. ファームウェアのアップグレードの設定

オプション	説明
ローカルファームウェアのチェックをスキップ	Thin Client がファームウェアアップデートのためのローカルファイルサーバのチェックをバイパスできるようにするには、このオプションを選択します。 ① メモ: デルでは、管理コンソールでファームウェアを定義する場合、このオプションを有効にすることをお勧めします。ファームウェアポリシーが管理コンソールとローカルファイルサーバ上のファームウェアにある場合、Thin Client が異なるイメージを適用するため、無限の再起動につながります。
署名の検証	署名を検証するには、このチェックボックスを選択します。
BIOS アップグレードを有効にする	このオプションを選択して、BIOS アップグレードプロセスを有効にします。
BIOS ファイルの選択	ファイルリポジトリにアップロードされた BIOS ファイルを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから BIOS ファイルを選択します。
目的のプラットフォームまたはファームウェアのマッピングの定義	このオプションは、特定のファームウェアバージョンを異なるプラットフォームタイプにマップします。 プラットフォームタイプを特定のファームウェアバージョンにマップするには、次の手順を実行します。 1. [プラットフォームタイプ] ドロップダウンメニューから、プラットフォームを選択します。 2. [自動導入のためのファームウェア] ドロップダウンメニューから、ファームウェアバージョンを選択します。 プラットフォームタイプのリストと[ファイルリポジトリのインベントリ] ページに現在アップロードされているファームウェアのバージョンの数が表示されます。

デバイスの設定

ThinOS 8.6 以降のバージョンのマウス、キーボード、モニター、タイムゾーン、プリンタ、オーディオ、およびネットワークの設定には、[デバイスの設定] ページを使用します。

表 44. デバイス設定のプリファレンス

オプション	説明
[デバイス設定管理]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 手動オーバーライドを無効化 - Wyse Management Suite 設定によるすべてのデバイスでの手動オーバーライドを無効化するには、このオプションを選択します。 ● すべての手動オーバーライドを有効化 - クライアント設定によりすべてのデバイスを手動でオーバーライドするには、このオプションを選択します。 ● 選択的な手動オーバーライドを有効化 - 特定のクライアント設定により選択したデバイスを手動でオーバーライドするには、このオプションを選択します。
[監視]	モニター設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。
[マウス]	マウス設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。

表 44. デバイス設定のプリファレンス

オプション	説明
[キーボード]	キーボード設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。
[タイムゾーン]	タイムゾーン設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。
[プリンタ]	プリンタ設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。
[オーディオ]	オーディオ設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。
[ネットワーク]	WLAN や静的 IP などのネットワーク設定を手動でオーバーライドするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、[選択的な手動オーバーライドを有効化] オプションを選択した場合に適用されます。

グローバル INI の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスでグローバル INI の設定をするには、**グローバル INI の設定** ページを使用します。

表 45. グローバル INI の設定

オプション	説明
グローバル INI	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。global.ini ファイルには、すべてのデバイス向けのグローバルパラメータが含まれています。パラメータは既存のwnos.ini または、ファイルリポジトリにアップロードされている、新しく作成された INI ファイルです。

一元設定

ThinOS シンクライアントが設定とイメージのアップデートをチェックするファイルサーバを指定するには、[一元設定] ページを使用します。

表 46. 一元設定

オプション	説明
ファイルサーバノバス	wnos ファイルを含むフォルダのフルパスを入力します。サポートされるプロトコルには、ftp、http、https があります。デフォルトのプロトコルは、ftp です。
ユーザー	ファイルサーバへアクセスするためのユーザー名を入力します。
パスワード	ファイルサーバへアクセスするためのパスワードを入力します。

詳細設定

ThinOS シンクライアント固有の INI パラメータ設定を追加で設定するか、ローカルの INI チェックを無効化するには、[詳細設定] ページを使用します。デルでは、その他のオプションですでに設定されているポリシーに INI パラメータを指定しないことをお勧めしています。パスワードのエンコーディングと暗号化はパスワードのパラメータに適用されません。

表 47. 詳細設定

オプション	説明
グローバル INI なし	<p>選択した場合、ファイルサーバからグローバル INI パラメータはダウンロードされません。</p> <p>Thin Client のライン 1 からライン 20 に INI パラメータを入力します。</p>

リモート接続の設定

[リモート接続] ページは、ブローカおよび直接接続のためのアドレスおよび資格情報などの ThinOS シンクライアントのリモート接続を設定するのに使用します。

表 48. 接続ブローカの設定 (続き)


オプション	説明
ブローカの選択	<p>公開済みのデスクトップでブローカ接続を確立するオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし Citrix Microsoft vWorkspace VMware <p> メモ: ThinOS Lite / Xenith デバイスは、Citrix ブローカ接続をサポートします。</p>
直接 RDP 接続を手動で定義	RDP 接続を手動で定義するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[ダイレクト接続 (RDP)] ボックスが表示されます。
ブローカサーバ	ブローカサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
Citrix StoreFront	デバイス上の公開アプリケーションおよびデスクトップの Citrix StoreFront ベースのレイアウトを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
デスクトップ上に表示	ドロップダウンリストから、デスクトップ上に表示するオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
セッションへ自動接続	セッションに自動的に接続するにはこのオプションを選択します。このオプションは、Citrix、VMware、および vWorkspace のみに適用可能です。
推奨設定を使用します。	推奨設定を選択するには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
直接 RDP 接続を手動で定義	RDP 接続を手動で定義するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合は、[ダイレクト接続] ボックスが表示されます。
TS ゲートウェイの設定	TS ゲートウェイを設定するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合は、[TS ゲートウェイ設定]

表 48. 接続ブローカの設定

オプション	説明
	の表が表示されます。このオプションは Microsoft にのみ適用可能です。
セキュリティモード	セキュリティモードを設定するにはこのオプションを選択します。このオプションは VMware にのみ適用可能です。
プロトコル	プロトコルを選択するには、このオプションを選択します。このオプションは VMware にのみ適用可能です。

表 49. 直接接続 (RDP) の設定

オプション	説明
接続名	接続の名前を入力します。
ホスト名 / IP アドレス	接続名または接続の IP アドレスを入力します。
自動開始	接続を自動的に再起動するにはこのオプションを選択します。
切断後に再接続する	接続が切断された後に自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
ユーザー名	リモートログインのユーザー名を入力します。
パスワード	リモートログインのパスワードを入力します。
ドメイン名	リモートログインのドメイン名を入力します。
色深度	色深度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、リモートログインの色深度数を選択します。
セッションウィンドウの動作	セッションウィンドウの動作を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、リモート接続を、ウィンドウモードまたは全画面モードで開始するかを選択します。 メモ: [ZERO ラUNCHパッド] モードは、全画面セッションのみをサポートし、ウィンドウモードは、単一画面で起動されます。全画面は両方のモニター間にスパンされます。
オーディオの再生	このオプションは、リモートセッションでのオーディオ設定を管理するのに役立ちます。ドロップダウンメニューから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルで再生 リモートコンピュータで再生 再生しない

表 50. セッション動作のデフォルト (続き)

オプション	説明
フォントスムージング	フォントスムージングを有効にするには、このオプションを選択します。フォントスムージングは、低解像度の画面で鮮明なフォントを入手する方法です。
高度な RDP プロトコル機能	RDP プロトコルの機能を設定するには、このオプションを選択します。
接続のデフォルトの色深度	接続に使用する色深度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、リモートログインの色深度を選択します。
セッションウィンドウの動作	セッションウィンドウの動作を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、リモート接続を、ウィンドウモードまたは全画面モードで開始するかを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。

表 50. セッション動作のデフォルト

オプション	説明
	<p>メモ: [ZERO ラウンチパッド] モードは、全画面セッションのみをサポートし、ウィンドウモードでは、単一画面で起動されます。全画面は2台のモニター間にスパンされます。</p>
USB リダイレクトテクノロジー	<p>USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。USB リダイレクトテクノロジーのオプションを選択すると、リモートデスクトップやアプリケーション内から Thin Client に接続された USB デバイスへのアクセスが可能になります。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。</p>
音質	<p>音質を設定するにはこのオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。</p>
USB ディスクのマッピング先	<p>ドロップダウンリストから、ディスク領域を選択して、USB に割り当てます。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。</p>
シームレスモードを有効にする	<p>シームレスモードを設定するには、このオプションを選択します。シームレスなインターフェイスは、2つのコンピュータプログラムが連携し、単一ユーザーインターフェイスの1つのプログラムとして表示されます。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。</p>
シームレスモードでタスクバーを非表示にする	<p>シームレスモードでタスクバーを非表示にするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。</p>

表 51. HDX プロトコル設定

オプション	説明
高レイテンシからの KB の改善	<p>ドロップダウンリストから、高レイテンシからの KB の改善をする希望の優先オプションを選択します。</p>
高いレイテンシからのマウスの改善	<p>ドロップダウンリストから、高レイテンシからのマウスを改善する希望のオプションを選択します。</p>
自動接続	<p>ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択および有効化し、リモートで自動的に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マルチメディアリダイレクト ● セッションの信頼性を有効にする ● プログレッシブ表示を有効にする ● ICA Ping を有効にする ● オフスクリーンのサポート

表 52. 周辺機器の動作の設定

オプション	説明
選択したローカルに自動接続	<p>次の機器に自動的に接続するには、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プリンター ● シリアル ● スマートカード ● サウンド
USB ストレージディスクを有効にする	<p>USB ストレージディスクを有効にするには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いいえ ● はい (読み取り / 書き込み) ● はい (読み取り専用)

表 52. 周辺機器の動作の設定

オプション	説明
USB リダイレクトを有効にする	<p>USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • いいえ • はい、すべての USB デバイスをリダイレクト • はい、ただし一部のデバイスを除く <p>メモ: ディスク、プリンタ、オーディオ、ビデオデバイスを除外するオプションもあります。</p>
マウスキュータイマー	ICA または RDP セッションでマウスキュータイマーを設定するには、このオプションを選択します。マウスキュータイマーの範囲は 0 ~ 99 です。

表 53. その他の設定

オプション	説明
最大ビットマップキャッシュ	RDP セッションの最大ビットマップキャッシュを設定するには、128 ~ 1024 の数値を入力します。
4 ピクセル整合されたセッション幅	4 ピクセル整合されたセッション幅を有効にするには、このオプションを選択します。
ログオン時にセッションを自動的に再接続しますか?	ログイン時、Thin Client でセッションに自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
ボタンメニューから自動的に再接続しますか?	ボタンメニューから、Thin Client でセッションに自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
アカウントセルフサービスサーバ	サーバの詳細を入力します。
アクセスゲートウェイ認証方法	ドロップダウンリストから、ゲートウェイ認証へのアクセス方法を選択します。
参照に HTTP を使用	参照に HTTP を使用できるようにするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
ファイアウォールを介した代替アドレス	ファイアウォールを介した代替アドレスを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
システムメニュー	システムメニューを設定するには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
VM のリセットを無効にする	VM リセットを無効にするには、このオプションを選択します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。
最初の接続に 32 ビットアイコンを表示する	最初の接続に 32 ビットアイコンを入力します。このオプションは Citrix にのみ適用可能です。

グローバルセッションの設定 - ThinOS 8.5 以降のバージョン

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで VDI グローバル設定をするには、**グローバルセッションの設定** ページを使用します。

表 54. ローカルリソース設定

オプション	説明
[プリンタのマップ]	セッション開始時に、ローカルのプリンタに自動で接続するにはこのオプションを選択します。

表 54. ローカルリソース設定



オプション	説明
[シリアルのマッピング]	セッション開始時に、ローカルのシリアルに自動で接続するにはこのオプションを選択します。
[スマートカードのマッピング]	リモートセッションにスマートカードを再接続するにはこのオプションを選択します。
[サウンドのマッピング]	セッション開始時に、ローカルシステムサウンドを有効にするには、このオプションを選択します。
[ディスクのマッピング]	ディスクのマッピングを有効にするには、このオプションを選択します。セッションの開始時に、ICA および RDP 接続の USB ドライブに自動で接続できます。
[ディスクは読み取り専用]	読み取り専用ディスクを有効にする場合に選択します。
[USB リダイレクトを有効にする]	USB ドライブをリモートセッションにリダイレクトするには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。 一部のデバイスを除外する オプションを選択すると、セッションから次のデバイスを除外できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ディスクデバイスを除外する ● オーディオデバイスを除外する ● プリンタデバイスを除外する ● ビデオデバイスを除外する
[デスクトップで表示 (8.6 以降)]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
[ホワイトリストの有効化またはブラックリストの無効化]	このオプションは、ホワイトリストの有効化またはブラックリストの無効化に使用します。デフォルトでは、[ホワイトリストもブラックリストも有効にしない] が選択されています。  メモ: このオプションを有効にすると、デバイスが再起動します。 [ホワイトリストを有効化] または [ブラックリストを有効化] を選択すると、次のオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● クラス ● USB クラス ● ベンダー ID


表 55. 詳細設定

オプション	説明
[切断後に再接続する]	接続が切断された後に自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
[マルチモニター]	マルチモニターサポートを有効にするには、このオプションを選択します。セッションのデスクトップの高さおよび幅は、ローカルの仮想デスクトップサイズに似ています。
[圧縮をオフにする]	ファイルのサイズを圧縮して、ファイルのダウンロードに必要な時間を短縮するには、このオプションを選択します。
[低リンク速度のための最適化]	チェックボックスを選択して低リンク速度のセッションの設定を最適化します。
[全画面モード]	全画面モードで接続ウィンドウを設定するには、このオプションを選択します。
[高速切断キー]	高速切断キーを使用するには、このオプションを選択します。  メモ: セッションから切断するには、F12 キーを押します。

USB リダイレクトの設定

ユニバーサルシリアルバス (USB) リダイレクトは、エンドポイントで USB ポートに外付けデバイスを接続して、リモートデスクトップまたはアプリケーション内から、デバイスへのアクセスを可能にするテクノロジーです。USB を設定して、特定のデバイスに自動的にリダイレクトするよう設定できます。**USB リダイレクト設定** ページを使用して、USB 接続したデバイスを、ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイス用のリモートセッションにリダイレクトするように強制します。

表 56. USB リダイレクト設定

オプション	説明
[リダイレクトを強制する]	リダイレクトを強制するデバイス ID を入力します。
[ローカルを強制する]	ローカルを強制するデバイス ID を入力します。
[リダイレクトタイプ]	ドロップダウンリストから、リダイレクトタイプを選択します。  メモ: PCoIP または Blast 接続タイプが選択されている場合は、いずれの値も選択しないでください。
[インタフェースリダイレクト]	インタフェースリダイレクトオプションを有効にするには、このオプションを選択します。

サードパーティー認証の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスでシングルサインオン (SSO) 認証を設定するには、[サードパーティー認証] ページを使用します。

表 57. 認証の設定

オプション	説明
認証モード	認証モードを指定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Imprivata • Caradialm • SecureMatrix • HealthCast

表 58. RF-ID の設定

オプション	説明
[Rf-Id ビープ音の無効化]	RFID ビープ音を無効にするには、このオプションを選択します。Radio-Frequency Identification - RFID とは、オブジェクトに添付されたタグ上に保存されている情報を読み取り、取得するために電波を使用することです。タグは最大数メートル離れていても読み取ることができ、リーダーから直接の見通し線内にある必要はありません。RFID 認証を使用すると、システムにすばやくアクセスして短いタスクを実行でき、RFID (Radio Frequency Identification) による迅速なユーザー識別が利用できます。
[キーストロークの無効化]	キーストローク機能を無効にするには、このオプションを選択します。キーストロークとは、キーボードのキーを 1 回押すことです。キーを 1 回押すことが、1 キーストロークです。キーボードは、信号送信用の入力ポートとして使用されます。
[カードタイプの設定]	カードタイプを設定するには、このオプションを選択します。 RFID カードは集積回路とアンテナを搭載していて、RFID リーダー (別名インテロゲータ) へのデータ送信に使用されます。
[初期化の無効化]	このオプションを選択して、RFID を無効にします。
[LED の無効化]	このオプションを選択して、LED を無効にします。

表 59. Imprivata の設定

オプション	説明
[Imprivata OneSign サーバ]	ホスト名または IP アドレスと、オプションの Imprivata OneSign サーバの TCP ポート番号または URL を入力します。
[キオスクモード]	このオプションを選択して、キオスクモードを有効にします。有効になっている場合、異なる OneSign ユーザーは、クライアントデスクトップのロックを解除することができます。
[Windows 認証を有効にする]	Windows 認証を有効にするには、このオプションを選択します。有効になっている場合は、OneSign の署名は失敗します。Windows 資格情報を使用して、事前定義されたブローカーにサインインします。
[自動アクセス]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[Net BIOS ドメイン名]	Net BIOS ドメイン名オプションを有効にするには、このオプションを選択します。有効になっている場合、Net BIOS ドメイン名は、Imprivata のドメインリストにリストされます。
[アクションの一時停止]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。0 を選択した場合はターミナルをロックし、1 を選択した場合はターミナルをサインオフします。
[ホットキーの無効化]	ホットキー機能を無効にするには、このオプションを選択します。
[登録するためのプロンプトを無効にする]	登録するためのプロンプトを無効にするには、このオプションを選択します。無効にした場合、OneSign サインインの後、ThinOS システムからセキュリティ用の回答を登録するよう求められません。
[セキュリティモード]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。セキュリティモードは SSL 証明書の認証ポリシーを指定します。

表 60. Caradigm の設定

オプション	説明
[SSO CM サーバ]	シングルサインオン (SSO) およびコンテキスト管理 (CM) サーバの名前を入力します。ウェブまたはデスクトップアプリケーションでシングルサインオン認証を使用できます。サーバはユーザー情報を認証します。
[デフォルトグループ名]	デフォルトグループ名を入力します。
[ログオフの有効化]	ログオフの有効化には、このオプションを選択します。
[Cardigm セキュリティモード]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは、医療プロバイダがすばやく安全に臨床アプリケーションにログインするのに役立ちます。
[Cardigm ログレベル]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。[Cardigm ログレベル] では、メッセージを生成するソフトウェア、メッセージを保存するシステム、およびメッセージをレポートし、分析するソフトウェアを分離できます。各メッセージはファシリティコードでラベル付けされ、メッセージを生成するソフトウェアのタイプを示し、重大度が割り当てられます。
[手動ログオンの無効化]	手動ログオン機能を無効にするには、このオプションを選択します。

表 61. SecureMatrix の設定

表 61. SecureMatrix の設定

オプション	説明
[Secure Matrix サーバ]	Secure Matrix サーバの詳細を入力します。admin アクセスの管理、パスワードポリシーの強制適用、およびセキュリティのエクストラレイヤに対する多層認証の追加ができます。

表 62. HealthCast の設定

オプション	説明
[HealthCast サーバ]	HealthCast サーバの名前を入力します。ウェブまたはデスクトップアプリケーションでシングルサインオン認証を使用できます。サーバはユーザー情報を認証します。
[HealthCast セキュリティモード]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。HealthCast ソリューションは、仮想デスクトップ、および臨床デスクトップ、便利なユーザーの簡易切り替え、自動ワークフロー、固有のアクセス許可バッジ機能、オプションの PIN、2 番目の要素認証によるリモートアクセスソリューション、および任意のコンピュータで作業即時再アクセスが可能なローミングセッションにセキュアアクセスと比類のない速度を提供します。
[HealthCast ログレベル]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。[HealthCast ログレベル] では、メッセージを生成するソフトウェア、メッセージを保存するシステム、およびメッセージをレポートし、分析するソフトウェアを分離できます。各メッセージはファシリティコードでラベル付けされ、メッセージを生成するソフトウェアのタイプを示し、重大度が割り当てられます。
[クライアント証明書]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。証明書はファイルリポジトリにアップロードされます。

Citrix ブローカ接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで Citrix ブローカ接続を設定するには、[Citrix ブローカ] 接続設定ページを使用します。

表 63. 基本設定

オプション	説明
ブローカサーバ	ブローカサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
Citrix カスタムストア名	お使いの Citrix StoreFront 接続用のカスタムストアの名前を入力します。
アカウントセルフサービスサーバ	サーバの詳細を入力します。
Citrix StoreFront スタイル	デバイス上の公開アプリケーションおよびデスクトップの Citrix StoreFront ベースのレイアウトを有効にするには、このオプションを選択します。
パスワード有効期限切れ通知	パスワード有効期限通知を有効にするには、このオプションを選択します。パスワードが期限切れになると、パスワードを変更するまでの残りの日数が警告メッセージに表示されます。
デスクトップ上に表示	ドロップダウンリストから、デスクトップ上に表示するオプションを選択します。
推奨設定を使用します。	推奨設定を行うには、このオプションを選択します。詳細情報については、[情報 (i)] アイコン上にマウスを合わせると表示されます。
ボタンから自動的に再接続します	ボタンメニューから、Thin Client でセッションに自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。

表 63. 基本設定

オプション	説明
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するにはこのオプションを選択します。
RequestIconDataCount	アイコンの数を入力します。アイコンは、32ビットカラーのアイコンです。
ログオン時に再接続する	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。アクティブおよび切断された両方のセッションに再接続できます。

表 64. NetScaler Gateway 認証

オプション	説明
NetScaler Gateway 認証	NetScaler Gateway 認証機能を有効にするには、このオプションを選択します。
ユーザー名	認証用のユーザー名を入力します。
パスワード	認証用のパスワードを入力します。
ドメイン	認証用のドメイン名を入力します。

表 65. マルチログイン設定

オプション	説明
マルチファーム	異なるサーバファームに属するサーバをサポートするには、このオプションを選択します。
マルチドメイン	マルチドメイン機能を有効にするには、このオプションを選択します。
マルチログオン	マルチログイン機能を有効にするには、このオプションを選択します。
シーケンシャルドメイン	DomainList オプションにリストされる順番でドメインを選択するには、このオプションを選択します。

Citrix HDX 接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで Citrix 接続用の VDI グローバル設定を定義するには、[Citrix HDX 設定] ページを使用します。

表 66. 基本設定 (続き)


オプション	説明
音質	音質を設定するにはこのオプションを選択します。
シームレスモードを有効にする	シームレスモードを設定するには、このオプションを選択します。
マルチメディアリダイレクト	マルチメディアをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
USB ディスクのマッピング先	ドロップダウンリストから、ディスク領域を選択して、USB に割り当てます。
セッションウィンドウの動作	リモート接続をフルスクリーンモードで開始するかどうかを定義するには、このオプションを選択します。[全画面] または [ウィンドウモード] を選択します。  メモ: ZERO ラウンチパッド モードは全画面セッションのみをサポートします。ウィンドウモードは単一の画面上で開

表 66. 基本設定

オプション	説明
	始され、全画面セッションは両方のモニターにスパンして開始されます。
セッションの信頼性	ICA セッションの信頼性を有効にするには、このオプションを選択します。
ファイアウォールを介した代替アドレス	ファイアウォールを介した代替アドレスを有効にするには、このオプションを選択します。
ブラウジングプロトコルタイプ	プロトコルタイプを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
USB リダイレクトテクノロジー	USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。USB リダイレクトは、リモートデスクトップやアプリケーション内から Thin Client に接続された USB デバイスへのアクセスを可能にするテクノロジーです。



表 67. マルチメディア設定

オプション	説明
[HDXFlashUseFlashRemoting]	HDX Flash リダイレクションを使用するか使用しないかを指定するには、このオプションを選択します。
[HDXFlashEnableServerSideContentFetching]	サーバ側のコンテンツフェッチを使用するかどうかを指定するには、このオプションを選択します。
[EnableRTME]	RTME サービスを開始するには、このオプションを選択します。
[FlipByTimer]	画面を更新する方法を選択するには、このオプションを選択します。

VMware ブローカ接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで VMware ブローカ接続を設定するには、[VMware ブローカ] 接続設定ページを使用します。

表 68. 基本設定

オプション	説明
ブローカサーバ	ブローカサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。  メモ: HTTP:// または HTTPS:// を指定する必要があります。
セキュリティモード	セキュリティモードを設定するにはこのオプションを選択します。
プロトコル	ディスプレイプロトコルを指定するには、このオプションを選択します。サーバのデフォルトプロトコルは、All、RDP、PCoIP、または Blast です。
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するにはこのオプションを選択します。  メモ: デスクトップまたはアプリケーションの名前は、大文字と小文字が区別されます。セミコロンを使用して、自動的に初期化する必要がある複数のセッションを区切ります。

VMware の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで PCoIP 接続用の VDI グローバル設定を行うには、[VMware 設定] ページを使用します。

表 69. 基本設定

オプション	説明
USB リダイレクトテクノロジー	USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。USB リダイレクトは、リモートデスクトップやアプリケーション内から Thin Client に接続された USB デバイスへのアクセスを可能にするテクノロジーです。VMware PCoIP または WYSE Thin Client 拡張機能 (TCX) USB リダイレクトのいずれかを選択できます。 メモ: TCX USB リダイレクトオプションを選択する場合は、追加の TCX サーバ Suite が必要です。
切断メッセージの表示	切断メッセージを表示するには、このオプションを選択します。USB デバイスがシステムから取り外されると、切断メッセージが表示されます。
切断メッセージ時間の表示	切断メッセージ時間を入力します。
再開タイムアウト	再開タイムアウトを入力します。

Microsoft ブローカ接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで Microsoft ブローカ接続を設定するには、[Microsoft ブローカ] 接続設定ページを使用します。

表 70. 基本設定

オプション	説明
ブローカサーバ	ブローカサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。 メモ: HTTP:// または HTTPS:// 間を指定する必要があります。
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するにはこのオプションを選択します。 メモ: デスクトップまたはアプリケーションの名前は、大文字と小文字が区別されます。セミコロンを使用して、自動的に初期化する必要のあるセッションを区切ります。

Microsoft RDP 接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイス用に Microsoft RDP 接続を設定するには、[Microsoft RDP 接続] ページを使用します。

表 71. 基本設定

オプション	説明
NLA を有効にする	ネットワークレベル認証を有効にするには、このオプションを選択します。サーバとの接続を確立するには、ユーザー認証が必要です。
記録を有効にする	記録を有効にするにはこのオプションを選択します。

表 72. RDP8 設定

表 72. RDP8 設定

オプション	説明
ビットマップコーデック RemoteFX	RemoteFX ビットマップコーデックオプションを有効にするには、このオプションを選択します。デフォルト値は yes です。デルは、Wyse 3010 Thin Client と Wyse 3020 Thin Client には No を選択することを推奨します。
TS MM の有効化	ターミナルサーバのマルチメディアのリダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。
強制スパン	表示の強制スパンを有効にするには、このオプションを選択します。スパンオプションを有効にする場合、リモートデスクトップは、ローカルモニターと同じ面積の長方形になります。
RemoteFX グラフィックチャネル	RemoteFX グラフィックチャネルを有効にするには、このオプションを選択します。
UDP トラフィックチャネル	このオプションを選択して、RDP 8 UDP トラフィックチャネルを有効にします。デフォルト値は yes です。
ビデオ最適化 VOR	RDP 8 ビデオ最適化リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。デフォルト値は yes です。

表 73. 詳細設定

オプション	説明
USB リダイレクトテクノロジー	USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。USB リダイレクトは、リモートデスクトップやアプリケーション内から Thin Client に接続された USB デバイスへのアクセスを可能にするテクノロジーです。VMware PCoIP または WYSE Thin Client 拡張機能 (TCX) USB リダイレクトのいずれかを選択できます。 ① メモ: TCX USB リダイレクトオプションを選択する場合は、追加の TCX サーバ Suite が必要です。
色深度	RDP プロトコルの機能を設定するには、このオプションを選択します。
最大ビットマップキャッシュ	RDP セッションの最大ビットマップキャッシュを設定するには、128 ~ 1024 の数値を入力します。
4 ピクセル整合されたセッション幅	4 ピクセル整合されたセッション幅を有効にするには、このオプションを選択します。
ネットワークの自動検出	ターミナルサーバゲートウェイを自動的に検出するには、このオプションを選択します。
RDP H.264 の有効化	RDP 接続の H.264 エンコード処理を有効にするには、このオプションを選択します。

vWorkspce ブローカ接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで vWorkspce ブローカ接続を設定するには、[vWorkspce ブローカ] 接続の設定ページを使用します。

表 74. 基本設定

オプション	説明
ブローカサーバ	ブローカサーバホスト名または IP アドレスを入力します。 ① メモ: HTTP:// または HTTPS:// を指定する必要があります。
vWorkspace ゲートウェイを有効にする	vWorkspace ゲートウェイ機能を有効にするには、このオプションを選択します。

表 74. 基本設定

オプション	説明
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するには、このオプションを選択します。 メモ: デスクトップまたはアプリケーションの名前では、大文字と小文字が区別されます。セミコロンを使用して、自動的に初期化する必要がある複数のセッションを区切ります。

AWS ブローカ接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで AWS ブローカ接続を設定するには、[AWS ブローカ] 接続設定ページを使用します。

表 75. 基本設定

オプション	説明
ブローカサーバ	ブローカサーバホスト名または IP アドレスを入力します。 メモ: HTTP:// または HTTPS:// を指定する必要があります。
セキュリティモード	サーバへのセキュア接続を確認できない場合にクライアント接続を指定するには、このオプションを選択します。
自動的に接続するセッション	セッションに自動的に接続するには、このオプションを選択します。 メモ: デスクトップまたはアプリケーションの名前では、大文字と小文字が区別されます。セミコロンを使用して、自動的に初期化する必要がある複数のセッションを区切ります。

ダイレクト RDP 接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスからアクセスできる RDP 接続を設定するには、[ダイレクト RDP 接続] の設定ページを使用します。

表 76. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続名を入力します (最大 38 文字)。
ユーザー名	アプリケーションログインのユーザー名を入力します。
ホスト名 / IP アドレス	接続名または接続の IP アドレスを入力します。
開始コマンド	サーバへのログイン後に実行する必要があるコマンドの文字列を入力します。
パスワード	アプリケーションのログインパスワードを入力します。 メモ: パスワードは暗号化されません。デフォルトでは、パスワードを指定しないことを推奨します。接続の作成時に、パスワードの入力が求められます。
ドメイン名	Windows ネットワークのドメイン名を入力します (最大 19 文字)。
自動開始	接続を自動的に再起動するにはこのオプションを選択します。
[切断後に再接続する]	接続が切断された後に自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。

表 77. ローカルリソースの設定

オプション	説明
[プリンタのマップ]	セッション開始時に、ローカルのプリンタに自動で接続するにはこのオプションを選択します。
[シリアルのマップ]	セッション開始時に、ローカルのシリアルに自動で接続するにはこのオプションを選択します。
[スマートカードのマップ]	リモートセッションにスマートカードを再接続するにはこのオプションを選択します。
[USB ドライブのマップ]	セッション開始時に、USB ドライブを自動でマップするにはこのオプションを選択します。
[ローカルディスクドライブのマップ]	セッション開始時に、ローカルディスクドライブを自動でマップするにはこのオプションを選択します。

表 78. セッションの設定

オプション	説明
オーディオの再生	このオプションは、リモートセッションでのオーディオの再生方法を定義するのに役立ちます。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 再生しない ● ローカルで再生 ● リモートで再生
RDP オーディオ録音	オーディオをリモートで録音するには、このオプションを選択します。
接続のデフォルトの色深度	接続の画面の色深度を定義するには、このオプションを選択します。

表 79. 詳細設定

オプション	説明
[接続の表示]	リモートデスクトップ上の画面解像度を設定するにはこのオプションを選択します。
[圧縮をオフにする]	ファイルを圧縮し、ファイルのダウンロードに必要な時間を削減するには、このオプションを選択します。
[ネットワークの自動検出]	ターミナルサーバゲートウェイを自動的に検出するには、このオプションを選択します。
[マウスキュータイマー]	ICAセッションやRDPセッションでのマウスのキューのタイマーを設定するには、0 ~ 99 の番号を入力します。
[セッションウィンドウの動作]	リモート接続をフルスクリーンモードで開始するかどうかを定義するには、このオプションを選択します。好みに応じて 全画面 または ウィンドウモード を選択します。 ① メモ: ZERO ラUNCHパッドモードは全画面セッションのみをサポートします。ウィンドウモードは単一の画面上で開始され、全画面セッションは両方のモニターにスパンして開始されます。

表 80. ターミナルのゲートウェイの設定

オプション	説明
ターミナルサーバゲートウェイの使用	Windows ターミナルサーバのログインの詳細を指定するには、このオプションを使用します。有効になっている場合は、次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ● RD ホスト名または IP アドレス

表 80. ターミナルのゲートウェイの設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> RD ユーザー名 RD パスワード RD ドメイン名

ダイレクト ICA 接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスからアクセスできる ICA 接続を設定するには、[ダイレクト ICA 接続] の設定ページを使用します。

表 81. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続名を入力します (最大 38 文字)。
ユーザー名	アプリケーションログインのユーザー名を入力します。
パスワード	アプリケーションのログインパスワードを入力します。 メモ: パスワードは暗号化されません。デルでは、パスワードを指定しないことを推奨します。接続の作成時に、パスワードの入力が求められます。
ドメイン名	Windows ネットワークのドメイン名を入力します (最大 19 文字)。
自動開始	接続を自動的に再起動するにはこのオプションを選択します。
[切断後に再接続する]	接続が切断された後に自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。

表 82. 接続設定

オプション	説明
ホストまたはアプリケーション	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
ホスト名 / IP アドレス	接続名または接続の IP アドレスを入力します。
ブラウザ IP	IP アドレス、または DNS の登録名を入力します。
暗号化	暗号化レベルを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
解像度	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、モニターの適切な解像度を選択します。 メモ: サポートされていない解像度を選択した場合は、デバイスはこの設定を無視します。

表 83. ローカルリソースの設定

オプション	説明
[プリンタのマップ]	セッション開始時に、ローカルのプリンタに自動で接続するにはこのオプションを選択します。
[シリアルポートのマップ]	セッション開始時に、ローカルのシリアルに自動で接続するにはこのオプションを選択します。
[スマートカードのマップ]	リモートセッションにスマートカードを再接続するにはこのオプションを選択します。

表 84. ログオン設定

表 84. ログオン設定

オプション	説明
ログオンモード	ログインモードを選択するには、このオプションを選択します。
開始コマンドアプリケーション	開始コマンドアプリケーションを入力します。
開始コマンドの作業ディレクトリ	開始コマンドの作業ディレクトリを入力します。

表 85. セッションの設定

オプション	説明
[音質]	音質を設定するにはこのオプションを選択します。
[ファイアウォールを介した代替アドレス]	ファイアウォールを介した代替アドレスを有効にするには、このオプションを選択します。
[セッションの信頼性]	ICA セッションの信頼性を有効にするには、このオプションを選択します。
[低速リンクのための最適化]	チェックボックスを選択して低リンク速度のセッションの設定を最適化します。
[フォントスムージング]	フォントスムージングを有効にするには、このオプションを選択します。フォントスムージングは、低解像度の画面で鮮明なフォントを入手する方法です。
[セッションウィンドウの動作]	リモート接続をフルスクリーンモードで開始するかどうかを定義するには、このオプションを選択します。好みに応じて 全画面 または ウィンドウモード を選択します。 i メモ: ZERO ラウンチパッド モードは全画面セッションのみをサポートします。ウィンドウモードは単一の画面上で開始され、全画面セッションは両方のモニターにスパンして開始されます。

グローバルプリンタの設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスのグローバルプリンタの設定には、[グローバル設定] ページを使用します。

表 86. デフォルトのプリンタ設定

オプション	説明
デフォルトプリンタ	デフォルトのプリンタとしてプリンタを設定するには、このオプションを選択します。
PrinterMap 設定	[アプリとデータ] > [ファイルリポジトリ] > [インベントリ] にアップロードしたファイルが表示されます。ドロップダウンメニューから、マッピングファイルを選択します。

プリンタの設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイス用に新しいプリンタを設定するには、[プリンタ] の設定ページを使用します。

表 87. プリンタ選択の設定

オプション	説明
[プリンタタイプ]	ドロップダウンメニューから、プリンタタイプを選択します。プリンタタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルプリンタ LPD プリンタ SMB プリンタ

表 87. プリンタ選択の設定

オプション	説明
[ローカルプリンタ]	ドロップダウンメニューから、ローカルプリンタ接続を選択します。

表 88. プリンタの設定

オプション	説明
[名前]	共有プリンタの名前を入力します。
[LocalName]	このオプションは LPD プリンタにのみ適用可能です。プリンタの名前を入力します。
[ホスト]	このオプションはローカル LPD プリンタにのみ適用可能です。LPD サービスホストの IP アドレスを入力します。
[待ち行列]	このオプションは LPD プリンタにのみ適用可能です。プリンタのキュー名を入力します。
[ユーザー名]	このオプションは SMB プリンタにのみ適用可能です。ユーザー名を入力します。
[パスワード]	このオプションは SMB プリンタにのみ適用可能です。パスワードを入力します。
[ドメイン]	このオプションは SMB プリンタにのみ適用可能です。ドメイン名を入力します。
[プリンタ ID]	プリンタ ID を入力します。プリンタ ID は、Windows プリンタドライバを指定します。デフォルトのプリンタ ID は 汎用 / テキストのみ です。この値では大文字と小文字が区別されます。
[クラス]	表示されたフィールドにクラスを入力します。次のオプションは、事前定義のクラスです。 <ul style="list-style-type: none"> ● PCL4 ● PCL5 ● PS ● TXT
[有効]	チェックボックスを選択してプリンタを有効にします。
[EnableLPD]	このオプションはローカルプリンタと SMB プリンタにのみ適用可能です。チェックボックスを選択して LPD サービスを有効にします。

WLAN グローバル設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイスで WLAN グローバル設定をするには、[WLAN グローバル設定] ページを使用します。

表 89. WLAN グローバル設定 (続き)

オプション	説明
[ローミング感度]	このオプションを使用して、無線ローミングの感度レベルを選択します。
[帯域の無効化]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。 帯域の無効化 設定は、2.4 G または 5 G 802.11 帯域を無効にするのに使用します。デフォルト値は、 いずれの帯域も無効にしない です。
[優先帯域]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。

表 89. WLAN グローバル設定

オプション	説明
	優先帯域 設定を使用して、ワイヤレス接続の帯域外の優先度を設定し、接続に 2.4 G または 5 G のアクセスポイントを選択します。デフォルト値は、 いずれの帯域も優先しない です。
[DisableN]	チェックボックスを選択して 802.11n モードを無効にします。
[WLAN の無効化]	このオプションを選択し、ワイヤレス機能を無効にします。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。 イーサネットが稼動中、ドロップダウンメニューから EnetUp オプションを選択すると、ワイヤレスが無効になります。

WLAN 接続の設定

ThinOS 8.5 以降のバージョンのデバイス用にシンクライアント WLAN 接続を設定するには、[WLAN 接続] ページを使用します。

表 90. 認証設定

オプション	説明
セキュリティタイプ	認証方法を指定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オープン • オープン (WEP) • 共有キー • WPA-パーソナル • WPA-エンタープライズ • WPA2-パーソナル • WPA2-エンタープライズ
暗号化	このオプションは、オープン (WEP)、共有キー、WPA-パーソナル、WPA-エンタープライズのみ適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
ウェブキー 1、2、3、4	このオプションは、Open (WEP) および共有キーのみに適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
WPA キー	このオプションは、WPA-パーソナルと、WPA2-パーソナルのみに適用されます。表示されたフィールドに WPA キーを入力します。
ネットワークタイプ	このオプションは、WPA-パーソナル、WPA-エンタープライズ、WPA2-パーソナル、WPA2-エンタープライズのみ該当します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。

表 91. 基本設定

オプション	説明
SSID	サービスセット識別子 (SSID) 接続の名前を入力します。
モデル DCTA	ドロップダウンメニューから、要件に基づいたモードのタイプを選択します。

表 92. WPA-エンタープライズと WPA2-エンタープライズ用 IEEE 802.1X の設定

表 92. WPA-エンタープライズと WPA2-エンタープライズ用 IEEE 802.1X の設定

オプション	説明
[EAP タイプ]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[FAST タイプ]	このオプションは、EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[LEAP ユーザー名]	このオプションは、EAP-LEAP のみに適用されます。表示されたフィールドに LEAP ユーザー名を入力します。
[LEAP パスワード]	このオプションは、EAP-LEAP のみに適用されます。表示されたフィールドに LEAP パスワードを入力します。
[サーバの検証]	このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。チェックボックスを選択してサーバ接続を検証します。
[サーバのチェック]	このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。チェックボックスを選択し、サーバの接続をチェックします。
[サーバ名]	このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。サーバ名を入力します。
[クライアント証明書ファイル名]	このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。クライアント証明書のファイル名を入力します。
[PrivateKey クライアント証明書パスワード]	このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。表示されるフィールドに、プライベートキークライアントの証明書のパスワードを入力します。
[TLS 認証タイプ]	このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[PEAP TLS バージョン]	このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[EAP-PEAP タイプ]	このオプションは、EAP-PEAP のみに適用されます。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
[EAP ID]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。EAP ID を入力します。
[ユーザー名]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。ユーザー名を入力します。
[パスワード]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。パスワードを入力します。
[ドメインを非表示にする]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。ドメインを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。
[ドメイン]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。ドメイン名を入力します。
[シングルサインオンを有効にする]	このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。チェックボックスを選択すると、シングルサインオン機能が有効になります。

LAN 接続の設定

ThinOS 8.6 以降のバージョンのデバイス用に LAN 接続を設定するには、[LAN 接続 (8.6 以降)] ページを使用します。

表 93. IEEE 802.1X 設定

表 93. IEEE 802.1X 設定

オプション	説明
[ネットワークタイプ]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。システムは自動的に再起動して、ネットワークタイプの変更が適用されます。
[Ethernet 速度]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。選択したオプションは不揮発性メモリに保存されます。システムは自動的に再起動して、Ethernet 速度の変更が適用されます。
[IEEE802.1x 認証の有効化]	IEEE802.1x 認証を有効にするには、このオプションを選択します。IEEE 802.1X は、ポートベースネットワークアクセス制御 (PNAC) の IEEE 規格の 1 つです。これはネットワークプロトコルに関する IEEE 802.1 グループの一部です。これは LAN または WLAN を用いるデバイスでの認証機構の 1 つを提供しています。
[EAP タイプ]	<p>ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [軽量拡張可能認証プロトコル (EAP-LEAP)] - これはワイヤレスネットワークおよびポイントツーポイント接続で使用される認証プロトコルの 1 つです。LEAP の設計では、802.1X ポートアクセス制御をサポートする 802.11 WLAN (ワイヤレスローカルエリアネットワーク) においてより安全な認証を提供するようにされています。 ● [トランスポート層セキュリティ (EAP-TLS)] - クライアントとサーバの認証を提供します。通常はワイヤレスネットワークで使用されるもので、ワイヤレスクライアントとサーバの両方における強力な認証形式の 1 つです。 ● [保護された拡張可能認証プロトコル (EAP-PEAP)] - 暗号化および認証されたトランスポート層セキュリティ (TLS) トンネル内において拡張可能認証プロトコル (EAP) を収集するプロトコルの 1 つです。クライアントとサーバの認証を提供します。 ● [セキュアトンネリングを介したフレキシブル認証 (EAP-FAST[8.3])] - ワイヤレスネットワークおよびポイントツーポイント接続でのセッション認証に使用されます。EAP-FAST[8.3] の目的は、軽量拡張可能認証プロトコル (LEAP) を置き換えることです。LEAP はワイヤレス認証プロトコルの 1 つですが、脆弱なパスワード使用時における既知のセキュリティの脆弱性が確認されています。EAP-FAST ではこうした脆弱性への対処を、Protected Access Credential (PAC) を用いて確立された TLS トンネルを介した認証を実行することによって行います。
[FAST タイプ]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは、EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[LEAP ユーザー名]	表示されたフィールドに LEAP ユーザー名を入力します。このオプションは、EAP-LEAP のみに適用されます。
[LEAP パスワード]	表示されたフィールドに LEAP パスワードを入力します。このオプションは、EAP-LEAP のみに適用されます。
[サーバの検証]	システムにサーバ接続を検証させる場合は、このチェックボックスを選択します。このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。
[サーバのチェック]	チェックボックスを選択し、サーバの接続をチェックします。このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。
[サーバ名]	サーバ名を入力します。このオプションは、EAP-TLS および EAP-PEAP のみに適用されます。

表 93. IEEE 802.1X 設定

オプション	説明
[クライアント証明書ファイル名]	クライアント証明書のファイル名を入力します。このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。
[PrivateKey クライアント証明書パスワード]	表示されるフィールドに、プライベートキークライアントの証明書のパスワードを入力します。このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。
[TLS 認証タイプ]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。
[PEAP TLS バージョン]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは、EAP-TLS のみに適用されます。
[EAP-PEAP タイプ]	ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。このオプションは、EAP-PEAP にのみ適用されます。
[EAP ID]	EAP ID を入力します。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[ユーザー名]	ユーザー名を入力します。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[パスワード]	パスワードを入力します。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[ドメインを非表示にする]	ドメインを非表示にするには、このチェックボックスを選択します。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[ドメイン]	ドメイン名を入力します。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。
[シングルサインオンを有効にする]	チェックボックスを選択すると、シングルサインオン機能が有効になります。このオプションは、EAP-PEAP および EAP-FAST[8.3] のみに適用されます。

SCEP の設定

ThinOS 8.6 以降のバージョンの SCEP 設定には、[SCEP 設定 (8.6 以降)] ページを使用します。

表 94. SCEP 8.6+ の設定

オプション	説明
[SCEP 自動登録]	環境中の SCEP サーバを使用した証明書の自動登録を有効にするには、このオプションを選択します。
[自動更新]	証明書の自動更新を有効にするには、このオプションを選択します。シンクライアントは、要求された証明書の SCEP を介した自動更新または手動更新を試みます。更新が実施されるのは、既存の証明書の有効期間の半分以上が経過している場合です。
[CA 証明書のインストール]	ルート CA 証明書を信頼できる証明書としてインストールするには、このオプションを選択します。
[国]	国名を入力します。国名には、大文字で 2 文字のみ入力できます。
[状態]	状態名を入力します。
[場所]	位置名を入力します。
[組織]	組織名を入力します。
[部門名]	部門名を入力します。

表 94. SCEP 8.6+ の設定

オプション	説明
[コモンネーム]	\$TN.dellwyse.com などのコモンネームを入力します。コモンネームの一部としてターミナル名を使用することができます。
[電子メール]	電子メールのアドレスを入力します。
[キー使用法]	優先させるキー使用法のオプションを選択します。
[キーの長さ]	クライアント証明書のキーの長さ (ビット単位) を、ドロップダウンリストから選択します。
[件名の代替名]	クライアント証明書の代替名を入力します。これは、電子メールアドレス、IP アドレス、URL、DNS などの名前前のリストで、区切り文字としてはセミコロン (;) を使用する必要があります。
[リクエスト URL]	SCEP サーバのサービス URL を入力します。
[CA 証明書ハッシュタイプ]	証明書の信頼性確認に使用するハッシュ値を、ドロップダウンリストから選択します。
[CA 証明書ハッシュ]	CA 証明書の確認に使用する MD5 ハッシュ値を入力します。
[登録パスワード]	登録パスワードを入力します。
[登録パスワードの暗号化]	登録パスワードの暗号化を有効化させるには、このチェックボックスを選択します。
[SCEP 管理者 URL]	SCEP 管理者 URL を入力します。
[SCEP ユーザー]	SCEP 管理者ユーザー名を入力します。
[SCEP ユーザーパスワード]	SCEP 管理者ユーザーパスワードを入力します。
[SCEP ユーザーパスワードの暗号化]	パスワードを設定するには、このオプションを選択します。SCEP 管理者ユーザーの暗号化されたパスワードには、 https://scep.dellwyse.com/CertSrv/mscep_admin から受信したものを <input type="text"/> に入力します。
[SCEP ユーザードメイン]	SCEP ユーザードメインを入力します。

プロキシの設定

ThinOS 8.6 以降のバージョンのデバイス用にプロキシを設定するには、[プロキシ (8.6 以降)] ページを使用します。

表 95. プロキシ 8.6+ の設定

オプション	説明
[プロキシ設定]	不揮発性メモリに保存されるプロキシ設定を有効にするには、このチェックボックスを選択します。
[アプリリスト]	このリストには、設定されたプロキシを使用するアプリケーションの情報が表示されます。
[グローバル、Http、Https、および Socks5 でのプロキシプロトコルの有効化]	ドロップダウンリストから、グローバル、Http、Https、および Socks5 を用いたプロキシプロトコルを選択します。[グローバル、Http、Https、および Socks5 でのプロキシプロトコルの有効化] ドロップダウンリストで [はい] を選択した場合は、[サーバ名]、[ユーザー名]、[パスワード] を <input type="text"/> に入力します。パスワードが暗号化されているかを確認するには、[暗号化] オプションを選択します。

Windows Embedded Standard ポリシーの編集

このタスクについて

Windows Embedded Standard (WES) ポリシー設定項目の編集は、次のように行います。

手順

1. [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。
2. [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
3. [WES] をクリックします。
[WES] ページが表示されます。Windows Embedded Standard Thin Client ポリシーの設定には次のオプションがあります。
 - システムの個人設定
 - デスクトップエクスペリエンス
 - ネットワーク
 - セキュリティとロックダウン
 - その他の設定
 - リモート接続 Citrix
 - リモート接続 VMware
 - リモート接続 RDP
 - リモート接続ブラウザ
 - Latitude モバイル Thin Client BIOS 設定
 - Wyse 7040 Thin Client BIOS 設定
 - デバイス情報
 - Wyse Easy Setup
 - VNC 設定
 - ドメイン設定
 - BIOS WES 5070 設定
4. ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

システムの個人設定

システムの個人設定ページでは、Windows Embedded Standard デバイス用のモニター、キーボード、マウス、タイムゾーン、オーディオのオプションなど、シンクライアント設定項目を設定します。

表 96. ディスプレイオプションの設定 (続き)

オプション	説明
デュアルモニターを有効にする	デュアルモニター機能を有効にするには、このオプションを選択します。選択すると、 表示モード オプションを使用できます。
ディスプレイモード	ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● 表示画面を複製する● 表示画面を拡張する 表示画面を拡張する を選択すると、次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">● モニターの解像度 (セカンダリ) - モニターの解像度を設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、お使いのモニタータイプに合った適切な解像度を選択します。● ディスプレイ ID (セカンダリ) - モニターの識別子を設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、適切なモニター識別番号を選択します。

表 96. ディスプレイオプションの設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● モニター回転 (セカンダリ) - モニターの向きのオプションを設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて、モニターの向きを示すいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 横 ○ 縦 ○ 横 - 反転 ○ 縦 - 反転 ● マルチモニターを有効にする - マルチモニター設定を有効にする場合を選択します。 ● マルチモニターのサポート - ドロップダウンリストから、モニター解像度、モニター回転、リフレッシュレート、色深度、スパンの位置、モニターID、削除を選択します。
モニターの解像度 (プライマリ)	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、お使いのモニタータイプに合った適切な解像度を選択します。
ディスプレイ ID (プライマリ)	お使いのモニター用のディスプレイ ID を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、適切なモニター識別番号を選択します。
モニターの回転 (プライマリ)	<p>モニターの向きのオプションを設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて、モニターの向きを示すいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 横 ● 縦 ● 横 - 反転 ● 縦 - 反転

表 97. キーボードオプションの設定

オプション	説明
言語	キーボードで1つまたは複数の入力言語を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボード入力言語を選択します。
キーボードレイアウト	適切なキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボードレイアウトを選択します。
点滅の速さ	カーソル (挿入ポイント) の点滅の速さを設定し、要件に応じてより見やすくするか、目立たなくさせるには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するカーソルの点滅速度を選択します。
キーボードプリファランス	キーボードホットキーを設定する場合に選択します。
キーボードのレポート入力までの遅延	<p>押した文字が繰り返し入力されるまでの経過時間を設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短 ● 中 - 短 ● 中 - 長 ● 長

表 97. キーボードオプションの設定

オプション	説明
キーボードのリピート入力速度	キーボードのリピート速度を設定する場合に選択します。リピート入力速度とは、キーを押してそのままにした場合にキー入力を繰り返す速度です。
メニューアクセス	キーボードのメニューアクセスキーを有効にするには、このオプションを選択します。

表 98. キーボードオプションの設定 (続き)

オプション	説明
言語	キーボードで1つまたは複数の入力言語を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボード入力言語を選択します。
デフォルトのキーボードレイアウト	適切なキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボードレイアウトを選択します。
点滅の速さ	カーソル (挿入ポイント) の点滅の速さを設定し、要件に応じてより見やすくするか、目立たなくさせるには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するカーソルの点滅速度を選択します。
キーボードプリファランス	キーボードホットキーを設定するには、このオプションを選択します。
キーボードのリピート入力までの遅延	押した文字が繰り返し入力されるまでの経過時間を設定する場合に選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 短 ● 中 - 短 ● 中 - 長 ● 長
キーボードのリピート入力速度	キーボードのリピート速度を設定する場合に選択します。リピート入力速度とは、キーを押してそのままにした場合にキー入力を繰り返す速度です。
メニューアクセス	キーボードのメニューアクセスキーを有効にするには、このオプションを選択します。
MS Gina キーボードレイアウト	Windows のログイン画面で [キーボードの選択] 画面を表示する場合に選択します。 MS Gina キーボードレイアウトの機能を使用すると、ログイン画面で、Windows デバイスで使用する言語とキーボードレイアウトを選択できます。たとえば、次のとおりです。 Windows 資格情報が英語以外で、Windows システムに接続されているキーボードが英語である場合、Windows のログイン画面で言語とキーボードレイアウトを変更または選択するオプションがないため、資格情報を入力することはできません。 使用する言語、代替言語とキーボードレイアウトは、[MS Gina キーボードレイアウト] と共に Wyse Management Suite サーバで設定できます。言語やキーボードの設定を適用すると、Windows のログイン画面に MS Gina キーボードレイアウトが表示されます。 Windows のログイン画面で、使用する言語とキーボードレイアウトを変更または選択できます。

表 98. キーボードオプションの設定

オプション	説明
	<p>i メモ: 自動ログイン設定が無効になっていると、Windows ログイン画面が表示されます。Wyse Management Suite サーバから [MS Gina キーボードレイアウト] 設定を適用するには、書き込みフィルタ オプションを無効にして有効にする必要があります。Windows システムが 2 回再起動します。</p>
代替キーボードレイアウト	<p>キーボードで 1 つまたは複数の入力言語を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、使用するキーボード入力言語を選択します。</p>
C-A-D マッピングを有効にする	<p>C-A-D マップの設定を有効にする場合に選択します。ローカルの Ctrl+Alt+Del キーの組み合わせは、リモートセッションをマッピングするために使用します。この設定は、次のプロローカ接続に適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix ● リモートデスクトッププロトコル (RDP) ● VMware

表 99. マウス、基本マウス、マウスポインタ、マウスの垂直方向オプションの設定

オプション	説明
マウスの速度	<p>マウスデバイスを動かしたときのマウスポインタの速度を指定するには、このオプションを選択します。</p>
左利き用マウス	<p>左クリックと右クリックのマウスボタンを入れ替えるには、このオプションを選択します。</p>
クリックロック	<p>マウスボタンを長押しせず、ドラッグまたはハイライト機能を使用する場合に選択します。</p> <p>[クリックロック時間] パラメータを設定するには、ドロップダウンメニューから、クリックがロックされるまでの、マウスボタンを押したままにする適切な時間を選択します。</p>
ダブルクリックの速度	<p>2 回続けて行うマウスクリックの 1 回目と 2 回目の時間間隔を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。</p>
マウスポインタを探す	<p>マウスポインタが動いていないときに見つける場合に選択します。</p> <p>i メモ: キーボードの Ctrl キーを押すと、動いていない状態でマウスポインタを見つけることができます。</p>
マウスポインタを隠す	<p>停止時にマウスポインタを非表示にするには、このオプションを選択します。</p> <p>i メモ: 停止時にマウスポインタを見つけるには、Ctrl キーを押します。</p>
ポインタの軌跡の長さ	<p>マウスポインタを動かしたときのポインタの軌跡の長さを定義するには、このオプションを選択します。</p>
マウスポインタをスナップ	<p>ダイアログボックスのデフォルトのボタンにポインタを自動的に移動するには、このオプションを選択します。</p>
スクロール行数	<p>マウスの縦スクロールを使用するとき一度にスクロールする行数を定義するには、このオプションを選択します。</p>

表 100. タイムゾーンオプションの設定

オプション	説明
タイムサーバ (NTP サーバ)	ローカル時刻の同期を有効にするタイムサーバを表示するには、このオプションを選択します。カンマで区切って NTP サーバを入力します。
タイムゾーン名	デバイスのタイムゾーンを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するタイムゾーンを選択します。

表 101. オーディオオプションの設定

オプション	説明
オーディオミュート	デバイスのオーディオをミュートするには、このオプションを選択します。
オーディオ音量	デバイスのオーディオ音量を調整するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する音量オプションを選択します。
マイクミュート	マイクをミュートするには、このオプションを選択します。
マイク音量	マイクの音量を調整するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する音量オプションを選択します。

デスクトップエクスペリエンスの設定

このページは、Windows Embedded Standard デバイス用のデスクトップの壁紙、デスクトップの壁紙色などの Thin Client 設定に使用します。

表 102. デスクトップエクスペリエンスの設定

オプション	説明
デスクトップの壁紙	<p>デスクトップの壁紙を設定するには、このオプションを選択します。</p> <p>デスクトップの壁紙オプションを有効にした後、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [壁紙ファイル] ドロップダウンリストから、デスクトップの壁紙を選択します。 <p>メモ: ファイルリポジトリにアップロードされたイメージのリストからのみ壁紙を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [壁紙のレイアウト] ドロップダウンリストから、デスクトップの壁紙に対する次のいずれかのレイアウトを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 中央揃え ○ タイル表示 ○ ストレッチ ○ 幅に合わせる
デスクトップの色	ローカルデスクトップの背景色を定義するには、このオプションを選択します。

ネットワークの設定

Windows Embedded Standard デバイスのネットワークを設定するには、このページを使用します。

表 103. ネットワークの設定

オプション	説明
ワイヤレス通信の状態	このオプションを選択して、ワイヤレスラジオの状態を有効にします。 i メモ: このオプションは、デバイスをオンまたはオフにするのと似ています。
Windows ワイヤレスプロファイル	Windows ワイヤレスプロファイルを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する Windows ワイヤレスプロファイルを選択します。 i メモ: プロファイルは、ファイルリポジトリにアップロード済みのワイヤレスプロファイルのリストからのみ選択します。

セキュリティおよびロックダウンの設定

このページを使用して、セキュリティとロックダウンを設定します。

表 104. セキュリティおよびロックダウンの設定

オプション	説明
インストール証明書	ファイルリポジトリにアップロードされた証明書を表示するには、このオプションを選択します。
USB ストレージデバイスアクセスを無効にする	管理者以外のユーザーに USB 大容量ストレージデバイスへのアクセスを無効にする場合に選択します。
Print Screen を無効にする	管理者以外のユーザーに Print Screen 機能を無効にする場合に選択します。
タスクマネージャーを無効にする	管理者以外のユーザーにタスクマネージャーへのアクセスを無効にする場合に選択します。

表 105. セキュリティおよびロックダウンの設定

オプション	説明
インストール証明書	ファイルリポジトリにアップロードされた証明書を表示するには、このオプションを選択します。
USB ストレージデバイスアクセスを無効にする	管理者以外のユーザーに USB 大容量ストレージデバイスへのアクセスを無効にする場合に選択します。
Print Screen を無効にする	管理者以外のユーザーに Print Screen 機能を無効にする場合に選択します。
タスクマネージャーを無効にする	管理者以外のユーザーにタスクマネージャーへのアクセスを無効にする場合に選択します。
USB ストレージへの書き込みを無効にする	すべてのユーザーの USB ストレージへの [書き込みアクセス] を無効にするには、このオプションを選択します。
イメージングデバイスへのアクセスを無効にする	すべてのユーザーにイメージングデバイスへのアクセスを無効にする場合に選択します。
プリンタデバイスへのアクセスを無効にする	すべてのユーザーにプリンタへのアクセスを無効にする場合に選択します。

表 105. セキュリティおよびロックダウンの設定

オプション	説明
スマートカードリーダーデバイスへのアクセスを無効にする	すべてのユーザーにスマートカードリーダーデバイスへのアクセスを無効にする場合に選択します。
メディアデバイスへのアクセスを無効にする	すべてのユーザーに USB メディアデバイスへのアクセスを無効にする場合に選択します。

表 106. 自動ログオンの設定

オプション	説明
自動ログオンの設定	ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [自動ログオンを管理しない] • [自動ログオンの無効化] • [自動ログオンの有効化]

表 107. Windows 管理者のパスワードの設定

オプション	説明
ローカル管理者パスワードの変更	ローカル管理者アカウントの Windows パスワードを変更する場合に選択します。システムが自動的に 2 回再起動します。
ローカル管理者パスワード	ローカル管理者アカウントの Windows パスワードを入力します。パスワードには、最低 8 文字、最大 32 文字を指定する必要があります。

表 108. Windows ユーザーパスワードの設定

オプション	説明
ローカルユーザーパスワードの変更	ローカルユーザーアカウントの Windows パスワードを変更する場合に選択します。
ローカルユーザーのパスワード	ローカルユーザーアカウントの Windows パスワードを入力します。パスワードには、最低 8 文字、最大 32 文字を指定する必要があります。

その他の設定

Windows Embedded Standard の電源、共有ドライブ、クロック設定などの Thin Client の設定を設定するには、このページを使用します。

表 109. アプライアンスモードの設定

オプション	説明
アプライアンスモード	アプライアンス用の適切なモードを設定するには、このオプションを選択します。アプライアンスモードオプションでは、アプリケーションをキオスクモードで起動し、デスクトップまたはその他のアプリケーションにはアクセスしません。アプライアンスモードの解除は、事前に設定されたキー操作で行います。たとえば、Ctrl+Shift+A キーを押します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オフ • 汎用 • VMware View • Citrix • Internet Explorer

表 109. アプライアンスモードの設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● RDP

表 110. 電源設定の実行

オプション	説明
デバイスの電源プラン	デバイスの電源プランを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● バランス ● 省電力

表 111. バッテリーの電源設定

オプション	説明
デバイスのスリーププラン	デバイスがスリープモードに入るまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。
ディスプレイを暗くする	ディスプレイを暗くするまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。
ディスプレイをオフにする	ディスプレイがオフになるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、待機時間を選択します。

表 112. プラグイン時の電源設定

オプション	説明
デバイスのスリーププラン	デバイスがスリープモードに入るまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。
ディスプレイを暗くする	ディスプレイを暗くするまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。
ディスプレイをオフにする	ディスプレイがオフになるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。

表 113. 共有ドライブの設定

オプション	説明
共有ドライブ	共有ドライブをデバイスに追加するには、このオプションを選択します。[共有ドライブの追加] をクリックします。共有ドライブの共有名、リモートドライブパス、ユーザー名、パスワードを入力します。 メモ: リストから共有ドライブを削除するには、削除する共有ドライブを選択して [削除] をクリックします。

表 114. クロック設定

オプション	説明
クロック 1	デバイスのクロック 1 を設定するには、このオプションを選択します。

表 114. クロック設定 (続き)

オプション	説明
	クロック 1 を有効にした後、クロックの [表示名] を設定します。ドロップダウンメニューから、クロック 1 の [タイムゾーン] を選択します。
クロック 2	デバイスのクロック 2 を設定するには、このオプションを選択します。 クロック 2 を有効にした後、クロックの [表示名] を設定します。ドロップダウンメニューから、クロック 2 の [タイムゾーン] を選択します。

リモート接続の設定 - Citrix

Windows Embedded Standard のディスプレイ、サーバオプション、フラッシュリダイレクトなどの Citrix 接続を設定するには、このページを使用します。

表 115. 基本オプション (続き)

オプション	説明
接続名	接続を識別するために名前を設定するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に、接続によるセッションの自動的な開始を有効にするには、このオプションを選択します。
接続の種類	接続タイプを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix XenApp ● Citrix XenDesktop ● Citrix Gateway ● Citrix StoreFront
Citrix Server の FQDN または IP アドレス	このオプションを選択すると、Citrix のサーバがリストされます。接続にカンマで区切られた ICA ブラウザのリストを入力します。
公開済みアプリケーション	開始する公開アプリケーションを指定するには、このオプションを選択します。
シングルサインオン	接続用のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。シングルサインオンが有効な場合は、Citrix サーバに接続するための Windows ログイン資格情報を使用します。
ユーザー名	シングルサインオンが無効な場合は、このオプションを選択して Citrix 接続のユーザー名を指定します。
パスワード	シングルサインオンが無効な場合は、このオプションを選択して Citrix 接続のパスワードを定義します。
ドメイン名	Citrix 接続用のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。
ウィンドウのサイズ	Citrix 接続のウィンドウサイズを指定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、ウィンドウサイズを選択します。
画面の色深度	Citrix 接続用の画面の色深度を定義するには、このオプションを選択します。

表 115. 基本オプション

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● 速度重視 16 ビット ● 表示重視 32 ビット
自動再接続	このオプションを選択して、接続が中断された場合に接続を自動的に復元します。
音質	<p>Citrix 接続用の音質を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトのユーザーオーディオ設定 ● 高精細 ● 音声用に最適化 ● 低帯域 ● オフ
ユーザーによるキーの組み合わせをパススルー	<p>ウィンドウを指定して、Windows ユーザーキーの組み合わせを適用するには、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトのユーザーキーのコンボパススルー ● ローカルデスクトップ ● リモートデスクトップ ● 全画面デスクトップのみ

表 116. アプリケーション表示

オプション	説明
デスクトップ表示	<p>デスクトップで Citrix 接続を表示するには、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションを有効にした後、接続に [デスクトップフォルダ名] を指定します。</p>
スタートメニュー表示	<p>接続するデスクトップのスタートメニュー表示を有効にするには、このオプションを選択します。</p> <p>このオプションを有効にした後、接続に [スタートメニュー表示フォルダ] を指定します。</p>
システムトレイ表示	通知領域に Citrix 接続アイコンを表示するには、このオプションを選択します。

表 117. サーバオプション


オプション	説明
ログオン方法	<p>Citrix 接続のログオン方法を選択するには、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトのログオン方法 ● ログオン方法を確認

表 118. 詳細設定

表 118. 詳細設定

オプション	説明
全画面ポップアップを無効にする	全画面ポップアップ警告を無効にするには、このオプションを選択します。
ログオン - アクティブセッションおよび切断されているセッションに接続	ログインした後、アクティブなセッションと切断済みのセッションに接続するには、このオプションを選択します。
メニュー - アクティブセッションおよび切断されているセッションに接続	アクティブなセッションと切断済みのセッションに接続するには、このオプションを選択します。
メニューから再接続	クライアントメニューから既存のセッションに再接続するには、このオプションを選択します。

表 119. フラッシュリダイレクト

オプション	説明
Flash Remoting の使用	リモートサーバではなくクライアントデバイスで Flash コンテンツを描画するには、このオプションを選択します。
サーバ側コンテンツフェッチを有効にする	コンテンツをサーバにダウンロードしてユーザーデバイスに送信するには、このオプションを選択します。
サーバ HTTP Cookie を使用	クライアント側 HTTP Cookie をサーバ側と同期するには、このオプションを選択します。
クライアント側コンテンツフェッチの URL 書き換えルール	クライアント側フェッチのためにユーザーのデバイスを他のサーバにリダイレクトするルールを追加するには、このオプションを選択します。[項目を追加] をクリックして、コンテンツルール名およびコンテンツルール値を入力します。  メモ: リストから項目を削除するには、削除する項目を選択して [削除] をクリックします。

リモート接続の設定 - VMware

Windows Embedded Standard デバイスの VMware 接続を設定するには、このページを使用します。

表 120. リモート接続の設定 - VMware

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
VMware サーバアドレス	VMware 接続のサーバ名を入力するには、このオプションを選択します。
プロトコル	VMware 接続のプロトコルを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • PCOIP • RDP • Blast
現在のユーザーとしてログイン	接続のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。[現在のユーザーとしてログイン] オプションを有効にする場合は、Windows ログイン資格情報を使用して VMware サーバに接続します。

表 120. リモート接続の設定 - VMware

オプション	説明
ユーザー名	シングルサインオンが無効になっている場合、VMware 接続のユーザー名を定義するには、このオプションを選択します。
パスワード	シングルサインオンが無効になっている場合、VMware 接続のパスワードを定義するには、このオプションを選択します。
ドメイン名	VMware 接続のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。
セキュリティモード	サーバへのセキュア接続を確認できない場合にクライアント接続を指定するには、このオプションを選択します。
全画面モード	全画面モードで VMware 接続のウィンドウを設定するには、このオプションを選択します。 全画面モードを選択しない場合、ドロップダウンメニューから、[ウィンドウサイズ] を選択します。
全画面ドロップダウンメニューバーを表示	接続の [全画面モード] ドロップダウンメニューを表示するには、このオプションを選択します。
このデスクトップを自動的に起動	接続の成功時に起動する公開デスクトップを指定するには、このオプションを選択します。
自動再接続	接続が切断された場合、自動的に再接続するには、このオプションを選択します。
ブローカ	[表示接続] ブローカのホスト名または IP アドレスを定義するには、このオプションを選択します。
ブローカ履歴	[表示接続] ブローカの以前に使用したホスト名または IP アドレスを指定するには、このオプションを選択します。

リモート接続の設定 - RDP

Windows Embedded Standard デバイス向けの RD ゲートウェイ、ディスプレイ、ローカルリソース設定などの RDP 接続設定を行うには、このページを使用します。

表 121. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
サーバ IP アドレス	接続のサーバアドレスを入力するには、このオプションを選択します。
シングルサインオン	接続用のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。[現在のユーザーとしてログイン] オプションを有効にした場合は、Windows ログイン資格情報をサーバに接続します。
ユーザー名	シングルサインオンが無効な場合は、このオプションを選択して接続のユーザー名を指定します。
パスワード	シングルサインオンが無効な場合は、このオプションを選択して接続のパスワードを定義します。
ドメイン名	接続用のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。

表 121. 基本設定

オプション	説明
自動再接続	接続が切断された場合に自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。

表 122. RD ゲートウェイの設定

オプション	説明
RD ゲートウェイ設定を使用	<p>RD ゲートウェイ用の設定をするには、このオプションを選択します。このオプションを有効にした後、ゲートウェイ用の [RD サーバ] 名を入力します。</p> <p>[RD ゲートウェイのログオン方法] ドロップダウンメニューから、資格情報を指定して RD ゲートウェイとの接続を検証します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パスワードを要求 (NTLM) ● スマートカード ● 後で選択できるようにする ● <p>[RD ゲートウェイの使用方法] ドロップダウンメニューから、リモートデスクトップサーバを使用するための次のいずれかの方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RD ゲートウェイサーバを使用しない - すべての IP アドレス ● RD ゲートウェイサーバ設定を使用 ● ローカル以外の IP アドレスの場合のみ、RD ゲートウェイサーバ設定を使用 ● デフォルト設定を使用 ● ローカル IP アドレスのみ

表 123. 表示設定

オプション	説明
全画面	<p>全画面モードで接続ウィンドウを設定するには、このオプションを選択します。</p> <p>全画面モードを有効にした後、ドロップダウンメニューからウィンドウのサイズを選択します。</p>
接続バーを表示	フルスクリーンモードで接続バーを表示するには、このオプションを選択します。
マルチモニターのサポート	マルチモニターサポートを有効にするには、このオプションを選択します。
画面の色深度 (ビット数)	<p>接続の画面の色深度を定義するには、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RDP 15 ビット High Color ● RDP 16 ビット High Color ● RDP 24 ビット True Color ● RDP 32 ビット 最高画質

表 124. その他の設定 - エクスペリエンス

表 124. その他の設定 - エクスペリエンス

オプション	説明
パフォーマンスを最適化する接続速度	パフォーマンスを最適化する接続速度を指定するには、このオプションを選択します。
デスクトップ背景	接続時にデスクトップ背景を有効にするには、このオプションを選択します。
視覚スタイル	接続時に視覚スタイルを有効にするには、このオプションを選択します。
フォントスムージング	接続時にフォントスムージングを有効にするには、このオプションを選択します。
永続的なビットマップキャッシュ	接続時に永続的なビットマップキャッシュを有効にするには、このオプションを選択します。
デスクトップコンポジション	接続時にデスクトップコンポジションを有効にするには、このオプションを選択します。
カーソル設定を無効にする	接続時にカーソル設定を無効にするには、このオプションを選択します。
ドラッグしながらウィンドウコンテンツを表示	ウィンドウをドラッグしながらウィンドウコンテンツを表示するには、このオプションを選択します。
メニューおよびウィンドウアニメーション	接続時にメニューとウィンドウのアニメーションを有効にするには、このオプションを選択します。
リダイレクトサーバ名を使用	リダイレクトサーバ名の使用を有効にするには、このオプションを使用します。
サーバ認証の失敗時	サーバ認証が失敗した場合に実行する必要がある処置を指定するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 接続し、警告しない ● 接続しない ● 警告する

表 125. ローカルリソースの設定

オプション	説明
クリップボードをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルクリップボードを使用するには、このオプションを選択します。
COM ポートをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカル COM (シリアル) ポートを使用するには、このオプションを選択します。
DirectX をリダイレクト	クライアントコンピュータの DirectX にリダイレクトして、リモート接続で使用できるようにするには、このオプションを選択します。
ドライブをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルドライブを使用するには、このオプションを選択します。
POS デバイスをリダイレクト	リモート接続で、バーコードスキャナやデバイスの磁気リーダーなどの POS デバイスを使用するには、このオプションを選択します。
すべてのプリンタを転送	リモート接続で、デバイスのローカルプリンタを使用するには、このオプションを選択します。
スマートカードをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルスマートカードを使用するには、このオプションを選択します。
RemoteFX USB デバイスリダイレクトの有効化	RemoteFX USB デバイスリダイレクトを有効または無効にするには、このオプションを選択します。

表 125. ローカルリソースの設定

オプション	説明
後で接続された USB ドライブのリダイレクトの有効化	RDP セッションから USB ドライブのリダイレクトを有効または無効にするには、このオプションを選択します。
その他のサポートされているプラグアンドプレイデバイスのリダイレクトの有効化	その他のプラグアンドプレイデバイスのリダイレクトを有効または無効にするには、このオプションを選択します。

リモート接続の設定 - ブラウザ

Windows Embedded Standard デバイスに、IE プロキシやお気に入りなどのブラウザ接続設定を行うには、このページを使用します。

表 126. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
URL	ブラウザのデフォルト URL を指定するには、このオプションを選択します。
インターネットゾーンのセキュリティレベル	インターネットゾーンで Internet Explorer のセキュリティ設定を行うには、このオプションを選択します。
ローカルゾーンのセキュリティレベル	ローカルゾーンで Internet Explorer のセキュリティ設定を行うには、このオプションを選択します。
信頼済みゾーンのセキュリティレベル	信頼済みサイトで Internet Explorer のセキュリティ設定を行うには、このオプションを選択します。
制限付きゾーンのセキュリティレベル	制限付きサイトで Internet Explorer のセキュリティ設定を行うには、このオプションを選択します。

表 127. Internet Explorer (IE) のお気に入りと信頼済みサイトの設定

オプション	説明
IE のお気に入り	お気に入りと信頼済みサイトを追加するには、このオプションを選択します。お気に入りと信頼済みサイトを追加するには、次のステップを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> [サイトを追加] をクリックして、フォルダ名、URL、および説明を入力します。 [ショートカットの作成] をクリックして、サイトのショートカットを作成します。 [削除] をクリックし、リストからサイトを削除します。 <p>メモ: [信頼済みサイト] チェックボックスが選択されているとき、URL は <code>Https://</code> で始まる必要があります。</p>
ゾーン内のすべてのサイトにサーバの確認が必要 (https)	ゾーン内のすべてのサイトに対するサーバの確認を有効にするには、このオプションを選択します。

表 128. Internet Explorer - IE プロキシ設定

オプション	説明
プロキシを有効にする	ブラウザのプロキシを設定するには、このオプションを選択します。

表 129. ファイアウォール

オプション	説明
ドメインファイアウォール	ドメインのファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。
プライベートファイアウォール	プライベートファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。
パブリックファイアウォール	パブリックファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。

表 130. Aero - Windows Embedded Standard 7 で有効

オプション	説明
Aero	<p>ブラウザの Aero 機能を有効にするには、このオプションを選択します。</p> <p>メモ: この機能は Windows Embedded Standard 7 でのみ使用できます</p>

Latitude モバイル Thin Client BIOS 設定

Latitude モバイル Thin Client の BIOS 設定を定義するには、このページを使用します。

表 131. システム設定

オプション	説明
シリアルポート 1	<p>ドッキングステーションのシリアルポートの動作を決定するには、このチェックボックスを選択します。このオプションを使用すると、ポートのアドレスを無効化または再マッピングして、デバイス間のリソース競合を防ぐことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 無効: ポートは無効です。 ● COM1: ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM2: ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。 ● COM3: ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM4: ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。
サウンドデバイス	サウンドデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
マイク	マイクを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
スピーカー	スピーカーを有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 132. USB 設定

オプション	説明
外部 USB ポート	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。デバイスもオペレーティングシステムで使用できるようになります。USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたどのデバイスも検知できません。

表 133. ワイヤレスの設定

オプション	説明
EnableBluetooth	Bluetooth を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 133. ワイヤレスの設定

オプション	説明
WLAN/GPS	WLAN/GPS を有効にするには、このチェックボックスを選択します。
WiFi 802.11 テクノロジー	ワイヤレス LAN を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 134. セキュリティの設定

オプション	説明
管理セットアップのロックアウト	管理者パスワードが設定されているとき、ユーザーが [セットアップ] に移動するのを防止するには、このチェックボックスを選択します。

表 135. 管理者パスワード設定

オプション	説明
管理者パスワードを有効にする	BIOS 管理者のパスワードを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このパスワードの変更は成功するとすぐに反映されます。
管理者パスワード	新しい BIOS 管理者パスワードを入力します。このオプションは、[管理者パスワードを有効にする] チェックボックスを選択した場合のみ利用できます。

表 136. 電源管理の設定

オプション	説明
Wake On LAN	Wyse Management Suite コンソールからデバイスの電源をオンにするには、このオプションを有効にします。このアクションを実行するには、[デバイス] ページで Wake on LAN (WOL) コマンドを実行します。
Wake on AC	電源障害の後で電源が回復した後、自動的にデバイスを起動するには、このオプションを有効にします。

表 137. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 138. 再起動スケジュールの設定

オプション	説明
再起動オプション	<p>システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - [再起動時間 (時間)] と [再起動時間 (分)] を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

Wyse 7040 Thin Client の BIOS 設定

このページは、Wyse 7040 thin Client の BIOS 設定をするのに使用します。

表 139. システム設定

表 139. システム設定

オプション	説明
サウンドデバイス	サウンドデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
マイク	マイクを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
スピーカー	スピーカーを有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 140. セキュリティの設定

オプション	説明
管理セットアップのロックアウト	管理者パスワードが設定されている場合に、ユーザーが [セットアップ] に入れないようにするには、このチェックボックスを選択します。

表 141. 管理者のパスワードの設定

オプション	説明
管理者パスワードを有効にする	BIOS 管理者パスワードを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このパスワードへの変更が正常に行われると、すぐに反映されます。
管理者パスワード	新しい BIOS の 管理者パスワードを入力します。このオプションは、[管理者パスワードを有効にする] チェックボックスを選択した場合にのみ利用できます。

表 142. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 143. 再起動スケジュールの設定

オプション	説明
再起動オプション	<p>システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - [再起動時間 (時間)] と [再起動時間 (分)] を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

表 144. USB 設定

オプション	説明
前面 USB ポートを有効化する	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、デバイスがオペレーティングシステムに対しても利用できるようになります。USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたいずれのデバイスも認識できなくなります。
背面の USB ポートを有効にする	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、デバイスがオペレーティングシステムに対しても利用できるようになります。USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたいずれのデバイスも認識できなくなります。

表 145. 電源管理の設定

オプション	説明
駆動時にウェイク	ドロップダウンリストから、オプションを選択して、AC 電源の遮断後に AC 電源が回復したときのシステムの動作を指定します。利用できるオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● オフ ● 最後 ● 点灯
Wake On LAN	ドロップダウンリストからオプションを選択して、Thin Client でオフ状態から電源をオンにできるようにするオプションを選択します。LAN 信号またはワイヤレス LAN 信号を使用し、Thin Client でオフ状態から電源をオンにするようトリガーすることができます。

デバイス情報の設定

[デバイス情報] ページを使用して、デバイスの詳細を設定します。

表 146. デバイス情報の設定

オプション	説明
場所	デバイスの位置を入力します。
連絡先	デバイスの連絡先を入力します。
カスタム 1 ~ 3	カスタム値を入力します。

Wyse Easy Setup の設定

[Wyse Easy Setup] ページでは、コントロールパネルおよびユーザーインターフェースの Wyse Easy Setup 設定項目を設定します。

表 147. システムの設定

オプション	説明
[地域と言語]	ユーザーが、コントロールパネルの地域と言語のオプションにアクセスできるようになります。
[日付と時刻]	ユーザーが、コントロールパネルの日付と時刻のオプションにアクセスできるようになります。
[ディスプレイ]	ユーザーが、コントロールパネルのディスプレイオプションにアクセスできるようになります。
[ネットワーク]	ユーザーが、ローカルシステムのコントロールパネルのネットワークオプションにアクセスできるようになります。
[簡単操作]	ユーザーが、コントロールパネルの簡単操作のオプションにアクセスできるようになります。

表 148. 周辺機器の設定

オプション	説明
[マウス]	ユーザーが、コントロールパネルのマウスのオプションにアクセスできるようになります。

表 148. 周辺機器の設定

オプション	説明
[キーボード]	ユーザーが、コントロールパネルのキーボードのオプションにアクセスできるようになります。

表 149. キオスクモードの設定

オプション	説明
[キオスクモード]	このオプションを選択すると、デフォルトの Windows デスクトップを Wyse Easy Setup デスクトップ、Wyse Easy Setup リモート接続、Wyse Easy Setup アプリケーションに置き換えることができます。
[アプリケーション]	詳細を入力し、新しいアプリケーションを登録します。
[アプリケーション終了アクション]	アプリケーション終了アクション ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 終了時にシャットダウン ● 終了時に再起動 ● 終了時にログアウト ● 終了時に持続 この設定は、少なくとも1つのリモート接続が設定されている場合に適用されます。
[スマートカード取り外し時の動作]	スマートカード取り外し時の動作 ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● スマートカードの取り外し後に再起動 ● スマートカードの取り外し後にログアウト ● スマートカードの取り外し後にシャットダウン ● スマートカードの取り外し後にロック画面

表 150. カスタマイズ

オプション	説明
[バックグラウンド]	ドロップダウンメニューから、希望するグラフィックイメージを選択します。イメージは、ファイルリポジトリにアップロードされ、壁紙として表示されます。
[ロゴ]	ドロップダウンリストから、[アプリとデータ] > [ファイルリポジトリ] > [インベントリ] の順に移動してアップロードされたロゴファイルを選択します。

表 151. タスクバーの設定

オプション	説明
[日付と時刻]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップの日付と時刻のオプションを設定できるようになります。
[サウンド]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのサウンドパラメータを設定できるようになります。
[ネットワーク]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのネットワークオプションを表示できるようになります。
[タッチキーボード]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのタッチキーボードを表示できるようになります。

表 152. スタートメニューの設定

オプション	説明
[シャットダウンを許可]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムをシャットダウンできるようになります。

表 152. スタートメニューの設定

オプション	説明
[再起動を許可]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムを再起動できるようになります。
[ログオフを許可]	ユーザーが、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムをログオフできるようになります。

VNC 設定

このページは、VNC 設定を行うのに使用します。

表 153. VNC 設定

オプション	説明
VNC を有効にする	VNC サーバを有効にするには、このオプションを選択します。
VNC ユーザープロンプト	このオプションを選択する場合は、VNC シャドーイングを承認または拒否する必要があります。
VNC ユーザー必須パスワード	VNC パスワードを設定するには、このオプションを選択します。
VNC プライマリパスワード	VNC パスワードを変更するには、このオプションを選択します。新しいパスワードを入力します (最大 8 文字)。
VNC 表示専用パスワード	このパスワードを使用してログインしている場合は、表示専用モードで操作できます。

ドメインの設定

Windows Embedded Standard 7、Windows Embedded 8 Standard または Windows 10 IoT Enterprise デバイスを社内の Active Directory ドメインに追加するには、画面に表示される説明を読みます。

表 154. ドメインの設定

オプション	説明
[ドメインまたはワークグループ]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
[ドメインまたはワークグループ名]	ドメインの FQDN を入力します。
[ユーザー名]	ユーザー名を入力します。アカウントには、ドメインに追加オプションがあります。
[パスワード]	パスワードを入力します。
[アカウント OU]	コンピュータオブジェクトを作成する組織単位の位置を入力します。
[自動ログイン]	Windows ログイン画面を表示するには、このチェックボックスを選択します。

Windows 10 IoT Enterprise を搭載した Wyse 5070 Thin Client の BIOS 設定

BIOS の設定ページで、Windows 10 IoT Enterprise を搭載した Wyse 5070 Thin Client および Wyse 5070 Extended Thin Client の BIOS 設定項目を設定します。

表 155. システム設定

表 155. システム設定

オプション	説明
オーディオを有効にする	オーディオデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
マイクを有効にする	マイクを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
内蔵スピーカーを有効にする	内蔵スピーカーを有効にする場合に選択します。
パラレルポート	ドロップダウンリストから、ドッキングステーションのパラレルポートの動作を決定するオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 無効：ポートは無効です。 ● AT：ポートは IBM AT 互換用に設定されます。 ● PS2：ポートは IBM PS2 互換用に設定されます。 ● ECP：ポートは ECP (Extended Capability Port) プロトコル用に設定されます。 <p>メモ：このオプションは、アドオンカード搭載時に Wyse 5070 Extended Thin Client で使用されます。</p>
シリアルポート 1	ドロップダウンリストから、ドッキングステーションのシリアルポートの動作を決定するオプションを選択します。このオプションを使用すると、ポートのアドレスを無効化または再マッピングして、デバイス間のリソース競合を防ぐことができます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 無効：ポートは無効です。 ● COM1：ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM2：ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。 ● COM3：ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM4：ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。

表 156. USB 設定

オプション	説明
前面 USB ポートを有効化する	オペレーティングシステムで前面 USB ポートの接続済みデバイスを検出できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムは前面の USB ポートに接続されたデバイスを検知できません。 <p>メモ：USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。</p>
前面ポート (一番上)	シンクライアント前面の一番上の USB ポートを有効にする場合に選択します。
前面ポート (上から二番目)	シンクライアント前面の上から二番目の USB ポートを有効にする場合に選択します。
前面ポート (下から二番目)	シンクライアント前面の下から二番目の USB ポートを有効にする場合に選択します。
前面ポート (一番下)	シンクライアント前面の一番下の USB ポートを有効にする場合に選択します。
背面の USB ポートを有効にする	オペレーティングシステムで背面 USB ポートの接続済みデバイスを検出できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムは背面の USB ポートに接続されたデバイスを検知できません。 <p>メモ：USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。</p>
背面ポート (左上)	シンクライアント背面左上の USB ポートを有効にする場合に選択します。

表 156. USB 設定

オプション	説明
背面ポート (右上)	シンクライアント背面右上の USB ポートを有効にする場合に選択します。
背面ポート (左下)	シンクライアント背面左下の USB ポートを有効にする場合に選択します。
背面ポート (右下)	シンクライアント背面右下の USB ポートを有効にする場合に選択します。

表 157. セキュリティの設定

オプション	説明
管理者セットアップロックアウトを有効にする	管理者パスワードが設定されている場合、このオプションを選択することで他のユーザーによるセットアップの起動を防止することができます。

表 158. 電源管理の設定

オプション	説明
Wake On LAN	ドロップダウンリストから、シンクライアントでオフ状態から電源をオンにできるようにする任意のオプションを選択します。LAN 信号を使用して、シンクライアントがオフ状態からの電源投入をトリガーできます。
AC リカバリ	ドロップダウンリストから、AC 電源が回復したときのシステムの動作を指定する任意のオプションを選択します。

表 159. ワイヤレスの設定

オプション	説明
WLAN/WiGig	内蔵ワイヤレスデバイスを有効にする場合に選択します。
Bluetooth	Bluetooth デバイスを有効にする場合に選択します。

表 160. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン時刻	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 161. 再起動スケジュールの設定

オプション	説明
再起動オプション	システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - [再起動時間 (時間)] と [再起動時間 (分)] を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

Linux ポリシー設定の編集

このタスクについて

Linux ポリシー設定を編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。
2. [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
3. [Linux] をクリックします。
[Linux] ページが表示されます。Linux Thin Client ポリシー設定には、次のオプションがあります。
 - システムの個人設定
 - デスクトップエクスペリエンス
 - ログインエクスペリエンス
 - ネットワーク
 - セキュリティ
 - 一元設定
 - その他の設定
 - VDI グローバル設定
 - リモート接続 Citrix
 - リモート接続 VMware
 - リモート接続 RDP
 - リモート接続 ブラウザ
 - 詳細
4. ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

システムの個人設定

[システムの個人設定] ページでは、システムの個人設定を行います。

表 162. システムの個人設定

オプション	説明
モニターの解像度 (プライマリ)	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するモニターの解像度を選択します。
モニターの回転	モニターの向きを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、好みに応じて [縦] または [横] のいずれかを選択します。
デュアルモニターを有効にする	デュアルモニター機能を有効にするには、このオプションを選択します。このチェックボックスを選択すると、次のオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">● ミラーモード - ディスプレイがミラーリングされます。● スパンモード - ディスプレイがスパンされます。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。<ul style="list-style-type: none">○ 左○ 右○ 底面○ 上面
レイアウト	Thin Client のキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
システム言語	システムの言語を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。

表 162. システムの個人設定

オプション	説明
マウスの速度	マウスを移動する際のマウスポインタの速度を指定するには、このオプションを選択します。マウスの速度の範囲は 0 ~ 6 です。
左利き用マウス	マウスの方向を左の位置に設定するには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていない場合は、マウスの方向が右の位置に設定されます。
タイムゾーン	場所に基づいてタイムゾーンを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するタイムゾーンを選択します。
時間表示形式	時刻形式を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、12 時間または 24 時間形式のどちらかを選択します。
タイムサーバ (NTP サーバ)	タイムサーバをリストするには、このオプションを選択します。タイムサーバを使用すると、NTP サーバで時刻を同期できるようになります。
オーディオ音量	Thin Client のオーディオ音量を設定するには、このオプションを選択します。オーディオ音量の範囲は 0 ~ 100 です。
オーディオミュート	Thin Client をミュートモードに設定するには、このオプションを選択します。
マイク音量	Thin Client のマイク音量を設定するには、このオプションを選択します。マイク音量の範囲は 0 ~ 100 です。
マイクミュート	マイクをミュートモードに設定するには、このオプションを選択します。

デスクトップエクスペリエンスの設定

デスクトップの壁紙、壁紙のレイアウト、デスクトップショートカットキーなど、デスクトップの設定には、[デスクトップエクスペリエンス] ページを使用します。

表 163. デスクトップエクスペリエンスの設定 (続き)

オプション	説明
デスクトップの壁紙	デフォルトの壁紙を変更するには、このオプションを選択します。
壁紙ファイル	希望する壁紙を選択するには、このオプションを選択します。ファイルリポジトリにアップロード済みのイメージが表示されます。
壁紙のレイアウト	壁紙のレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する壁紙のレイアウトを選択します。デフォルトの壁紙のレイアウトは、[中央] です。
ホットキー	以下のアクションのホットキーを無効にするには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 現在アクティブなウィンドウを閉じる ● 現在アクティブなウィンドウの最小化

表 163. デスクトップエクスペリエンスの設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在アクティブなウィンドウの最大化 / 最大化解除 ● 現在アクティブなウィンドウの最大化解除 ● 現在アクティブなウィンドウのサイズ変更 ● 現在アクティブなウィンドウの移動 ● マウスボタン修飾子 ● パネルのメインメニューの表示 ● パネルのメインメニューリストの表示 ● コマンドの実行 ウィンドウを表示 ● スクリーンセーバーをアクティブ化 ● デスクトップを表示 ● 開いているウィンドウの切り替え ● 現在のアクティブなウィンドウの全画面モードと通常モードを切り替え ● 現在のウィンドウのメニューオプションを表示 ● Print screen - スクリーンショットを取得

ログインエクスペリエンスの設定

自動ログイン、ログインバナーメッセージ、および管理者、thin ユーザー、root ユーザーのパスワードなどを設定するには、このページを使用します。

表 164. ログインエクスペリエンスの設定

オプション	説明
自動ログイン	Thin Client でユーザーの操作なしに自動的にログインできるようにするには、このオプションを選択します。[自動ログインのユーザー名] オプションを使用して、デフォルトのログインユーザーを選択します。
自動ログインのユーザー名	[自動ログイン] チェックボックスを選択して、自動ログインのデフォルトユーザーを定義します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● admin ● thinuser ● guest
ログインウィンドウのバナーを有効にする	ログイン画面でバナーメッセージを設定するには、このオプションを選択します。 [ログインウィンドウのバナーを有効にする] チェックボックスを選択すると、[バナーメッセージ] オプションが表示されます。 ログイン画面に表示されたボックスにカスタマイズされたテキストを入力します。
ルートパスワード	ルートパスワードを変更する場合は、パスワードを入力します。
Admin Password	管理者パスワードを変更する場合は、パスワードを入力します。
thinuser パスワード	thinuser パスワードを変更する場合は、パスワードを入力します。
ゲストのパスワード	ゲストのパスワードを変更する場合は、パスワードを入力します。

ネットワークの設定

このページを使用してネットワーク設定を構成します。

表 165. ネットワークの設定

オプション	説明
ワイヤレス接続名	接続の名前を入力します。
SSID	サービスセット識別子 (SSID) 接続の名前を入力します。
セキュリティモード	ドロップダウンメニューから、要件に基づいてセキュリティモードの種類を選択します。それぞれのフィールドにセキュリティモードの詳細を入力します。

セキュリティの設定

このページは、セキュリティオプションを設定するのに使用します。

表 166. セキュリティの設定

オプション	説明
パスワード暗号化アルゴリズム	パスワード暗号化アルゴリズムを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● Base-64● AES● プレーンテキスト デフォルト値は [Base-64] です。
Gkey リセットを有効にする	デフォルトでは、Gkey リセット機能は有効になっています。デバイスの工場出荷時設定へのリセットを実行するには、デバイスの起動中に G キーを押します。
証明書をインストール	デバイスにインストールする証明書を選択するには、このオプションを選択します。 ドロップダウンメニューから、ファイルリポジトリに追加する証明書を選択します。
SSH の有効化	デバイス上のセキュアシェル (SSH) を有効にするには、このオプションを選択します。
"root" SSH ログインを許可	「root」SSH ログインを有効にするには、このオプションを選択します。
VNC サーバーの有効化	VNC サーバを有効にするには、このオプションを選択します。
ユーザーにパスワード入力を要求	VNC パスワードを設定するには、このオプションを選択します。
VNC パスワード	VNC パスワードを入力するには、このオプションを選択します。
VNC セッション開始時にプロンプトを表示する	着信 VNC 接続要求を受け入れるポップアップメッセージの表示を有効にするには、このオプションを選択します。

一元設定

ファイルサーバ、ファームウェアサーバ、ルートパス、対応するユーザー資格情報を入力するには、このページを使用します。

表 167. 一元設定

オプション	説明
ファイルサーバのパス	w1x フォルダを含むフォルダのフルパスを入力します。サポートされるプロトコルには、ftp、http、https があります。デフォルトのプロトコルは、ftp です。
ファイルサーバのユーザー名	ファイルサーバへアクセスするためのユーザー名を入力します。
ファイルサーバのパスワード	ファイルサーバへアクセスするためのパスワードを入力します。
ルートパス	このルートパスは、サーバ上のファイルにアクセスするために使用されます。ディレクトリ名 /w1x が使用前にルートパスのエントリに付加されます。ルートパスが指定されていない場合は、/wyse が考慮されます。
ファームウェアサーバ/パス	ファームウェアイメージを含むフォルダのフルパスを入力します。サポートされるプロトコルには、ftp、http、https があります。デフォルトのプロトコルは、ftp です。
ファームウェアサーバのユーザー名	ファームウェアサーバへアクセスするためのユーザー名を入力します。
ファームウェアサーバのパスワード	ファームウェアサーバへアクセスするためのパスワードを入力します。
ファームウェアルートパス	このルートパスは、サーバ上のファームウェアイメージにアクセスするために使用されます。ディレクトリ名 /wtx が使用前にルートパスのエントリに付加されます。ルートパスが指定されていない場合は、/wyse が考慮されます。

その他の設定

他のオプションを設定するには、このページを使用します。

表 168. その他の設定

オプション	説明
自動電源オン	電源が回復したときに、ユーザーが待機して電源ボタンを押すことなく、システムを起動できるようにするにはこのオプションを選択します。
電源ボタンの処理	ドロップダウンメニューから、いずれかのオプションを選択し、電源ボタンを押した際に実行するデフォルトアクションを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● インタラクティブ ● 再起動 ● シャットダウン ● なし
DHCP ベンダー ID	DHCP ベンダー ID を変更するには、このオプションを選択します。デフォルトのベンダー ID は、[wyse-5000] です。
ブラウザのホームページ	ブラウザのホームページを変更するには、このオプションを選択します。ブラウザのホームページを設定するには、任意の URL アドレスを入力します。

VDI グローバル設定

このページは、Citrix および VMware View クライアントのグローバル設定を行うのに使用します。

表 169. Citrix の一般設定

オプション	説明
ICA ブラウジングプロトコル	デフォルトのブラウジングプロトコルを設定するには、このオプションを選択します。
ブラウザ IP	ブラウザ IP アドレスを入力します。
ストア名	ストア名を指定するには、このオプションを選択します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
PN デスクトップのセットアップ(すべてのアプリケーションを表示)	PN デスクトップセットアップを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションが有効の場合、すべての公開アプリケーションはデスクトップに表示されます。
マルチメディアリダイレクト (MMR) を有効にする	マルチメディアリダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。
H.264 デコードサポートを有効にする	ICA 接続の H.264 デコードサポートを有効にするには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラのフレームレート	HDX Web カメラのフレームレートを設定するには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラ画像の幅	HDX Web カメラからの要求される画像の幅を設定するには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラ画像の高さ	HDX Web カメラからの要求される画像の高さを設定するには、このオプションを選択します。
オーディオ帯域幅制限	オーディオ入力で使用する帯域幅を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 低 ● 中 ● 高
UDP オーディオを有効にする	UDP 経由のオーディオデータの転送を有効にするには、このオプションを選択します。
フラッシュリダイレクトポリシー	フラッシュリダイレクトのポリシーを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、フラッシュリダイレクトポリシーを許可または拒否するかを選択します。
透過的キーパススルー	ICA セッションに接続する際の、特定キーの組み合わせをマッピングする方法について決定するには、このオプションを選択します。 <p>ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ローカル ● リモート ● 全画面のみ

表 169. Citrix の一般設定

オプション	説明
代替アドレスを使用	ICA マスターブラウザから通過ファイアウォールまで代替 IP アドレスを使用するには、このオプションを選択します。
ICA プロキシタイプ	ICA 接続のプロキシタイプを選択するには、このオプションを選択します。デフォルト値は [なし] です。

表 170. Citrix USB リダイレクトの設定

オプション	説明
ICA セッション開始前に接続されているデバイスの USB リダイレクトを許可	ICA デスクトップアプライアンスのモードを設定するには、このオプションを選択します。このオプションは、ICA セッションの開始前に、プラグインされているデバイスの USB リダイレクトを許可します。
USB リダイレクトを有効にする	Citrix USB リダイレクトをすべてのデバイスで有効にするには、このオプションを選択します。 Citrix セッションへの USB リダイレクトポリシーを介して、どのデバイスおよびデバイスファミリーを許可または拒否できるようにするかを指定できます。

表 171. Citrix ドライブマッピングの設定

オプション	説明
ICA 動的ドライブマッピングを有効にする	ICA 動的ドライブマッピングを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションが無効の場合、さまざまなドライブタイプの個別のドライブを追加できます。そのため、個別のドライブのみが ICA セッションにリダイレクトされます。

表 172. VMware USB リダイレクションの設定

オプション	説明
USB リダイレクトを有効にする	VMware USB リダイレクトをすべてのデバイスで有効にするには、このオプションを選択します。 VMware セッションへの USB リダイレクトポリシーを通して、どのデバイスおよびデバイスファミリーを許可または拒否できるようにするかを指定できます。

リモート接続の設定 - Citrix

このページを使用して、Citrix ブローカー接続を作成します。Citrix 接続の設定は、接続の種類によって異なります。

表 173. リモート接続の設定 (続き)

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後、接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
接続の種類	接続タイプを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。

表 173. リモート接続の設定 (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● サーバ接続 ● 公開済みアプリケーション ● Store Front
Citrix Server の FQDN または IP アドレス	Citrix サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力するには、このオプションを選択します。このオプションは、接続タイプとして [公開アプリケーション] または [StoreFront] を選択したときに表示されます。
公開済みアプリケーション	起動する公開アプリケーションを指定するには、このオプションを選択します。このオプションは、接続タイプとして [公開アプリケーション] または [StoreFront] を選択したときに表示されます。
接続サーバ	Citrix 接続サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力するには、このオプションを選択します。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ストア名	Citrix サーバのストア名を入力します。このオプションは、接続タイプとして [公開アプリケーション] または [StoreFront] を選択したときに表示されます。
ブラウジングプロトコル	セキュア接続および非セキュア接続のブラウジングプロトコルを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● http ● https
低帯域	低速帯域幅の最適化を設定するには、このオプションを選択します。
サウンドを有効にする	サウンドを有効にするには、このオプションを選択します。
スマートカードログイン	ICA 接続のスマートカードログイン機能を有効にするには、このオプションを選択します。
暗号化レベル	暗号化レベルを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のいずれかの暗号化レベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 基本 ● RC5 (128 ビット - ログインのみ) ● RC5 (40 ビット) ● RC5 (56 ビット) ● RC5 (128 ビット)
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● シームレス ● 640 x 480

表 173. リモート接続の設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 1280 x 1024 ● 1600 x 1200 ● フルスクリーン
画面の色深度	画面の色深度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 64 K ● 256 ● 16 M
自動再接続	Thin Client が Citrix セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で設定するには、このオプションを選択します。[自動再接続] チェックボックスを選択すると、このオプションが表示されます。

リモート接続の設定 - VMware

VMware View ブローカ接続を作成するには、このページを使用します。

表 174. リモート接続 VMware の設定

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
VMware サーバのアドレス	VMware View サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
VMware サーバのポート番号	ホストのポート番号を入力します。
セキュア接続 (SSL) を使用	SSL 接続を使用するには、このオプションを選択します。
プロトコル	プロトコルとして [PCOIP] または [RDP] を設定するには、このオプションを使用します。
NLA を有効にする	ネットワークレベル認証を有効にするには、このオプションを選択します。[RDP] オプションがプロトコルとして設定されると、このオプションが表示されます。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
インタラクティブモード	ユーザーインタラクティブモードを有効にするには、このオプションを選択します。

表 174. リモート接続 VMware の設定

オプション	説明
サーバ URL / ホストのフィールドをロック	サーバ URL をロックするにはこのオプションを選択します。
セキュリティモード	セキュリティモードを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 信頼できないサーバに接続しません ● 信頼できないサーバに接続する前に、警告を表示します ● サーバ ID 証明を確認しません。
全画面モード	全画面モードでリモートセッションを表示するには、このオプションを選択します。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● すべてのモニターを使用 ● フルスクリーン ● 大画面 ● 小画面 ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 640 x 480
全画面ドロップダウンメニューバーを無効にする	全画面モードでドロップダウンメニューを無効にするには、このオプションを選択します。
このデスクトップを自動的に起動	接続成功時に自動的に起動する公開デスクトップの名前を指定するには、このオプションを選択します。
自動再接続	Thin Client が VMware セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。このオプションは、[自動再接続] チェックボックスを選択すると表示されます。

リモート接続の設定 - RDP

RDP プロローカ接続を作成するには、このページを使用します。

表 175. リモート接続の設定 - RDP

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを使用します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
サーバ IP アドレス	サーバ名または IP アドレスを入力します。
スマートカードログイン	スマートカード認証を有効にするには、このオプションを選択します。

表 175. リモート接続の設定 - RDP

オプション	説明
ネットワークレベル認証 (NLA)	ネットワークレベル認証を有効にするには、このオプションを選択します。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● 640 x 480 ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 1280 x 1024 ● 1600 x 1200 ● フルスクリーン
すべてのプリンタを転送	すべてのプリンタをリモート接続に転送するには、このオプションを選択します。
自動再接続	Thin Client が RDP セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。このオプションは、[自動再接続] チェックボックスを選択すると表示されます。
ドライブマッピング	RDP セッションでドライブをマッピングするには、このオプションを選択します。[ドライブマッピングの追加] ボタンをクリックして、次の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ドライブレター - ドロップダウンメニューから、ドライブレターを選択します。 ● ドライブタイプ - 次のドライブのタイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ USB ディスクまたはメモリスティック ○ USB CD ROM ○ USB フロッピー
RD ゲートウェイ設定を使用	RD ゲートウェイ設定を使用するには、このオプションを選択します。[RD サーバ] および [RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用] オプションが表示されます。
RD サーバ	RD ゲートウェイホストアドレスを指定するには、このオプションを選択します。
RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用	RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用するには、このオプションを選択します。 チェックボックスをクリアすると、[RD ユーザー名]、[RD パスワード]、および [RD ドメイン名] オプションが表示されます。
RD ユーザー名	RD ゲートウェイのログイン用 RD ユーザー名を入力します。
RD パスワード	RD ゲートウェイのログイン用 RD パスワードを入力します。

表 175. リモート接続の設定 - RDP

オプション	説明
RD ドメイン名	RD ゲートウェイのログイン用 RD ドメイン名を入力します。

リモート接続の設定 - ブラウザ

このページを使用してリモート接続ブラウザを設定します。

表 176. リモート接続の設定 - ブラウザ

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
URL	開始 URL を入力します。
キオスクモード	このオプションを選択して、キオスクモードを有効にします。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するウィンドウのサイズを選択します。
自動再接続	Thin Client でブラウザの自動再接続を有効にするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。[自動再接続] チェックボックスを選択すると、このオプションが表示されます。

詳細設定

設定は、[詳細設定] オプションで INI パラメータを指定することにより、Linux クライアントデバイスに適用できます。デルでは、その他のオプションですでに設定されているポリシーに INI パラメータを指定しないことをお勧めしています。パスワードのエンコードと暗号化は、パスワードのパラメータに適用されません。

表 177. 詳細設定

オプション	説明
グローバル INI なし	選択した場合、ファイルサーバからグローバル INI パラメータはダウンロードされません。 Thin Client のライン 1 からライン 20 に INI パラメータを入力します。

ThinLinux ポリシー設定の編集

このタスクについて

ThinLinux ポリシーを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。

2. [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
3. [ThinLinux] をクリックします。
[ThinLinux] ページが表示されます。ThinLinux の Thin Client のポリシー設定には、次のオプションがあります。
 - システムの個人設定
 - デスクトップエクスペリエンス
 - ログインエクスペリエンス
 - ネットワーク
 - Security
 - 一元設定
 - その他の設定
 - VDI グローバル設定
 - リモート接続 Citrix
 - リモート接続 VMware
 - リモート接続 RDP
 - リモート接続ブラウザ
 - 詳細設定
 - デバイス情報
 - BIOS ThinLinux 3040 設定
 - BIOS ThinLinux 5070 設定
4. ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

システムの個人設定

[システムの個人設定] ページでは、システムの個人設定を行います。

表 178. 表示設定

オプション	説明
モニターの解像度 - プライマリ	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するモニターの解像度を選択します。
モニターの回転	モニターの向きを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、好みに応じて 縦 または 横 のいずれかを選択します。
デュアルモニターを有効にする	デュアルモニター機能を有効にするには、このオプションを選択します。このチェックボックスを選択すると、次のオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ディスプレイモード - ディスプレイモードを設定するには、このオプションを使用します。 ● モニターの解像度 (セカンダリ) - ドロップダウンメニューから、希望するモニターの解像度を選択します。 ● スパンの位置 - モニターがスパンされます。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 左 ○ 右 ○ 底面 ○ 上面

表 179. 表示設定

オプション	説明
モニターの解像度 - プライマリ	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するモニターの解像度を選択します。

表 179. 表示設定

オプション	説明
モニターの回転	<p>モニターの向きを定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、お好みに応じて縦または横のいずれかを選択します。</p> <p>メモ: 水平および垂直（右回転）オプションは、Wyse Management Suite サーバの UI のみで使用できます。</p>
デュアルモニターを有効にする	<p>デュアルモニター機能を有効にするには、このオプションを選択します。このチェックボックスを選択すると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスプレイモード - ディスプレイモードを設定するには、このオプションを使用します。 ● モニターの解像度（セカンダリ） - ドロップダウンメニューから、希望するモニターの解像度を選択します。 ● スパンの位置 - モニターがスパンされます。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 左 ○ 右 ○ 底面 ○ 上面
マルチモニターを有効にする	<p>マルチモニター設定を有効にする場合に選択します。</p>
モニターの解像度（3 番目）	<p>ドロップダウンリストから、3 番目のモニターの解像度を選択します。</p> <p>メモ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Windows Embedded Standard マルチモニター - 制限はありません。 ● ThinLinux マルチモニター - 4 台を超えるモニターが接続されている場合、Dell Wyse 5070 Extended Thin Client はマルチモニター機能をサポートします。
スパンの位置	<p>モニターがスパンされます。ドロップダウンから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 右 ● 左 ● 底面 ● 上面
サポートするモニター台数を選択します。	<p>ドロップダウンリストから、サポートするモニター台数を選択します。</p> <p>メモ: 3 台を超えるモニターを選択すると、モニターの解像度と回転の設定がすべてのモニターで統一されます。4 台を超えるモニターが接続されている場合、Dell Wyse 5070 Extended Thin Client はマルチモニター機能をサポートします。</p>

表 180. キーボード設定

オプション	説明
レイアウト	<p>Thin Client のキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。</p>

表 181. 言語の設定

表 181. 言語の設定

オプション	説明
システム言語	システムの言語を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。

表 182. マウスの設定

オプション	説明
マウスの速度	マウスを移動する際のマウスポインタの速度を指定するには、このオプションを選択します。マウスの速度の範囲は 0 ~ 6 です。
左利き用マウス	左クリックおよび右クリック間でマウスボタンを切り替えるには、このオプションを選択します。

表 183. タイムゾーン設定

オプション	説明
タイムゾーン	場所に基づいてタイムゾーンを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するタイムゾーンを選択します。
時間表示形式	時刻形式を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、12 時間または 24 時間形式のどちらかを設定します。
タイムサーバ (NTP サーバ)	タイムサーバをリストするには、このオプションを選択します。タイムサーバを使用すると、NTP サーバで時刻を同期できるようになります。複数のサーバを許可する場合は、サーバ名をカンマで区切って指定する必要があります。

表 184. オーディオの設定

オプション	説明
オーディオ音量	Thin Client のオーディオ音量を設定するには、このオプションを選択します。オーディオ音量の範囲は 0 ~ 100 です。
オーディオミュート	Thin Client をミュートモードに設定するには、このオプションを選択します。
マイク音量	Thin Client のマイク音量を設定するには、このオプションを選択します。マイク音量の範囲は 0 ~ 100 です。
マイクミュート	マイクをミュートモードに設定するには、このオプションを選択します。

デスクトップエクスペリエンスの設定

このページは、デスクトップの壁紙、壁紙レイアウト、デスクトップショートカットキーなど、デスクトップの設定を行うのに使われます。

表 185. デスクトップエクスペリエンス

オプション	説明
デスクトップの壁紙	デフォルトの壁紙を変更するには、このオプションを選択します。

表 185. デスクトップエクスペリエンス

オプション	説明
壁紙ファイル	希望する壁紙を選択するには、このオプションを選択します。ファイルリポジトリにアップロード済みのイメージが表示されます。
壁紙のレイアウト	壁紙のレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する壁紙レイアウトを選択します。デフォルトの壁紙レイアウトは [中央] です。

[ホットキー] - ホットキーおよびそれに対応する機能を無効にするには、次のいずれかのチェックボックスを選択します。

次のアクションのホットキーを設定します。

- 現在のアクティブウィンドウを最小化
- 現在のアクティブウィンドウを最大化 / 最大化解除
- 現在のアクティブウィンドウを最大化解除
- 現在のアクティブウィンドウのサイズを変更
- 現在のアクティブウィンドウを移動
- デスクトップを表示
- 開いているウィンドウを切り替え
- 現在のアクティブなウィンドウの全画面モードと通常モードを切り替え
- Print screen (スナップショットの取得) をするには、チェックボックスを選択して、Print screen オプションを有効または無効を選択できます。

ログインエクスペリエンスの設定

自動ログイン、ログインバナーメッセージ、および管理者、thin ユーザー、root ユーザーのパスワードなどを設定するには、このページを使用します。

表 186. ログインエクスペリエンスの設定

オプション	説明
自動ログイン	Thin Client でユーザーの操作なしに自動的にログインできるようにするには、このオプションを選択します。
ログインウィンドウのバナーを有効にする	ログイン画面のバナーメッセージを設定するにはこのオプションを選択します。
バナーメッセージ	[ログインウィンドウでバナーを有効にする] チェックボックスを選択すると、[バナーメッセージ] オプションが表示されます。 ログイン画面に表示されるボックスに、カスタマイズテキストを入力します。
ルートパスワード	ルートパスワードを変更する場合は、パスワードを入力します
thinuser パスワード	thinuser パスワードを変更する場合は、パスワードを入力します。

ネットワークの設定

このページを使用してネットワーク設定を構成します。

表 187. ネットワークの設定

表 187. ネットワークの設定

オプション	説明
ワイヤレス接続名	接続の名前を入力します
SSID	サービスセット識別子 (SSID) 接続の名前を入力します。
セキュリティモード	ドロップダウンメニューから、要件に基づいてセキュリティモードの種類を選択します。それぞれのフィールドにセキュリティモードの詳細を入力します。

セキュリティの設定

このページを使用してセキュリティポリシーの設定を構成します。

表 188. 一般設定

オプション	説明
Gkey リセットを有効にする	デフォルトでは、Gkey リセット機能は有効になっています。デバイスの起動中に G キーを押したときに、デバイスの工場出荷時設定へのリセットを実行できます。
証明書をインストール	デバイスにインストールする証明書を選択するには、このオプションを選択します。 ドロップダウンメニューから、ファイルリポジトリに追加される証明書を選択します。

表 189. SSH の設定

オプション	説明
SSH の有効化	デバイスでセキュアシェル (SSH) を有効にするには、このオプションを選択します。
"root" SSH ログインを許可	"root" SSH ログインを有効にするには、このオプションを選択します。

表 190. VNC 設定

オプション	説明
VNC サーバーの有効化	VNC サーバを有効にするには、このオプションを選択します。
ユーザーにパスワード入力を要求	VNC パスワードを設定するには、このオプションを選択します。
VNC パスワード	VNC パスワードを入力するには、このオプションを選択します。
VNC セッション開始時にプロンプトを表示	着信 VNC 接続要求を受け入れるポップアップメッセージを有効にするには、このオプションを選択します。

一元設定

このページは、ファイルサーバ、ファームウェアサーバ、ルートパス、および対応するユーザー資格情報を入力するのに使用します。

表 191. 一元設定

表 191. 一元設定

オプション	説明
ファイルサーバノパス	w1x2 フォルダが含まれるフォルダのフルパスを入力します。サポートされるプロトコルには、ftp、http、https があります。デフォルトのプロトコルは、ftp です。
ファイルサーバのユーザー名	ファイルサーバにアクセスするためのユーザー名を入力します。
ファイルサーバのパスワード	ファイルサーバにアクセスするためのパスワードを入力します。
ルートパス	このルートパスは、サーバ上のファイルにアクセスするのに使用します。ディレクトリ名の /w1x2 が、使用する前に、ルートパスエントリに追加されます。ルートパスが提供されていない場合は、/wyse が検討されます。
遅延アップデートを有効にする	イメージやアドオンのバックグラウンドでのアップグレードまたはダウングレードプロセスを有効にするには、このオプションを選択します。
遅延更新サーバノパス	ファームウェアイメージを含むフォルダのフルパスを入力します。サポートされるプロトコルには、ftp、http、https があります。デフォルトのプロトコルは、ftp です。
遅延更新サーバのユーザー名	遅延更新サーバにアクセスするためのユーザー名を入力します。
遅延更新サーバのパスワード	遅延更新サーバにアクセスするためのパスワードを入力します。
遅延更新モード	遅延更新プロセス用の更新モードを設定するには、このオプションを選択します。
工場出荷時の状態へのリセット	イメージングプロセスの後、デバイスを工場出荷時のデフォルトの状態に設定するには、このオプションを選択します。
ベースイメージのダウングレードを許可する	ベースイメージのダウングレードを有効にするには、このオプションを選択します。

その他の設定

このページを使用してその他のオプションを設定します。

表 192. その他の設定

オプション	説明
自動電源オン	電源回復後、ユーザーが電源ボタンを押すのを待機せずにシステムが起動できるようにするには、このオプションを選択します。
電源ボタンの処理	ドロップダウンメニューから、いずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● インタラクティブモード ● 再起動 ● シャットダウン ● なし このオプションは、電源ボタンを押したときに実行するアクションを定義します。
DHCP ベンダー ID	DHCP ベンダー ID を変更するには、このオプションを選択します。デフォルトのベンダー ID は、[wyse-5000] です。

表 192. その他の設定

オプション	説明
ブラウザのホームページ	ブラウザのホームページを変更するには、このオプションを選択します。ブラウザのホームページに設定する任意の URL アドレスを入力します。

VDI グローバル設定

ThinLinux ポリシー設定の下で、次の VDI グローバル設定が可能です。VDI グローバル設定では、Citrix および VMware View のグローバル設定を行うことができます。

表 193. Citrix の一般設定

オプション	説明
ICA ブラウジングプロトコル	デフォルトのブラウジングプロトコルを設定するには、このオプションを選択します。
ICA PAM ログイン	PAM ログインを設定するには、このオプションを選択します。
ブラウザ IP	ブラウザ IP アドレスを入力します。
ストア名	ストア名を指定します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
PN デスクトップのセットアップ(すべてのアプリケーションを表示)	このオプションを選択して、PN デスクトップセットアップを有効にします。このオプションが有効の場合、すべての公開アプリケーションがデスクトップに表示されます。
マルチメディアリダイレクト (MMR) を有効にする	このオプションを選択して、マルチメディアリダイレクトを有効にします。
H.264 デコードサポートを有効にする	ICA 接続の H.264 デコードサポートを有効にするには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラのフレームレート	HDX Web カメラの優先フレームレートを設定するには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラの画像の幅	HDX Web カメラから要求された画像の幅を設定するには、このオプションを選択します。
HDX Web カメラの画像の高さ	HDX Web カメラから要求された画像の高さを設定するには、このオプションを選択します。
オーディオ帯域幅制限	オーディオ入力に使用される帯域幅を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 低 ● 中 ● 高
UDP オーディオを有効にする	UDP 経由でのオーディオデータの転送を有効にするには、このオプションを選択します。
フラッシュリダイレクトポリシー	フラッシュリダイレクトポリシーの許可または拒否を有効にするには、このオプションを選択します。

表 193. Citrix の一般設定

オプション	説明
透過的キーパススルー	ICA セッションに接続するときに、特定のキーの組み合わせのマッピングが使用される方法を定義するには、このオプションを選択します。 ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ローカル ● リモート ● 全画面のみ
代替アドレスを使用	ファイアウォールを通過するために ICA マスターブラウザから代替 IP アドレスを使用するには、このオプションを選択します。
ICA プロキシタイプ	ICA 接続のプロキシタイプを選択するには、このオプションを選択します。デフォルト値は [なし] です。

表 194. Citrix USB リダイレクトの設定

オプション	説明
ICA セッション開始前に接続されているデバイスの USB リダイレクトを許可	ICA デスクトップアプライアンスモードには、このチェックボックスを選択します。このオプションでは、ICA セッションを開始する前に差し込まれていたデバイスの USB リダイレクトが可能です。
USB リダイレクトを有効にする	すべてのデバイスに Citrix USB リダイレクトを有効にするには、このオプションを選択します。 Citrix セッションでどのデバイスおよびデバイスシリーズが許可または拒否されるかを指定できます。

表 195. Citrix ドライブマッピングの設定

オプション	説明
ICA 動的ドライブマッピングを有効にする	ICA 動的ドライブマッピングを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションが無効の場合、さまざまなドライブタイプの個別のドライブを追加できます。そのため、個別のドライブのみが ICA セッションにリダイレクトされます。
すべてのドライブを単一の共有名 (WyseUSB) にマッピングする	単一のディレクトリ Wyse USB の下で、ICA セッション内のすべての USB デバイスの内容をリダイレクトするには、このオプションを選択します。

表 196. VMware USB リダイレクトの設定

オプション	説明
USB リダイレクトを有効にする	VMware セッションで USB リダイレクトポリシーの許可または拒否を有効にするには、このオプションを選択します。

リモート接続の設定 - Citrix

このページは、Citrix ブローカ接続を作成するのに使用します。Citrix 接続の設定は、接続の種類によって異なります。

表 197. リモート接続の設定 - Citrix

表 197. リモート接続の設定 - Citrix (続き)

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
接続の種類	接続タイプを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● サーバ接続 ● 公開済みアプリケーション ● Store Front
接続サーバ	Citrix サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力するには、このオプションを選択します。
Citrix Server の FQDN または IP アドレス	Citrix サーバの FQDN または IP アドレスを入力するには、このオプションを選択します。これは、公開アプリケーションおよび StoreFront 接続タイプで適用されます。
公開済みアプリケーション	起動する公開アプリケーションを指定するには、このオプションを選択します。これは、公開アプリケーションおよび StoreFront 接続タイプで適用されます。
ストア名	ストア名を入力します。これは、公開アプリケーションおよび StoreFront 接続タイプで適用されます。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ブラウジングプロトコル	セキュアおよび非セキュアな接続のブラウジングプロトコルを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● http ● https
低帯域	チェックボックスを選択して低帯域幅を最適化します。
サウンドを有効にする	チェックボックスを選択してサウンドを有効にします。
スマートカードログイン	チェックボックスを選択して、ICA 接続のスマートカードログインを有効にします。
暗号化レベル	暗号化レベルを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、必要に応じて次のいずれかの暗号化レベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 基本 ● RC5 (128 ビット - ログインのみ) ● RC5 (40 ビット) ● RC5 (56 ビット) ● RC5 (128 ビット)
ウィンドウサイズ	ウィンドウサイズを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。

表 197. リモート接続の設定 - Citrix

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● シームレス ● 640 x 480 ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 1280 x 1024 ● 1600 x 1200 ● フルスクリーン
画面の色深度	<p>画面の色深度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 64 K ● 256 ● 16 M
自動再接続	Thin Client が Citrix セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で設定するには、このオプションを選択します。このオプションは、[自動再接続] チェックボックスを選択すると表示されます。

リモート接続の設定 - VMware

VMware View プローカ接続を作成するには、このページを使用します。

表 198. リモート接続の設定 - VMware

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後、接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
VMware サーバアドレス	VMware View サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
VMware サーバのポート番号	ホストのポート番号を入力します。
セキュア接続 (SSL) の使用	SSL 接続を使用するには、このオプションを選択します。
プロトコル	[PCOIP]、[RDP] または [Blast] をプロトコルとして設定するには、このオプションを選択します。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
NLA を有効にする	ネットワークレベル認証を有効にするには、このオプションを選択します。[RDP] オプションがプロトコルとして設定されている場合、このオプションが表示されます。

表 198. リモート接続の設定 - VMware

オプション	説明
ユーザー名	PCoIP プロトコルが選択されているときは、ユーザー名を入力します。
パスワード	PCoIP プロトコルが選択されているときは、パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
インタラクティブモード	このオプションを選択して、ユーザーインタラクティブモードを有効にします。
サーバ URL/ ホスト フィールドをロック	サーバ URL をロックするには、このチェックボックスを選択します。
セキュリティモード	セキュリティモードを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 信頼できないサーバに接続しません ● 信頼できないサーバに接続する前に、警告を表示します ● サーバ ID 証明を確認しません。
全画面モード	リモートセッションを全画面モードで表示するには、このオプションを選択します。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● すべてのモニターを使用 ● フルスクリーン ● 大画面 ● 小画面 ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 640 x 480
全画面ドロップダウンメニューバーを無効にする	全画面モードでドロップダウンメニューバーを無効にするには、このオプションを選択します。
このデスクトップを自動的に起動	接続成功時に自動的に起動する公開デスクトップの名前を指定するには、このオプションを選択します。
自動再接続	Thin Client が VMware セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。[自動再接続] チェックボックスを選択すると、このオプションが表示されます。

リモート接続の設定 - RDP

RDP プローカ接続を作成するには、このページを使用します。

表 199. リモート接続の設定 - RDP

表 199. リモート接続の設定 - RDP

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力するには、このオプションを使用します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
サーバ IP アドレス	サーバ名または IP アドレスを入力します。
スマートカードログイン	スマートカード認証を有効にするには、このオプションを選択します。
ネットワークレベル認証 (NLA)	ネットワークレベル認証を有効にするには、このオプションを選択します。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● 640 x 480 ● 1024 x 768 ● 800 x 600 ● 1280 x 1024 ● 1600 x 1200 ● フルスクリーン
すべてのプリンタを転送	すべてのプリンタをリモート接続に転送するには、このオプションを選択します。
自動再接続	Thin Client が RDP セッションに自動的に再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。このオプションは、[自動再接続] チェックボックスを選択すると表示されます。
すべてのドライブを単一の共有名にマップ - WyseUSB	すべてのデバイスを単一の共有名 (WyseUSB) にマップするにはこのオプションを選択します。

表 200. RD ゲートウェイの設定

オプション	説明
RD ゲートウェイ設定を使用	RD ゲートウェイ設定を使用するには、このオプションを選択します。[RD サーバ] および [RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用] オプションが表示されます。
RD サーバ	RD ゲートウェイホストアドレスを指定するには、このオプションを選択します。
RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用	RD ゲートウェイにリモートデスクトップ資格情報を使用するには、このオプションを選択します。

リモート接続の設定 - ブラウザ

このセクションを使用して、リモート接続ブラウザを設定します。

表 201. リモート接続の設定 - ブラウザ

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を入力します。
ログオン時に接続を自動起動	ログイン時に接続を自動的に開始するには、このオプションを選択します。
URL	開始 URL を入力します。
キオスクモード	このオプションを選択して、キオスクモードを有効にします。
RC はキオスクモードでパネルを無効化	キオスクモードで RC パネルを無効にするにはこのオプションを選択します。
ウィンドウのサイズ	ウィンドウサイズを設定するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するウィンドウのサイズを選択します。
自動再接続	Thin Client で、ブラウザに自動で再接続できるようにするには、このオプションを選択します。
再接続を試行するまでの待機時間	再接続を試行するまでの待機時間を秒単位で入力します。このオプションは、[自動再接続] チェックボックスを選択すると表示されます。

詳細設定

設定は、[詳細設定] オプションで INI パラメータを指定することにより、ThinLinux クライアントデバイスに適用できます。デルでは、その他のオプションですでに設定されているポリシーに INI パラメータを指定しないことをお勧めしています。パスワードのエンコードと暗号化は、パスワードのパラメータに適用されません。

表 202. 詳細設定

オプション	説明
グローバル INI なし	選択した場合、グローバル INI パラメータはファイルサーバからダウンロードされません。 Thin Client のライン 1 からライン 20 に INI パラメータを入力します。

デバイス情報の設定

[デバイス情報] ページを使用して、デバイスの詳細を設定します。

表 203. デバイス情報の設定

オプション	説明
場所	デバイスの位置を入力します。
連絡先	デバイスの連絡先を入力します。
カスタム 1 ~ 3	カスタム値を入力します。

Wyse 3040 Thin Client の BIOS 設定

このページは、Wyse 3040 thin Client の BIOS 設定をするのに使用します。

表 204. 一般設定

オプション	説明
デバイスメモ	表示されたフィールドにデバイスメモを入力します。たとえば、プロパティ所有権タグです。

表 205. システムの設定

オプション	説明
UEFI ネットワークスタックを有効にする	UEFI ネットワークスタックを有効にするには、このチェックボックスを選択します。ネットワークプロトコルがインストールされ、プレ OS と初期 OS のネットワーク機能が、有効な NIC を使用するのに利用可能になります。
内蔵 NIC	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
オーディオ	オーディオデバイスを有効にするには、このオプションを選択します。

表 206. USB の設定

オプション	説明
USB 起動サポートを有効にする	USB 起動セットアップを有効にするには、このチェックボックスを選択します。USB 大容量ストレージデバイスのあらゆるタイプを起動できるようになります。
前面 USB ポートを有効化する	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、デバイスがオペレーティングシステムに対しても利用できるようになります。USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたいずれのデバイスも認識できなくなります。 i メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。
背面 - 左デュアル USB 2.0 ポートを有効にする	このポートに接続されたデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、デバイスがオペレーティングシステムに対しても利用できるようになります。USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムはこのポートに接続されたいずれのデバイスも認識できなくなります。 i メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。

表 207. ワイヤレスの設定

オプション	説明
ワイヤレスデバイス有効	チェックボックスを選択して、内蔵ワイヤレスデバイスを有効にします。

表 208. セキュリティの設定

オプション	説明
UEFI カプセルファームウェアアップデート	チェックボックスを選択して、UEFI カプセルファームウェアアップデートを介し、BIOS をアップデートします。

表 209. BIOS 管理者パスワードの設定

表 209. BIOS 管理者パスワードの設定

オプション	説明
管理者パスワードを有効にする	BIOS 管理者パスワードを有効にするには、このチェックボックスを選択します。このパスワードへの変更が正常に行われると、すぐに反映されます。
管理者パスワード	新しい BIOS Administrator パスワードを入力します。このオプションは、[管理者パスワードを有効にする] チェックボックスを選択した場合にのみ利用できます。

表 210. 電源管理の設定

オプション	説明
USB ウェイクサポート	チェックボックスを選択して、Thin Client をオフ状態から電源をオンにできるようにします。
Wake On LAN	ドロップダウンリストからオプションを選択して、Thin Client でオフ状態から電源をオンにできるようにするオプションを選択します。LAN 信号またはワイヤレス LAN 信号を使用し、Thin Client でオフ状態から電源をオンにするようトリガーすることができます。
AC リカバリ	ドロップダウンリストから、オプションを選択して AC 電源が回復したときのシステムの動作を指定します。

表 211. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 212. POST 動作の設定

オプション	説明
Numlock LED	チェックボックスを選択し、システムの再起動時に NumLock LED ライトをオンにします。
キーボードエラー	チェックボックスを選択し、システムの再起動時に、キーボード関連のエラーを表示します。
高速起動	ドロップダウンリストから、再起動プロセスの速度を向上するオプションを選択します。
延長 BIOS POST 時間	ドロップダウンリストから、POST ステータスメッセージを表示する遅延時間を選択します。

表 213. 再起動スケジュールの設定

オプション	説明
再起動オプション	システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - [再起動時間 (時間)] と [再起動時間 (分)] を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

ThinLinux を搭載した Wyse 5070 Thin Client の BIOS 設定

ThinLinux を搭載した Wyse 5070 Thin Client の BIOS を設定するには、**BIOS** 設定ページを使用します。

表 214. 一般設定

オプション	説明
デバイスメモ	表示されたフィールドにデバイスメモを入力します。たとえば、プロパティ所有権タグです。

表 215. システムの設定

オプション	説明
オーディオを有効にする	オーディオデバイスを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
UEFI ネットワークスタックを有効にする	UEFI ネットワークスタックを有効にする の場合に選択します。NIC が有効になっている場合、ネットワーキングプロトコルがインストールされ、ブリーインストール OS と初期の OS ネットワーキング機能が使用可能になります。
内蔵 NIC	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。このオプションはオンボード LAN コントローラーを制御します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 無効：IP アドレスがない場合、内蔵 LAN は無効になり、オペレーティングシステムに表示されません。 ● 有効：内蔵 LAN は有効です。 ● PXE で有効：内蔵 LAN は PXE 起動で有効になります。 <p>メモ：内蔵 NIC と内蔵 NIC 2 を無効にしないことをお勧めします。</p>
パラレルポート	ドロップダウンリストから、ドッキングステーションのパラレルポートの動作を決定するオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 無効：ポートは無効です。 ● AT：ポートは IBM AT 互換用に設定されます。 ● PS2：ポートは IBM PS2 互換用に設定されます。 ● ECP：ポートは ECP (Extended Capability Port) プロトコル用に設定されます。 <p>メモ：このオプションは、アドオンカード搭載時に拡張シャーシで使用されます。</p>
シリアルポート 1	ドロップダウンリストから、ドッキングステーションのシリアルポートの動作を決定するオプションを選択します。このオプションを使用すると、ポートのアドレスを無効化または再マッピングして、デバイス間のリソース競合を防ぐことができます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 無効：ポートは無効です。 ● COM1：ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM2：ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。 ● COM3：ポートは、IRQ 4 により 3F8h で設定されます。 ● COM4：ポートは、IRQ 3 により 2F8h で設定されます。

表 216. USB の設定

オプション	説明
USB 起動サポートを有効にする	USB 起動セットアップを有効にするには、このチェックボックスを選択します。USB 大容量ストレージデバイスのあらゆるタイプを起動できるようになります。
前面 USB ポートを有効化する	前面 USB ポートに接続されたデバイスを有効にする場合に選択します。このチェックボックスを選択した場合、オペレーティングシステムによりデバイスが検出されます。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムは前面の USB ポートに接続されたデバイスを検知できません。 <p>メモ：USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。</p>

表 216. USB の設定


オプション	説明
背面の USB ポート を有効にする	背面 USB ポートに接続されたデバイスを有効にする場合に選択します。このチェックボックスを選択した場合、オペレーティングシステムによりデバイスが検出されます。ただし、USB ポートが無効の場合、オペレーティングシステムは背面の USB ポートに接続されたデバイスを検知できません。  メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。

表 217. セキュリティの設定

オプション	説明
UEFI カプセルファームウェアアップデートを有効にする	チェックボックスを選択して、UEFI カプセルファームウェアアップデートを介し、BIOS をアップデートします。
管理者セットアップロックアウトを有効にする	管理者パスワードが設定されている場合、このチェックボックスを選択することで他のユーザーによるセットアップの起動を防止することができます。

表 218. 電源管理の設定

オプション	説明
Wake On LAN	ドロップダウンリストから、シンククライアントでオフ状態から電源をオンにするためのオプションを選択します。LAN 信号を使用して、オフ状態からの電源投入をシンククライアントに命令できます。
AC リカバリ	ドロップダウンリストから、AC 電源が回復したときのシステムの動作を指定するオプションを選択します。
USB ウェイクサポート	チェックボックスを選択して、シンククライアントをオフ状態から電源をオンにできるようにします。

表 219. POST 動作の設定

オプション	説明
NumLock LED を有効にする	選択すると、システムの再起動時に NumLock LED ライトがオンになります。
キーボードエラー検出を有効にする	選択すると、再起動時にシステムがキーボード関連のエラーを表示します。
高速起動	ドロップダウンリストから、再起動プロセスの速度を向上するオプションを選択します。
延長 BIOS POST 時間	ドロップダウンリストから、POST ステータスメッセージを表示する遅延時間を選択します。

表 220. ワイヤレスの設定

オプション	説明
WLAN/WiGig	内蔵ワイヤレスデバイスを有効にする場合に選択します。
Bluetooth	Bluetooth デバイスを有効にする場合に選択します。

表 221. BIOS 管理者パスワードの設定

オプション	説明
管理者パスワードを有効にする	BIOS 管理者パスワードを有効にするには、このチェックボックスを選択します。パスワードを変更すると、変更がすぐに適用されます。

表 221. BIOS 管理者パスワードの設定

オプション	説明
管理者パスワード	新しい BIOS 管理者パスワードを入力します。このオプションは、 管理者パスワードを有効にする チェックボックスを選択した場合にのみ利用できます。

表 222. 自動電源オンの設定

オプション	説明
自動電源オン時刻	ドロップダウンリストから、システムに自動的に電源を入れる時刻を設定します。

表 223. 再起動スケジュールの設定

オプション	説明
再起動オプション	システムの再起動が必要な BIOS 設定もあります。ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ただちに再起動 - システムをただちに再起動します。 • 後で再起動 - 再起動時間 (時間) と 再起動時間 (分) を選択して、システムの再起動時間を設定します。 • 再起動しない - システムを再起動しません。

Teradici ポリシー設定の編集

このタスクについて

Teradici ポリシーを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。
2. [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
3. [Teradici] をクリックします。
[Teradici] ページが表示されます。Teradici シンクライアントのポリシー設定には、次のオプションがあります。
 - タイムゾーン
 - 言語
 - 会社のロゴ
 - ビデオ
 - 電源
 - セキュリティ
 - ファームウェアアップグレード
 - リモート接続
4. [保存して公開] をクリックします。

タイムゾーン設定

Teradici シンクライアントのタイムゾーン設定には、[タイムゾーン] ページを使用します。

表 224. タイムゾーン設定

オプション	説明
[NTP を有効にする]	ネットワークタイムプロトコル (NTP) 機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

表 224. タイムゾーン設定

オプション	説明
[NTP サーバ]	NTP ホスト名を入力するには、このオプションを選択します。ホスト名は、IP アドレスまたは FQDN のいずれかである必要があります。
[クエリ間隔]	クエリ応答の間隔を、分、時間、日、または週で入力します。クエリ応答の間隔は、ルーターがクエリを送信してから、ホストから応答を受信するまで待機する最大時間です。
[タイムゾーン]	ドロップダウンリストから、システムのタイムゾーンを選択します。
[夏時間を有効にする]	夏時間 (DST) 機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。

言語の設定

言語の設定には、[言語] ページを使用します。

表 225. 言語の設定

オプション	説明
[言語]	言語のドロップダウンリストから、オブジェクトストレージデバイス (OSD) ユーザーインターフェースの言語を選択します。
[キーボードレイアウト]	キーボードレイアウトのドロップダウンリストから、OSD のレイアウトを選択します。

会社のロゴの設定

会社のロゴの設定には、[会社のロゴ] ページを使用します。

表 226. 会社のロゴの設定

オプション	説明
[ロゴファイル]	ドロップダウンリストから、必要なロゴファイルを選択します。 [ファイルリポジトリインベントリ] ページにある Teradici OSD ロゴファイルがロードされます。 メモ: ロゴイメージは、解像度が 24 × 256 を超えない 24 ビットマップである必要があります。これに一致しないプロパティの画像は、表示されないか、正しく表示されません。
[ビューバナーにロゴを使用する]	表示させたいロゴバナーのチェックボックスを選択します。

ビデオの設定

ビデオの設定には、[ビデオ] ページを使用します。

表 227. ビデオの設定

オプション	説明
[最低画質]	ネットワーク帯域幅が制限されている場合に、画質とフレームレートを変更できます。画質を下げてフレームレートを高めることが求められるケースもありますが、画質を上げてフレームレートを下げることが必要な場合もあります。ネットワーク帯域幅が制限されている環境では、[抑制] を選択することで、フレームレートを高くできます。画質を向上させるには、パーセプションフリー側に選択します。ネットワーク帯域幅が制限されてい

表 227. ビデオの設定 (続き)

オプション	説明
	ない場合、最低画質パラメータに関係なく PCoIP システムはパーセプションフリーの品質を維持します。注：最高初期画質は、最低画質と等しいかより高くする必要があります。
[最高画質]	抑制側に選択することで、画面コンテンツの変化によってネットワークの帯域幅がピークに達した場合に、画質の低下と引き替えにネットワークの帯域幅が削減されます。パーセプションフリー側に選択すると、画質は高まりますが、帯域幅のピークは高くなります。このパラメータは、画面変化時の最初の表示フレームでの初期品質を制限します。画像に変化がない領域は、このパラメータとは無関係にロスレス状態が維持されます。注：最高初期画質は、最低画質と等しいかより高くする必要があります。
[ローカルカーソル有効]	有効にした場合、Tera2PCoIP ゼロクライアントは常にローカルカーソルを表示します。無効にした場合、ローカルカーソルが表示されるのは、ホストが要求したとき、またはローカル端末のマウスが接続されている場合のみになります。

電源設定の実行

電源の設定には、[電源] ページを使用します。

表 228. 電源設定の実行

オプション	説明
[OSD スクリーンセーバーのタイムアウト]	これは、デバイスを非アクティブにする時間です。この時間は秒単位で入力できます。この時間を入力すると、接続されているディスプレイは低電力モードに設定されます。範囲は 10 ~ 9999 です。このオプションを無効にするには 0 を入力します。 メモ: この機能は、デバイスがセッション中でない場合にのみ適用されます。
[ディスプレイのサスペンドタイムアウト]	これは、デバイスを非アクティブにする時間です。この時間は秒単位で入力できます。この時間を入力すると、接続されているディスプレイは低電力モードに設定されます。範囲は 10 ~ 14400 です。このオプションを無効にするには 0 を入力します。 メモ: この機能は、デバイスがセッション中である場合にのみ適用されます。

セキュリティの設定

セキュリティの設定には、[セキュリティ] ページを使用します。

表 229. 証明書のアップロード

オプション	説明
[証明書]	証明書をアップロードするには、必要なチェックボックスを選択します。チェックボックスの選択を解除すると、アップロードされた証明書が削除されます。[ファイルリポジトリインベントリ] ページにアップロードされた証明書のリストが表示されます。証明書が削除されるのは、デバイスの再起動後です。アップロードできるのは [pem] ファイルのみです。

表 230. USB デバイス認証

表 230. USB デバイス認証

オプション	説明
[クラスに基づいたデバイスの許可 / 不許可]	[ステータス] および [デバイスクラス] ドロップダウンリストから、優先させるオプションを選択します。USB デバイスを許可するか不許可とするかを、クラスに基づいて認証できます。クラスを追加するには [クラスを追加] オプションをクリックします。クラスを削除するには [-] アイコンをクリックします。

表 231. 詳細設定

オプション	説明
[管理 Web インタフェースの有効化]	管理コンソールインタフェースを有効にするには、このチェックボックスを選択します。有効にした場合、PCoIP 管理コンソールによる Tera2 PCoIP ゼロクライアントの管理やアクセスはできません。
[Wake-On-LAN を有効化]	オフ状態にあるシンクライアントの電源オンを可能にするには、このチェックボックスを選択します。LAN 信号を使用して、Thin Client がオフ状態からの電源投入をトリガーできます。
[電力損失後の電源オンを有効化]	電源供給の開始時にシンクライアントをオフ状態から電源オンにできるようにするには、このチェックボックスを選択します。
[ユーザー名を記憶]	最後に入力されたユーザー名を自動的に入力させるには、このチェックボックスを選択します。
[セキュリティの設定]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 低 ● 中 ● 高

表 232. 管理者パスワード

オプション	説明
[管理者パスワード]	管理 Web インタフェース (AWI) およびローカル OSD インタフェースの新しい管理用パスワードを入力します。

ファームウェア設定のアップグレード

ファームウェア設定のアップグレードには、[ファームウェアアップグレード] ページを使用します。

表 233. ファームウェア設定のアップグレード

オプション	説明
[ライブアップグレードを有効にする]	ライブアップグレードプロセスを有効にするには、このオプションを選択します。この機能を使用すると、ファームウェアのダウンロードと適用が、ダウンロード直後に実施されます。システムは自動的に再起動して、[ライブアップグレードを有効にする] の変更が適用されます。この機能を無効にした場合、ファームウェアはシステムにダウンロードされますが、インストールは実施されません。システムによるファームウェアの適用は、次の再起動まで保留されます。
[自動導入のためのファームウェア]	ファイルリポジトリインベントリのページにアップロードされたファームウェアファイルのリストがロードされます。ドロップダウンリストから、シンクライアントをアップグレードするファームウェアファイルを選択します。セキュリティレベルは、[高セキュリティ環境] に設定する必要があります。

リモート接続の設定

リモート接続の設定には、[リモート接続] ページを使用します。

表 234. リモート接続 (続き)

オプション	説明
[セッションの接続タイプ]	ド롭ダウンリストから、接続タイプを選択します。使用可能な接続タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> View Connection Server PCoIP Connection Server 選択した接続タイプに基づいて、設定オプションが変わります。
[モデル DCTA]	ド롭ダウンリストから、セッションタイプを選択します。使用可能なセッションタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 基本 自動ログオン キオスク Imprivata OneSign
[ホスト名 / IP アドレス]	DNS 名または IP アドレスを入力します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [基本]、[自動ログオン]、および [キオスク] である場合に適用されます。
[サーバ URI]	[PCoIP 接続マネージャ] の統一資源識別子 (URI) を入力します。アドレスは次のフォーマットにする必要があります。 https://[ホスト名] [IP アドレス] このオプションは、接続タイプが [PCoIP Connection Server] で、セッションタイプが [基本] または [自動ログオン] の場合に適用されます。
[ログオンユーザー名]	クライアントのユーザー名を入力します。ユーザー名の長さは最大 128 文字までです。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] または [PCoIP Connection Server] で、セッションタイプが [自動ログオン] である場合に適用されます。
[ログオンパスワード]	クライアントのパスワードを入力します。パスワードの長さは最大 128 文字までです。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] または [PCoIP Connection Server] で、セッションタイプが [自動ログオン] である場合に適用されます。
[ログオンドメイン名]	シンクライアントのドメイン名を入力します。ドメイン名の長さは最大 256 文字までです。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] または [PCoIP Connection Server] で、セッションタイプが [自動ログオン] である場合に適用されます。
[ユーザー名タイプ]	ド롭ダウンリストから、ユーザー名のタイプを選択します。ユーザー名は、View Connection Server のデバイス名と一致する必要があります。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] でセッションタイプが [キオスク] である場合に適用されます。
[パスワード]	キオスク仮想マシンを保護するためのパスワードを入力します。パスワードは、View Connection Server のデバイスパスワードと一致する必要があります。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] でセッションタイプが [キオスク] である場合に適用されます。
[ブートストラップ URL]	OneSign 認証の導入において最初の OneSign サーバの検索に使用するブートストラップ URL を入力します。このオプション

表 234. リモート 接続

オプション	説明
	は、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [Imprivata OneSign] である場合に適用されます。

表 235. 詳細オプション

オプション	説明
[セキュア接続 (SSL) の使用]	SSL 接続を使用するには、このオプションを選択します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [基本]、[自動ログオン]、および [キオスク] である場合に適用されます。
[起動時には常にこのサーバに接続]	サーバに自動的に接続するにはこのオプションを選択します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [基本]、[自動ログオン]、および [キオスク] である場合に適用されます。
[デスクトップが1つだけの場合は自動起動]	プロビジョニングされたデスクトップまたはアプリケーションに接続するには、このオプションを選択して資格情報を入力します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [基本]、[自動ログオン]、および [キオスク] である場合に適用されます。
[OneSign プール名モード]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [Imprivata OneSign] である場合に適用されます。
[選択するプール名]	プール名を入力します。入力されたプール名がリストに含まれている場合、クライアントはそのプールとのセッションをただちに開始します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [Imprivata OneSign] である場合に適用されます。
[OneSign のアプライアンス検証]	OneSign アプライアンスサーバから提供された証明書に対する検証タイプを、ドロップダウンリストから選択します。このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [Imprivata OneSign] である場合に適用されます。
[直接表示アドレス]	OneSign サーバに到達できない場合に使用するアドレスを入力します。アドレスは次のフォーマットにする必要があります。 https://[ホスト名] [IP アドレス] このオプションは、接続タイプが [View Connection Server] で、セッションタイプが [Imprivata OneSign] である場合に適用されます。
[証明書チェックモード]	接続サーバから提供された証明書に対する検証レベルを、ドロップダウンリストから選択します。このオプションは、接続タイプが [PCoIP Connection Server] である場合に適用されます。
[証明書チェックモードのロックアウト]	このオプションは、必要な場合に選択します。このオプションは、接続タイプが [PCoIP Connection Server] である場合に適用されます。
[セッション切断ホットキーを有効にする]	この機能を有効にするには、チェックボックスをオンにします。Ctrl+Alt+F12 ホットキーシーケンスを押すと、[ゼロクライアントコントロールパネル] 画面が表示されます。ワークステーションの現在のセッションを切断するか、ワークステーションの電源を切ることができます。このオプションは、接続タイプが [PCoIP Connection Server] である場合に適用されます。

表 236. 使用可能なブローカサーバ

オプション	説明
[サーバーのタイプ]	ドロップダウンリストから、サーバタイプを選択します。使用可能な接続タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● View Connection Server ● PColP Connection Server
[キャッシュモード]	ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
[ブローカサーバ]	[サーバの追加] オプションをクリックして、ブローカ接続を追加します。

Wyse Software Thin Client ポリシー設定の編集

このタスクについて

Wyse Software Thin Client ポリシー設定項目を編集するには、次の操作を行います。

手順

- [グループ & 設定] をクリックします。
[グループ & 設定] ページが表示されます。
- [ポリシーの編集] ドロップダウンメニューをクリックします。
- [Wyse Software Thin Client] をクリックします。
[Wyse Software Thin Client] ページが表示されます。Wyse Software Thin Client のポリシー設定には次のオプションが含まれません。
 - システムの個人設定
 - デスクトップエクスペリエンス
 - ネットワーク
 - セキュリティとロックダウン
 - その他の設定
 - リモート接続 Citrix
 - リモート接続 VMware
 - リモート接続 RDP
 - リモート接続ブラウザ
 - デバイス情報
 - Wyse Easy Setup (2.0 以降)
 - VNC 設定
 - ドメイン設定
- ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

システムの個人設定

Wyse ソフトウェアデバイスの解像度、色深度、デュアルモニター、タイムゾーン、マウス、オーディオオプションなど、Thin Client の表示を設定するには、このページを使用します。

表 237. 表示オプションの設定

オプション	説明
デュアルモニターを有効にする	デュアルモニター機能を有効にするには、このオプションを選択します。
モニターの解像度 (プライマリ)	モニターの解像度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、適切な解像度を選択します。

表 237. 表示オプションの設定

オプション	説明
ディスプレイ ID (プライマリ)	モニターのディスプレイ ID を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、適切なモニターの識別番号を選択します。
モニターの回転 (プライマリ)	モニターの向きを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 横 ● 縦 ● 横 - 反転 ● 縦 - 反転

表 238. キーボードオプションの設定 (続き)

オプション	説明
言語	キーボードに1つ、または複数の入力言語を選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボード入力言語を選択します。
キーボードレイアウト	適切なキーボードレイアウトを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するキーボードレイアウトを選択します。
点滅速度	要件に応じて、カーソルがさらに目立つように、または目立たないように、カーソル (挿入位置) が点滅する速度を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するカーソル点滅速度を選択します。
キーボードプリファランス	キーボードのホットキーを設定するには、このオプションを選択します。
キーボードのリピート入力までの遅延	押した文字が繰り返し入力されるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、目的に応じて次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 短 ● 中 - 短 ● 中 - 長 ● 長
キーボードのリピート入力速度	キーボードのリピート入力速度 (キーボードのキーを長押ししたときにキーの入力が繰り返される速度) を設定するには、このオプションを選択します。
メニューアクセス	キーボードでメニューアクセスキーを有効にするには、このオプションを選択します。
MS Gina キーボードレイアウト	Windows のログイン画面で [キーボードの選択] 画面を表示する場合に選択します。 MS Gina キーボードレイアウトの機能を使用すると、ログイン画面で、Windows デバイスで使用する言語とキーボードレイアウトを選択できます。たとえば、次のとおりです。 Windows 資格情報が英語以外で、Windows システムに接続されているキーボードが英語である場合。Windows のログイン画面で言語とキーボードレイアウトを変更または選択するオプションがないため、資格情報を入力することはできません。

表 238. キーボードオプションの設定

オプション	説明
	<p>使用する言語、代替言語とキーボードレイアウトは、[MS Gina キーボードレイアウト] と共に Wyse Management Suite サーバで設定できます。言語やキーボードの設定を適用すると、Windows のログイン画面に MS Gina キーボードレイアウトが表示されます。</p> <p>Windows のログイン画面で、使用する言語とキーボードレイアウトを変更または選択できます。</p> <p>メモ: 自動ログイン設定が無効になっていると、Windows ログイン画面が表示されます。Wyse Management Suite サーバから [MS Gina キーボードレイアウト] 設定を適用するには、書き込みフィルタ オプションを無効にして有効にする必要があります。Windows システムが 2 回再起動します。</p>

表 239. マウスの設定

オプション	説明
マウスの速度	マウスデバイスを動かしたときのマウスポインタの速度を指定するには、このオプションを選択します。
左利き用マウス	左クリックと右クリックのマウスボタンを入れ替えるには、このオプションを選択します。

表 240. 基本マウスオプションの設定

オプション	説明
クリックロック	<p>マウスボタンを押さずにポインタをハイライトまたはドラッグするには、このオプションを選択します。</p> <p>[クリックロック時間] オプションを設定するには、ドロップダウンメニューから、マウスボタンが押し下げられクリックがロックされるまでの適切な時間を選択します。</p>
ダブルクリックの速度	2 回続けて行うマウスクリックの 1 回目と 2 回目の時間間隔を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。

表 241. マウスポインタオプションの設定

オプション	説明
マウスポインタを探す	<p>マウスポインタが動いていないときに見つけるには、このオプションを選択します。</p> <p>メモ: キーボードの Ctrl キーを押すと、動いていない状態でマウスポインタを見つけることができます。</p>
マウスポインタを隠す	<p>停止時にマウスポインタを非表示にするには、このオプションを選択します。</p> <p>メモ: 停止時にマウスポインタを見つけるには、Ctrl キーを押します。</p>
ポインタの軌跡の長さ	マウスポインタを動かしたときのポインタの軌跡の長さを定義するには、このオプションを選択します。
マウスポインタをスナップ	ダイアログボックスのデフォルトのボタンにポインタを自動的に移動するには、このオプションを選択します。

表 242. マウスの垂直方向

オプション	説明
スクロール行数	マウスの縦スクロールを使用するとき一度にスクロールする行数を定義するには、このオプションを選択します。

表 243. 現在のタイムゾーン

オプション	説明
タイムサーバ (NTP サーバ)	ローカル時刻の同期を有効にするタイムサーバを表示するには、このオプションを選択します。カンマで区切られた NTP サーバを入力します。

表 244. タイムゾーンオプションの設定

オプション	説明
タイムゾーン名	デバイスのタイムゾーンを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するタイムゾーンを選択します。

表 245. オーディオの設定

オプション	説明
オーディオミュート	デバイスのオーディオをミュートするには、このオプションを選択します。
オーディオ音量	デバイスのオーディオ音量を調整するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する音量オプションを選択します。
マイクミュート	マイクをミュートするには、このオプションを選択します。
マイク音量	マイクの音量を調整するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する音量オプションを選択します。

デスクトップエクスペリエンスの設定

このページを使用して、デスクトップの壁紙などの Thin Client の設定、および Wyse ソフトウェアデバイスのデスクトップの色を設定します。

表 246. デスクトップエクスペリエンスの設定

オプション	説明
デスクトップの壁紙	<p>デスクトップの壁紙を設定するには、このオプションを選択します。</p> <p>デスクトップの壁紙オプションを有効にした後、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [壁紙ファイル] ドロップダウンリストから、デスクトップの壁紙を選択します。 <p>① メモ:</p> <p>壁紙は、ファイルリポジトリにアップロードされたイメージのリストからのみ選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [壁紙のレイアウト] ドロップダウンリストから、デスクトップの壁紙に次のいずれのレイアウトを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 中央揃え タイル表示

表 246. デスクトップエクスペリエンスの設定 (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ストレッチ ○ 幅に合わせる
デスクトップの色	ローカルデスクトップの背景色を定義するには、このオプションを選択します。

ネットワークの設定

このページを使用して、Wyse ソフトウェアデバイスのネットワーク設定を構成します。

表 247. ネットワークの設定

オプション	説明
ワイヤレス通信の状態	<p>このオプションを選択して、ワイヤレスラジオの状態を有効にします。</p> <p>メモ: このオプションは、デバイスをオンまたはオフにするのと似ています。</p>
Windows ワイヤレスプロファイル	<p>Windows ワイヤレスプロファイルを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望する Windows ワイヤレスプロファイルを選択します。</p> <p>メモ: プロファイルは、ファイルリポジトリにアップロード済みのワイヤレスプロファイルのリストからのみ選択します。</p>

セキュリティおよびロックダウンの設定

このページを使用してセキュリティとロックダウン設定を構成します。

表 248. セキュリティとロックダウン

オプション	説明
インストール証明書	ファイルリポジトリにアップロードされた証明書を表示するには、このオプションを選択します。
USB ストレージデバイスアクセスを無効にする	管理者以外のユーザーに USB ストレージデバイスへのアクセスを有効または無効にするには、このオプションを選択します。
Print Screen を無効にする	管理者以外のユーザーに Print Screen 機能を有効または無効にするには、このオプションを選択します。
タスクマネージャーを無効にする	管理者以外のユーザーにタスクマネージャーへのアクセスを有効または無効にするには、このオプションを選択します。

その他の設定

Wyse ソフトウェアデバイスの電源、共有ドライブ、クロック設定などの Thin Client の設定を行うには、このページを使用します。

表 249. アプライアンスモードの設定

オプション	説明
アプリケーションモード	アプライアンス用の適切なモードを設定するには、このオプションを選択します。アプライアンスモードオプションでは、ア

表 249. アプライアンスモードの設定 (続き)

オプション	説明
	<p>アプリケーションをキオスクモードで起動し、デスクトップまたはその他のアプリケーションにはアクセスしません。アプライアンスモードの解除は、事前に設定されたキー操作で行います。たとえば、Ctrl+Shift+A キーを押します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オフ ● 汎用 ● VMware View ● Citrix ● Internet Explorer ● RDP
アプライアンスモードを終了	<p>ショートカットキーを使用して、アプライアンスモードから終了するには、このオプションを選択します。</p>

表 250. 電源設定

オプション	説明
デバイスの電源プラン	<p>デバイスの電源プランを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バランス ● 省電力

表 251. バッテリーの電源設定

オプション	説明
デバイスのスリーププラン (バッテリー駆動時)	<p>デバイスがスリープモードに入るまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。</p>
ディスプレイを暗くする (バッテリー駆動時)	<p>ディスプレイを暗くするまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。</p>
ディスプレイをオフにする (バッテリー駆動時)	<p>ディスプレイがオフになるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンリストから、待機時間を選択します。</p>

表 252. プラグイン時の電源設定

オプション	説明
デバイスのスリーププラン (電源接続時)	<p>デバイスがスリープモードに入るまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。</p>
ディスプレイを暗くする (電源接続時)	<p>ディスプレイを暗くするまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。</p>
ディスプレイをオフにする (電源接続時)	<p>ディスプレイがオフになるまでの時間を設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、待機時間を選択します。</p>

表 253. 共有ドライブの設定

表 253. 共有ドライブの設定


オプション	説明
共有ドライブ	共有ドライブをデバイスに追加するには、このオプションを選択します。[共有ドライブの追加] をクリックします。共有ドライブの共有名、リモートドライブパス、ユーザー名、パスワードを入力します。  メモ: リストから共有ドライブを削除するには、削除する共有ドライブを選択して [削除] をクリックします。

表 254. クロック設定

オプション	説明
クロック 1	デバイスのクロック 1 を設定するには、このオプションを選択します。 クロック 1 を有効にした後、クロックの [表示名] を設定します。ドロップダウンメニューから、クロック 1 の [タイムゾーン] を選択します。
クロック 2	デバイスのクロック 2 を設定するには、このオプションを選択します。 クロック 2 を有効にした後、クロックの [表示名] を設定します。ドロップダウンメニューから、クロック 2 の [タイムゾーン] を選択します。

リモート接続の設定 - Citrix

Wyse ソフトウェア Thin Client でアクセスできる Citrix リモート接続を設定するには、このページを使用します。

表 255. 基本オプションの設定

オプション	説明
接続名	接続を識別するために名前を設定するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に、接続によるセッションの自動的な開始を有効にするには、このオプションを選択します。
接続の種類	接続タイプを設定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix XenApp ● Citrix XenDesktop ● Citrix Gateway ● Citrix StoreFront
Citrix Server の FQDN または IP アドレス	Citrix のサーバをリストするには、このオプションを選択します。接続にカンマで区切られた ICA ブラウザのリストを入力します。
公開アプリケーション	起動したい公開アプリケーションを指定するには、このオプションを選択します。
シングルサインオン	接続のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。シングルサインオンを有効にした場合は、Windows ログイン資格情報を使用して Citrix サーバに接続します。
ユーザー名	シングルサインオンが無効になっている場合、Citrix 接続のユーザー名を定義するには、このオプションを選択します。

表 255. 基本オプションの設定

オプション	説明
パスワード	シングルサインオンが無効になっている場合、Citrix 接続のパスワードを定義するには、このオプションを選択します。
ドメイン名	Citrix 接続のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。
ウィンドウのサイズ	Citrix 接続のウィンドウサイズを指定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、ウィンドウサイズを選択します。
画面の色深度	Citrix 接続の画面の色深度を定義するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● 速度重視 16 ビット ● 表示重視 32 ビット
自動再接続	接続が切断された場合、自動的に接続を復元するには、このオプションを選択します。
音質	Citrix 接続の音質を指定するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトのユーザーオーディオ設定 ● 高精細 ● 音声用に最適化 ● 低帯域 ● オフ
ユーザーによるキーの組み合わせをパススルー	Windows ユーザーキーの組み合わせを適用するウィンドウを指定するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトのユーザーキーコンボパススルー ● ローカルデスクトップ ● リモートデスクトップ ● 全画面デスクトップのみ

表 256. アプリケーション表示の設定

オプション	説明
デスクトップ表示	デスクトップで Citrix 接続を表示するには、このオプションを選択します。 このオプションを有効にした後、接続に [デスクトップフォルダ名] を指定します。
スタートメニュー表示	接続するデスクトップのスタートメニュー表示を有効にするには、このオプションを選択します。 このオプションを有効にした後、接続に [スタートメニュー表示フォルダ] を指定します。
システムトレイ表示	通知領域に Citrix 接続アイコンを表示するには、このオプションを選択します。

表 257. サーバオプションの設定


表 257. サーバオプションの設定

オプション	説明
ログオン方法	Citrix 接続のログオン方法を選択するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのログオン方法 ログオン方法を確認

表 258. 詳細設定

オプション	説明
全画面ポップアップを無効にする	全画面ポップアップ警告を無効にするには、このオプションを選択します。
ログオン - アクティブセッションおよび切断されているセッションに接続	ログインした後、アクティブなセッションと切断済みのセッションに接続するには、このオプションを選択します。
メニュー - アクティブセッションおよび切断されているセッションに接続	アクティブなセッションと切断済みのセッションに接続するには、このオプションを選択します。
メニューから再接続	クライアントメニューから既存のセッションに再接続するには、このオプションを選択します。

表 259. フラッシュリダイレクトの設定

オプション	説明
Flash Remoting の使用	リモートサーバではなくクライアントデバイスで Flash コンテンツを描画するには、このオプションを選択します。
サーバ側コンテンツフェッチを有効にする	コンテンツをサーバにダウンロードしてユーザーデバイスに送信するには、このオプションを選択します。
サーバ HTTP Cookie を使用	クライアント側 HTTP Cookie をサーバ側と同期するには、このオプションを選択します。
クライアント側コンテンツフェッチの URL 書き換えルール	クライアント側フェッチのためにユーザーのデバイスを他のサーバにリダイレクトするルールを追加するには、このオプションを選択します。[項目を追加] をクリックして、コンテンツルール名およびコンテンツルール値を入力します。  メモ: リストから項目を削除するには、削除する項目を選択して [削除] をクリックします。

リモート接続の設定 - VMware

Wyse ソフトウェア Thin Client でアクセスできる VMware リモート接続を設定するには、このページを使用します。

表 260. リモート接続の設定 - VMware (続き)

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
VMware サーバアドレス	VMware 接続のサーバ名を入力するには、このオプションを選択します。
プロトコル	VMware 接続のプロトコルを選択するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> PCOIP

表 260. リモート接続の設定 - VMware

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● RDP ● Blast
現在のユーザーとしてログイン	接続のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。[現在のユーザーとしてログイン] オプションを有効にする場合は、Windows ログイン資格情報を使用してVMware サーバに接続します。
ユーザー名	シングルサインオンが無効になっている場合、VMware 接続のユーザー名を定義するには、このオプションを選択します。
パスワード	シングルサインオンが無効になっている場合、VMware 接続のパスワードを定義するには、このオプションを選択します。
ドメイン名	VMware 接続のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。
セキュリティモード	サーバへのセキュア接続を確認できない場合にクライアント接続を指定するには、このオプションを選択します。
全画面モード	全画面モードで VMware 接続のウィンドウを設定するには、このオプションを選択します。 全画面モードを選択しない場合、ドロップダウンメニューから、[ウィンドウサイズ] を選択します。
全画面ドロップダウンメニューバーを表示	接続の [全画面モード] ドロップダウンメニューを表示するには、このオプションを選択します。
このデスクトップを自動的に起動	接続の成功時に起動する公開デスクトップを指定するには、このオプションを選択します。
自動再接続	接続が切断した場合、自動的に再接続するには、このオプションを選択します。
ブローカ	[表示接続] ブローカのホスト名または IP アドレスを定義するには、このオプションを選択します。
ブローカ履歴	[表示接続] ブローカの以前に使用したホスト名または IP アドレスを指定するには、このオプションを選択します。

リモート接続の設定 - RDP

Wyse ソフトウェア Thin Client でアクセスできる RDP リモート接続を設定するには、このページを使用します。

表 261. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
サーバアドレス	接続のサーバ名を入力するには、このオプションを選択します。
シングルサインオン	接続のシングルサインオン機能を有効にするには、このオプションを選択します。[現在のユーザーとしてログイン] オプションを有効にする場合は、Windows ログイン資格情報を使用してサーバに接続します。
ユーザー名	シングルサインオンが無効になっている場合、接続のユーザー名を定義するには、このオプションを選択します。

表 261. 基本設定

オプション	説明
パスワード	シングルサインオンが無効になっている場合、接続のパスワードを定義するには、このオプションを選択します。
ドメイン名	接続のドメイン名を定義するには、このオプションを選択します。
自動再接続	接続が切断された場合、接続の自動的な再接続を有効にするには、このオプションを選択します。

表 262. RD ゲートウェイの設定

オプション	説明
RD ゲートウェイ設定を使用	<p>RD ゲートウェイを設定するには、このオプションを選択します。このオプションを有効にした後、ゲートウェイの [RD サーバ] 名を入力します。RD ゲートウェイとの接続を検証する資格情報を指定します。</p> <p>[RD ゲートウェイのログオン方法] ドロップダウンメニューからは、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パスワード NTLM を要求 ● スマートカード ● 後からの選択を許可する <p>[RD ゲートウェイの使用方法] ドロップダウンメニューから、リモートデスクトップサーバを使用するための以下のいずれかの方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RD ゲートウェイサーバを使用しない - すべての IP アドレス ● RD ゲートウェイサーバ設定を使用 ● ローカル以外の IP アドレスの場合のみ、RD ゲートウェイサーバ設定を使用 ● デフォルト設定を使用 ● ローカル IP アドレスのみ
リモートデスクトップゲートウェイの KDC プロキシ	KDC プロキシを設定するには、このオプションを選択します。このオプションを有効にした後、サーバの [KDC プロキシ名] を入力します。

表 263. 表示の設定 (続き)

オプション	説明
全画面	<p>全画面モードで接続のウィンドウを設定するには、このオプションを選択します。</p> <p>全画面モードが有効になった後で、ドロップダウンメニューからウィンドウサイズを選択します。</p>
接続バーを表示	全画面モードで接続バーを表示するには、このオプションを選択します。
マルチモニターのサポート	マルチモニターサポートを有効にするには、このオプションを選択します。
画面の色深度 (ビット数)	<p>接続の画面の色深度を定義するには、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● RDP 15 ビット High Color ● RDP 16 ビット High Color

表 263. 表示の設定

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● RDP 24 ビット True Color ● RDP 32 ビット 最高画質

表 264. その他の設定 - ローカルおよびパラメータ

オプション	説明
リモートオーディオの再生	リモート接続でオーディオの再生を管理するには、このオプションを選択します。
リモートオーディオ録音を有効にする	オーディオをリモートで録音するには、このオプションを選択します。
Windows キーを適用	Windows キーを適用するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
接続時に次のプログラムを開始	システムが接続した直後に、選択したプログラムを起動するには、このオプションを選択します。このオプションを有効にした後、[プログラムのパスとファイル名] を入力し、[次のフォルダで開始] フィールドでフォルダの詳細を指定します。
資格情報を要求	資格情報を入力するには、このオプションを選択します。
セキュリティ層をネゴシエート	クライアントによってサポートされている最もセキュアな層を使用するには、このオプションを選択します。
圧縮を有効化	ファイルを自動的に圧縮してファイルのサイズを縮小し、ファイルをダウンロードする時間を短縮するには、このオプションを選択します。
ビデオ再生を有効にする	リモートセッションで、リモートコンピュータのオーディオをリダイレクトし、ビデオの再生環境を向上するには、このオプションを選択します。
ワークスペースの再接続を有効にする	ワークスペースに再接続するには、このオプションを選択します。

表 265. ローカルリソースの設定

オプション	説明
クリップボードをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルクリップボードを使用するには、このオプションを選択します。
COM ポートをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカル COM (シリアル) ポートを使用するには、このオプションを選択します。
DirectX をリダイレクト	クライアントコンピュータで DirectX をリダイレクトするには、このオプションを選択します。このオプションはリモート接続で利用できます。
ドライブをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルドライブを使用するには、このオプションを選択します。
POS デバイスをリダイレクト	リモート接続で、バーコードスキャナやデバイスの磁気リーダーなどの POS デバイスを使用するには、このオプションを選択します。
すべてのプリンタを転送	リモート接続で、デバイスのローカルプリンタを使用するには、このオプションを選択します。
スマートカードをリダイレクト	リモート接続で、デバイスのローカルスマートカードを使用するには、このオプションを選択します。

表 266. その他の設定 - エクスperiences

表 266. その他の設定 - エクスペリエンス

オプション	説明
パフォーマンスを最適化する接続速度	パフォーマンスを最適化する接続速度を指定するには、このオプションを選択します。
デスクトップの背景	接続のデスクトップの背景を有効にするには、このオプションを選択します。
視覚スタイル	接続の視覚スタイルを有効にするには、このオプションを選択します。
フォントスムージング	接続のフォントスムージングを有効にするには、このオプションを選択します。
永続的なビットマップキャッシング	接続の永続的なビットマップキャッシングを有効にするには、このオプションを選択します。
デスクトップコンポジション	接続のデスクトップコンポジションを有効にするには、このオプションを選択します。
カーソル設定を無効にする	接続のカーソル設定を無効にするには、このオプションを選択します。
ドラッグしながらウィンドウコンテンツを表示	ウィンドウのドラッグ中にウィンドウコンテンツを表示するには、このオプションを選択します。
メニューおよびウィンドウアニメーション	接続でメニューとウィンドウのアニメーションを有効にするには、このオプションを選択します。
リダイレクトサーバ名を使用	リダイレクトサーバ名の使用を有効にするには、このオプションを選択します。
サーバの認証に失敗した場合	サーバ認証に失敗した場合に実行する必要があるアクションを指定するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 接続し、警告しない ● 接続しない ● 警告する

リモート接続の設定 - ブラウザ

Wyse ソフトウェア Thin Client でアクセスできるリモート接続ブラウザを設定するには、このページを使用します。

表 267. 基本設定

オプション	説明
接続名	接続を識別する名前を定義するには、このオプションを選択します。
ログオン時に接続を自動起動	ログインした後に自動的に接続が開始される機能を有効にするには、このオプションを選択します。
URL	ブラウザのデフォルト URL を指定するには、このオプションを選択します。
インターネットゾーンのセキュリティレベル	インターネットゾーンで Internet Explorer のセキュリティを設定するには、このオプションを選択します。
ローカルゾーンのセキュリティレベル	ローカルゾーンで Internet Explorer のセキュリティを設定するには、このオプションを選択します。
信頼済みゾーンのセキュリティレベル	信頼済みサイトで Internet Explorer のセキュリティを設定するには、このオプションを選択します。
制限付きゾーンのセキュリティレベル	制限付きサイトで Internet Explorer のセキュリティを設定するには、このオプションを選択します。

表 268. Internet Explorer (IE) のお気に入りと信頼済みサイトの設定

オプション	説明
IE のお気に入り	<p>お気に入りと信頼済みサイトを追加するには、このオプションを選択します。お気に入りと信頼済みサイトを追加するには、次のステップを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [サイトを追加] をクリックして、フォルダ名、URL、および説明を入力します。 • [ショートカットの作成] をクリックして、サイトのショートカットを作成します。 • [削除] をクリックし、リストからサイトを削除します。 <p>メモ: [信頼済みサイト] チェックボックスが選択されているとき、URL は https:// で始まる必要があります。</p>
ゾーン内のすべてのサイトにサーバの確認が必要 (https)	<p>ゾーン内のすべてのサイトに対するサーバの確認を有効にするには、このオプションを選択します。</p>

表 269. Internet Explorer (IE) プロキシの設定

オプション	説明
プロキシを有効にする	<p>ブラウザのプロキシを設定するには、このオプションを選択します。</p>

表 270. ファイアウォールの設定

オプション	説明
ドメインファイアウォール	<p>ドメインのファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。</p>
プライベートファイアウォール	<p>プライベートファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。</p>
パブリックファイアウォール	<p>パブリックファイアウォールを有効にするには、このオプションを選択します。</p>

表 271. Aero (Windows Embedded Standard 7 で有効) の設定

オプション	説明
Aero	<p>ブラウザの Aero 機能を有効にするには、このオプションを選択します。</p> <p>メモ: この機能は Windows Embedded Standard 7 でのみ使用できます</p>

デバイス情報の設定

[デバイス情報] ページを使用して、デバイスの種類を設定します。

表 272. デバイス情報の設定

オプション	説明
場所	<p>デバイスの位置を入力します。</p>
連絡先	<p>デバイスの連絡先を入力します。</p>
カスタム 1 ~ 3	<p>カスタム値を入力します。</p>

Wyse Easy Setup のバージョン設定

[Wyse Easy Setup (2.0)] ページでは、コントロールパネルおよびユーザーインターフェースの Wyse Easy Setup 設定項目を設定します。

表 273. システムの設定

オプション	説明
[地域と言語]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの 地域と言語 オプションにアクセスできます。
[日付と時刻]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの 日付と時刻 オプションにアクセスできます。
[ディスプレイ]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの ディスプレイ オプションにアクセスできます。
[ネットワーク]	このチェックボックスを選択すると、ローカルシステムのコントロールパネルの ネットワーク オプションにアクセスできます。
[簡単操作]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの 簡単操作 オプションにアクセスできます。

表 274. 周辺機器の設定

オプション	説明
[マウス]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの マウス オプションにアクセスできます。
[キーボード]	このチェックボックスを選択すると、コントロールパネルの キーボード オプションにアクセスできます。

表 275. キオスクモードの設定

オプション	説明
[キオスクモード]	このチェックボックスを選択すると、デフォルトの Windows デスクトップを Wyse Easy Setup デスクトップ、Wyse Easy Setup リモート接続、Wyse Easy Setup アプリケーションに置き換えます。
[アプリケーション]	詳細を入力し、新しいアプリケーションを登録します。
[アプリケーション終了アクション]	アプリケーション終了アクション ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● 終了時にシャットダウン● 終了時に再起動● 終了時にログアウト● 終了時に持続 この設定は、少なくとも1つのリモート接続が設定されている場合に適用されます。
[スマートカード取り外し時の動作]	スマートカード取り外し時の動作 ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● スマートカードの取り外し後に再起動● スマートカードの取り外し後にログアウト● スマートカードの取り外し後にシャットダウン● スマートカードの取り外し後にロック画面

表 276. 個人設定の設定

表 276. 個人設定の設定

オプション	説明
[バックグラウンド]	ドロップダウンリストから、希望するグラフィックイメージを選択します。メモ：この手順を実行する前に、グラフィックイメージをファイルリポジトリにアップロードする必要があります。
[ロゴ]	ドロップダウンリストから、[アプリとデータ] > [ファイルリポジトリ] > [インベントリ] の順に移動してアップロードされたロゴファイルを選択します。

表 277. タスクバーの設定

オプション	説明
[日付と時刻]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップの日付と時刻 オプションを設定できます。
[サウンド]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのサウンドパラメータを設定できます。
[ネットワーク]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのネットワーク オプションを表示できます。
[タッチキーボード]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップのタッチキーボードを表示できます。

表 278. スタートメニューの設定

オプション	説明
[シャットダウンを許可]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムをシャットダウンできます。
[再起動を許可]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムを再起動できます。
[ログオフを許可]	このオプションを選択すると、Wyse Easy Setup シェルまたはカスタムデスクトップでシステムをログオフできます。

VNC 設定

このページは、VNC の設定に使用します。

表 279. VNC 設定

オプション	説明
VNC を有効にする	VNC サーバを有効にするには、このオプションを選択します。
VNC ユーザープロンプト	このオプションを選択する場合は、VNC シャドーイングを承認または却下する必要があります。
VNC ユーザー必須パスワード	VNC パスワードを設定するには、このオプションを選択します。
VNC プライマリパスワード	VNC パスワードを変更するには、このオプションを選択します。新しいパスワードを入力します (最大 8 文字)。
VNC 表示専用パスワード	プライマリパスワードを入力します。パスワードの編集はできません。

ドメインの設定

画面上の説明を読み、Wyse Software Thin Client デバイスを社内の Active Directory ドメインに追加します。

表 280. ドメインの設定

オプション	説明
[ドメインまたはワークグループ]	ドメインを選択するにはこのオプションを選択します。ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
[ドメインまたはワークグループ名]	ドメインの FQDN を入力します。
[ユーザー名]	ユーザー名を入力します。アカウントには、ドメインに追加オプションがあります。
[パスワード]	パスワードを入力します。
[アカウント OU]	コンピュータオブジェクトを作成する組織単位の場所を入力します。
[自動ログイン]	チェックボックスを選択して Windows ログイン画面を表示します。

デバイスの管理

本項では、管理コンソールを使用して、日常的なデバイス管理タスクを実行する方法について説明します。デバイスのインベントリを特定し、[デバイス] タブをクリックします。グループまたはサブグループ、デバイスタイプ、オペレーティングシステムタイプ、ステータス、サブネット、およびプラットフォーム、タイムゾーンなど、さまざまなフィルタ条件を使用してデバイスのサブセットを表示できます。

特定デバイスの [デバイスの詳細] ページを表示するには、ページにリストされているデバイスのエントリをクリックします。デバイスの詳細設定パラメータと、各パラメータが適用されているグループレベルは、[デバイスの詳細] ページにすべて表示されます。

デバイスに特有の設定パラメータを設定できます。このセクションで設定したパラメータは、グループまたはグループレベル(またはその両方)で設定されたすべてのパラメータをオーバーライドします。

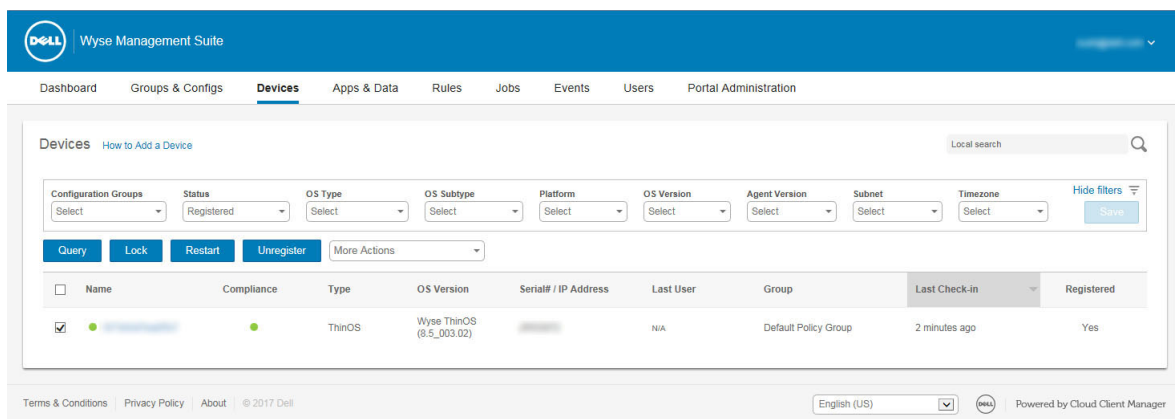


図 5. デバイス

トピック：

- デバイスを Wyse Management Suite に登録する方法
- フィルタの使用によるデバイスの検索
- 現在のフィルタの保存
- デバイスステータスの問い合わせ
- デバイスのロック
- デバイスの再起動
- デバイスの登録解除
- 工場出荷時のデフォルト設定へのリセット
- グループ割り当ての変更
- デバイスへのメッセージの送信
- デバイスのアクティブ化
- デバイスの詳細情報の表示
- デバイスの概要の管理
- システム情報の表示
- デバイスイベントの表示
- インストール済みアプリケーションの表示
- シンクライアントの名前の変更
- リモートシャドー接続の設定
- デバイスのタグ付け
- デバイスコンプライアンスステータス
- Windows Embedded Standard または ThinLinux イメージの引き出し
- ログファイルの要求
- デバイスのトラブルシューティング

クスを選択しないでください。登録後に、Wyse Management Suite を使用して証明書をデバイスにインストールしてから、CA 検証オプションを有効にしてください。

i メモ:

米国内のデータセンターでパブリッククラウドバージョンの Wyse Management Suite を使用している場合は、デフォルトの WMS サーバと MQTT サーバの詳細項目を変更しないでください。ヨーロッパのデータセンターでパブリッククラウドバージョンの Wyse Management Suite を使用している場合は、以下を使用してください。

- CCM サーバ: eu1.wysemanagementsuite.com
- MQTT サーバ: eu1-pns.wysemanagementsuite.com:1883

7. セットアップを確認するには、[キーの検証] をクリックします。キーの検証後、デバイスは自動的に再起動します。

i **メモ:** キーが検証されない場合は、入力したグループキーと WMS サーバの URL を確認してください。ネットワークでポート 443 および 1883 がブロックされていないことを確認します。

8. [OK] をクリックします。

Wyse Management Suite コンソールでのデバイスの登録がこれで完了しました。

Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Software Thin Client の Wyse Management Suite への登録

このタスクについて

前提条件

デバイスを Wyse Management Suite に登録するためのグループを作成します。

手順

手順

1. [Wyse デバイスエージェント] アプリケーションを開きます。
[Wyse デバイスエージェント] ウィンドウが表示されます。
2. デバイス登録の詳細を入力します。
3. [管理サーバ] ドロップダウンリストから、[Wyse Management Suite] を選択します。
4. サーバアドレスとポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。
5. グループトークンを入力します。シングルテナントについては、グループトークンはオプションの手順です。
6. [登録] をクリックします。
登録が完了した後、「[Wyse Management Suite に登録されました]」というメッセージが表示されます。

Wyse デバイスエージェントの使用による Linux Thin Client の登録

このタスクについて

i **メモ:** グループを作成することは、Thin Client を Wyse Management Suite に登録するための前提条件です。詳細については、「[グループの追加](#)」を参照してください。

手順

1. [Wyse デバイスエージェント] (WDA) アプリケーションを開きます。
[Wyse デバイスエージェント] ウィンドウが表示されます。
2. デバイス登録の詳細を入力します。
3. [Wyse Management Suite] タブに、Wyse Management Suite サーバアドレスを入力します。
4. グループトークンを入力します。
5. [登録] をクリックします。
登録が完了した後、「[Wyse Management Suite に登録されました]」というメッセージが表示されます。

Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Embedded Standard Thin Client の Wyse Management Suite への登録

前提条件

デバイスを登録するには、Wyse Management Suite でグループを作成します。

手順

1. Wyse デバイスエージェント アプリケーションを開きます。
Wyse デバイスエージェント スクリーンが表示されます。
2. [管理サーバ] ドロップダウンリストから、[Wyse Management Suite] を選択します。
3. サーバアドレスとポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。
4. グループトークンを入力します。
シングルテナントについては、グループトークンはオプションの手順です。
5. [登録] をクリックします。

FTP INI メソッドを使用した ThinLinux バージョン 2.0 デバイスの登録

前提条件

Wyse Management Suite に登録するグループを作成します。

手順

1. wlx.ini ファイルを作成します。次のパラメータを入力します。

WMSEnable=yes\no

WMSServer=https://FQDN of the WMS Server:Port <By default 443 is used>

GroupRegistrationKey=GroupToken present in WMS Server

CAValidation=True/False

たとえば、ThinLinux バージョン 2.0 デバイスを Wyse Management Suite (サーバの FQDN は ServerFQDN.domain.com) に登録するには、グループトークン defa-defadefa を使用し、CA 検証オプションを有効にして、次の INI パラメータを入力します。

WMSEnable=yes

WMSServer=https://ServerFQDN.domain.com:443

GroupRegistrationKey=defa-defadefa

CAValidation=True

2. wlx.ini ファイルを wyse\wlx2 フォルダに配置します。
3. [設定] に移動し、ThinLinux Thin Client で admin に切り替えます。
4. [管理] > [INI] に移動します。
5. FTP サーバの URL を入力します。
6. [保存] をクリックして、Thin Client を再起動します。
7. [管理] > [Wyse デバイスエージェント] に移動します。
Wyse デバイスエージェント タブで、Wyse 管理サーバの詳細がそれぞれのフィールドで使用可能で、クライアントのエントリが Wyse 管理サーバのデバイス ページに表示されていることを確認します。

FTP INI メソッドを使用した ThinLinux バージョン 1.0 デバイスの登録

前提条件

Wyse Management Suite に登録するグループを作成します。

手順

1. wlx.ini ファイルを作成します。次のパラメータを入力します。

WMSEnable=yes\no

WMSServer=https://FQDN of the WMS Server:Port <By default 443 is used>

GroupRegistrationKey=GroupToken present in WMS Server

CAValidation=True/False

たとえば、ThinLinux バージョン 1.0 デバイスを Wyse Management Suite (サーバの FQDN は ServerFQDN.domain.com) に登録するには、グループトークン defa-defadefa を使用し、CA 検証オプションを有効にして、次の INI パラメータを入力します。

WMSEnable=yes

WMSServer=https://ServerFQDN.domain.com:443

GroupRegistrationKey=defa-defadefa

CAValidation=True

2. wlx.ini ファイルを wyse\wx フォルダに配置します。
3. [設定] に移動し、ThinLinux Thin Client で admin に切り替えます。
4. [管理] > [INI] に移動します。
5. FTP サーバの URL を入力します。
6. [保存] をクリックして、Thin Client を再起動します。
7. [管理] > [Wyse デバイスエージェント] に移動します。
Wyse デバイスエージェント タブで、Wyse 管理サーバの詳細がそれぞれのフィールドで使用可能で、クライアントのエントリが Wyse 管理サーバのデバイス ページに表示されていることを確認します。

FTP INI メソッドを使用した ThinOS デバイスの登録

前提条件

Wyse Management Suite に登録するグループを作成します。

手順

1. wnos.ini ファイルを作成します。次のパラメータを入力します。

CCMEnable=yes/no **CCMServer**=FQDN of WMS Server **GroupPrefix**=The prefix of the Group Token

GroupKey=The Group Key **CAValidation**=yes/no **Discover**=yes/no

たとえば、ThinOS デバイスを Wyse Management Suite (サーバの FQDN は ServerFQDN.domain.com) に登録するには、グループトークン defa-defadefa を使用し、CA 検証オプションを有効にして、次の INI パラメータを入力します。

CCMEnable=yes **CCMServer**= is ServerFQDN.domain.com **GroupPrefix**=defa **GroupKey**=defadefa

CAValidation=yes **Discover**=yes

2. wnos.ini ファイルを任意の FTP パスの wnos フォルダ内に配置します。
3. ThinOS デバイスの [一元設定] に移動します。
4. [一般] タブで、ファイルサーバの FTP パスまたは親フォルダへのパスを指定します。
5. 必要に応じて、FTP 資格情報を入力します。FTP が資格情報を必要としない場合は、ユーザー名とパスワードを匿名にできます。
6. [OK] をクリックして、Thin Client を再起動します。
7. ThinOS デバイスの [一元設定] に移動します。
[Wyse デバイスエージェント] タブで、Wyse 管理サーバの詳細がそれぞれのフィールドで使用可能で、クライアントのエントリが Wyse 管理サーバのデバイス ページに表示されていることを確認します。

Wyse デバイスエージェントを使用した ThinLinux Thin Client の登録

前提条件

デバイスを登録するには、Wyse Management Suite でグループを作成します。

手順

1. Wyse デバイスエージェント アプリケーションを開きます。
Wyse デバイスエージェント スクリーンが表示されます。
2. デバイス登録の詳細を入力します。
3. Wyse Management Suite で、Wyse Management Suite サーバの詳細を入力します。
4. グループトークンを入力します。
シングルテナントについては、グループトークンはオプションの手順です。
5. [登録] をクリックします。登録が完了すると、確認メッセージが表示されます。

DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録

このタスクについて

以下の DHCP オプションタグを使用して、デバイスを登録できます。

メモ:

Windows サーバで DHCP オプションタグを追加する方法に関する詳細手順は、「[DHCP オプションタグの作成および設定](#)」を参照してください。

表 281. DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録

オプションタグ	説明
名前 - WMS データタイプ - 文字列 コード - 165 説明 - WMS サーバ FQDN	このタグは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、 <code>wmserver.acme.com:443</code> であれば、 <code>wmserver.acme.com</code> は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。パブリッククラウドで Wyse Management Suite にデバイスを登録するリンクについては、「 プライベートクラウドで Wyse Management Suite を開始する 」を参照してください。
名前 - MQTT データタイプ - 文字列 コード - 166 説明 - MQTT サーバ	このタグは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例： <code>wmservername.domain.com:1883</code> デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。 US1 : us1-pns.wysemanagementsuite.com EU1 : eu1-pns.wysemanagementsuite.com
名前 - CA 検証 データタイプ - 文字列 コード - 167 説明 - 認証局の検証	プライベートクラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録する場合、CA 検証オプションを有効または無効にできます。デフォルトでは、CA 検証はパブリッククラウドで有効になっています。パブリッククラウドでも、CA 検証を無効にできます。 クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、 True を入力します。 クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、 False を入力します。
名前 - GroupToken データタイプ - 文字列 コード - 199 説明 - グループトークン	パブリックまたはプライベートクラウドで ThinOS デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このタグは必須です。 プライベートクラウドで Windows Embedded Standard または ThinLinux デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このタグは任意です。タグが使用できない場合、デバイスは、オンプレミスのインストール中に自動的に管理対象外グループに登録されます。

DNS SRV レコードの使用によるデバイスの登録

DNS ベースのデバイスの登録は、次のバージョンの Wyse デバイスエージェントでサポートされています。

- Windows Embedded Systems - 13.0 以降のバージョン
- Thin Linux - 2.0.24 以降のバージョン
- ThinOS - 8.4 ファームウェア以降のバージョン

DNS SRV レコードのフィールドに有効な値が設定されている場合は、Wyse Management Suite サーバにデバイスを登録することができます。


メモ: Windows サーバで DNS SRV レコードを追加する方法に関する詳細手順は、「DNS SRV レコードの作成および設定」を参照してください。

次の表に、DNS SRV レコードの有効な値を示します。

表 282. DNS SRV レコードの使用によるデバイスの設定 (続き)

URL/ タグ	説明
レコード名 - _WMS_MGMT レコード FQDN - _WMS_MGMT._tcp.<ドメイン名> レコードタイプ - SRV	このレコードは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、wmserver.acme.com:443 であれば、wmserver.acme.com は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。パブリッククラウドで Wyse Management Suite にデバイスを登録するリンクについては、「 プライベートクラウドで Wyse Management Suite を開始する 」を参照してください。 メモ: サーバの URL で https:// を使用しないでください。使用すると、Thin Client が Wyse Management Suite の下に登録されません。
レコード名 - _WMS_MQTT レコード FQDN - _WMS_MQTT._tcp.<ドメイン名> レコードタイプ - SRV	このレコードは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例： wmservername.domain.com:1883。 メモ: MQTT は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。 デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。 US1 - us1-pns.wysemanagementsuite.com EU1 - eu1-pns.wysemanagementsuite.com
レコード名 - _WMS_GROUPTOKEN レコード FQDN - _WMS_GROUPTOKEN._tcp.<ドメイン名> レコードタイプ - テキスト	パブリックまたはプライベートクラウドで ThinOS デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このレコードは必須です。 プライベートクラウドで Windows Embedded Standard または ThinLinux デバイスを Wyse Management Suite に登録する場合、このレコードは任意です。レコードが使用できない場合、デバイスは、オンプレミスのインストール中に自動的に管理対象外グループに登録されます。 メモ: プライベートクラウド上の最新バージョンの Wyse Management Suite ではグループトークンはオプションです。
レコード名 - _WMS_CAVALIDATION レコード FQDN - _WMS_CAVALIDATION._tcp.<ドメイン名> レコードタイプ - テキスト	プライベートクラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録する場合、CA 検証オプションを有効または無効にできます。デフォルトでは、CA 検証はパブリッククラウドで有効にな

表 282. DNS SRV レコードの使用によるデバイスの設定

URL/ タグ	説明
	<p>っています。パブリッククラウドでも、CA 検証を無効にできません。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、True を入力します。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、False を入力します。</p> <p> メモ: CA 検証は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。</p>

フィルタの使用によるデバイスの検索

このタスクについて

フィルタを使用してデバイスを検索するには、次の操作を行います。

手順

1. [設定グループ] ドロップダウンリストから、デフォルトポリシーグループまたは、管理者によって追加されたグループのどちらかを選択します。
2. [ステータス] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - [登録]
 - 登録済み
 - 事前登録済み
 - 未登録
 - 準拠
 - 保留中
 - 非準拠
 - [オンライン状態]
 - オンライン
 - オフライン
 - 不明
 - [その他]
 - 最近追加
3. [OS タイプ] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。
 - [Thin Client]
 - Linux
 - ThinLinux
 - ThinOS
 - WES
 - Teradici (プライベートクラウド)
 - Wyse Software Thin Client
4. [OS サブタイプ] ドロップダウンリストから、お使いのオペレーティングシステムのサブタイプを選択します。
5. [プラットフォーム] ドロップダウンリストから、プラットフォームを選択します。
6. [OS バージョン] ドロップダウンリストから、OS のバージョンを選択します。
7. [エージェントバージョン] ドロップダウンリストから、エージェントのバージョンを選択します。
8. [サブネット] ドロップダウンリストから、サブネットを選択します。
9. [タイムゾーン] ドロップダウンリストから、タイムゾーンを選択します。
10. [デバイスタグ] ドロップダウンリストから、デバイスタグを選択します。

現在のフィルタの保存

このタスクについて

必要なフィルタオプションを選択した後、グループとしてフィルタを保存することができます。現在のフィルタを保存するには、次の手順を実行します。

手順

1. フィルタの [名前] を入力します。
2. [説明] ボックスに、フィルタの説明を入力します。
3. 現在のフィルタをデフォルトオプションとして設定するには、このチェックボックスを選択します。
4. [ファイルの保存] をクリックします。

デバイスステータスの問い合わせ

このタスクについて

システムのデバイス情報とステータスを更新するコマンドを送信するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [クエリ] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. [コマンドの送信] をクリックして、クエリコマンドを送信します。

デバイスのロック

このタスクについて

登録済みデバイスをロックするには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [ロック] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. [コマンドの送信] をクリックして、ロックコマンドを送信します。

デバイスの再起動

このタスクについて

登録済みデバイスを再起動するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。

2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [再起動] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. [コマンドの送信] をクリックして、再起動コマンドを送信します。

デバイスの登録解除

このタスクについて

登録済みデバイスを登録解除するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [登録解除] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. [強制登録解除] チェックボックスを選択します。
6. [コマンドの送信] をクリックして、登録解除コマンドを送信します。

メモ:

- サーバとクライアントの間に通信がない場合に、強制登録解除 オプションを使用すると、デバイスを削除することができます。デバイスは管理対象外状態になり、サーバエントリから削除できます。
- 登録解除と強制登録解除の処理は、WES WDA UI でも実行できます。

工場出荷時のデフォルト設定へのリセット

このタスクについて

ThinOS ベースのデバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [その他のアクション] ドロップダウンメニューから、[工場出荷時設定へのリセット] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. クライアントをリセットする理由を入力します。
6. [コマンドの送信] をクリックします。

グループ割り当ての変更

このタスクについて

グループ割り当てを変更するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。

2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [追加アクション] ドロップダウンメニューから、[グループの変更] をクリックします。
[グループ割り当ての変更] ウィンドウが表示されます。
5. ドロップダウンメニューから、デバイスの新しいグループを選択します。
6. [保存] をクリックします。

デバイスへのメッセージの送信

このタスクについて

デバイスにメッセージを送信するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [その他のアクション] ドロップダウンメニューで、[メッセージの送信] をクリックします。
[メッセージの送信] ウィンドウが表示されます。
5. メッセージを入力します。
6. [送信] をクリックします。

デバイスのアクティブ化

このタスクについて

デバイスの電源がオフ、またはスリープモードになっている場合にデバイスをアクティブにするには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。
3. デバイスのチェックボックスを選択します。
4. [追加アクション] ドロップダウンメニューから、[Wake On LAN] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. [コマンドの送信] をクリックします。

デバイスの詳細情報の表示

このタスクについて

デバイスの詳細を表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。詳細については、「[フィルタを使用したデバイスの検索](#)」を参照してください。
使用するデバイスのリストが表示されます。
3. 表示されているデバイスの1つをクリックします。
[デバイスの詳細] ページが表示されます。

デバイスの概要の管理

このタスクについて

メモ、グループ割り当て、アラート、デバイス設定に関する情報を表示/管理するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
2. [デバイスの詳細] ページで、[概要] タブをクリックします。
デバイスの概要が表示されます。
3. 右ペインで、[メモの追加] をクリックします。
[メモの追加] ウィンドウが表示されます。
4. 表示されたフィールドにメッセージを入力し、[保存] をクリックします。
5. 右側のウィンドウで、[グループ割り当ての変更] をクリックします。
[グループ割り当ての変更] ウィンドウが表示されます。
6. ドロップダウンメニューから、デバイスの新しいグループを選択します。
7. [保存] をクリックします。
8. [例外の作成/編集] をクリックしてデバイスレベルの例外を作成または編集し、[デバイス] ページで特定のデバイスポリシーを設定します。

システム情報の表示

このタスクについて

システム情報を表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。詳細については、「[フィルタを使用したデバイスの検索](#)」を参照してください。
使用するデバイスのリストが表示されます。
3. 表示されているデバイスの1つをクリックします。
[デバイスの詳細] ページが表示されます。
4. [システム情報] をクリックします。
システム情報が表示されます。

デバイスイベントの表示

このタスクについて

デバイスに関連するシステムイベントの情報を表示および管理するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。詳細については、「[フィルタを使用したデバイスの検索](#)」を参照してください。
使用するデバイスのリストが表示されます。
3. 表示されているデバイスの1つをクリックします。
[デバイスの詳細] ページが表示されます。
4. **デバイスの詳細** ページで、**イベント** タブをクリックします。
デバイス上のイベントが表示されます。

インストール済みアプリケーションの表示

このタスクについて

デバイスにインストールされているアプリケーションを表示するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] をクリックします。
[デバイス] ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。詳細に関しては、「[Searching a device by using filters](#)」(フィルタを使用したデバイスの検索)を参照してください。
使用するデバイスのリストが表示されます。
3. 表示されているデバイスの1つをクリックします。
[デバイスの詳細] ページが表示されます。
4. **インストールされているアプリ** タブをクリックします。
デバイスにインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。

このオプションは、Windows Embedded Standard、Linux、および ThinLinux デバイスで利用できます。以下は、ページに表示される属性です。

- 名前
- 公開元
- バージョン
- インストール先

メモ:

インストール済みアプリケーションの数は、アプリケーションのインストールまたはアンインストールに基づいて増減します。リストはデバイスがチェックインしたとき、または次にクエリされるときに更新されます。


シンクライアントの名前の変更

このタスクについて

このページでは、Windows Embedded Standard、ThinLinux、ThinOS オペレーティングシステムで実行しているシンクライアントのホスト名の変更を行います。ホスト名を変更するには、次の操作を行います。

手順

1. [デバイス] ページで、該当デバイスをクリックします。
2. [その他のオプション] ドロップダウンリストから、[ホスト名の変更] オプションを選択します。
3. プロンプトが表示されたら、新しいホスト名を入力します。

 **メモ:** ホスト名には、英数字およびハイフンのみを含めることができます。

4. Windows Embedded Standard デバイスでは、[アラート] ウィンドウに [再起動] ドロップダウンリストが含まれています。システムを再起動するには、[再起動] オプションを選択します。[後で再起動] オプションを選択すると、設定した時間にデバイスが再起動してからホスト名が更新されます。

Alert

You are about to send a Change Host Name command to the selected device.
Please enter a new host name for the selected device.

The device needs to be restarted for the new hostname to take effect. Please restart now or specify a future time.

Reboot: Time: :

Do you wish to proceed?

図7. 警告

メモ: ホスト名を更新するのに ThinLinux デバイスを再起動する必要はありません。

5. [コマンドの送信] をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

リモートシャドー接続の設定

このタスクについて

グローバルおよびグループ管理者に Windows Embedded Standard、ThinLinux、および ThinOS Thin Client セッションにリモートでアクセスを許可するには、このページを使用します。この機能は、プライベートクラウドにのみ適用可能で、Standard と Pro 両方のライセンスで利用できます。

メモ: Wyse Management Suite ポータルは、テナントごとに最大5つのリモートシャドーセッションをサポートします。

手順

1. [デバイス] ページで、該当デバイスをクリックします。
2. [その他のオプション] ドロップダウンリストから、[リモートシャドー (VNC)] オプションを選択します。

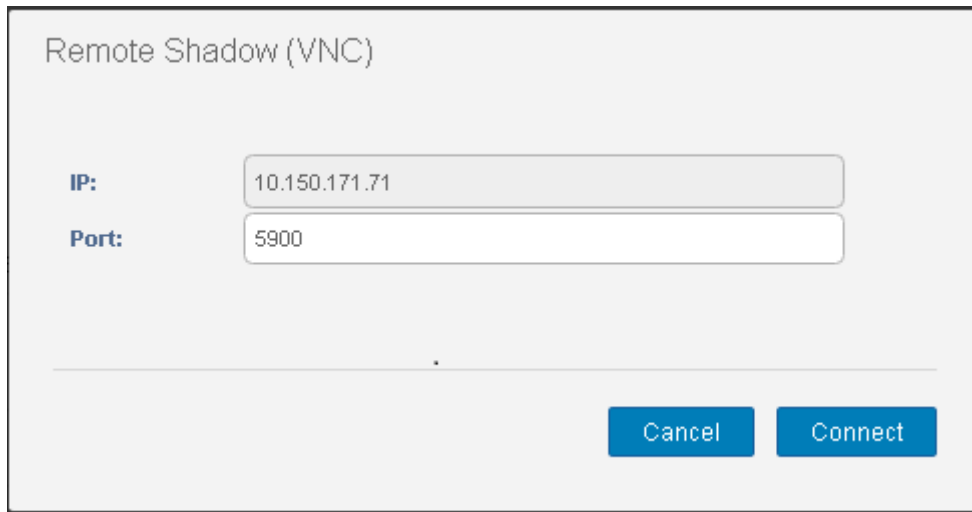


図 8. リモートシャドー (VNC)

ターゲット Thin Client の IP アドレスとポート番号が、[リモートシャドー (VNC)] ダイアログボックスに表示されます。

i **メモ:** デフォルトのポート番号は 5900 です。

3. ターゲット Thin Client のポート番号を変更します (オプション)。
4. [接続] をクリックし、ターゲット Thin Client へのリモートセッションを開始します。

デバイスのタグ付け

このタスクについて

Wyse Management Suite の [タグデバイス] オプションで、デバイスまたはデバイスのグループを識別することができます。

手順

1. **デバイス** をクリックします。
デバイス ページが表示されます。
2. フィルタで使用するデバイスを検索します。詳細については、「[フィルタを使用したデバイスの検索](#)」を参照してください。
使用するデバイスのリストが表示されます。
3. 1つまたは複数のデバイスを選択します。[その他のオプション] ドロップダウンリストから、**タグデバイス** をクリックします。
デバイスのタグの設定 ウィンドウが表示されます。
4. タグ名を入力します。
5. **タグの設定** をクリックします。

デバイスコンプライアンスステータス

デフォルトでは、次の色がデバイスステータスとして表示されます。

- 赤 - 登録済みデバイスが7日以上チェックインされていない場合。
- 灰色 - デバイスに設定ポリシーを適用した場合。
- 緑 - すべての設定ポリシーをデバイスに適用した場合。

デフォルト値は1から99日に変更することができます。

[オンラインステータス] オプションは、デバイス名の横にあります。オンラインステータスには、次の色が表示されます。

- 赤 — デバイスがハートビートを4回以上送信していない場合。
- 灰色 — デバイスがハートビートを3回以上送信しておらず、送信が2回以下である場合。
- 緑 - デバイスがハートビートを定期的に送信している場合。


Windows Embedded Standard または ThinLinux イメージの引き出し

このタスクについて

Wyse Management Suite を使用して Thin Client からオペレーティングシステムまたは BIOS を引き出します。Windows Embedded Standard または ThinLinux イメージの引き出し操作を実行するには、次の操作を行います。

手順

1. [Windows Embedded Standard] または [ThinLinux] デバイスのページに移動します。
2. [追加アクション] ドロップダウンリストから [OS イメージの引き出し] オプションを選択します。
3. 次の詳細を入力または選択します。
 - **イメージの名前** - イメージの名前を入力します。類似した名前のイメージ、および正常に完了していないイメージファイルの置き換えには、[上書き名] をクリックします。
 - **ファイルリポジトリ** - ドロップダウンリストから、イメージのアップロード先になるファイルリポジトリを選択します。ファイルリポジトリには、次の2つのタイプがあります。
 - ローカルリポジトリ
 - リモート Wyse Management Suite リポジトリ
 - **プルタイプ** - プルタイプの要件に基づき、[デフォルト] または [詳細設定] のいずれかを選択します。
 - [デフォルト] プルタイプを選択した場合、次のオプションが表示されます。
 - 圧縮
 - OS (オペレーティングシステム)
 - BIOS
 - [詳細設定] プルタイプを選択すると、テンプレートを選択するためのドロップダウンリストが表示されます。デフォルトで使用可能な任意のテンプレートを選択します。

 **メモ:** 既存またはデフォルトテンプレートを編集して手動で作成したカスタムテンプレートを使用できます。

Pull OS Image

Name of image *

Override name

File repository ▾ *

Pull type

Default

Advanced

Default options

Compress

Check at least one option *

OS

BIOS

図 9. OS イメージの引き出し画面

4. [イメージのプルの準備] をクリックします。

タスクの結果

[OS イメージの引き出し] コマンドが送信されると、クライアントデバイスはサーバからイメージ引き出し要求を受信します。イメージ引き出し要求メッセージは、クライアント側に表示されます。次のいずれかのオプションをクリックします。

- [sysprep 後に引き出し] - デバイスは再起動し、無効状態でオペレーティングシステムにログインします。カスタム sysprep を実行します。カスタム sysprep が完了した後、デバイスで Merlin オペレーティングシステムが起動し、イメージの引き出し操作が実行されます。

メモ: このオプションは、Windows Embedded Standard デバイ스에適用されます。

- [今すぐ引き出し] - デバイスで Merlin オペレーティングシステムが起動し、イメージの引き出し操作が実行されます。

メモ:

- デバイスで Wyse デバイスエージェントおよび Merlin のアップグレードが必要です。
- レガシーオンプレミスゲートウェイは、イメージの引き出し動作をサポートしません。この機能を使用するには、Wyse Management Suite リポジトリをインストールします。
- デルが製造した Windows Embedded Standard および ThinLinux デバイスでは、BIOS の引き出しはサポートされていません。

メモ:

- レガシーオンプレミスゲートウェイは、イメージの引き出し動作をサポートしません。この機能を使用するには、Wyse Management Suite リポジトリをインストールします。
- デルが製造元の Windows Embedded Standard デバイスでは、BIOS の引き出しはサポートされていません。
- イメージングに CA 検証を使用するには、以下の手順に従ってください。
 1. Wyse デバイスエージェントと Merlin がデバイスで最新バージョンにアップデートされていることを確認します。

- OS イメージのプルまたはプッシュ操作を実行する必要がある Thin Client に証明書をインストールします。
- Wyse Management Suite サーバから CA 検証を有効にします。ローカルリポジトリの場合はセットアップページから CA 検証 オプションを有効にし、Wyse Management Suite リポジトリの場合は 編集 ページから CA 検証 オプションを有効にします。

メモ:すでに既知の証明書を Wyse Management Suite サーバと Wyse Management Suite リポジトリにインストールしている場合は、Thin Client に証明書をインストールしないでください。

ログファイルの要求

このタスクについて

Windows Embedded Standard、ThinOS、ThinLinux のデバイスログを要求するには、次の操作を行います。

手順

- [デバイス] ページに進み、特定のデバイスをクリックします。
デバイスの詳細が表示されます。
- [デバイスのログ] タブをクリックします。
- [ログファイルの要求] をクリックします。
- Wyse Management Suite サーバにログファイルをアップロードした後で、[ここをクリック] リンクをクリックし、ログをダウンロードします。

The screenshot shows the 'Device Details' page for a thin client. At the top right, there are buttons for 'Query', 'Restart', 'Unregister', and a 'More Actions' dropdown. The main content area is divided into two columns. The left column contains device information: Compliance Status (green dot), Device Name (WIE10Device1), Device Type (Thin Client (Wyse 5020 thin client)), OS Version (Win 10 Enterprise 2015 LTSP), Last Logged In User (WIE10Device1\Admin), Configuration Group (test11), and Agent Version (12.1.1.25). The right column contains network and connection information: Serial Number, Mac Address, IP Address, Connection Type (Ethernet), and Last Check-in (1 minute ago). Below the device details, there are tabs for 'Summary', 'System Info', 'Events', 'Installed Apps' (with a '23' badge), 'Device Log' (highlighted with a circled '1'), and 'Troubleshooting'. Under the 'Device Log' tab, there is a 'Request Log File' button (highlighted with a circled '2') and a message: 'Current log updated at: 6 days ago. To download log file, click here.' (highlighted with a circled '3').

図 10. ログファイルの取得

メモ:

- ログファイルを取得するにはデバイスを有効にする必要があります。
- ThinOS デバイスはシステムログをアップロードします。
- Windows Embedded Standard は、Wyse デバイスエージェントのログと Windows イベント ビューアのログをアップロードします。
- Linux または ThinLinux は、Wyse デバイスエージェントのログとシステムログをアップロードします。
- Linux または ThinLinux はログファイルを .tar フォーマットでアップロードします。ファイルを Windows システムで抽出する場合は、7zip またはその他の同等のファイルが必要です。

デバイスのトラブルシューティング

このタスクについて

トラブルシューティング情報を表示および管理するには、次の操作を行います。

手順

1. **デバイスの詳細** ページで、**トラブルシューティング** タブをクリックします。
2. [**スクリーンショットの要求**] をクリックします。
クライアントのアクセス許可の有無にかかわらず、Thin Client のスクリーンショットをキャプチャすることができます。[**ユーザーの受け入れが必要です**] チェックボックスを選択した場合、クライアントにメッセージが表示されます。このオプションは、Windows Embedded Standard、Linux、および ThinLinux デバイスにのみ適用されます。
3. Thin Client 上で稼動するプロセスのリストを表示するには、[**プロセスリストの要求**] をクリックします。
4. Thin Client 上で稼動するサービスのリストを表示するには、[**サービスリストの要求**] をクリックします。
5. パフォーマンスメトリック コンソールにアクセスするには、[**監視の開始**] をクリックします。
[**パフォーマンスメトリック**] コンソールには、次の詳細が表示されます。
 - 過去1分間の平均 CPU。
 - 過去1分間の平均メモリ使用量。

アプリとデータ

本項では、Wyse 管理コンソールを使用して、日常的なデバイスアプリケーションタスク、オペレーティングシステムのイメージング、インベントリ管理、およびポリシーの設定を行う方法について説明します。

The screenshot displays the 'Apps & Data - Thin Client App Inventory' interface. It includes a search bar and a table of application files. The table has the following columns: Name, Version, Repository Name, Size, Date Added, and Status. The files listed include:

Name	Version	Repository Name	Size	Date Added	Status
7z920-x64.msi		Local repository - Wyse128206	1.3 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
MerlinPackage_Common.exe		Local repository - Wyse128206	50.8 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
WDA_13.0.0.167_x64.exe		Local repository - Wyse128206	35.6 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
WDA_13.0.0.167_x64_WIE10.exe		Local repository - Wyse128206	35.6 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
WDA_13.0.0.167_x86.exe		Local repository - Wyse128206	32.5 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3139398-v2-x86.msu		Local repository - Wyse128206	500.1 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3139923-v2-x86.msu		Local repository - Wyse128206	1.8 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3146963-x86.msu		Local repository - Wyse128206	671.7 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3147071-x86.msu		Local repository - Wyse128206	13.8 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3148851-x86.msu		Local repository - Wyse128206	474.7 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3149090-x86.msu		Local repository - Wyse128206	4.3 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3156417-x86.msu		Local repository - Wyse128206	3.5 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3159398-x86.msu		Local repository - Wyse128206	1.2 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3161561-x86.msu		Local repository - Wyse128206	3.8 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3161664-x86.msu		Local repository - Wyse128206	1.3 MB	10/23/17 6:41 AM	Success
Windows6.1-KB3161949-x86.msu		Local repository - Wyse128206	664.5 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
platform_util-1.0.12-0.3.x86_64.rpm		Local repository - Wyse128206	128.2 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
platform_util-1.0.3-0.1.sletc11sp3.rpm		Local repository - Wyse128206	146.9 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
wda-2.0.11-00.1.sletc11sp3.rpm		Local repository - Wyse128206	627.3 KB	10/23/17 6:41 AM	Success
wda-2.0.24-00.01.x86_64.rpm		Local repository - Wyse128206	403.7 KB	10/23/17 6:41 AM	Success

図 11. アプリとデータ

- 標準アプリケーションポリシー - このポリシーを使用すると、単一アプリケーションパッケージをインストールできます。
- 高度なアプリケーションポリシー - このポリシーを使用すると、複数のアプリケーションパッケージをインストールできます。
- イメージポリシー - このポリシーを使用すると、オペレーティングシステムをインストールすることができます。

Thin Client へのアプリケーションポリシーおよびオペレーティングシステムイメージの導入は、特定のタイムゾーンやお使いのデバイスで設定されているタイムゾーンに基づいて、すぐにまたは後で実行するかのスケジュールを設定できます。詳細については、「[ジョブの管理](#)」を参照してください。

トピック：

- [アプリケーションポリシー](#)
- [イメージポリシー](#)
- [ファイルリポジトリの管理](#)

アプリケーションポリシー

Wyse Management Suite は、次のタイプのアプリケーションインベントリポリシーおよびアプリケーション導入ポリシーをサポートします。

- Thin Client アプリケーションインベントリの設定
- Wyse Software Thin Client のアプリケーションインベントリの設定
- Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入
- 高度なアプリケーションポリシーの作成と Thin Client への導入
- Wyse Software Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入
- Wyse Software Thin Client に対する高度なアプリケーションポリシーの作成および導入

Windows ベースのデバイスに関する重要な注意事項

- Windows ベースのアプリケーション (拡張子が .msi、.exe、.msu、.msp) のインストールをサポートします。
他の拡張子を持つアプリケーションは、`%systemdrive%\wyse\WDA` 例: "C:\wyse\WDA にダウンロードされます。
- Wyse Management Suite を使用して .exe アプリケーションを展開するには、サイレントインストールの方法に従います。必要に応じて、適切なサイレントパラメータを入力する必要があります。たとえば、「[VMware-Horizon-Client-4.6.1-6748947.exe /silent /install /norestart]」と入力します。
- ファイル拡張子が .bat、.cmd、.ps1、.bds のスクリプト導入をサポートします。
他の拡張子を持つスクリプトは、`%systemdrive%\wyse\WDA` 例: "C:\wyse\WDA にダウンロードされます。
- Wyse Management Suite を使用してプッシュされたスクリプトは、非インタラクティブである必要があります。これは、インストール中にユーザーの操作が必要ないことを意味します。
- 高度なアプリケーションポリシーでは、0 以外の値を返すスクリプト / exe がある場合は、失敗と見なされます。
- 高度なアプリケーションポリシーでは、事前インストールが失敗すると、アプリケーションのインストールは継続されません。
- 標準アプリケーションを使用してプッシュされたすべての exe / スクリプトは、正常終了と報告され、エラーコードはジョブのステータスで更新されます。
- 拡張子が msi / msu / msp のアプリケーションの場合、標準エラーコードが報告されます。アプリケーションが REBOOT_REQUIRED を返す場合は、デバイスはさらにもう 1 回再起動します。

Linux デバイスに関する重要な注意事項

- Linux ベースのアプリケーション (ThinLinux 2.0 の場合は拡張子 .bin と .deb、Thin Linux 1.0 の場合は拡張子 .rpm) のインストールをサポートします。
- 拡張子が .sh の ThinLinux デバイスのスクリプト導入をサポートします。
- 標準または高度なアプリケーションポリシーでは、0 以外の値を返すスクリプト / deb / rpm がある場合は、失敗と見なされません。
- 高度なアプリケーションポリシーでは、事前インストールが失敗した場合、アプリのインストールは継続されません。

Thin Client アプリケーションインベントリの設定

このタスクについて

Thin Client インベントリの設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

1. [アプリとデータ] タブをクリックします。
2. 左側のペインで、[アプリインベントリ] > [Thin Client] に移動します。
[Thin Client インベントリ] ウィンドウにアプリケーションの詳細が表示されます。
3. インベントリにアプリケーションを追加するには、<repo-dir>\repository\thinClientApps フォルダに Thin Client アプリケーションファイルを配置します。
Wyse Management Suite のリポジトリは、Wyse Management Suite のサーバにすべてのファイルのメタデータを定期的に送信します。
4. アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。
 - a. リストからアップロードされたアプリケーションを選択します。
 - b. [アプリの編集] をクリックします。
[アプリケーションの編集] ウィンドウが表示されます。
 - c. メモを入力します。
 - d. [保存] をクリックします。

Wyse Software Thin Client のアプリケーションインベントリの設定

このタスクについて

Wyse Software Thin Client のインベントリを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [アプリとデータ] タブをクリックします。
2. 左側のペインで、[アプリインベントリ] > [Wyse Software Thin Client] に移動します。
3. インベントリにアプリケーションを追加するには、<repo-dir>\repository\softwareTcApps フォルダに Thin Client アプリケーションファイルを配置します。
Wyse Management Suite のリポジトリは、Wyse Management Suite のサーバにすべてのファイルのメタデータを定期的に送信します。

Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入

Thin Client に標準アプリケーションポリシーを導入するには、次の操作を行います。

1. ローカルリポジトリで [thinClientApps] に移動して、アプリケーションをフォルダにコピーします。
2. [アプリ & データ] タブを選択し、[アプリインベントリ] の [Thin Client] を選択します。
 - ① **メモ:** 最近追加したプログラムがアプリインベントリのインタフェースに表示されるまで約2分かかります。
3. [アプリとデータ] をクリックします。
[アプリとデータ] ページが表示されます。
4. [アプリポリシー] で、[Thin Client] をクリックします。
5. [ポリシーの追加] をクリックします。
[標準アプリポリシーの追加] ウィンドウが表示されます。
6. [ポリシー名] を入力します。
7. ドロップダウンリストから、[グループ] を選択します。
8. ドロップダウンリストから、[タスク] を選択します。
9. ドロップダウンリストから、[OS タイプ] を選択します。
10. ドロップダウンリストから、[アプリケーション] を選択します。
11. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを導入する場合は、[OS サブタイプフィルタ] または [プラットフォームフィルタ] を選択します。
12. タイムアウト では、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。メッセージダイアログボックスをクライアントに表示する時間 (分) を指定します。
13. ポリシー実施の遅延を許可するには、[ポリシー実行の遅延を許可] チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
 - [遅延あたりの最大時間] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間 (1 ~ 24 時間) を選択します。
 - [最大遅延] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数 (1 ~ 3 回) を選択します。
14. [ポリシーを自動的に適用] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 自動的に適用しない — このオプションは、ポリシーをデバイスに自動的に適用しません。
 - ポリシーを新しいデバイスに適用 — このオプションは、選択したグループに属するデバイスまたは選択したグループに移動されたデバイスが登録されると、自動的にポリシーを適用します。
 - チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 — このオプションは、チェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。
 - ① **メモ:** Windows ベースのデバイスの場合、サイレントモードでアプリケーションを実行するために、.exe ファイルのサイレントインストールのパラメータを指定します。たとえば、「VMware-Horizon-Client-4.6.1-6748947.exe /silent /install /norestart」と入力します。
15. [保存] クリックしてポリシーを作成します。
メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようになります。
16. 同じページ上のジョブをスケジュールするには、[はい] を選択します。

17. アプリケーションポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。
 - a. [即時] - サーバは即時ジョブを実行します。
 - b. [デバイスのタイムゾーン] - サーバは各デバイスのタイムゾーンに1つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付/時刻にジョブをスケジュールします。
 - c. [選択したタイムゾーン] - サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻に実行するジョブを1つ作成します。
18. ジョブを作成するには、[プレビュー] をクリックすると、次のページにスケジュールが表示されます。
19. [ジョブ] ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

高度なアプリケーションポリシーの作成と Thin Client への導入

このタスクについて

Thin Client に高度なアプリケーションポリシーを導入するには、次の手順を実行します。


1. 導入するアプリケーションおよびプレ/ポストインストールスクリプト（必要な場合）を、Thin Client にコピーします。アプリケーションおよびプリ/ポストインストールスクリプトを、ローカルリポジトリまたは Wyse Management Suite リポジトリの thinClientApps フォルダに保存します。
 2. [アプリとデータ] > [ApplInventory] の順に移動し、[Thin Client] を選択して、アプリケーションが登録されているかどうかを確認します。
 3. [アプリポリシー] の下で [Thin Client] をクリックします。
 4. [詳細なポリシーの追加] をクリックします。[詳細なアプリポリシーの追加] ページが表示されます。
 5. アプリケーションポリシーを作成するには、次の操作を行います。
 - a. [ポリシー名] を入力します。
 - b. ドロップダウンリストから、[グループ] を選択します。
 - c. [サブグループ] チェックボックスを選択して、ポリシーをサブグループに適用します。
 - d. ドロップダウンリストから、[タスク] を選択します。
 - e. ドロップダウンリストから、[OS タイプ] を選択します。
 - f. [アプリの追加] をクリックし、[アプリ] の下で1つ、または複数のアプリケーションを選択します。各アプリケーションについて、[プリインストール] [ポストインストール] [パラメータのインストール] の下で、プレ/ポストインストールスクリプトを選択できます。アプリケーションが正常にインストールされた後にシステムを再起動したい場合は、[再起動] を選択します。[アプリの追加] をクリックし、ステップを繰り返して複数のアプリケーションを追加します。

メモ: 最初に失敗したときにアプリケーションポリシーを停止するには、[アプリの依存関係を有効にする] を選択します。このオプションが選択されていない場合、アプリケーションの失敗がポリシーの実装に影響します。
 - g. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを展開する場合は、[OS サブタイプフィルタ] または [プラットフォームフィルタ] を選択します。
 - h. **タイムアウト (1 ~ 999 分)** ボックスに、クライアントにメッセージダイアログボックスを表示する時間 (分) を指定します。タイムアウトでは、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。
 - i. ポリシー実行の遅延を許可するには、[ポリシー実行の遅延を許可] チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
 - [遅延あたりの最大時間] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間 (1 ~ 24 時間) を選択します。
 - [最大遅延] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数 (1 ~ 3 回) を選択します。
 - j. [ポリシーを自動的に適用] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 自動的に適用しない — このオプションは、ポリシーをデバイスに自動的に適用しません。
 - ポリシーを新しいデバイスに適用 — このオプションは、選択したグループに属するデバイスまたは選択したグループに移動されたデバイスが登録されると、自動的にポリシーを適用します。
 - チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 — このオプションは、チェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。
- メモ:** Windows ベースのデバイスの場合、サイレントモードでアプリケーションを実行するために、.exe ファイルのサイレントインストールのパラメータを指定します。たとえば、「**VMware-Horizon-Client-4.6.1-6748947.exe /silent /install /norestart**」と入力します。

- k. [書き込みフィルタチェックをスキップ] チェックボックスを選択して、書き込みフィルタのサイクルをスキップします。このオプションは、Windows Embedded Standard オペレーティングシステムデバイスおよび Wyse Software Thin Client デバイスに適用されます。
6. [保存] をクリックします。メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようにします。デバイスにアプリケーションポリシーをすぐに、または [アプリポリシージョブ] ページでスケジュールされた日付と時刻にスケジュールするには、[はい] を選択します。
- アプリケーションポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。
- a. [即時] - サーバは即時ジョブを実行します。
- b. [デバイスのタイムゾーン] - サーバは各デバイスのタイムゾーンに1つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付/時刻にジョブをスケジュールします。
- c. [選択したタイムゾーン] - サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻にスケジュールする必要があるジョブを作成します。
7. [プレビュー] をクリックして、次のページでジョブの作成をスケジュールします。
8. [ジョブ] ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

Wyse Software Thin Client に対する標準アプリケーションポリシーの作成および導入

Wyse Software Thin Client に標準アプリケーションポリシーを導入するには、次の手順を実行します。

- ローカルリポジトリで [softwareTcApps] に移動して、アプリケーションをフォルダにコピーします。
- [アプリとデータ] タブに移動して [アプリインベントリ] の [Wyse Software Thin Client] を選択して、アプリケーションが登録されたことを確認します。
 **メモ:** 最近追加したプログラムがアプリインベントリのインタフェースに表示されるまで約2分かかります。
- [アプリとデータ] をクリックします。
[アプリとデータ] ページが表示されます。
- [アプリポリシー] で [Wyse Software Thin Client] をクリックします。
- [ポリシーの追加] をクリックします。
[標準アプリポリシーの追加] ウィンドウが表示されます。
- [ポリシー名] を入力します。
- ドロップダウンリストから、[グループ] を選択します。
- ドロップダウンリストから、[タスク] を選択します。
- ドロップダウンリストから、[OS タイプ] を選択します。
- ドロップダウンリストから、[アプリケーション] を選択します。
- 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを導入する場合は、[OS サブタイプフィルタ] または [プラットフォームフィルタ] を選択します。
- タイムアウトでは、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。メッセージダイアログボックスをクライアントに表示する時間(分)を指定します。
- ポリシー実行の遅延を許可するには、[ポリシー実行の遅延を許可] チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
 - [遅延あたりの最大時間] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間(1~24時間)を選択します。
 - [最大遅延] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数(1~3回)を選択します。
- [ポリシーを自動的に適用] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 自動的に適用しない — このオプションは、ポリシーをデバイスに自動的に適用しません。
 - ポリシーを新しいデバイスに適用 — このオプションは、選択したグループに属するデバイスまたは選択したグループに移動されたデバイスが登録されると、自動的にポリシーを適用します。
 - チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 — このオプションは、チェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。

メモ: Windows ベースのデバイスの場合、サイレントモードでアプリケーションを実行するために、.exe ファイルのサイレントインストールのパラメータを指定します。たとえば、「VMware-Horizon-Client-4.6.1-6748947.exe /silent /install /norestart」と入力します。

15. [保存] クリックしてポリシーを作成します。
メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようになります。
16. 同じページ上のジョブをスケジュールするには、[はい] を選択します。
17. アプリケーションポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。
 - a. [即時] - サーバは即時ジョブを実行します。
 - b. [デバイスのタイムゾーン] - サーバは各デバイスのタイムゾーンに1つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付/時刻にジョブをスケジュールします。
 - c. [選択したタイムゾーン] - サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻に実行するジョブを1つ作成します。
18. ジョブを作成するには、[プレビュー] をクリックすると、次のページにスケジュールが表示されます。
19. [ジョブ] ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

Wyse Software Thin Client に対する高度なアプリケーションポリシーの作成および導入

このタスクについて

Wyse Software Thin Client に高度なアプリケーションポリシーを導入するには、次の手順を実行します。

1. ローカルリポジトリで [softwareTcApps] に移動して、アプリケーションをフォルダにコピーします。
2. [アプリとデータ] タブに移動して [アプリインベントリ] の [Wyse Software Thin Client] を選択して、アプリケーションが登録されたことを確認します。

メモ: 最近追加したプログラムがアプリインベントリのインターフェースに表示されるまで約2分かかります。
3. [アプリとデータ] をクリックします。
[アプリとデータ] ページが表示されます。
4. [アプリポリシー] の下の [Wyse Software Thin Client] をクリックします。
5. [詳細なポリシーの追加] をクリックします。[詳細なアプリポリシーの追加] ページが表示されます。
6. アプリケーションポリシーを作成するには、次の操作を行います。
 - a. [ポリシー名] を入力します。
 - b. ドロップダウンリストから、[グループ] を選択します。
 - c. [サブグループ] チェックボックスを選択して、ポリシーをサブグループに適用します。
 - d. ドロップダウンリストから、[タスク] を選択します。
 - e. ドロップダウンリストから、[OS タイプ] を選択します。
 - f. [アプリの追加] をクリックし、[アプリ] の下で1つ、または複数のアプリケーションを選択します。各アプリケーションについて、[プリインストール]、[ポストインストール]、[パラメータのインストール] の下で、プレ/ポストインストールスクリプトを選択できます。アプリケーションが正常にインストールされた後にシステムを再起動したい場合は、[再起動] を選択します。[アプリの追加] をクリックし、ステップを繰り返して複数のアプリケーションを追加します。

メモ: 最初に失敗したときにアプリケーションポリシーを停止するには、[アプリの依存関係を有効にする] を選択します。このオプションが選択されていない場合、アプリケーションの失敗がポリシーの実装に影響します。
 - g. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにこのポリシーを展開する場合は、[OS サブタイプフィルタ] または [プラットフォームフィルタ] を選択します。
 - h. **タイムアウト (1 ~ 999 分)** ボックスに、クライアントにメッセージダイアログボックスを表示する時間 (分) を指定します。タイムアウトでは、クライアントにメッセージが表示され、インストール開始前に作業を保存する時間を提供します。
 - i. ポリシー実行の遅延を許可するには、[ポリシー実行の遅延を許可] チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、以下のドロップダウンメニューが有効になります。
 - [遅延あたりの最大時間] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる最大時間 (1 ~ 24 時間) を選択します。

- [最大遅延] ドロップダウンリストから、ポリシーの実行を遅らせることができる回数 (1 ~ 3 回) を選択します。
- j. [ポリシーを自動的に適用] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 自動的に適用しない — このオプションは、ポリシーをデバイスに自動的に適用しません。
 - ポリシーを新しいデバイスに適用 — このオプションは、選択したグループに属するデバイスまたは選択したグループに移動されたデバイスが登録されると、自動的にポリシーを適用します。
 - チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 — このオプションは、チェックイン時に自動的にデバイスに適用されます。
- i** **メモ:** Windows ベースのデバイスの場合、サイレントモードでアプリケーションを実行するために、.exe ファイルのサイレントインストールのパラメータを指定します。たとえば、「**VMware-Horizon-Client-4.6.1-6748947.exe /silent /install /norestart**」と入力します。
- k. [書き込みフィルタチェックをスキップ] チェックボックスを選択して、書き込みフィルタのサイクルをスキップします。このオプションは、Windows Embedded Standard オペレーティングシステムデバイスに適用されます。
- 7. [保存] をクリックします。メッセージが表示され、管理者はグループに基づいてデバイスでこのポリシーをスケジュールできるようになります。デバイスにアプリケーションポリシーをすぐに、または [アプリポリシージョブ] ページでスケジュールされた日付と時刻にスケジュールするには、[はい] を選択します。
アプリケーションポリシージョブは、次のタイミングで実行できます。
 - a. [即時] - サーバは即時ジョブを実行します。
 - b. [デバイスのタイムゾーン] - サーバは各デバイスのタイムゾーンに 1 つのジョブを作成し、デバイスのタイムゾーンの選択した日付 / 時刻にジョブをスケジュールします。
 - c. [選択したタイムゾーン] - サーバは、指定されたタイムゾーンの日付および時刻にスケジュールする必要があるジョブを作成します。
- 8. [プレビュー] をクリックして、次のページでジョブの作成をスケジュールします。
- 9. [ジョブ] ページにナビゲートして、ジョブのステータスを確認できます。

イメージポリシー

Wyse Management Suite は、次のタイプのオペレーティングシステムイメージ導入ポリシーをサポートします。

- Windows Embedded Standard オペレーティングシステムおよび ThinLinux のイメージのリポジトリへの追加
- リポジトリへの ThinOS ファームウェアの追加
- リポジトリへの Teradici ファームウェアの追加
- Windows Embedded Standard および ThinLinux のイメージポリシーの作成。

Windows Embedded Standard オペレーティングシステムおよび ThinLinux イメージのリポジトリへの追加

前提条件

作業を開始する前に

- クラウド環境で Wyse Management Suite を使用している場合は、[ポータル管理] > [コンソールの設定] > [ファイルリポジトリ] の順に移動します。[バージョン 1.3 のダウンロード] をクリックして WMS_Repo.exe ファイルをダウンロードし、Wyse Management Suite リポジトリインストーラをインストールします。詳細については、「[ファイルリポジトリへのアクセス](#)」を参照してください。
- オンプレミス環境で Wyse Management Suite を使用している場合、ローカルリポジトリは Wyse Management Suite のインストールプロセス中にインストールされます。

このタスクについて

イメージをシステムのリポジトリフォルダに追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. Windows Embedded Standard オペレーティングシステムイメージまたは ThinLinux イメージを、<リポジトリの場所 >\repository\osImages\zipped フォルダにコピーします。

圧縮フォルダからファイルが解凍され、<リポジトリの場所>\repository\osImages\valid にファイルがアップロードされます。イメージのサイズに応じて、解凍に数分かかる場合があります。

メモ: ThinLinux オペレーティングシステムの場合、merlin イメージ (例: 1.0.7_3030LT_merlin.exe) をダウンロードして、<リポジトリの場所>\Repository\osImages\zipped フォルダにコピーします。

イメージがリポジトリに追加されます。

2. 登録済みのイメージを表示するには、[アプリとデータ] > [OS イメージリポジトリ] > [WES/ThinLinux] の順に進みます。

リポジトリへの ThinOS ファームウェアの追加

オペレーティングシステムイメージを ThinOS ファームウェアリポジトリに追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. [アプリ & データ] タブで、[OS イメージリポジトリ] の [ThinOS] をクリックします。
2. [ファイルの追加] をクリックします。
[ファイルの追加] 画面が表示されます。
3. ファイルを選択するには、[参照] をクリックしてファイルがある場所に移動します。
4. お使いのファイルの説明を入力します。
5. 既存のファイルを上書きする場合は、チェックボックスを選択します。
6. [アップロード] をクリックします。

メモ: チェックボックスを選択すると、ファイルはリポジトリに追加されますが、グループまたはデバイスのいずれにも割り当てられません。デバイスまたはデバイスのグループにファームウェアを導入するには、それぞれのデバイスまたはグループの設定ページに移動します。

リポジトリへの Teradici ファームウェアの追加

オペレーティングシステムイメージを Teradici ファームウェアリポジトリに追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. [アプリとデータ] タブで、[OS イメージリポジトリ] の [Teradici] をクリックします。
2. [ファームウェアファイルの追加] をクリックします。
[ファイルの追加] 画面が表示されます。
3. ファイルを選択するには、[参照] をクリックしてファイルがある場所に移動します。
4. お使いのファイルの説明を入力します。
5. 既存のファイルを上書きする場合は、チェックボックスを選択します。
6. [アップロード] をクリックします。

メモ: チェックボックスを選択すると、ファイルはリポジトリに追加されますが、グループまたはデバイスのいずれにも割り当てられません。デバイスまたはデバイスのグループにファームウェアを導入するには、それぞれのデバイスまたはグループの設定ページに移動します。

Windows Embedded Standard および ThinLinux イメージポリシーの作成

このタスクについて

Windows Embedded Standard イメージまたは ThinLinux イメージのポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [アプリとデータ] タブの [OS イメージポリシー] の下で、[WES/ThinLinux] をクリックします。
2. [ポリシーの追加] をクリックします。
[WES/ThinLinux ポリシーの追加] ページが表示されます。

3. [WES/ThinLinux ポリシーの追加] ページで、次の手順を実行します。
 - a. [ポリシー名] を入力します。
 - b. [グループ] ドロップダウンメニューから、グループを選択します。
 - c. [OS タイプ] ドロップダウンメニューから、OS タイプを選択します。
 - d. [OS サブタイプフィルタ] ドロップダウンメニューから、OS サブタイプフィルタを選択します。
 - e. 特定のオペレーティングシステムまたはプラットフォームにイメージを展開する場合は、[OS サブタイプフィルタ] または [プラットフォームフィルタ] を選択します。
 - f. [OS イメージ] ドロップダウンメニューから、OS イメージファイルを選択します。
 - g. [ルール] ドロップダウンメニューから、イメージポリシーに設定する次のいずれかのルールを選択します。
 - アップグレードのみ
 - ダウングレードを許可
 - このバージョンを強制
 - h. [ポリシーを自動的に適用] ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 自動的に適用しない - イメージポリシーは Wyse Management Suite に登録されたデバイスに自動的に適用されません。
 - 新規デバイスにポリシーを適用 - イメージポリシーは Wyse Management Suite に登録された新しいデバイスに適用されます。
 - チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 - イメージポリシーは、Wyse Management Suite に登録された新しいデバイスのチェックイン時に適用されます。
4. [保存] をクリックします。


ファイルリポジトリの管理


このセクションでは、壁紙、ロゴ、EULA テキストファイル、Windows ワイヤレスプロファイル、および証明書ファイルなどのファイルリポジトリのインベントリを表示および管理できます。

新しいファイルを追加するには、次の操作を行います。

1. [ファイルリポジトリ] の下の [アプリとデータ] タブで、[インベントリ] をクリックします。
2. [ファイルの追加] をクリックします。

[ファイルの追加] 画面が表示されます。
3. ファイルを選択するには、[参照] をクリックしてファイルがある場所に移動します。
4. [タイプ] ドロップダウンメニューからファイルのタイプに合った次のオプションのいずれかを選択します。
 - 証明書
 - 壁紙
 - ロゴ
 - EULA テキストファイル
 - Windows ワイヤレスプロファイル
 - INI ファイル
 - ロケール
 - プリンタマッピング
 - フォント

 **メモ:** アップロードが可能なファイルの最大サイズおよびサポートされるフォーマットを表示するには、[情報 (i)] アイコンをクリックします。
5. 既存のファイルを上書きする場合は、チェックボックスを選択します。

 **メモ:** チェックボックスを選択すると、ファイルはリポジトリに追加されますが、グループまたはデバイスのいずれにも割り当てられません。ファイルを割り当てるには、それぞれのデバイス設定ページに移動します。
6. [アップロード] をクリックします。

マーケティンググループに属するすべてのデバイスの壁紙を変更する方法

Wyse Management Suite リポジトリに壁紙を追加するには、次の操作を行います。

1. [アプリとデータ] タブに移動します。
2. 左側ペインのナビゲーションバーで、[インベントリ] を選択します。
3. [ファイルの追加] ボタンをクリックします。
4. 壁紙として使用するイメージを参照してポイントします。
5. タイプには、**壁紙** を選択します。
6. 説明を入力して [アップロード] をクリックします。

新しい壁紙を割り当てて、グループの設定ポリシーを変更するには、次の操作を行います。

1. ポリシーグループを選択します。
2. ポリシーの**編集** をクリックして、**WES** を選択します。
3. **デスクトップエクスペリエンス** をクリックし、**この項目を設定する** をクリックします。
4. **デスクトップの壁紙** を選択します。
5. ドロップダウンリストから、壁紙ファイルを選択します。
6. **保存して公開** をクリックします。

[ジョブ] をクリックし、設定ポリシーのステータスを確認します。[詳細] 列内のステータスフラグの横の番号をクリックして、デバイスのステータスを確認します。

ルールの管理

この項では、Wyse Management Suite コンソールでルールを追加および管理する方法について説明します。次のフィルタオプションが利用可能です。

- [登録]
- [管理対象外のデバイスの自動割り当て]
- [アラート通知]

トピック：

- [登録ルールの編集](#)
- [管理対象外のデバイスの自動割り当て](#)
- [管理対象外のデバイスの自動割り当てルールの編集](#)
- [ルールを削除および無効にする](#)
- [ルールの順序を保存](#)
- [アラート通知のルールの追加](#)
- [アラート通知ルールの編集](#)



登録ルールの編集

[登録] オプションを使用して、管理対象外のデバイスのルールを設定します。

このタスクについて

登録ルールを編集するには、次の操作を行います。


手順

1. **ルール** をクリックします。
ルール ページが表示されます。
2. [登録] をクリックし、管理対象外のデバイス オプションを選択します。
3. [ルールの編集] をクリックします。
[ルールの編集] ウィンドウが表示されます。
次の詳細を表示できます。
 - ルール
 - 説明
 - デバイスタarget
 - グループ
4. ドロップダウンメニューから、[通知ターゲット] オプションを適用するターゲットクライアントと、[通知頻度] オプションを適用する期間を選択します。
 **メモ:** 通知の頻度は、ターゲットデバイスに対して、4 時間毎、12 時間ごと、毎日、または毎週に設定することができます。
5. ルールを適用するまでの日数を、[ルール適用までの期間 (1 ~ 30 日)] ボックスに入力します。
 **メモ:** デフォルトでは、管理対象外のデバイスの登録は 30 日後に登録解除されます。
6. [保存] をクリックします。

管理対象外のデバイスの自動割り当て

このタスクについて

管理対象外のデバイスの自動割り当てのルールを作成するには、次の手順を実行します。

 **メモ:** Pro ライセンスバージョンの Wyse Management Suite をインストールしていることを確認します。

手順

1. **ルール** タブをクリックします。
2. **管理対象外のデバイスの自動割り当て** オプションを選択します。
3. **ルールの追加** タブをクリックします。
4. [名前] を入力し、[宛先グループ] を選択します。
5. [条件を追加] オプションをクリックして、割り当てられたルールの条件を選択します。
6. [保存] をクリックします。
ルールは、管理対象外グループリストに表示されます。このルールは自動的に適用され、デバイスは宛先グループに一覧表示されます。

管理対象外のデバイスの自動割り当てルールの編集

このタスクについて

管理対象外のデバイスの自動割り当てのルールを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. **ルール** タブをクリックします。
2. **管理対象外のデバイスの自動割り当て** オプションを選択します。
3. ルールを選択して、**編集** オプションをクリックします。
4. [名前] を入力し、[宛先グループ] を選択します。
5. [条件を追加] オプションをクリックして、割り当てられたルールの条件を選択します。
6. **保存** をクリックします。

ルールを削除および無効にする

このタスクについて

管理対象外デバイスの自動割り当てに関して、ルールを無効にする場合および無効になったルールを削除する場合には、次の操作を行います。

手順

1. **ルール** タブをクリックします。
2. **管理対象外のデバイスの自動割り当て** オプションを選択します。
3. ルールを選択し、**ルールの無効化** オプションをクリックします。
選択したルールが無効になります。
4. 無効になったルールを選択し、**無効化したルールを削除する** オプションをクリックします。
ルールが削除されます。

ルールの順序を保存

前提条件

複数のルールがある場合、デバイスで適用されるルールの順序を変更することができます。

このタスクについて

ルールの順序を変更するには、次の操作を行います。

手順

1. **ルール** タブをクリックします。
2. **管理対象外のデバイスの自動割り当て** オプションを選択します。
3. 移動したいルールを選択し、一番上の順序に移動します。
4. [**ルールの順序を保存**] をクリックします。

アラート通知のルールの追加

このタスクについて

アラート通知のルールを追加するには、次の操作を行います。

手順

1. [**ルール**] タブをクリックします。
2. [**アラート通知**] オプションを選択します。
3. [**ルールの追加**] をクリックします。
[**ルールの追加**] ウィンドウが表示されます。
4. [**ルール**] ドロップダウンリストで、ルールを選択します。
5. [**説明**] を押します。
6. [**グループ**] ドロップダウンリストから、希望するオプションを選択します。
7. ドロップダウンメニューから、[**通知ターゲット**] を適用するターゲットデバイスと、[**通知頻度**] を適用する期間を選択します。
8. [**保存**] をクリックします。

アラート通知ルールの編集

このタスクについて

アラート通知のルールを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [**ルール**] タブをクリックします。
2. [**アラート通知**] オプションを選択します。
3. [**ルールの編集**] をクリックします。
[**ルールの編集**] ウィンドウが表示されます。
4. [**ルール**] ドロップダウンリストで、ルールを選択します。
5. [**説明**] を押します。
6. [**グループ**] ドロップダウンリストで、グループを選択します。
7. ドロップダウンリストで、[**通知ターゲット**] を適用するターゲットデバイスと、[**通知頻度**] を適用する期間を選択します。
8. [**保存**] をクリックします。

ジョブの管理

この項では、管理コンソールでジョブをスケジュールおよび管理する方法について説明します。

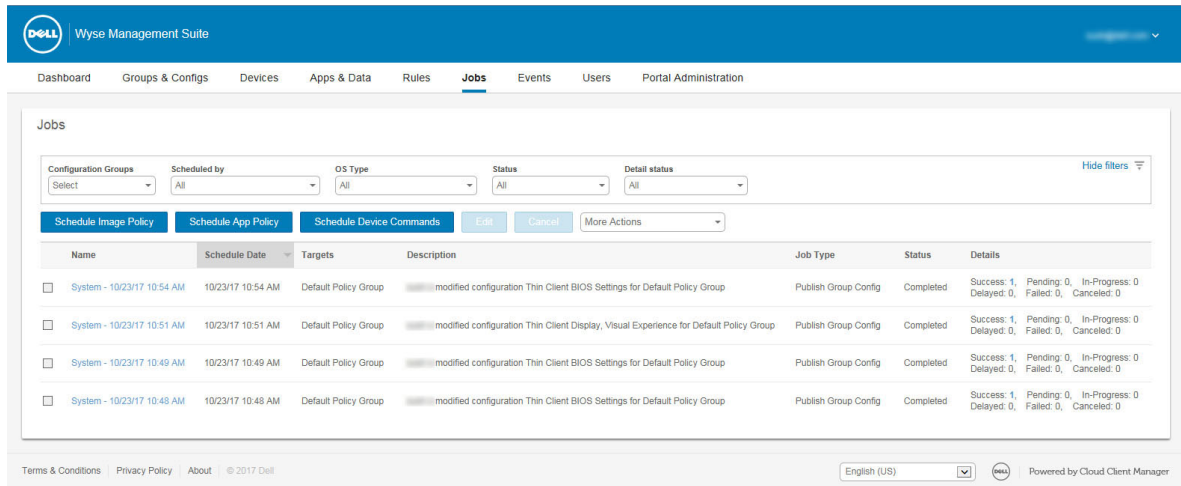


図 12. ジョブ

このページでは、次のフィルタリングオプションに基づいてジョブを参照できます。

- [設定グループ] - ドロップダウンメニューから、設定グループタイプを選択します。
- [スケジュール元] - ドロップダウンメニューから、スケジュールアクティビティを実行するスケジューラを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。
 - システム管理者
 - アプリポリシー
 - イメージポリシー
 - デバイスコマンド
 - システム
 - グループ設定の公開
 - その他
- [OSタイプ] - ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。
 - ThinOS
 - WES
 - Linux
 - Thin Linux
 - Wyse Software Thin Client
- [ステータス] - ドロップダウンメニューから、ジョブのステータスを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。
 - スケジュール済み
 - 実行中/進行中
 - 完了
 - キャンセルが選択されました
 - 失敗
- [詳細なステータス] - ドロップダウンメニューから、詳細のステータスを選択します。利用できるオプションは次のとおりです。
 - 失敗
 - 保留
 - 進行中

- キャンセル
 - 完了
- [追加アクション] - ドロップダウンメニューから、[BIOS 管理者パスワードを同期する] オプションを選択します。BIOS 管理者パスワードジョブを同期する ウィンドウが表示されます。

トピック：

- [BIOS 管理者パスワードを同期する](#)
- [フィルタを使用してスケジュールされたジョブを検索する](#)
- [イメージポリシーのスケジュール](#)
- [アプリケーションポリシーのスケジュール](#)
- [デバイスコマンドジョブのスケジュール](#)

BIOS 管理者パスワードを同期する

[追加アクション] ドロップダウンメニューから、[BIOS 管理者パスワードを同期する] オプションを選択します。BIOS 管理者パスワードを同期するには、次の操作を行います。

1. パスワードを入力します。パスワードには、最低 4 文字、最大 32 文字を指定する必要があります。
2. [パスワードの表示] チェックボックスを選択して、パスワードを表示します。
3. [OS タイプ] ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
4. [プラットフォーム] ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
5. ジョブの名前を表示します。
6. [グループ] ドロップダウンメニューから、希望するオプションを選択します。
7. [すべてのサブグループを含める] チェックボックスを選択し、サブグループを含めます。
8. [説明] ボックスに説明を入力します。
9. [プレビュー] をクリックします。

フィルタを使用してスケジュールされたジョブを検索する

このタスクについて

この項では、スケジュールされたジョブの検索方法と、管理コンソールでジョブを管理する方法について説明します。フィルタを使用してスケジュールされたジョブを検索するには、次の操作を行います。

手順

1. [ジョブ] をクリックします。
[ジョブ] ページが表示されます。
2. [設定グループ] ドロップダウンメニューから、デフォルトポリシーグループまたは、管理者によって追加されたグループのどちらかを選択します。
3. [スケジュール元] ドロップダウンメニューから、スケジュールアクティビティを実行するスケジューラを選択します。
利用できるオプションは次のとおりです。
 - システム管理者
 - アプリポリシー
 - イメージポリシー
 - デバイスコマンド
 - システム
 - グループ設定の公開
 - その他
4. [OS タイプ] ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムを選択します。
利用できるオプションは次のとおりです。
 - ThinOS
 - WES
 - Linux
 - Thin Linux

- Wyse Software Thin Client
5. [ステータス] ドロップダウンメニューから、ジョブのステータスを選択します。
利用できるオプションは次のとおりです。
 - スケジュール済み
 - 実行中 / 進行中
 - 完了
 - キャンセルが選択されました
 - 失敗
 6. [詳細なステータス] ドロップダウンメニューから、詳細のステータスを選択します。
利用できるオプションは次のとおりです。
 - 失敗
 - 保留
 - 進行中
 - キャンセル
 - 完了
 7. [追加アクション] ドロップダウンメニューから、[BIOS 管理者パスワードを同期する] オプションを選択します。
[BIOS 管理者パスワードジョブを同期する] ウィンドウが表示されます。詳細については、「[BIOS 管理者パスワードを同期する](#)」を参照してください。

イメージポリシーのスケジュール

このタスクについて

イメージポリシーに定期ジョブはありません。各コマンドは、デバイスによって異なります。イメージポリシーをスケジュールするには、次の操作を行います。

手順

1. [ジョブ] ページをクリックして、**イメージポリシーのスケジュール** オプションをクリックします。
[イメージアップデートジョブ] 画面が表示されます。
2. ドロップダウンリストから、ポリシーを選択します。
3. ジョブの説明を入力します。
4. ドロップダウンリストから、日付または時刻を選択します。
5. 次の詳細を入力または選択します。
 - [有効] - 開始および終了の日付を入力します。
 - [開始時間] - 開始および終了時刻を入力します。
 - [指定日 (複数可)] - 曜日を選択します。
6. [プレビュー] オプションをクリックし、スケジュールされたジョブの詳細を表示します。
7. [スケジュール] オプションをクリックし、ジョブを開始します。

アプリケーションポリシーのスケジュール

このタスクについて

アプリケーションポリシーは定期ジョブではありません。各コマンドは、デバイスによって異なります。アプリケーションポリシーをスケジュールするには、次の操作を行います。

手順

1. [ジョブ] ページで、[アプリケーションポリシーのスケジュール] オプションをクリックします。
[アプリポリシージョブ] 画面が表示されます。
2. ドロップダウンリストから、ポリシーを選択します。
3. ジョブの説明を入力します。
4. ドロップダウンリストから、日付または時刻を選択します。

5. 次の詳細を入力または選択します。
 - [有効] - 開始および終了の日付を入力します。
 - [開始時間] - 開始および終了時刻を入力します。
 - [指定日(複数可)] - 曜日を選択します。
6. [プレビュー] オプションをクリックし、スケジュールされたジョブの詳細を表示します。
7. 次のページで、[スケジュール] オプションをクリックします。

デバイスコマンドジョブのスケジュール

このタスクについて

デバイスのコマンドジョブをスケジュールするには、次の操作を行います。

手順

1. [ジョブ] ページで、**デバイスコマンドジョブのスケジュール** をクリックします。
[デバイスのコマンドジョブ] 画面が表示されます。
2. ドロップダウンリストから、コマンドを選択します。
デバイスコマンドは定期ジョブです。選択した曜日と特定の時間に、選択したデバイスにコマンドが送信されます。
3. ドロップダウンリストから、オペレーティングシステムのタイプを選択します。
4. ジョブの名前を表示します。
5. ドロップダウンリストから、グループ名を選択します。
6. ジョブの説明を入力します。
7. ドロップダウンリストから、日付または時刻を選択します。
8. 次の詳細を入力または選択します。
 - [有効] - 開始および終了の日付を入力します。
 - [開始時間] - 開始および終了時刻を入力します。
 - [指定日(複数可)] - 曜日を選択します。
9. [プレビュー] オプションをクリックし、スケジュールされたジョブの詳細を表示します。
10. 次のページで、[スケジュール] オプションをクリックします。

イベントの管理

このセクションでは、管理コンソールを使用して、管理システムですべてのイベントとアラートを表示する方法を説明します。また、システム監査の目的のためにイベントとアラートの監査を表示する手順についても説明します。

イベントとアラートの概要は、システムのできごとの読みやすい日次概要を取得するためにも使用します。監査 ウィンドウでは、情報を標準的な監査ログ表示に整列します。タイムスタンプ、イベントタイプ、ソース、および各イベントの説明を時間順に表示できます。

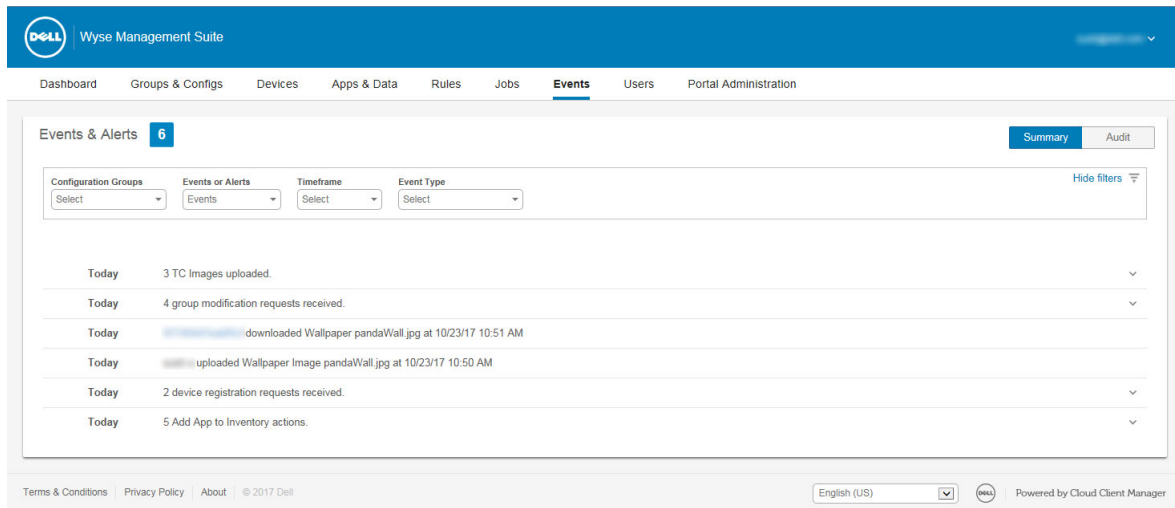


図 13. イベント

トピック：

- [フィルタを使用したイベントまたはアラートの検索](#)

フィルタを使用したイベントまたはアラートの検索

このタスクについて

フィルタを使用してイベントまたはアラートを検索するには、次の操作を行います。

手順

1. [イベント] をクリックします。
[イベント] ページが表示されます。
2. [設定グループ] ドロップダウンメニューから、デフォルトポリシーグループまたは、管理者によって追加されたグループのどちらかを選択します。
3. [イベントまたはアラート] ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - イベント
 - 現在のアラート
 - アラート履歴
4. [時間枠] ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。
このオプションを使用すると、特定の時間枠で発生するイベントを表示できるようになります。利用できるドロップダウンメニューのオプションは次のとおりです。
 - 今日
 - 昨日

- 今週
 - カスタム
5. [イベントタイプ] ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。
すべてのイベントは、いずれかのグループに分類されます。利用できるドロップダウンメニューのオプションは次のとおりです。
- アクセス
 - 登録
 - 構成
 - リモートコマンド
 - 管理
 - コンプライアンス

フィルタを使用したイベントまたはアラートの検索

このタスクについて

フィルタを使用してイベントまたはアラートを検索するには、次の操作を行います。

- 手順
1. [イベント] をクリックします。
[イベント] ページが表示されます。
 2. [設定グループ] ドロップダウンメニューから、デフォルトポリシーグループまたは、管理者によって追加されたグループのどちらかを選択します。
 3. [イベントまたはアラート] ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - イベント
 - 現在のアラート
 - アラート履歴
 4. [時間枠] ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。
このオプションを使用すると、特定の時間枠で発生するイベントを表示できるようになります。利用できるドロップダウンメニューのオプションは次のとおりです。
 - 今日
 - 昨日
 - 今週
 - カスタム
 5. [イベントタイプ] ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオペレーティングシステムを選択します。
すべてのイベントは、いずれかのグループに分類されます。利用できるドロップダウンメニューのオプションは次のとおりです。
 - アクセス
 - 登録
 - 構成
 - リモートコマンド
 - 管理
 - コンプライアンス

イベント概要の表示

前提条件

イベント & アラート ウィンドウには、システムで実行されたすべてのイベントおよびアラートが表示されます。[イベント] > [概要] の順に移動します。

監査ログの表示

前提条件

監査 ウィンドウでは、情報を標準的な監査ログ表示に整列します。タイムスタンプ、イベントタイプ、ソース、および各イベントの説明を時間順に表示できます。

手順

1. [イベント] > [監査] の順に移動します。
2. [設定グループ] ドロップダウンリストから、監査ログを表示するグループを選択します。
3. [時間枠] ドロップダウンリストから、該当する期間中に発生したイベントを表示する期間を選択します。

ユーザーの管理

このセクションでは、管理コンソールで日常的なユーザー管理タスクを実行する方法について説明します。ユーザーには、次の2つのタイプがあります。

- [管理者] - Wyse Management Suite 管理者は、グローバル管理者、グループ管理者、またはビューアの役割に割り当てることができます。
 - グローバル管理者は Wyse Management Suite のすべての機能に対するアクセス権があります。
 - グループ管理者は、自分に割り当てられている特定のグループのすべての資産および機能に対するアクセス権があります。
 - ビューアにはすべてのデータに読み取り専用のアクセス権があり、シャットダウンや再起動など、特定のリアルタイムコマンドをトリガーする許可を割り当てることができます。

管理者を選択する場合は、次のいずれの操作も実行できます。

- 管理者の追加
- 管理者の編集
- 管理者のアクティブ化
- 管理者の非アクティブ化
- 管理者の削除
- 管理者のロック解除

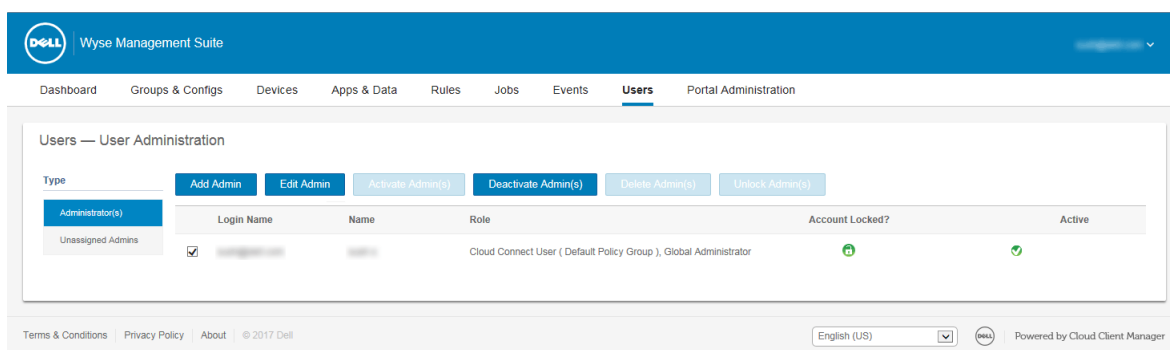


図 14. 管理者

- [割り当て解除された管理者] - AD サーバからインポートされたユーザーは、[割り当て解除された管理者] ページに表示されます。これらのユーザーには後でポータルから役割を割り当てることができます。

ユーザーの管理を適切かつ迅速に行うには、使用可能なフィルタオプションに基づいて、希望するユーザーを選択します。[管理対象外のユーザー] を選択する場合は、次のいずれの操作も実行できます。

- ユーザーの編集
- ユーザーのアクティブ化
- ユーザーの非アクティブ化
- ユーザーの削除

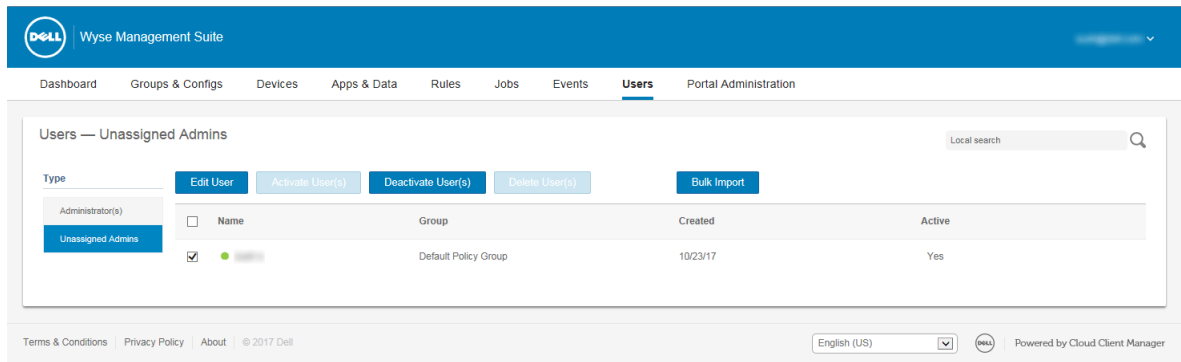


図 15. 割り当て解除された管理者

メモ: CSV ファイルからユーザーをインポートするには、[一括インポート] をクリックします。

トピック：

- 管理者プロファイルの新規追加
- 管理者プロファイルの編集
- 管理者プロファイルの非アクティブ化
- 管理者プロファイルの削除
- ユーザープロファイルの編集
- CSV ファイルのインポート

管理者プロファイルの新規追加

前提条件

新しい管理者ファイルを追加するには、次の操作を行います。

手順

1. [ユーザー] をクリックします。
2. [管理者] をクリックします。
3. [管理者の追加] をクリックします。
[新規管理ユーザー] ウィンドウが表示されます。
4. 電子メール ID とユーザー名をそれぞれのフィールドに入力します。
5. 電子メールに記載されているのと同じユーザー名を使用するには、チェックボックスを選択します。
6. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
 - [個人情報] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - 名
 - 姓
 - 役職
 - 携帯電話番号
 - [役割] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - a. [役割] セクションの [役割] ドロップダウンリストから、[管理者役割] を選択します。
 - グローバル管理者
 - グループ管理者
 - ビューア

メモ: [管理者役割] をビューアとして選択した場合は、次の管理タスクが表示されます。

- デバイスのクエリ
- デバイスの登録解除
- デバイスの再起動/シャットダウン
- グループ割り当ての変更

- リモートシャドー
- デバイスのロック
- デバイスの消去
- メッセージの送信
- WOL デバイス

b. [パスワード] セクションで、次の手順を実行します。

- カスタムパスワードを入力します。
- ランダムなパスワードを生成するには、[ランダムパスワードの生成] ラジオボタンを選択します。


7. [保存] をクリックします。

管理者プロフィールの編集

前提条件

管理者プロフィールを編集するには、次の操作を行います。

手順

- [ユーザー] をクリックします。
- [管理者] をクリックします。
- [管理者の編集] をクリックします。
[管理ユーザーの編集] ウィンドウが表示されます。
- 電子メール ID とユーザー名をそれぞれのフィールドに入力します。
 **メモ:** ログイン名をアップデートすると、コンソールから強制的にログアウトされます。アップデートしたアカウントログイン名を使用して、コンソールにログインします。
- 次の手順のいずれか1つを実行します。
 - [個人情報] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - 名
 - 姓
 - 役職
 - 携帯電話番号
 - [役割] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - [役割] セクションの [役割] ドロップダウンリストから、[管理者役割] を選択します。
 - [パスワード] セクションで、次の手順を実行します。
 - カスタムパスワードを入力します。
 - ランダムなパスワードを生成するには、[ランダムパスワードの生成] ラジオボタンを選択します。
- [保存] をクリックします。

管理者プロフィールの非アクティブ化

このタスクについて

管理者プロフィールを非アクティブ化すると、コンソールにログインできなくなり、登録済みのデバイスのリストから、アカウントが削除されます。管理者ユーザーを非アクティブにするには、次の操作を行います。

手順

- [ユーザー] をクリックします。
- [管理者] をクリックします。
- リストから、ユーザーを選択して [管理者の非アクティブ化] をクリックします。
アラートウィンドウが表示されます。
- [OK] をクリックします。

管理者プロフィールの削除

前提条件

管理者は、削除する前に非アクティブ化する必要があります。管理者を削除するには、次の操作を行います。

手順


1. [ユーザー] をクリックします。
2. [管理者] をクリックします。
3. 削除したい単独または複数の管理者のチェックボックスを選択します。
4. [管理者の削除] をクリックします。
[アラート] ウィンドウが表示されます。
5. 削除の理由を入力して [削除] リンクを有効にします。
6. [削除] をクリックします。

ユーザープロフィールの編集

前提条件

ユーザープロフィールを編集するには、次の操作を行います。

手順

1. [ユーザー] をクリックします。
2. [割り当て解除された管理者] をクリックします。
3. [ユーザーの編集] をクリックします。
[管理ユーザーの編集] ウィンドウが表示されます。
4. 電子メール ID とユーザー名をそれぞれのフィールドに入力します。
 **メモ:** ログイン名をアップデートすると、コンソールから強制的にログアウトされます。アップデートしたアカウントログイン名を使用して、コンソールにログインします。
5. 次の手順のいずれか1つを実行します。
 - [個人情報] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - 名
 - 姓
 - 役職
 - 携帯電話番号
 - [役割] タブをクリックした場合は、次の詳細情報を入力します。
 - a. [役割] セクションの [役割] ドロップダウンリストから、[管理者役割] を選択します。
 - b. [パスワード] セクションで、次の手順を実行します。
 - i. カスタムパスワードを入力します。
 - ii. ランダムなパスワードを生成するには、[ランダムパスワードの生成] ラジオボタンを選択します。
6. [保存] をクリックします。

CSV ファイルのインポート

このタスクについて

CSV ファイルからユーザーをインポートするには、次の操作を行います。

手順

1. [ユーザー] をクリックします。
[ユーザー] ページが表示されます。

2. [割り当て解除された管理者] オプションを選択します。
3. [一括インポート] をクリックします。
[一括インポート] ウィンドウが表示されます。
4. [参照] をクリックして CSV ファイルを選択します。
5. [インポート] をクリックします。

ポータル管理

本項には、システムのセットアップと管理に必要なシステム管理タスクの概要が含まれます。

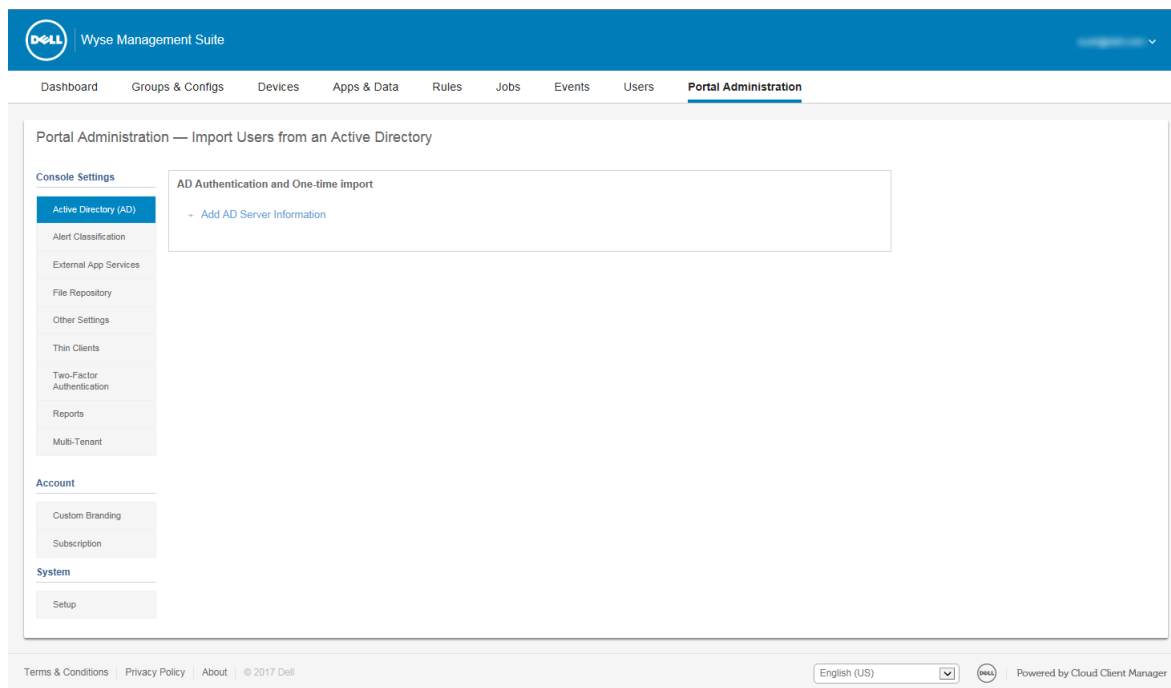


図 16. ポータル管理

トピック：

- Active Directory サーバ情報の追加
- Active Directory によるパブリッククラウドへのユーザーのインポート
- アラート分類
- アプリケーションプログラミングインターフェース (API) アカウントの作成
- ファイルリポジトリへのアクセス
- その他の設定
- Thin Client
- Teradici 設定の管理
- 二要素認証の有効化
- レポートの生成
- マルチテナントアカウントの有効化
- カスタムブランド化の有効化
- ライセンスサブスクリプションの管理
- システムセットアップの管理

Active Directory サーバ情報の追加

このタスクについて

Wyse Management Suite プライベートクラウドで Active Directory ユーザーをインポートするには、次の手順を実行します。

手順

1. Wyse Management Suite プライベートクラウドにログインします。
2. [ポータル管理] > [コンソール設定] > [Active Directory (AD)] の順に移動します。
3. [AD サーバ情報の追加] リンクをクリックします。
4. [AD サーバ名]、[ドメイン名]、[サーバ URL]、[ポート] などのサーバの詳細を入力します。
5. [保存] をクリックします。
6. [インポート] をクリックします。
7. ユーザー名とパスワードを入力します。

メモ: グループおよびユーザーを検索するには、[検索ベース] および [グループ名に含む] オプションに基づいてフィルタを適用します。次のように値を入力します。

- OU=<OU Name>、たとえば OU=TestOU
- DC=<Child Domain>、DC=<Parent Domain>、DC=com、たとえば、次のとおりです。DC=Skynet、DC=Alpha、DC=Com

カンマの後にスペースを入力できますが、一重または二重引用符は使用できません。

8. [ログイン] をクリックします。
9. [ユーザーグループ] ページで、[グループ名] をクリックし、グループ名を入力します。
10. [検索] フィールドに選択するグループ名を入力します。
11. グループを選択します。
選択されたグループがページの右側のペインに移動します。
12. [次へ] をクリックします。
13. [ユーザーのインポート] をクリックします。

メモ: 無効な名前を指定した場合、または姓を指定しない場合、または名前として電子メールアドレスを指定した場合、エントリを Wyse Management Suite にインポートできません。これらのエントリは、ユーザーのインポートプロセスでスキップされます。

Wyse Management Suite ポータルには、インポートされた Active Directory ユーザーの数を含む確認メッセージが表示されます。インポートされた Active Directory ユーザーは、[ユーザー タブ] > [割り当て解除された管理者] にリストされます。

14. 異なる役割やパーミッションを割り当てるには、ユーザーを選択して、[ユーザーの編集] をクリックします。
Active Directory ユーザーに役割を割り当てた後は、それらのユーザーは [ユーザー] ページの [管理者] タブに移動されます。

次の手順

Active Directory ユーザーは、ドメイン資格情報を使用して Wyse Management Suite 管理ポータルにログインすることができます。Wyse Management Suite ポータルにログインするには、次の手順を実行します。

1. Wyse Management Suite 管理ポータルを開始します。
2. ログイン画面で、[ドメイン資格情報でサインインする] リンクをクリックします。
3. ドメインユーザー資格情報を入力し、[サインイン] をクリックします。

インポートした Active Directory ユーザーは、グローバル管理者ログインを使用して、[ユーザー] ページでアクティブ化または非アクティブ化できます。お使いのアカウントが無効にされている場合、Wyse Management Suite 管理ポータルにログインすることはできません。

メモ: LDAPS プロトコルを使用してユーザーをインポートするには、次の手順を実行します。

1. キーツールを使用して、AD ドメインサーバのルート証明書を Java キーストアに手動でインポートします。例：
`<C:\Program Files\DELL\WMS\jdk1.8.0_152\jre\bin>keytool.exe -importcert -alias "WIN-0358EA52H8H" -keystore "<C:\Program Files\DELL\WMS\jdk1.8.0_152\jre\lib\security\cacerts>" -storepass changeit -file "Root Certificate Path"`
2. Tomcat サービスを再起動します。

パブリッククラウドでの Active Directory フェデレーションサービス機能の設定

このタスクについて

パブリッククラウドで Active Directory フェデレーションサービス機能を設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [ポータル管理] ページの [コンソール設定] で [Active Directory (AD)] をクリックします。
2. Wyse Management Suite の詳細を ADFS に入力します。Wyse Management Suite の xml ファイルをアップロードする必要がある ADFS サーバの場所の詳細を知るには、[情報 (i)] アイコンをマウスでポイントします。
メモ: Wyse Management Suite の xml ファイルをダウンロードするには、ダウンロードリンクをクリックします。
3. ADFS で Wyse Management Suite のルールを設定します。カスタムクレームルールの詳細を知るには、[情報 (i)] アイコンをマウスでポイントします。
メモ: Wyse Management のルールを表示するには、[WMS ルールの表示] リンクをクリックします。Wyse Management Suite のルールは、[Wyse Management Suite のルール] ウィンドウにあるリンクをクリックしてダウンロードすることもできます。
4. ADFS の詳細を設定するには、[設定の追加] をクリックし、次の手順を実行します。
メモ: テナントが ADFS 設定に従うことを許可するには、ADFS のメタデータファイルをアップロードします。
 - a. Thin Client に保存されている XML ファイルをアップロードするには、[XML ファイルのロード] をクリックします。ファイルは、`https://adfs.example.com/FederationMetadata/2007-06/FederationMetadata.xml` で利用できます。
 - b. エンティティ ID と X.509 署名証明書の詳細をそれぞれのボックスに入力します。
 - c. ADFS ログイン URL アドレスと ADFS ログアウト URL アドレスをそれぞれのボックスに入力します。
 - d. ADFS を使用してテナントがシングルサインオンを設定できるようにするには、[ADFS を使用して SSO ログインを有効にする] チェックボックスを選択します。この機能は、セキュリティアサッションマークアップランゲージ (SAML) 標準仕様に従います。
 - e. 設定情報を検証するには、[ADFS ログインのテスト] をクリックします。これにより、保存する前にテナントはセットアップをテストできます。
メモ: テナントは、ADFS を使用して SSO ログインをアクティブ化 / 非アクティブ化できます。
5. [保存] をクリックします。
6. メタデータファイルを保存した後、[設定のアップデート] をクリックします。
メモ:
 - テナントは、ADFS から設定した AD 資格情報を使用してログインおよびログアウトできます。AD ユーザーが Wyse Management Suite サーバにインポートされていることを確認する必要があります。ログインページで、[サインイン] をクリックし、ドメイン資格情報を入力します。AD ユーザーの電子メールアドレスを指定してサインインする必要があります。
 - ADFS のマニュアルについての詳細は、[Technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/dd448613](https://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/dd448613) を参照してください。

Active Directory によるパブリッククラウドへのユーザーのインポート


手順

1. ファイルリポジトリをダウンロードしてインストールするには、「[ファイルリポジトリへのアクセス](#)」を参照してください。リポジトリは、会社のネットワークを使用してインストールされている必要があります。ユーザーをプルするために AD サーバにアクセスできる必要があります。

2. リポジトリをパブリッククラウドに登録します。一度登録したら、UIに記載されている手順に従って、ユーザーを Wyse Management Suite パブリッククラウドにインポートします。Wyse Management Suite パブリッククラウドにインポートした後で、AD ユーザーのロールを編集できます。
3. パブリッククラウドで ADFS をセットアップするには、「パブリッククラウドでの Active Directory フェデレーションサービスの機能の設定」を参照してください

アラート分類

アラート ページは、アラートを [重要]、[警告]、[情報] に分類します。

 **メモ:** アラートを電子メールで受け取るには、右上に表示されるユーザー名メニューから、アラートプリファランス オプションを選択します。

以下のアラートについて、**重要**、**警告**、または **情報** などの希望する通知タイプを選択します。

- デバイス正常性アラート
- デバイスはチェックインしていません

アプリケーションプログラミングインタフェース (API) アカウントの作成

前提条件

このセクションでは、アプリケーションプログラミングインタフェース (API) アカウントを作成できます。このサービスは、特別なアカウントを作成する機能を提供します。

このタスクについて

外部アプリケーションサービスを設定するには、次の操作を行います。

手順

1. Wyse Management Suite ポータルにログインして、**ポータル管理** タブをクリックします。
2. [コンソール設定] の下の **外部アプリサービス** を選択します。
3. **追加** タブを選択して API サービスを追加します。
外部アプリサービスを追加する ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の詳細を入力して外部アプリケーションサービスを追加します。
 - 名前
 - 説明
5. [自動承認] チェックボックスを選択します。
チェックボックスを選択すると、グローバル管理者からの承認は必要ありません。
6. **保存** をクリックします。

ファイルリポジトリへのアクセス

ファイルリポジトリは、ファイルが保存されて整理されている場所です。Wyse Management Suite には次の 2 つのリポジトリタイプがあります。

- **ローカルリポジトリ** - Wyse Management Suite のプライベートクラウドのインストール中、Wyse Management Suite インストーラにローカルリポジトリのパスを指定します。インストール後、[ポータル管理] > [ファイルリポジトリ] の順に移動して、ローカルリポジトリを選択します。リポジトリの設定を表示および編集するには、**編集** オプションをクリックします。
- **Wyse Management Suite リポジトリ** - Wyse Management Suite のパブリッククラウドにログインし、[ポータル管理] > [ファイルリポジトリ] の順に移動して、Wyse Management Suite リポジトリのインストーラをダウンロードします。インストール後、必要な情報を指定して、Wyse Management Suite リポジトリを Wyse Management Suite 管理サーバに登録します。

Wyse Management Suite リポジトリを使用するには、次の手順を実行します。

1. パブリッククラウドのコンソールから Wyse Management Suite リポジトリをダウンロードします。

2. インストールプロセスの後、アプリケーションを起動します。
3. Wyse Management Suite リポジトリ ページで、資格情報を入力して、Wyse Management Suite リポジトリを Wyse Management Suite サーバに登録します。
4. [パブリック WMS 管理ポータルへの登録] オプションを有効にする場合は、リポジトリを Wyse Management Suite のパブリッククラウドに登録することができます。
5. [ファイルの同期] オプションをクリックして、ファイルの同期コマンドを送信します。
6. [チェックイン] をクリックしてから、[コマンドの送信] をクリックして、デバイスにデバイス情報コマンドを送信します。
7. [登録解除] オプションをクリックして、オンプレミスサービスを登録解除します。
8. [編集] をクリックしてファイルを編集します。
 - a. **ファイルの同時ダウンロード** オプションのドロップダウンリストから、ファイルの数を選択します。
 - b. **Wake on LAN** オプションを有効または無効にします。
 - c. **ファイルの高速アップロードおよびダウンロード (HTTP)** オプションを有効または無効にします。
 - HTTP が有効な場合、ファイルのアップロードおよびダウンロードは HTTP 経由で実行されます。
 - HTTP が有効ではない場合、ファイルのアップロードおよびダウンロードは HTTPS 経由で実行されます。
 - d. [証明書の検証] チェックボックスを選択して、パブリッククラウドの CA 検証を有効にします。

メモ:

- i. Wyse Management Suite サーバからの CA 検証が有効になっている場合、クライアントに証明書が存在する必要があります。アプリおよびデータ、イメージのプル/プッシュなど、すべての操作が成功します。クライアントに証明書が存在しない場合、Wyse Management Suite サーバの [イベント] ページに、「[認証局の検証に失敗しました]」という汎用監査イベントメッセージが表示されます。アプリおよびデータ、イメージのプル/プッシュなど、すべての操作が失敗します。
- ii. Wyse Management Suite サーバからの CA 検証が無効になっている場合、サーバおよびクライアントからの通信はセキュアなチャンネルで、証明書署名の検証を行わずに実行されます。

- e. 所定のボックスにメモを追加します。
- f. **設定の保存** をクリックします。

その他の設定

以下の設定を使用して、[APNS 警告]、[ライセンスの有効期限切れ警告]、および他の [セルフサービス法的合意] を強制できます。

- [ダッシュボード ページでライセンス期限切れ警告を無視] - ダッシュボード ページでライセンス期限切れ警告の表示を無効にするには、このチェックボックスを選択します。
- [Android 設定ポリシー構成 ページで高度な Dell Wyse Cloud Connect オプションを有効化 (メモ: プロフェッショナルティアのみ)] - Android 設定ポリシー構成 ページで高度な Dell Wyse Cloud Connect オプションを有効にするには、このオプションを選択します。
- [ハートビート間隔] - 時間を入力します。デバイスは 60 ~ 360 分ごとにハートビート信号を送信します。
- [チェックイン間隔] - 時間を入力します。デバイスは 8 ~ 24 時間ごとに完全なチェック信号を送信します。
- [未チェックインコンプライアンスアラート] - デバイスが **未チェックインコンプライアンスアラート** をトリガーするまでの日数を入力します。範囲は 1 ~ 99 です。

Thin Client

このセクションでは、ダウンロードを利用できるウェブリンクを提供します。

- Thin Client のオペレーティングシステムのイメージ - Appservices.wyse.com/pages/serviceandsupport/support/downloads.asp
- Windows Embedded Standard Thin Client の Wyse デバイスエージェント - Appservices.wyse.com/pages/serviceandsupport/support/downloads.asp
- Windows Embedded Standard Thin Client で Wyse デバイスエージェントをインストールするための説明 - support.wyse.com/OA_HTML

また、グループのリスト、および Thin Client で作成した対応登録トークンのリストも行います。

Teradici 設定の管理

Teradici サーバを追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. [ポータル管理] タブの [コンソール設定] で、[Teradici] をクリックします。
2. [サーバの追加] をクリックします。
[サーバの追加] 画面が表示されます。
3. [サーバ名] を入力します。ポート番号が自動的に入力されます。
4. CA 検証を有効にするには、[CA 検証] チェックボックスを選択します。
5. [テスト] をクリックします。


二要素認証の有効化

システムに、少なくとも2人のアクティブなグローバル管理者のユーザーが存在する必要があります。

前提条件

タスクに進む前に、2人以上のグローバル管理者を作成します。2要素認証を有効にするには、次の手順を実行します。

このタスクについて

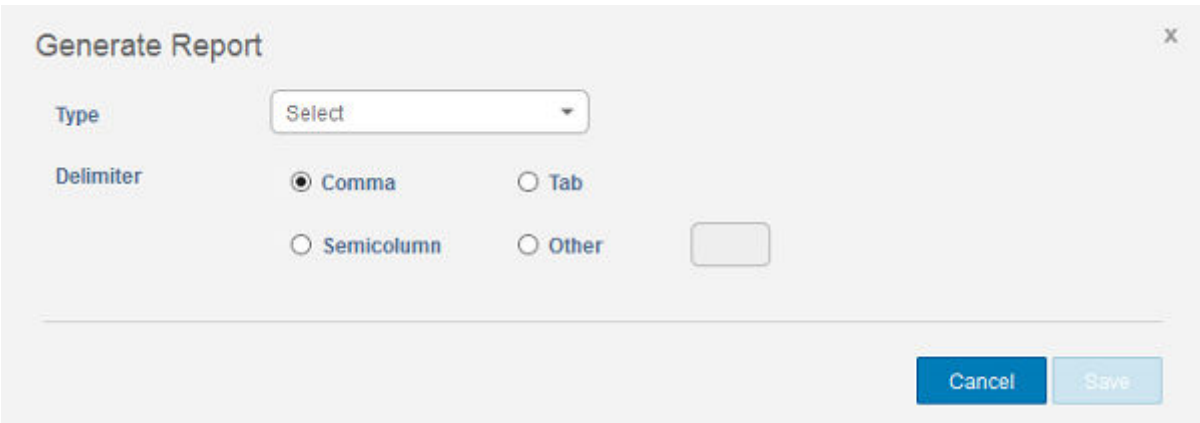
1. Wyse Management Suite ポータルにログインして、[ポータル管理] タブをクリックします。
2. [コンソール設定] の下にある [二要素認証] をクリックします。
3. 2要素認証を有効にするには、チェックボックスを選択する必要があります。
 **メモ:** 管理者は、ワンタイムパスコードを使用して管理ポータルにログインし、2番目の認証要素を検証する必要があります。
4. 自分の電子メールアドレスにワンタイムパスコードが送信されます。ワンタイムパスコードを入力して検証します。

デフォルトでは、ワンタイムパスコードを検証するために8回まで試行できます。パスコードの検証に失敗した場合、アカウントはロックされます。グローバル管理者だけがロックされたアカウントをロック解除できます。

レポートの生成

このタスクについて

レポートを生成するには、以下の手順を実行します。



The screenshot shows a dialog box titled "Generate Report" with a close button (X) in the top right corner. It contains the following elements:

- Type:** A dropdown menu with the text "Select" and a downward arrow.
- Delimiter:** Four radio button options: "Comma" (which is selected), "Tab", "Semicolumn", and "Other".
- Other:** A text input field next to the "Other" radio button, which is currently empty.
- Buttons:** "Cancel" and "Save" buttons located at the bottom right of the dialog.

図 17. レポートの生成

手順

1. [ポータル管理] > [レポート] の順に移動します。
2. レポートの生成 オプションをクリックします。
レポートの生成 ウィンドウが表示されます。
3. [タイプ] ドロップダウンリストからレポートのタイプを選択します。

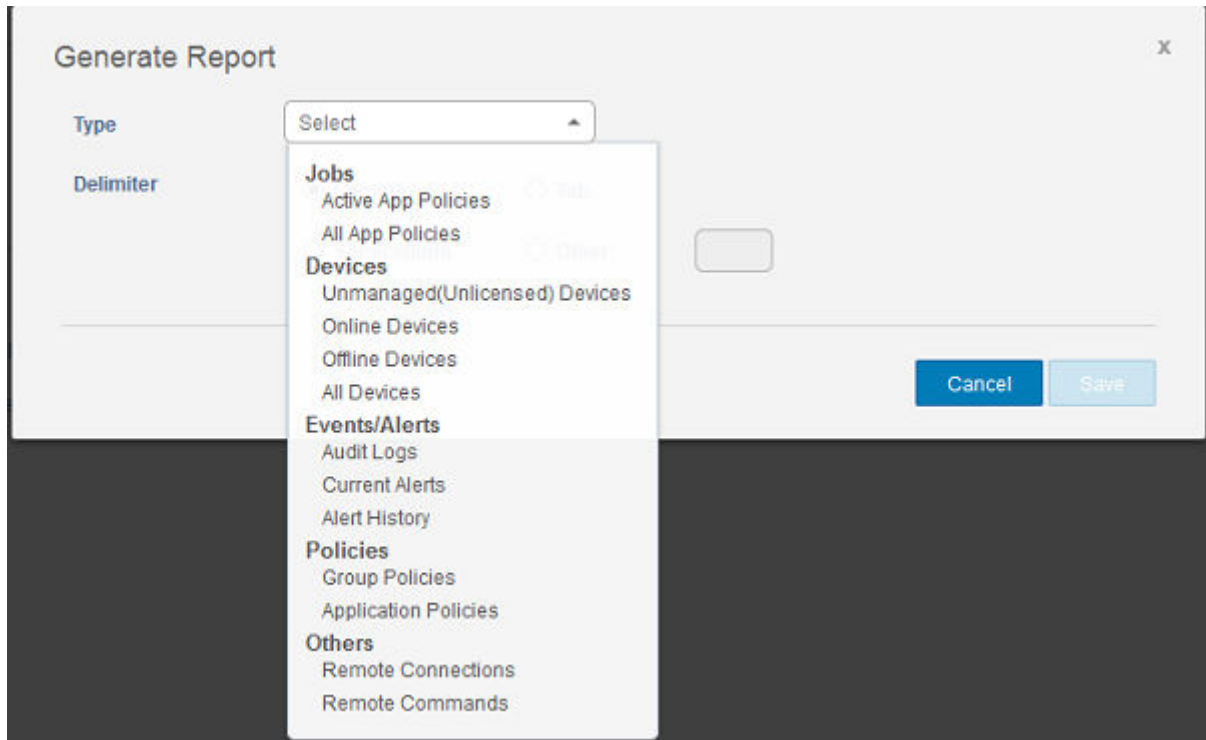


図 18. レポートのタイプ

4. [グループ] ドロップダウンリストで、グループを選択します。
5. 区切り文字を選択します。
6. **保存** をクリックします。

マルチテナントアカウントの有効化

本項では、追加の組織を作成することができます。組織を個別に管理することができます。各アカウントには独自のライセンスキーがあり、独自の管理者アカウント、ポリシー、オペレーティングシステムのイメージ、アプリケーション、ルール、アラートなどを設定できます。高レベルオペレータが、これらの組織を作成します。

マルチテナントアカウントを有効にするには、次の操作を行います。

1. Wyse Management Suite ポータルにログインして、[ポータル管理] タブをクリックします。
2. [コンソール設定] の下の [マルチテナント] を選択します。
3. マルチテナントオプションを有効にするには、このチェックボックスを選択します。
4. 次の詳細を入力します。
 - ユーザー名
 - パスワード
 - パスワードの確認
 - 電子メール
5. **設定の保存** をクリックします。


カスタムブランド化の有効化

このオプションでは、会社の名前とロゴまたはブランドを追加できます。独自のヘッダーロゴ、お気に入りアイコンをアップロードし、ヘッダーのタイトルを追加し、ヘッダーの色を変更して、Wyse Management Suite ポータルをカスタマイズすることができます。

このタスクについて

カスタムブランド化にアクセスし、指定するには、次の手順を実行します。

手順

1. [ポータル管理者] > [アカウント] > [カスタムブランド化] の順に移動します。
2. **カスタムブランド化を有効にする** をクリックします
3. [ヘッダーロゴ] で [ブラウザ] をクリックし、フォルダの場所からヘッダーロゴのイメージを選択します。
ヘッダーロゴの最大サイズは、500*50 ピクセルにする必要があります。
4. **タイトル オプション**の下にタイトルを入力します。
5. ブラウザでタイトルを表示するには、**ブラウザウィンドウ/タブにタイトルを表示** チェックボックスを選択します。
6. **ヘッダーの背景色** および **ヘッダーテキストの色** にカラーコードを入力します。
7. **参照する** をクリックし、**お気に入りアイコン** を選択します。
お気に入りアイコンが、ウェブサイト URL の横にあるブラウザのアドレスバーに表示されます。
 **メモ:** イメージは、.ico ファイルでのみ保存する必要があります。
8. **設定の保存** をクリックします。

ライセンスサブスクリプションの管理

このタスクについて

このセクションでは、管理コンソールのライセンスサブスクリプションとその使用状況を表示し管理できます。

[ポータル管理] ページで、[サブスクリプション] オプションを表示できます。このページは次の情報も提供します。


- [登録済み Thin Client デバイス]
- [サーバ情報]
- [ライセンスのインポート (プライベートクラウド)]
- [プライベートクラウドのライセンスのエクスポート (パブリッククラウド)]

Wyse Management Suite パブリッククラウドからのライセンスのインポート

このタスクについて

Wyse Management Suite パブリッククラウドから Wyse Management Suite プライベートクラウドにライセンスをインポートするには、次の操作を行います。

手順

1. Wyse Management Suite プライベートクラウドコンソールにログインします。
2. [ポータル管理] > [アカウント] > [サブスクリプション] に移動します。
3. Wyse Management Suite パブリッククラウドの詳細を入力します。
 - ユーザー名
 - パスワード
 - データセンター
 - TC シート数
 - Edge Gateway および Embedded PC シートの数
 - Wyse Software Thin Client シートの数
4. [インポート] をクリックします。
 **メモ:** Wyse Management Suite プライベートクラウドは、Wyse Management Suite パブリッククラウドに接続する必要があります。

Wyse Management Suite プライベートクラウドへのライセンスのエクスポート

このタスクについて

Wyse Management Suite パブリッククラウドから Wyse Management Suite プライベートクラウドにライセンスをエクスポートするには、次の操作を行います。

手順

1. Wyse Management Suite のパブリッククラウドコンソールにログインします。
2. [ポータル管理] > [アカウント] > [サブスクリプション] に移動します。
3. Wyse Management Suite のプライベートクラウドにエクスポートする必要があるシンクライアントのシート数を入力します。
4. [エクスポート] をクリックします。
5. 生成されたライセンスキーをコピーします。
6. Wyse Management Suite プライベートクラウドコンソールにログインします。
7. [ポータル管理] > [アカウント] > [サブスクリプション] に移動します。
8. 生成されたライセンスキーをボックスに入力します。
9. [インポート] をクリックします。

Thin Client のライセンス割り当て

このタスクについて

Wyse Management Suite プライベートクラウドと Wyse Management Suite パブリッククラウドアカウント間で Thin Client ライセンスを割り当てるには、次の操作を行います。

手順

1. Wyse Management Suite パブリッククラウドコンソールにログインします。
2. [ポータル管理者] > [アカウント] > [サブスクリプション] の順に移動します。
3. Thin Client のシート数を入力します。
① メモ: Thin Client シートは、パブリッククラウドで管理可能である必要があります。入力する Thin Client シート数は、[管理可能] オプションに表示される数を超えてはいけません。
4. [エクスポート] をクリックします。
① メモ: パブリッククラウドのライセンス数は、プライベートクラウドにエクスポートされた Thin Client シート数に基づいて調整されます。
5. 生成されたライセンスキーをコピーします。
6. Wyse Management Suite プライベートクラウドコンソールにログインします。
7. [ポータル管理者] > [アカウント] > [サブスクリプション] の順に移動します。
8. エクスポートされたライセンスキーをプライベートクラウドにインポートします。
① メモ: プライベートクラウドで現在管理されているデバイスの管理に十分な数の Thin Client シートがない場合は、ライセンスをインポートできません。その場合は、手順 3 ~ 8 を繰り返して、Thin Client シートを割り当てます。

ライセンスの注文

パブリッククラウドの [ライセンスの注文] セクションには、期限切れのライセンスを含む確定済みの注文のリストが表示されます。デフォルトでは、期限切れの注文は表示されません。期限切れの注文を表示するには、[期限切れの注文を含める] チェックボックスを選択します。すでに期限切れの注文は赤色で表示され、期限が 30 日以内に近づいている注文はオレンジ色で表示されます。

- ① メモ:** オンプレミス導入環境では注文履歴が表示されないため、この機能は利用できません。ただし、パブリッククラウドポータルにテナント管理者としてログインしている場合は、オンプレミスのライセンス注文履歴を利用できます。

システムセットアップの管理

本項では、以下について説明します。

1. Wyse Management Suite ポータルにログインして、[ポータル管理] タブをクリックします。
2. [システム] の下で [セットアップ] をクリックします。
3. チェックボックスを選択すると、デバイスとサーバ間のすべての通信についてサーバ証明書の検証を実行します。
4. 電子メールアラート用に **SMTP** をアップデート エリアに、次の詳細情報を入力します。

- SMTP サーバー
- 送信元アドレス
- ユーザー名
- パスワード
- テストアドレス

証明書の検証 : [証明書の検証] チェックボックスを選択して、プライベートクラウドの CA 検証を有効にします。サーバとクライアントからのすべての通信 (Local Repo からのファイルのダウンロード、OS イメージのダウンロードを含む) は、その証明書を使用します。

メモ: Remote Repo に対する CA 検証を有効にするには、ポータル管理、ファイルリポジトリ、リポジトリを選択、編集、CA 検証の有効化、設定を保存 の順に操作します。

メモ:

- a. Wyse Management Suite サーバからの CA 検証が有効になっている場合、クライアントに証明書が存在する必要があります。アプリおよびデータ、イメージのプル/プッシュなど、すべての操作が成功します。クライアントに証明書が存在しない場合、Wyse Management Suite サーバの [イベント] ページに、「[認証局の検証に失敗しました]」という汎用監査イベントメッセージが表示されます。アプリおよびデータ、イメージのプル/プッシュなど、すべての操作が失敗します。
- b. Wyse Management Suite サーバからの CA 検証が無効になっている場合、サーバおよびクライアントからの通信はセキュアなチャンネルで、証明書署名の検証を行わずに実行されます。

5. 次のオプションを選択し、詳細を入力します。
 - **キー/証明書** : HTTPS キー/証明書ファイルペアをアップロードします (PEM フォーマットのみがサポートされます)。
 - **PKCS-12** : HTTPS PKCS-12 をアップロードします (.pfx, .p12)。Apache の中間証明書は IIS pfx に必要です。
6. **保存** をクリックします。

Wyse Management Suite を使用した Wyse Easy Setup の設定

Wyse Easy Setup ソフトウェアのインストールと設定は、Wyse Management Suite を使用して行います。

トピック：

- [Wyse Easy Setup のインストール](#)
- [Wyse Easy Setup 設定の導入](#)

Wyse Easy Setup のインストール

前提条件

前提条件

- ディスクの空き容量が 100 MB 以上あること
- RAM ディスクサイズが 100 MB 以上あること
- Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージ 2012 32 ビット (x86) または 64 ビット (x64)
- Microsoft .Net Framework 4.5 以降
- Wyse デバイスエージェントバージョン 14.0.0.237 以降

このタスクについて

手順

手順

1. Wyse Management Suite コンソールにログインします。
2. [アプリとデータ] をクリックします。
3. [アプリポリシー] で、[Thin Client] をクリックします。
4. [ポリシーの追加] をクリックします。
[標準アプリポリシーの追加] ウィンドウが表示されます。
5. ポリシー名を入力します。
6. 対応するドロップダウンリストから、グループ、タスク、OS タイプ、アプリケーション、OS サブタイプフィルタ、およびプラットフォームフィルタを選択します。
7. [インストーラパラメータ] フィールドに /s と入力します。
8. [保存] をクリックします。
9. [ジョブ] ページに移動し、Wyse Easy Setup のサイレントインストールを開始するようにジョブをスケジュールします。

Wyse Easy Setup 設定の導入

前提条件

設定を導入する前に、シンクライアントが [Wyse Management Suite](#) に登録されていることを確認してください。

手順

1. Wyse Management Suite コンソールにログインします。
2. [グループ & 設定] をクリックします。
3. グループを選択し、[ポリシーの編集] をクリックします。

4. [WES] をクリックします。
5. [Wyse Easy Setup] をクリックします。
6. ポリシーの設定後、[保存して公開] をクリックします。

i メモ:

- シンクライアントが Wyse Management Suite に登録されると、Wyse Easy Setup 管理者シェルを使用して導入されたローカル設定はすべて破棄されます。Wyse Management Suite を使用して導入されたリモート設定が適用されます。
- シンクライアントが Wyse Management Suite から登録解除されると、Wyse Management Suite を使用して導入された設定は破棄されます。Wyse Easy Setup 管理者シェルを使用して導入されたローカル設定が適用されます。

Wyse Management Suite を使用した Wyse Converter for PCs の設定

Wyse Management Suite を使用して、Wyse Converter for PCs ソフトウェアをインストールおよび設定することができます。

トピック：

- [Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録](#)
- [Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Software Thin Client の Wyse Management Suite への登録](#)
- [DHCP オプションタグを使用した Wyse Management Suite へのデバイスの登録](#)
- [DNS SRV レコードを使用した Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録](#)
- [Wyse Management Suite を使用した Wyse Software Thin Client の設定](#)

Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録

このタスクについて

Wyse Software Thin Client を Wyse Management Suite に登録するには、次のいずれかの方法を使用します。

- デバイスで Wyse Device Agent (WDA) によって提供されるユーザーインターフェースを介して手動で登録します。
- DHCP サーバで適切なオプションタグを設定して、自動的に登録します。
- DNS サーバで適切な DNS SRV レコードを設定して、自動的に登録します。

Wyse デバイスエージェントを使用した Wyse Software Thin Client の Wyse Management Suite への登録

このタスクについて

前提条件

デバイスを Wyse Management Suite に登録するためのグループを作成します。

手順

手順

1. [Wyse デバイスエージェント] アプリケーションを開きます。
[Wyse デバイスエージェント] ウィンドウが表示されます。
2. デバイス登録の詳細を入力します。
3. [管理サーバ] ドロップダウンリストから、[Wyse Management Suite] を選択します。
4. サーバアドレスとポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。
5. グループトークンを入力します。シングルテナントについては、グループトークンはオプションの手順です。
6. [登録] をクリックします。

登録が完了した後、「[Wyse Management Suite に登録されました]」というメッセージが表示されます。

DHCP オプションタグを使用した Wyse Management Suite へのデバイスの登録

このタスクについて

以下の DHCP オプションタグを使用して、デバイスを登録できます。

表 283. DHCP オプションタグの使用によるデバイスの登録

オプションタグ	説明
<p>名前 - WMS</p> <p>データタイプ - 文字列</p> <p>コード - 165</p> <p>説明 - WMS サーバ FQDN</p>	<p>このタグは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、<code>wmserver.acme.com:443</code> であれば、<code>wmserver.acme.com</code> は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。</p> <p>メモ: サーバの URL で <code>https://</code> を使用しないでください。使用すると、Thin Client が Wyse Management Suite の下に登録されません。</p>
<p>名前 - MQTT</p> <p>データタイプ - 文字列</p> <p>コード - 166</p> <p>説明 - MQTT サーバ</p>	<p>このタグは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例： <code>wmservername.domain.com:1883</code>。</p> <p>デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。</p> <p>US1 - us1-pns.wysemanagementsuite.com EU1 - eu1-pns.wysemanagementsuite.com</p>
<p>名前 - CA 検証</p> <p>データタイプ - 文字列</p> <p>コード - 167</p> <p>説明 - 認証局の検証</p>	<p>プライベートクラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録する場合、CA 検証オプションを有効または無効にできます。デフォルトでは、CA 検証はパブリッククラウドで有効になっています。パブリッククラウドでも、CA 検証を無効にできます。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の <code>https</code> 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、True を入力します。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の <code>https</code> 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、False を入力します。</p>


DNS SRV レコードを使用した Wyse Management Suite への Wyse Software Thin Client の登録

DNS ベースのデバイスの登録は、Wyse デバイスエージェント 13.0 以降のバージョンでサポートされます。DNS SRV レコードのフィールドに有効な値が設定されている場合は、Wyse Management Suite サーバにデバイスを登録することができます。次の表に、DNS SRV レコードの有効な値を示します。

表 284. DNS SRV レコードの使用によるデバイスの設定

URL/ タグ	説明
<p>レコード名 - <code>_WMS_MGMT</code></p> <p>レコード FQDN - <code>_WMS_MGMT._tcp.<ドメイン名></code></p> <p>レコードタイプ - SRV</p>	<p>このレコードは、Wyse Management Suite サーバ URL をポイントします。たとえば、<code>wmserver.acme.com:443</code> であれば、<code>wmserver.acme.com</code> は、Wyse Management Suite がインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名です。</p> <p>メモ: サーバの URL で <code>https://</code> を使用しないでください。使用すると、Thin Client が Wyse Management Suite の下に登録されません。</p>

表 284. DNS SRV レコードの使用によるデバイスの設定

URL/ タグ	説明
<p>レコード名 - <code>_WMS_MQTT</code> レコード FQDN - <code>_WMS_MQTT._tcp.<ドメイン名></code> レコードタイプ - SRV</p>	<p>このレコードは、デバイスを Wyse Management Suite のプッシュ通知サーバ (PNS) にポイントします。プライベートクラウドのインストールについては、デバイスは Wyse Management Suite サーバ上の MQTT サービスに向けられます。例： <code>wmsservername.domain.com:1883</code>。</p> <p> メモ: MQTT は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。</p> <p>デバイスを Wyse Management Suite のパブリッククラウドで登録するには、デバイスがパブリッククラウドで PNS (MQTT) サーバをポイントする必要があります。たとえば、次のとおりです。</p> <p>US1 - us1-pns.wysemanagementsuite.com EU1 - eu1-pns.wysemanagementsuite.com</p>
<p>レコード名 - <code>_WMS_CAVALIDATION</code> レコード FQDN - <code>_WMS_CAVALIDATION._tcp.<ドメイン名></code> レコードタイプ - テキスト</p>	<p>プライベートクラウドの Wyse Management Suite にデバイスを登録する場合、CA 検証オプションを有効または無効にできません。デフォルトでは、CA 検証はパブリッククラウドで有効になっています。パブリッククラウドでも、CA 検証を無効にできません。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしている場合は、True を入力します。</p> <p>クライアントと Wyse Management Suite サーバ間の https 通信のために既知の認証局から SSL 証明書をインポートしていない場合は、False を入力します。</p> <p> メモ: CA 検証は、最新バージョンの Wyse Management Suite では任意です。</p>

Wyse Management Suite を使用した Wyse Software Thin Client の設定

このタスクについて

Wyse Converter for PCs で Wyse Software Thin Client に変換されたデバイスは、Wyse Management Suite 1.1 以降のバージョンを使用して Thin Client を設定できます。Wyse Software Thin Client を設定する前に、Wyse Management Suite に登録する必要があります。

手順

1. Wyse Management Suite コンソールにログインします。
2. ダッシュボードの [グループ & 設定] をクリックします。
3. グループを選択し、[ポリシーの編集] をクリックします。
4. [Wyse Software Thin Client] をクリックします。
 [Wyse Software Thin Client] ページが表示されます。
5. オプションの設定後、[保存して公開] をクリックします。

Teradici デバイス管理

Teradici デバイス管理 セクションでは、Teradici デバイスの管理と検出について説明します。Teradici 管理コンソールは SDK を使用して、tera デバイスの管理と構成をサポートします。これは、Wyse Management Suite のプライベートクラウドに Pro ライセンスタイプが適用される場合にのみ適用されます。Teradici の構成ポリシーの詳細については、「[Teradici ポリシー設定の編集](#)」を参照してください。

トピック：

- [Teradici デバイスの検出](#)
- [CIFS のユースケースのシナリオ](#)

Teradici デバイスの検出

前提条件

- 最新バージョンの Wyse Management Suite を Microsoft Windows 2012 Server またはそれ以降のバージョンにインストールしてあること。Threadx 5.x および 6.x デバイスは、最新バージョンのオペレーティングシステムで動作します。
- **EMSDK** コンポーネントをインストールして有効にしてあること。
- Wyse Management Suite サーバの FQDN が、**DHCP** または **DNS** の設定で使用できる必要がある。
- Cert.pem がデフォルトのパス C:\Program Files\Dell\WMS\Teradici\EMSDK に配置されている必要がある。これは Threadx デバイスの検出に使用されます。

クライアントによる手動検出

1. `https://<clientIP>` に移動します。
2. 証明書についての警告メッセージを受け入れます。
3. 管理者パスワード (デフォルトのパスワードは「Administrator」) を入力し、ログインします。
4. [アップロード] > [証明書] に移動します。デフォルトのパスから Cert.pem ファイルを選択し、[アップロード] をクリックします。
5. [構成] > [管理] に移動します。管理状態をクリア ボタンをクリックして、デバイスを新しい管理サーバに登録します。
6. マネージャ検出モードを手動に設定します。
7. **Endpoint Bootstrap Manager** の URL を次の形式で入力します。 `wss://<IP Address of the WMS server>`
 **メモ:** EMSDK がカスタムポートでインストールされている場合は、**Endpoint Bootstrap Manager** の URL は次の形式で指定します。 `wss://<IP Address:Custom port>`
8. 適用、続行 の順にクリックします。
9. 管理ステータス が、エンドポイントサーバに接続されていると表示されます。

DHCP サーバへの PCoIP エンドポイントベンダークラスの追加


1. DHCP サーバにログインします。
2. サーバ ペインの DHCP サーバを右クリックして、**DHCP マネージャ** を選択します。
3. **IPv4** オプションを右クリックして、ベンダークラスの定義を選択します。
4. **追加** をクリックして新しい DHCP ベンダークラスを追加します。
5. 表示名 フィールドに **PCoIP エンドポイント** を入力します。
6. ベンダー ID として **ASCII** 列に **PCoIP エンドポイント** を入力します。

7. [OK] をクリックして設定を保存します。

DHCP オプションの設定

1. **IPv4** オプションを右クリックして、**定義済みオプションの設定** を選択します。
2. オプションクラスとして **PCoIP エンドポイント** を選択し、**追加** をクリックします。
3. オプションのタイプダイアログで、名前に **EBM URI**、データタイプに **文字列**、コードに **10**、説明に **Endpoint Bootstrap Manager の URI** を入力し、**OK** をクリックします。
4. **OK** をクリックして設定を保存します。
5. オプションを適用する DHCP スコープを展開します。
6. **スコープオプション** を右クリックして、**オプションの設定** を選択します。
7. **詳細** タブをクリックし、**PCoIP エンドポイントベンダー** クラスを選択します。
8. **010 EBM URI** チェックボックスをオンにして、有効な管理コンソールの URI を **文字列** フィールドに入力します。**適用** をクリックします。この URL には、セキュアな WebSocket プレフィックス (たとえば、`wss://<MC IP address>:[port number]`) が必要です。MC のリスニングポートは、5172 です。このポート番号の入力は、オプションのステップです。
9. **OK** をクリックして設定を保存します。
10. **PCoIP エンドポイント** をオプションクラスとして選択し、**追加** をクリックします。
11. オプションのタイプダイアログで、名前に **EBM X.509 SHA-256 フィンガープリント**、データタイプに **文字列**、コードに **11**、説明に **EBM X.509 SHA-256 フィンガープリント** を入力し、**OK** をクリックします。
12. オプションを適用する DHCP スコープを展開します。
13. **スコープオプション** を右クリックして、**オプションの設定** を選択します。
14. **詳細** タブをクリックし、**PCoIP エンドポイントベンダー** クラスを選択します。
15. **011 EBM X.509 SHA-256 フィンガープリント** チェックボックスを選択し、SHA-256 フィンガープリントを貼り付けます。
16. **OK** をクリックして設定を保存します。
17. クライアントの Web ブラウザに移動します。
18. [構成] > [管理] に移動し、**マネージャ検出モード** を **自動** に設定します。
19. クライアントは、DHCP サーバに記載されているサーバに接続されます。

DNS SRV レコードの作成

1. **DNS サーバ** にログインします。
2. サーバペインの **DNS サーバ** を右クリックして、コンテキストメニューから **DNS マネージャ** を選択します。
3. **前方参照ゾーン** でドメインを右クリックし、コンテキストメニューから **その他の新しいレコード** を選択します。
4. リソースレコードの種類ダイアログボックスでリストから **サービスローケーション (SRV)** を選択し、**レコードの作成** をクリックします。
5. サービスを **_pcoip-bootstrap** に、プロトコルを **_tcp** に、ポート番号を **5172** (MC のデフォルトのリスニングポート) に設定します。このサービスを提供するホストには、MC の FQDN を入力します。
 **メモ:** DNS の仕様では SRV レコードで IP アドレスを使用できないため、MC の FQDN を入力する必要があります。
6. **OK** をクリックします。

DNS TXT レコードの追加

1. **前方参照ゾーン** でドメインを右クリックし、コンテキストメニューから **その他の新しいレコード** を選択します。

2. リソースレコードの種類 ダイアログボックスでリストから **テキスト (TXT)** を選択し、**レコードの作成** をクリックします。
3. 次の詳細を入力します。
 - a. **レコード名** フィールドに、サービスを提供する Wyse Management Suite サーバのホスト名を入力します。FQDN フィールドは自動的に入力されます。これは、Wyse Management Suite サーバの FQDN と一致するはずです。
 - b. **テキスト** フィールドに **pcoip-bootstrap-cert=** と入力し、Wyse Management Suite サーバ証明書 SHA-256 指紋認証を貼り付けます。
4. [OK] をクリックします。
5. クライアントの Web ブラウザに移動します。
6. クライアントは、DNS サーバに記載されている Wyse Management Suite サーバに接続されます。

SHA-256 指紋認証の作成

1. Mozilla Firefox を起動します。
2. [オプション、詳細] タブに移動します
3. [証明書] をクリックして証明書を表示します。
4. [証明書マネージャ] の下の [認証局証明書] をクリックして、[インポート] をクリックします。
5. 証明書を表示し、[表示] をクリックします。
6. [SHA-256] フィンガープリントをコピーします。

CIFS のユースケースのシナリオ

Wyse Management Suite では、次のユースケースがサポートされます。

- Wyse Management Suite のプライベートクラウドのインストール中に、[Wyse Management Suite] を [セットアップタイプ] として選択した場合。
 - CIFS の設定 ページが表示されます。このページが必要になるのは、共有フォルダを設定する必要があるためです。
 - ① **メモ:** [CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションは、デフォルトでは無効になっています。
- Wyse Management Suite のプライベートクラウドのインストール中に、[Teradici EMSDK] を [セットアップタイプ] として選択した場合。
 - CIFS 資格情報のためには、既存のアカウントを使用するか、新しいアカウントを作成することができます。
- Wyse Management Suite のプライベートクラウドのインストール中に、[Wyse Management Suite] と [Teradici EMSDK] の両方を [セットアップタイプ] として選択した場合。
 - CIFS の設定 ページが表示されます。このページが必要になるのは、共有フォルダを設定する必要があるためです。
 - ① **メモ:** [CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションは、デフォルトでは無効になっています。
 - CIFS 資格情報のためには、既存のアカウントを使用するか、新しいアカウントを作成することができます。
- EMSDK サービスがすでにインストールされているシステムに EMSDK のみをインストールする場合。
 - Teradici EMSDK が選択されている場合、[セットアップタイプ] のページで [次へ] をクリックすると、警告メッセージが表示されます。メッセージは次のとおりです。[Teradici EMSDK がすでにインストールされていることをインストーラが検出しました。EMSDK は、必要に応じて更新されます。] ポート番号は必要ありません。
 - [CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションが選択されている場合 (デフォルト)。
 1. サービスを停止します。
 2. EMSDK サービスをアップデートします。
 3. サービスを再起動します。これは、同じ事前設定されたユーザーの下で動作します。
 - [CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションが、[既存のユーザーを使用] オプションとともに選択されている場合。
 1. サービスを停止します。
 2. EMSDK サービスをアップデートします。
 3. ユーザーのサービスログを、選択したユーザーにアップデートします。
 4. サービスを再起動します。これは、同じ事前設定されたユーザーの下で動作します。
 - [CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションが、[新規ユーザーの作成] オプションとともに選択されている場合。
 1. サービスを停止します。

2. EMSDK サービスをアップデートします。
 3. ユーザーのサービスログを、新規作成されたユーザーにアップデートします。
 4. サービスを再起動します。これは、同じ事前設定されたユーザーの下で動作します。
- すでに EMSDK サービスがインストールされているシステムに [Wyse Management Suite] と [Teradici EMSDK] の両方をインストールする場合。
 - 「[EMSDK サービスがすでにインストールされているシステムに EMSDK のみをインストールする場合]」と同じですが、[CIFS ユーザー資格情報の設定] オプションがデフォルトで選択され、グレー表示されます。CIFS 資格情報を入力する必要があります。

Wyse Management Suite のトラブルシューティング

表 285. Troubleshooting

問題	回避策
電子メールアラート通知が機能していません。	Wyse Management Suite サーバのポータル管理から SMTP サーバを設定します。
Wake on LAN が機能していません。	ローカルまたはリモートのファイルリポジトリを有効にします。
WMS 起動アイコンをダブルクリックすると、不明ファイルタイプの警告メッセージが表示されます。	サーバのセキュリティ設定または UAC を確認します。すべての Windows がすべてのパッチでアップデートされていることを確認します。
ThinLinux デバイスが NTP サーバと同期していない場合、シンクライアントのログファイルを取得できません。	適切な NTP サーバでデバイスを設定します。
ファイルリポジトリを同期しようとする、 TC ファイルの同期中にエラーが発生しました アラートメッセージが表示されません。	全ユーザーにローカルリポジトリへのフルアクセス権が与えられており、ローカルリポジトリにイメージまたはアプリケーションをコピーしても、ユーザーアクセスメッセージが表示されないことを確認してください。
サーバが時刻の同期に失敗すると、ThinOS の壁紙、証明書などのファイルダウンロードが失敗します。	適切な NTP サーバでデバイスを設定します。
DNS SRV タグに空白値が指定されている場合、ThinOS DHCP の検出が失敗します。	空白の DNS タグを削除してください。
登録時の ThinOS アプリケーションポリシーのため、 新規デバイスに適用 は機能しません。	アプリケーションポリシーをプッシュするには、ジョブを作成してください。
リポジトリサーバのホスト名を変更すると、デスクトップショートカットでリポジトリ UI を開くことができなくなります。リポジトリサーバのホスト名を変更すると、証明書が変更されます。したがって、リポジトリ UI を開くときに証明書エラーが発生し、CA 検証用の自己署名証明書でもエラーが発生します。	アップデートされたホスト名の URL を入力します。
Windows Embedded Standard デバイスでカスタム値が設定されていない場合、カスタム値をグループタイプとして選択すると、グループが作成されません。グループ構造では、レベルが失われます。	Windows Embedded Standard デバイス用のグループを作成する場合、カスタムフィールドには、事前に値が指定されている必要があります。
Windows Embedded Standard デバイスで時刻同期コマンドが失敗します。	回避策はありません。
RSP プッシュの一環として、CU (ユーザー確認) コマンドを実行すると、有効なユーザーがシンクライアントにログインしている場合でも、 ログインユーザーがいません エラーが常に表示されます。	回避策はありません。
サーバがアイドル状態で 2 日間放置されると、404 エラーが表示されます。	Windows のためにサーバが再起動します。Wyse Management Suite 関連のサービスをすべて再起動します。

表 285. Troubleshooting

問題	回避策
ディスク領域が 300 MB 未満の場合、Wyse Management Suite サーバは応答しません。	ストレージ領域を増設して、Wyse Management Suite 関連のサービスを再起動します。
エージェントが http で登録されても、Wyse Management Suite は https URL を送信し、新しいすべてのエージェントを https に切り替えます。	エージェントがスイッチングログインを認識しないため、エージェント 12.x にはこの動作がありません。
VNC ユーザー必須パスワード オプションを無効にした後で、Wyse Management Suite サーバから VNC セッションを開始しようとする と、 サポートされているサブ認証タイプがありません エラーが表示されます。	VNC ユーザー必須パスワード オプション を使用して VNC を起動します。
アプリケーションフォルダを削除すると、ポリシーの追加と詳細なポリシーの追加 ボタンが機能しなくなります。	リポジトリフォルダは削除しないでください。
物理パス (c:\repository\data) からインベントリファイルを手動で削除すると、Wyse Management Suite UI ではそのファイルが残ったままの表示になり、 ファイルが存在しません エラーが表示されます。	リポジトリフォルダからファイルを手動で削除しないでください。
ファームウェアでアプリケーションをプッシュすると、ThinOS アプリケーションは 2 回インストールされます。	base.pkg のアップグレード時またはダウングレード時に、ルートディスクはフォーマットされます。
WDM リポジトリで RSP パッケージから何らかのファイル (part1Image.img、vmlinuz、mbr など) を削除した場合でも、インポートツールを使用すると、RSP パッケージをインポートできます。	有効な RDP パッケージが Wyse Device Manager 内に存在する必要があります。
Wyse Management Suite に 404 エラーが表示されます。	アンチウイルスソフトウェアによって削除された Java コードがあるかどうかを確認します。
Window Embedded Standard アプリケーションのダウンロードが失敗します。	Window Embedded Standard エージェントでは、アプリケーションダウンロードの認証が必要になります。 https でアプリケーションのダウンロードが失敗した場合は、http で試してみてください。ファイアウォール設定で http ポートが許可されていることを確認します。デフォルトポートは 8080 です。
登録の解除中またはポリシーの削除中にデバイスがドメインに追加されると、デバイスはドメインからワークグループに戻されます。	ドメイン設定のデフォルトポリシーを設定し、ポリシーをプッシュします。
RemoteFX USB リダイレクトポリシーは、USB 大容量ストレージデバイスには適用されません。	次のレジストリエントリをデバイスに追加します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理者としてデバイスにログインし、書き込みフィルタを無効にします。 2. ファイル名を指定して実行に移動し、Regedit と入力します。 3. HKLM\Software\Policies\Microsoft\Windows NT\Terminal Services\Client\UsbSelectDeviceByInterfaces に移動します。 4. 文字列のレジストリキーを 100 として追加し、大容量ストレージデバイスに対しては、次のように値を設定します。 {53F56307-B6BF-11D0-94F2-00A0C91EFB8B} for CD ROM : {53F56308-B6BF-11D0-94F2-00A0C91EFB8B} <p> メモ: 波括弧は必須です。</p>

表 285. Troubleshooting (続き)

問題	回避策
USB ロックダウンの設定は、アップデート ボタンをクリックしたときには適用されません。	この不具合は、Wyse Software Thin Client でのみ発生します。もう一度ログインして、ポリシーを適用します。
RSP の一部として SD コマンドをプッシュすると、Windows Embedded Standard クライアントでは、シャットダウンではなく再起動が実行されます。	Wyse Device Manager では、デバイスは V02 メッセージを送信し、ログオフ状態になります。これは、Wyse Management Suite ではサポートされていません。
2 台の異なるリポジトリサーバからポリシーが作成されると、アプリケーションのインストールが失敗します。	デバイスですべてのリポジトリにアクセスできることを確認します。 Wyse デバイスエージェントは、常に最初のリポジトリサーバから作成されたアプリケーションでテストダウンロードを試行します。テストのダウンロードに失敗すると、エージェントはそれ以上続行せず、エラーレポートがサーバに送信されます。
Wyse Management Suite 経由では、RSP による RAW イメージ処理を実行できません。	Wyse Management Suite 経由で ThinLinux RAW イメージ処理を実行するには、次の操作を行います。 1. FTP の場所を作成します。 2. RAW イメージを FTP の場所にコピーします。 3. Wyse Management Suite リポジトリから RAW イメージファイルを再度コピーします。 4. FTP の場所、ユーザー名、パスワードをインストールパラメータとして入力して、RAW イメージを使用して標準アプリケーションポリシーを作成します。 5. ポリシージョブをスケジュールします。
MongoDB のインストールサーバに、リモートデータベースオプションを設定して Wyse Management Suite サーバをインストールした場合、Wyse Management Suite サーバが機能しなくなります。	存在している場合、stratus データベースのエントリを削除します。
Wyse Management Suite サーバのインストール後に、サーバのユーザーインターフェイスが読み込まれず、サーバログインも実行されません。	サーバのホスト名にアンダースコア (_) が含まれている可能性があります。ホスト名を変更してアンダースコアを削除します。
カスタムポートを使用してサーバをインストールすると、Wyse デバイスエージェントの登録が失敗します。	エージェントのサーバフィールドに http/https プレフィックスを指定します。
イメージプッシュ (Sysprep) の実行後、シンクライアントで静的 IP が保存されません。	静的 IP をシンクライアントに割り当てて、デバイスを再起動します。
ThinLinux Wyse デバイスエージェントのアップグレードまたはダウングレードを実行すると、Wyse デバイスエージェントのユーザーインターフェイスに、サービスが実行されていません メッセージまたは空白の画面が表示されます。	すべてのサービスが実行されるまで数秒間待ちます。
LDAPS 構成でユーザーをインポートできません。	Wyse Management Suite サーバサイドで、次の操作を行います。 1. 次のコマンドを実行して、AD ドメインサーバのルート証明書を Java キーストアに手動でインポートします。 <pre><C:\ProgramFiles\DELL\WMS\jdk1.8.0_152\jre\bin>keytool.exe -importcert -alias "WIN-0358EA52H8H" -keystore "C:\ProgramFiles\DELL\WMS\jdk1.8.0_152\jre\lib\security\cacerts" -storepass changeit -file "Root Certificate Path"</pre> 2. Tomcat サービスを再開します。 Wyse Management Suite リポジトリでは、次の操作を行います。

表 285. Troubleshooting (続き)

問題	回避策
	<ol style="list-style-type: none"> 1. UI オプションを使用して、証明書を Java キーストアにインポートします。 2. Tomcat サービスを再開します。
Wyse Software Thin Client には、マルチモニターオプションがありません。	Wyse Converter for PC では、マルチモニター機能はサポートされません。
外部 Mongo および組み込み Maria データベースでは、Wyse Management Suite の 1.0 から 1.1 へのアップグレードは機能しません。	Wyse Management Suite 1.2 に直接アップグレードしてください。
HTTP 経由のイメージ処理は機能しません。	<p>必ず HTTP を手動で有効にしてください。Wyse Management Suite バージョン 1.2 以降では、HTTP はデフォルトで無効になっており、管理者は Tomcat から手動で有効にする必要があります。</p> <p>メモ: https でアプリケーションのダウンロードが失敗した場合は、http で試してみてください。ファイアウォール設定で http ポートが許可されていることを確認します。デフォルトポートは 8080 です。</p>
Mongo、Maria、Tomcat サービスは、Wyse Management Suite サーバの再起動後に停止されます。	Windows Defender サービスは、Wyse Management Suite 関連のファイルを削除します。削除されたファイルがある場合は、Defender サービスのログを確認してください。削除されたファイルを取得します。
VC++ パッケージのインストールには 20 分かかります。	<p>Windows サーバが最新のサービスパックおよびアップデートでアップデートされていることを確認します。</p> <p>Wyse Management Suite をインストールする際に、Windows のアップデートが実行中でないことを確認します。</p>
2.0.24 から 2.2.11 への ThinLinux エージェントのアップグレードは機能しません。	2.0.24 エージェントは .tar ファイルをインストールしないため、2.2.11 にアップグレードする前に、エージェントバージョン 2.0.24 搭載の ThinLinux デバイスを 2.1.23 にアップグレードする必要があります。
Thinlinux デバイス搭載の Wyse 3040 Thin Client では、3.0.7 から 3.2.13 へのエージェントのアップグレードが失敗します。	パッケージ wda3040_3.0.10-01_amd64.deb を使用して、エージェントを 3.0.10 バージョンにアップグレードします。このパッケージは、Wyse Management Suite 1.2 インストーラにバンドルされています。その後、最新の WDA 3.2.13 にアップグレードします。
Threadx 6.x teradici デバイスは、工場出荷時の設定をリセットした後は EMSDK に登録できません。	DHCP オプションを使用するのと同様に、ゼロクライアントを NTP サーバに接続してからエンドデバイスに接続します。開始日が有効な証明書をインストールすることもできます。その日付は、ファームウェアの日付よりも前である必要があります。
Wyse Management Suite UI のインストール時に、埋め込み型 Maria、リモート mongo、およびデータベースサーバがリモート mongo の localhost として提供される場合、 HTTP 404 Not Found エラーが表示されます。	ローカル IP の 127.0.0.1 またはサーバ IP を使用します。
USB ツールでブルされたイメージが、Wyse Management Suite サーバに登録されません。	イメージのバージョンを .rsp ファイルに変更してから、Wyse Management Suite に登録します。
Wyse Management Suite サーバの IP アドレスが変更されると (同じサーバの EMSDK)、サーバが再起動された後でも、Teradici サーバが同期しません。	ポータル、管理、Teradici、サーバの編集の順に移動して、Teradici サーバの IP をアップデートします。

表 285. Troubleshooting

問題	回避策
インポートツールから、WDM のデフォルトグループタイプを使用してグループとデバイスをインポートすると、OS タイプが2回表示されます。	インポートプロセスを最初からやり直します。
Wyse Management Suite サーバの IP アドレスを変更した後にセットアップ ページを選択すると、[エラー：エラー] メッセージが表示されます。	IP アドレスを変更したら、Wyse Management Suite サービスを再起動します。
Wyse Management Suite がカスタムポート (周知のポート) で新規インストールしたあと、Web UI を起動できません。	デルでは、ポート 1024 以上を使用することをお勧めします。
ThinLinux バージョン 2.0 で、2.0.25 テストビルドから 2.0.22/2.0.14 (5070/3040) リリースビルドにダウングレードしようとする、[メディア検証に失敗しました] エラーが発生しました。	最新バージョンの Merlin (3.7.7 以上) をインストールします。
Merlin をアップグレードしたあと、ブートファイルが /boot フォルダにコピーされません。	Merlin をアンインストールして最新バージョンをインストールします。
すべてのアカウントがロックされ 2FA オプションが有効になっている場合、Wyse Management Suite サーバにログインできません。	MariaDB に存在するテーブル stratus.tenant の TwoStepVerificationEnabled の値を「False」(0) に設定します。

Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード

前提条件

本項では、Wyse Management Suite を使用して、Windows Embedded Standard、Linux、ThinLinux デバイスなどの Thin Client で Wyse デバイスエージェントをインストールまたはアップグレードする方法についての情報を提供します。

- **Windows Embedded Standard デバイス** - Wyse デバイスエージェントバージョン 14 は、[デルサポート](#) からダウンロードして、次のいずれかの方法で Windows Embedded Standard デバイスでインストールまたはアップグレードできます。
 - [Wyse Management Suite アプリケーションポリシーの使用による Wyse デバイスエージェントのアップグレード](#)。
 - [Wyse デバイスエージェントを手動でインストール](#)。
- **Linux および ThinLinux デバイス** - Wyse デバイスエージェントは、Wyse Management Suite を使用して Linux および ThinLinux デバイスでインストールまたはアップグレードできます。詳細については、「[ThinLinux 上および Linux クライアントでの Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード](#)」を参照してください。

トピック：

- [Wyse Management Suite アプリケーションポリシーの使用による Wyse デバイスエージェントのアップグレード](#)
- [Wyse デバイスエージェントの手動インストール](#)
- [ThinLinux および Linux クライアントでの Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード](#)

Wyse Management Suite アプリケーションポリシーの使用による Wyse デバイスエージェントのアップグレード

前提条件

デルでは、デバイスで Wyse デバイスエージェントをアップグレードするために Wyse Management Suite アプリケーションの使用を推奨します。Wyse Management Suite のプライベートクラウドのセットアップでは、Windows Embedded Standard 用の最新の Wyse デバイスエージェントパッケージがローカルリポジトリで使用できます。パブリッククラウド、またはプライベートクラウド上のリモートリポジトリを使用している場合は、WDA.exe ファイルをリポジトリ内の thinClientApps フォルダにコピーします。Wyse デバイスエージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

1. WDA.exe ファイルがリポジトリにコピーされた後、[アプリとデータ] セクションに移動して、このパッケージで通常のアプリケーションポリシーを作成します。
 - ① **メモ:** 高度なアプリケーションポリシーは、Wyse デバイスエージェント 14.x 以降のみでサポートされています。デルでは、14.x から Wyse デバイスエージェントをアップグレードするときは、通常のアプリケーションポリシーの使用を推奨します。Wyse デバイスエージェントを 14.x から最新のバージョンにアップグレードするために高度なアプリケーションポリシーを使用することもできます。
2. [ジョブ] ページに進み、Wyse デバイスエージェントをアップグレードするジョブをスケジュールします。
 - ① **メモ:** Windows Embedded Standard Wyse デバイスエージェントをバージョン 13.x からバージョン 14.x にアップグレードするには、デルでは、リポジトリプロトコルとして HTTP の使用を推奨します。

インストールに成功した後、ステータスがサーバに送信されます。

Wyse デバイスエージェントの手動インストール

このタスクについて

Wyse デバイスエージェントを手動でインストールするには、次の操作を行います。

手順

1. WDA.exe ファイルを Thin Client にコピーします。
2. WAD.exe ファイルをダブルクリックします。

i メモ:

- 異なる Wyse デバイスエージェントのパッケージは、Windows Embedded Standard の各バリエーションで利用できます。
- 古いバージョンの Wyse デバイスエージェントまたは HAgent がデバイス上にインストールされている場合に警告メッセージが表示されます。

3. [はい] をクリックします。
4. [グループのトークン] フィールドで、グループトークンを入力します。これはオプションのフィールドです。このステップを省略するには、[次へ] をクリックします。Wyse デバイスエージェントのユーザーインターフェイスに、グループトークンの詳細を後で入力することができます。
5. [リージョン] ドロップダウンリストから、Wyse Management Suite のパブリッククラウドサーバの地域を選択します。インストールが正常に行われると、Wyse Management Suite のパブリッククラウドサーバは、Wyse Management Suite コンソールに自動的にデバイスを登録します。

ThinLinux および Linux クライアントでの Wyse デバイスエージェントのインストールまたはアップグレード

このタスクについて

Wyse Management Suite サーバから Linux および ThinLinux クライアントで、Wyse デバイスエージェントおよびプラットフォームユーティリティパッケージをアップグレードするには、次の操作を行います。

i **メモ:** 次のオプションのいずれかを使用して、アドオンをインストールまたは実行することができます

- INI パラメータの使用
- アドオンマネージャ
- RPM コマンド

手順

1. パブリッククラウド、またはプライベートクラウド上でリモートリポジトリを使用している場合は、RPM ファイルを、thinClientApps フォルダにコピーします。デフォルトでは、Linux および ThinLinux クライアントの最新の Wyse デバイスエージェントとユーティリティ RPM は、ローカルリポジトリで使用できます。
2. [アプリとデータ] ページを開き、プラットフォームユーティリティのアドオンおよび Wyse デバイスエージェントのアドオン用に、2つのアプリケーションポリシーを作成します。

i **メモ:** このアドオンをアップグレードするには、通常のポリシーを使用します。これは、[詳細なアプリポリシー] 機能がサポートされているのは、Linux および ThinLinux のクライアント上では Wyse デバイスエージェントのバージョン 2.0.11 および 2.0.24 以降のみであるためです。

3. [アプリとデータ] ページを開き、プラットフォームユーティリティのアドオンおよび Wyse デバイスエージェントのアドオン用に、2つのアプリケーションポリシーを作成します。

i メモ:

- このアドオンをアップグレードするには、通常のポリシーを使用します。これは、[詳細なアプリポリシー] 機能がサポートされているのは、Linux および ThinLinux のクライアント上では Wyse デバイスエージェントのバージョン 2.0.11 および 2.0.24 以降のみであるためです。
- Linux Thin Client 用に、プラットフォームユーティリティアドオンと Wyse デバイスエージェントアドオンをインストールする必要があります。ThinLinux Thin Client 用に wda_x.x.x.tar ファイルをインストールできます。

- ThinLinux バージョン 2.0、イメージバージョン 2.0.14、Wyse デバイスエージェントバージョン 3.0.7 で、Wyse デバイスエージェントを Dell Wyse 3040 Thin Client にインストールするには、wda3040_3.0.10-01_amd64.deb ファイルをインストールして、次に wda_3.2.12-01_amd64.tar ファイルをインストールする必要があります。

4. [ジョブ] ページに進み、ジョブをスケジュールしてプラットフォームのユーティリティのアドオンをアップグレードします。プラットフォームユーティリティのアドオンが Thin Client で正常にインストールされるまで待機する必要があります。
i **メモ:** プラットフォームのアドオンを先にインストールしてから、Wyse デバイスエージェントのアドオンをインストールします。最新の Wyse デバイスエージェントは、最新のプラットフォームユーティリティのアドオンをインストールしてからインストールする必要があります。
5. [ジョブ] ページで、ジョブをスケジュールして、クライアントの Wyse デバイスエージェントをアップグレードします。
i **メモ:** Linux クライアントは、Wyse デバイスエージェントのアドオンバージョン 2.0.11 をインストールした後に再起動します。

Wyse Management Suite の機能マトリックス

次の表は、各サブスクリプションタイプでサポートされている機能についての情報を提供します。

表 286. 各サブスクリプションタイプの機能マトリックス

機能	Wyse Management Suite Standard	Wyse Management Suite の Pro プライベートクラウド	Wyse Management Suite の Pro クラウドエディション
Thin Client を管理するための拡張性の高いソリューション	最大 10,000 台のデバイスを利用可能	50,000 台以上のデバイス	100 万台以上のデバイス
ライセンスキー	不要	必須	必須
グループベースの管理	対応	対応	対応
複数レベルのグループと継承	対応	対応	対応
ポリシー管理の設定	対応	対応	対応
オペレーティングシステムのパッチおよび画像の管理	対応	対応	対応
継承後のデバイスレベルでの有効な設定の表示	対応	対応	対応
アプリケーションポリシー管理	対応	対応	対応
アセット、インベントリおよびシステム管理	対応	対応	対応
自動デバイス検出	対応	対応	対応
リアルタイムコマンド	対応	対応	対応
スマートスケジューリング	対応	対応	対応
アラート、イベント、および監査のログ	対応	対応	対応
セキュア通信 (HTTPS)	対応	対応	対応
ファイアウォールの内側にあるデバイスの管理	有限 *	有限 *	対応
モバイルアプリケーション	非対応	対応	対応
電子メールとモバイルアプリケーションを使用したアラート	非対応	対応	対応
アプリケーションのインストールをカスタマイズするためのサポートスクリプト	非対応	対応	対応
導入を簡素化して再起動を最少にするためのアプリケーションのバンドル	非対応	対応	対応
委任管理	非対応	対応	対応

表 286. 各サブスクリプションタイプの機能マトリックス

機能	Wyse Management Suite Standard	Wyse Management Suite の Pro プライベートクラウド	Wyse Management Suite の Pro クラウドエディション
デバイス属性に基づいた動的グループの作成と割り当て	非対応	対応	対応
2 要素認証	対応	対応	対応
役割ベース管理のための Active Directory の認証。	非対応	対応	対応
マルチテナント	非対応	対応	対応
エンタープライズグレードのレポート	非対応	対応	対応
複数リポジトリ	非対応	対応	対応
サポートされるプラットフォーム上のハードウェアポートの有効化 / 無効化	非対応	対応	対応
サポートされるプラットフォームでの BIOS の設定	非対応	対応	対応

① メモ: * は、セキュアなファイアウォール作業環境でのみ、Wyse Management Suite を使用して、デバイスを管理できることを示します。ファイアウォール設定の範囲外では、Thin Client を管理できません。

ワイヤレスプロファイルパスワードエディタ

このワイヤレスプロファイルのパスワードのエディタは、ワイヤレスプロファイルをキャプチャし、パスワードを編集するために使用します。プロファイルはXMLファイルで保存されます。同じXMLファイルを使用して、Cloud Client Manager を介して Wyse Management Suite を設定できます。

メモ:

Windows オペレーティングシステムまたは Windows Embedded オペレーティングシステムでこのツールを実行するには、.NET Framework 4.5 がインストールされている必要があります。

トピック:

- [Windows ワイヤレスプロファイルの設定](#)
- [ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの設定](#)
- [ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの制限事項](#)

Windows ワイヤレスプロファイルの設定

このタスクについて

Windows ワイヤレスプロファイルを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. C:\Program files\Wyse\WDA\bin\- 2. .exe ファイルを右クリックして [管理者として実行] オプションを選択します。
[ワイヤレスプロファイルパスワードエディタ] ウィンドウが表示されます。
- 3. [参照] をクリックして、新しいXML プロファイルを保存する場所を選択します。
- 4. [保存] をクリックします。
- 5. [プロファイル] ドロップダウンリストから、ワイヤレスネットワークを選択します。
必要な場合は、[パスワードの変更] をクリックしてパスワードを変更します。
- 6. [WIFI プロファイルのエクスポート] をクリックして、プロファイルを保存します。

メモ: エクスポートされたファイルは、Wyse Management Suite アプリと データインベントリ ページからインポートして、デバイスにプッシュできます。

ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの設定

ワイヤレスプロファイルパスワードエディタを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. C:\Program files\Wyse\WDA\bin\- 2. .exe ファイルを右クリックして **管理者として実行** を選択します。
[ワイヤレスプロファイルパスワードエディタ] ウィンドウが表示されます。

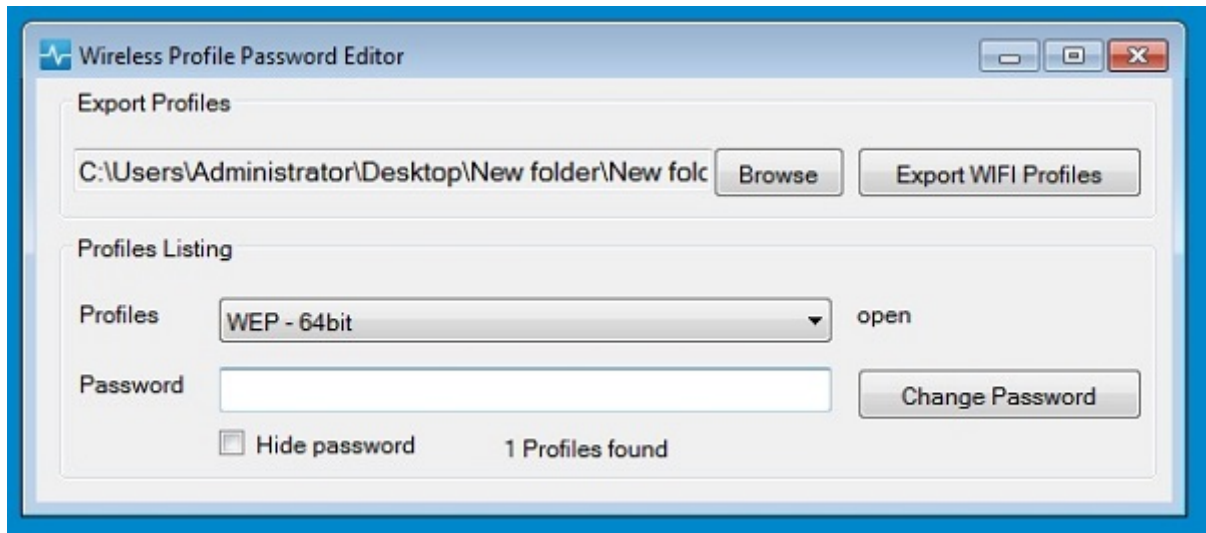


図 19. ワイヤレスプロファイルパスワードエディタ

3. **参照** をクリックして、新規 XML プロファイルを保存する場所を選択します。
4. **WIFI プロファイルのエクスポート** オプションをクリックします。
現在のワイヤレスプロファイルが [プロファイル] タブにエクスポートされます。現在のワイヤレス接続パスワードが [パスワード] タブに入力されます。
5. パスワードを編集し、**パスワードの変更** オプションをクリックします。
変更したパスワードは暗号化され、XML プロファイルに保存されます。
6. Wyse Management Suite コンソールのサーバ側で、[アプリとデータ] タブをクリックします。詳細については、「[ファイルリポジトリの管理](#)」を参照してください。

ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの制限事項

以下は、ワイヤレスプロファイルパスワードエディタの制限事項です。

- パスワードは、次の認証タイプにのみ有効です。
 - WPAPSK
 - WPA2PSK
- 以下のエンタープライズ認証プロファイルのタイプにはパスワードが存在しません。
 - WPA
 - WPA2

DHCP オプションタグの作成および設定

このタスクについて

DHCP オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. サーバマネージャを開きます。
2. [ツール] に移動して、[DHCP オプション] をクリックします。
3. [FQDN] > [IPv4] の順に移動して、[IPv4] を右クリックします。

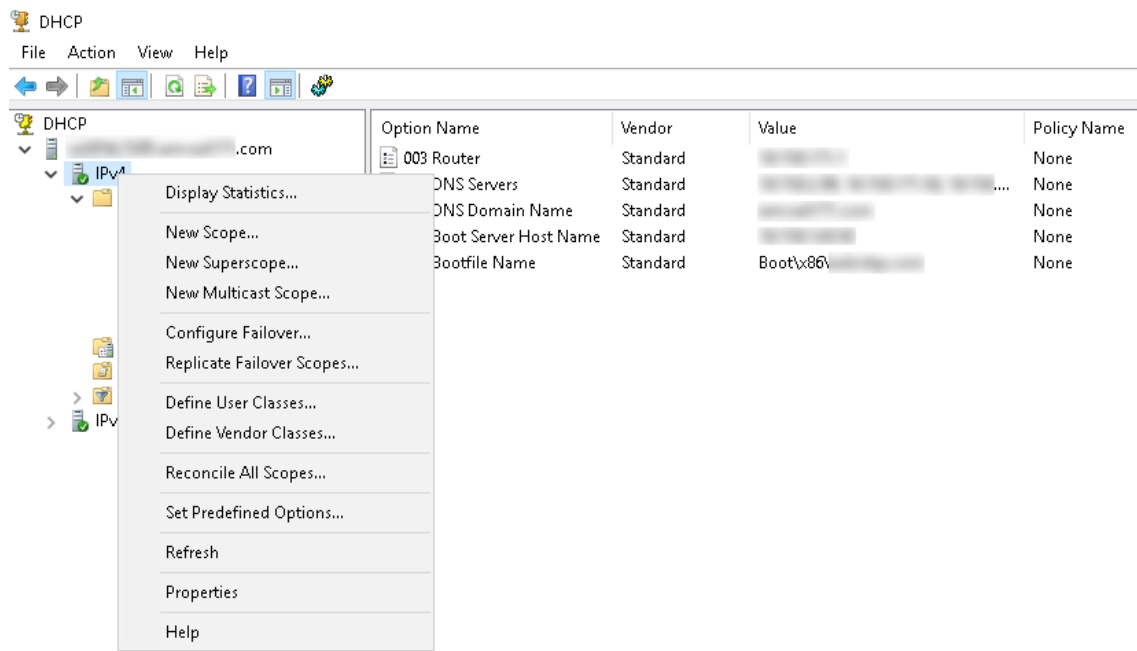


図 20. DHCP

4. [既定のオプションの設定] をクリックします。
[既定のオプションと値] ウィンドウが表示されます。
5. [オプションクラス] ドロップダウンリストから、[DHCP 標準オプション] 値を選択します。

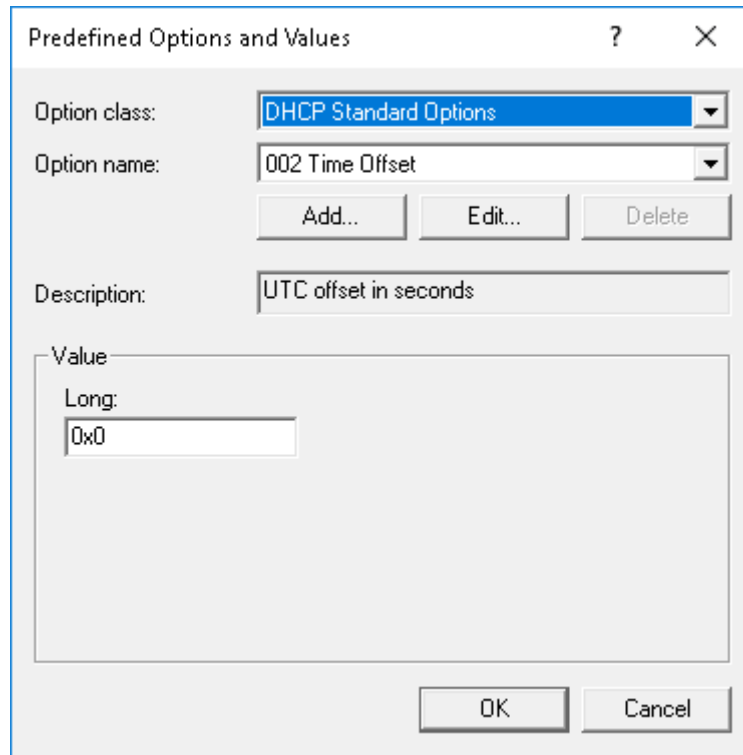


図 21. 既定のオプションと値

6. [追加] をクリックします。
[オプションタイプ] ウィンドウが表示されます。

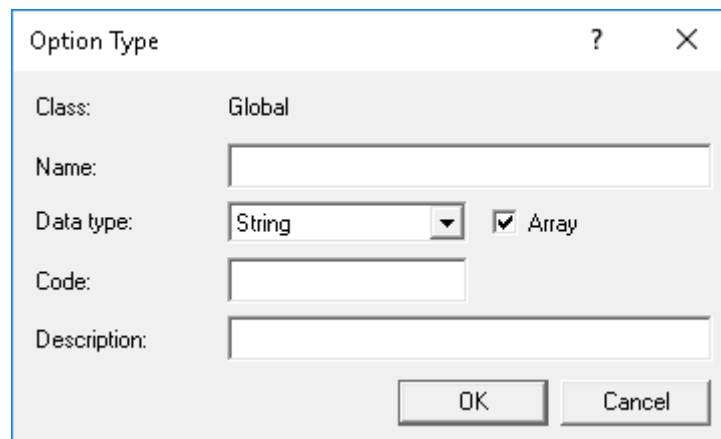


図 22. オプションのタイプ

例

オプションは、DHCP サーバのサーバオプション、または DHCP スコープのスコープオプションのいずれかに追加する必要があります。

DHCP オプションタグの設定

- 165 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。
 1. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 名前 - WMS
 - データタイプ - 文字列
 - コード - 165
 - 説明 - WMS_Server
 2. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。

文字列 - WMS FQDN

例 : WMSServerName.YourDomain.Com:443

The image shows a dialog box titled "Predefined Options and Values". It has a standard Windows-style title bar with a question mark and a close button. The dialog is divided into several sections. At the top, there are two dropdown menus: "Option class" set to "DHCP Standard Options" and "Option name" set to "165 WMS". Below these are three buttons: "Add...", "Edit...", and "Delete". Underneath is a text field for "Description" containing "WMS_Server". The main section is labeled "Value" and contains a "String:" label followed by a text input field containing "WMSServerName.YourDomain.Com:443". At the bottom right, there are "OK" and "Cancel" buttons.

図 23. 165 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 166 MQTT サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。
 1. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 名前 - MQTT
 - データタイプ - 文字列
 - コード - 166
 - 説明 - MQTT サーバ
 2. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。

文字列 - MQTT FQDN

例 : WMSServerName.YourDomain.Com:1883。

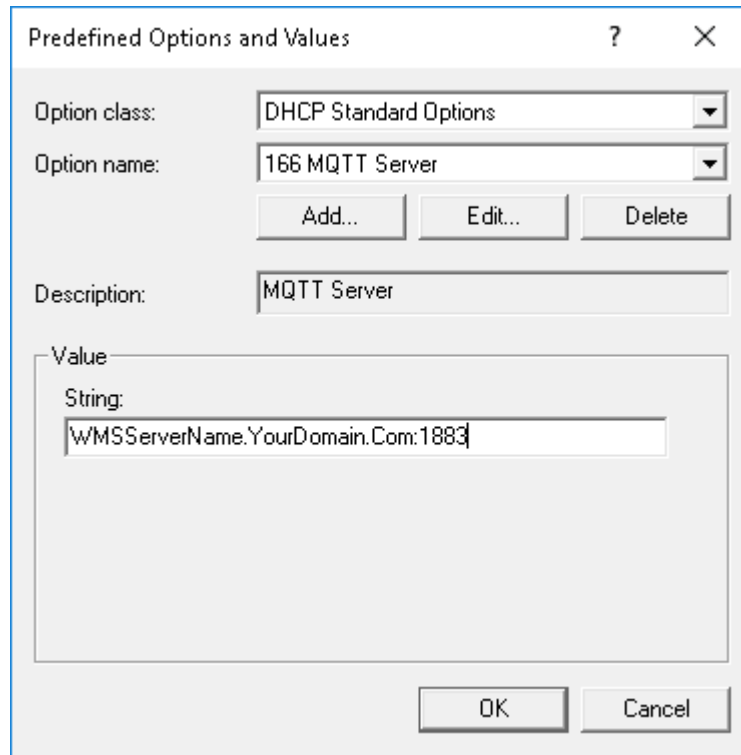


図 24. 166 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 167 Wyse Management Suite CA 検証サーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。
 1. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 名前 - CA 検証
 - データタイプ - 文字列
 - コード - 167
 - 説明 - CA 検証
 2. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 文字列 - TRUE/FALSE

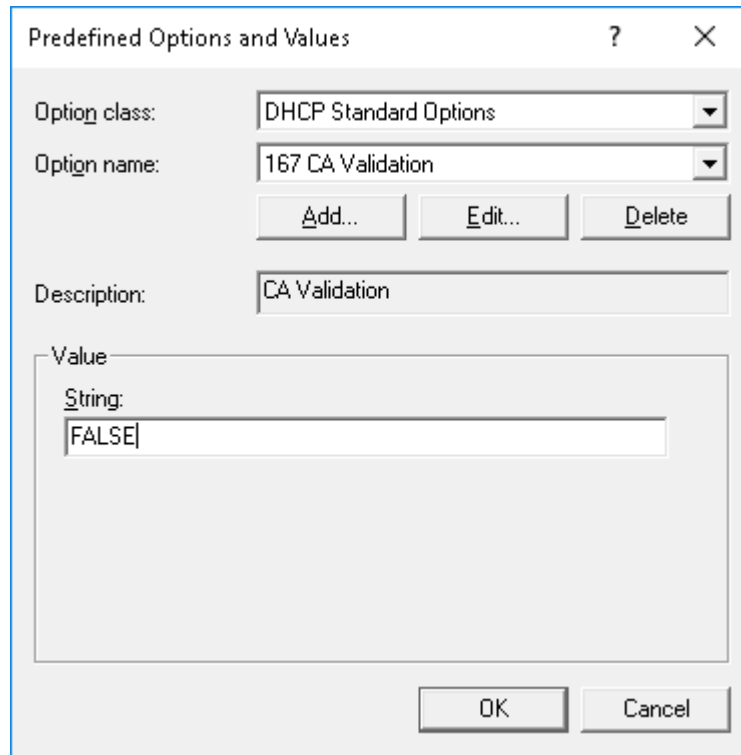


図 25. 167 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

- 199 Wyse Management Suite CA グループトークンサーバ URL オプションタグを作成するには、次の手順を実行します。
 1. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 名前 - グループトークン
 - データタイプ - 文字列
 - コード - 199
 - 説明 - グループトークン
 2. 次の値を入力し、[OK] をクリックします。
 - 文字列 - defa-quarantine

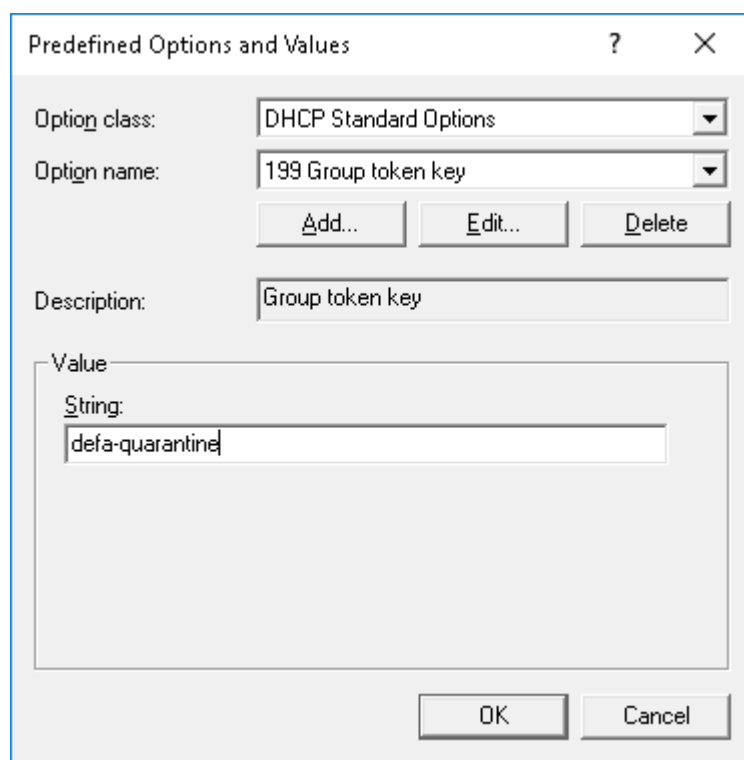


図 26. 199 Wyse Management Suite サーバ URL オプションタグ

DNS SRV レコードの作成および設定

このタスクについて

DNS SRV レコードを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. サーバマネージャを開きます。
2. [ツール] に移動して、[DNS オプション] をクリックします。
3. [DNS] > [DNS サーバホスト名] > [前方参照ゾーン] > [ドメイン] > [_tcp] の順に移動し、[_tcp option] を右クリックします。

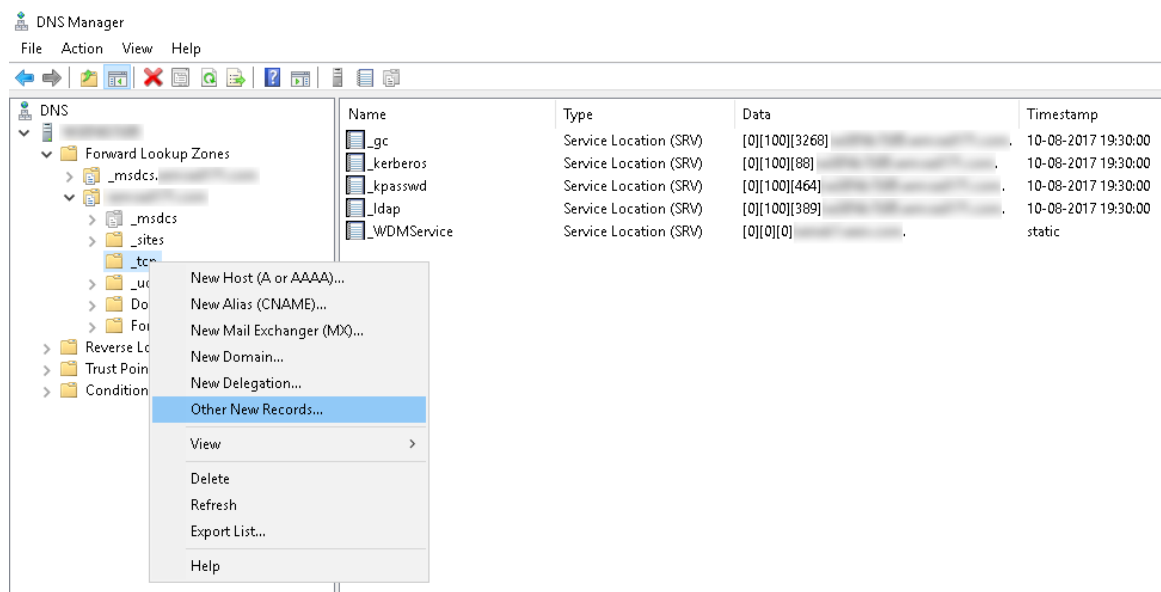


図 27. DNS マネージャ

4. [その他の新しいレコード] をクリックします。
[リソースレコードの種類] ウィンドウが表示されます。
5. [サービスロケーション (SRV)] を選択し、[レコードの作成] をクリックして、次の手順を実行します。

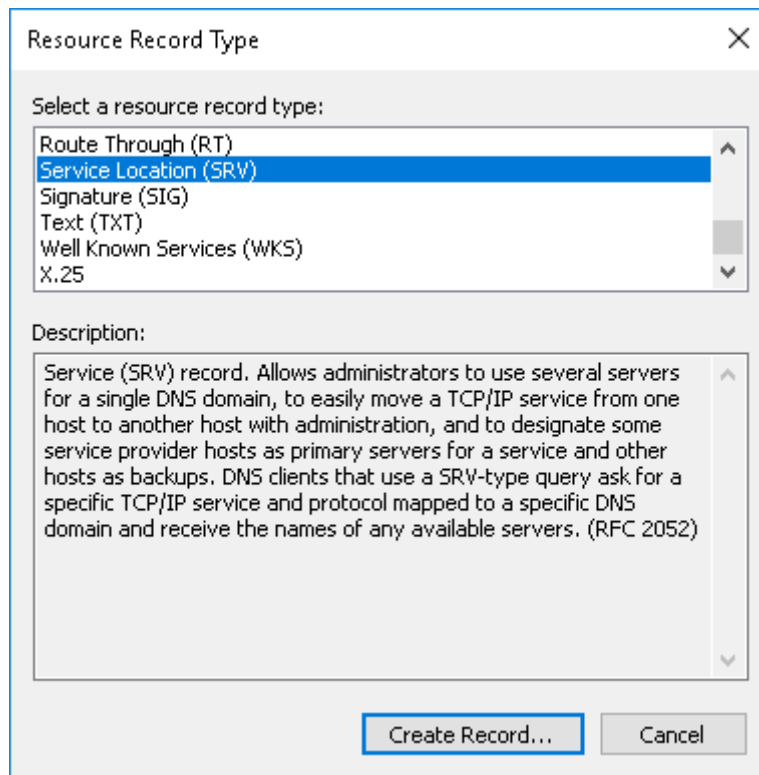


図 28. リソースレコードの種類

- a. Wyse Management Suite サーバのレコードを作成するには、次の詳細を入力し、[OK] をクリックします。
- サービス - `_WMS_MGMT`
 - プロトコル - `_tcp`
 - ポート番号 - 443
 - このサービスを提供するホスト - WMS サーバの FQDN

New Resource Record

Service Location (SRV)

Domain: [Redacted]

Service: _WMS_MGMT

Protocol: _tcp

Priority: 0

Weight: 0

Port number: 443

Host offering this service:
FQDN of WMS server

Allow any authenticated user to update all DNS records with the same name. This setting applies only to DNS records for a new name.

OK Cancel Help

図 29. _WMS_MGMT サービス

- b. MQTT サーバレコードを作成するには次の値を入力し、[OK] をクリックします。
- サービス - _WMS_MQTT
 - プロトコル - _tcp
 - ポート番号 - 1883
 - このサービスを提供するホスト - MQTT サーバの FQDN

New Resource Record

Service Location (SRV)

Domain: .

Service: _WMS_MQTT

Protocol: _tcp

Priority: 0

Weight: 0

Port number: 1883

Host offering this service:
FQDN of MQTT server

Allow any authenticated user to update all DNS records with the same name. This setting applies only to DNS records for a new name.

OK Cancel Help

図 30. _WMS_MQTT サービス

6. [DNS] > [DNS サーバホスト名] > [前方参照ゾーン] > [ドメイン] の順に移動し、ドメインを右クリックします。
7. [その他の新しいレコード] をクリックします。
8. [テキスト (TXT)] を選択し、[レコードの作成] をクリックして、次の手順を実行します。

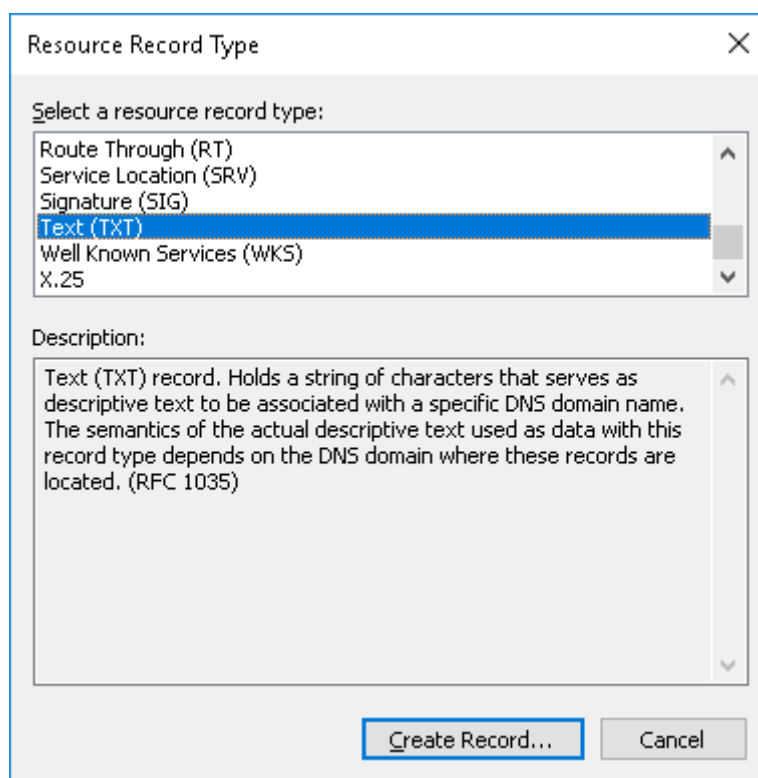


図 31. リソースレコードの種類

- a. Wyse Management Suite グループトークンのレコードを作成するには、次の値を入力し、[OK] をクリックします。
- レコード名 - `_WMS_GROUPTOKEN`
 - テキスト - WMS グループトークン

The image shows a 'New Resource Record' dialog box with the following fields:

- Record name (uses parent domain if left blank):** `_WMS_GROUPTOKEN`
- Fully qualified domain name (FQDN):** `_WMS_GROUPTOKEN.`
- Text:** `WMS Group token`

Buttons: OK, Cancel

図 32. `_WMS_GROUPTOKEN` レコード名

- b. Wyse Management Suite CA 証明書のレコードを作成するには、次の値を入力して、[OK] をクリックします。
- レコード名 - `_WMS_CAVVALIDATION`
 - テキスト - TRUE/FALSE

The image shows a 'New Resource Record' dialog box with the following fields:

- Record name (uses parent domain if left blank):** `_wms_cavalidation`
- Fully qualified domain name (FQDN):** `_wms_cavalidation.`
- Text:** `False`

Buttons: OK, Cancel

図 33. `_wms_cavalidation` レコード名

ホスト名を IP アドレスに変更する手順

このタスクについて

ホスト名の解決に失敗した場合、ホスト名を IP アドレスに変更する手順は、次のとおりです。

手順

1. 上級の管理モードで DOS プロンプトを開きます。
2. ディレクトリを `C:\Program Files\DELL\WMS\MongoDB\bin` に変更します。
3. 次のコマンドを入力します：`mongo localhost -username stratus -p --authenticationDatabase admin`
出力 — MongoDB shell version v3.4.10
4. パスワードを入力します。
出力 —
 - connecting to: mongod://127.0.0.1:27017/localhost
 - MongoDB server version: 3.4.10
5. 入力：`use stratus`
出力 — switched to db stratus
6. 次のコマンドを入力します：`> db.bootstrapProperties.updateOne({'name': 'stratusapp.server.url'}, {$set : {'value' : "https://IP:443/ccm-web"}})`
出力 — { "acknowledged" : true, "matchedCount" : 1, "modifiedCount" : 1 }
7. 次のコマンドを入力します：`> db.getCollection('bootstrapProperties').find({'name': 'stratusapp.server.url'})`
出力 — { "_id" : ObjectId("5b97905e48b7b7e99ad22aa6"), "name" : "stratusapp.server.url", "value" : "https://IP:443/ccm-web", "isActive" : true, "committed" : true }